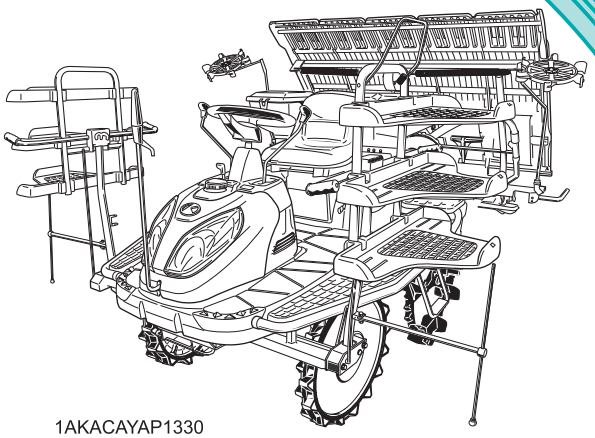
クボタ 乗用 田植機

取扱説明書

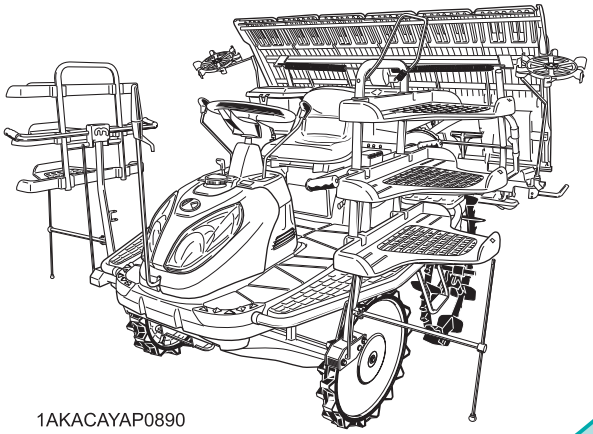
MAX WELSTAR

NSU50



1AKACAYAP1330

NSU60



1AKACAYAP0890

Original Instructions

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	エンジン回転数**［低回転］**		苗切れ
	エンジン回転数**［高回転］**		あぜぎわクラッチ**［切］**
	チョーク		肥料切れ**［F 仕様］**

専門用語の説明

● **パワーステアリングハンドル**	油圧式の操向操作ハンドル
● **主変速レバー** **(HST)**	**[前進]・[後進]・[停止]** の切換え及び走行速度をコントロールするレバー （油圧式の無段変速装置）
● **副変速レバー**	**[圃場作業](低速位置)と[路上走行](高速位置)**を切換えるレバー
● **植付クラッチレバー**	植付部（苗のせ台）の**上昇　下降**，植付部への動力伝達の **[入]**，**[切]** を可能にするレバー
● **ブレーキペダル**	踏込むとブレーキが掛かるペダル
● **バックアップ**	主変速レバーを **[後進]** 側に操作すると植付部が自動的に上昇する機能
● **モンロー**	マイコンのはたらきで植付部を常に一定の水平状態に修正・保持する自動装置
● **安全クラッチ**	植付爪に障害物が詰まったとき，植付部のギアの破損を防止するために植付部への動力を断つ装置
● **スローブローヒューズ**	バッテリ近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲の苗の植付け用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買い上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は［NSU60-IF］を基本としてあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

基本型式の表示

【例】 NSU60 - I F
①　②③

①名称・植付条数によって
・ウエルスター MAX
NSU50 ..... 5 条植
NSU60 ..... 6 条植
②植付爪の形状によって
Ｉ ..... アイ爪
Ｈ ..... はし爪
③施肥装置
Ｆ ..... 粒状施肥装置付

目　次

⚠安全に作業するために

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください 1
2. 表示ラベルと貼付け位置 12
3. 表示ラベルの手入れ 16

サービスと保証について

走行装置の名称と取扱い

機体方向説明と走行装置の名称 **2**
各部の名称とはたらき **4**
メインスイッチ 5
チョークレバー 5
アクセルレバー 5
主変速レバー 6
副変速レバー 6
パワーステアリングハンドル 6
ブレーキペダル 6
駐車ブレーキレバー 7
運転席（シート） 7
警報モニタ 7

作業装置の名称と取扱い

作業装置の名称とはたらき **9**
前輪ペダル 12
植付クラッチレバー 12
フィットセンサレバー 13
苗取り量調節レバー 13
植付深さ調節レバー 13
横送り切換えレバー 13
あぜぎわクラッチレバー 14
株間調節レバー 14
油圧ロックレバー 15
マスコット 15
ラインマーカ 15
隣接マーカ 16
苗ステー・苗押さえ棒 16
予備苗のせ台 16
ホッパ 17
ロールケース（繰出し部） 17
ブロワ 18
施肥量調量金具 18
警報モニタ 19
コントローラ 20

運転前の点検

日常点検項目 **23**

移動走行と輸送

新車時の扱いかた **25**
ならし運転について 25
エンジンの始動と停止のしかた **25**
始動のしかた 25
停止のしかた 28
移動走行について **28**
移動走行前の準備 29
発進のしかた 31
旋回のしかた 33
停車･駐車のしかた 33
輸送について **34**
トラックとあゆみ板の準備 34
田植機の準備 34
田植機の積込み･積降しのしかた 35
トラック上での処置 36

田植作業のしかた

ほ場と苗の条件 **38**
ほ場条件 38
苗条件 39
田植機の準備 **40**
作業前の準備 40
植付作業のしかた **42**
ほ場の出入りのしかた 42
植付作業の手順 43
植付けかたと旋回のしかた 46
苗の補給のしかた 50
あぜぎわの植付けかた 51
施肥作業のしかた［F 仕様］ **53**
ほ場と肥料について 53
作業前の準備 56
施肥作業のしかた 57
ホッパ内の肥料の排出のしかた 59
作業に合わせた各部の調節･調整 **61**
植付株数の調整 61
苗取り量（1 株本数）の調節 64
フィットセンサレバー 65
植付深さ調節 66
苗ステー・苗押さえ棒の調節 67
ふく土板の調節［F 仕様］ 68
施肥量の調節［F 仕様］ 68
メインパネルによる異常と処置 **76**

メンテナンス

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた **77**
ボンネットのオープン 77
ロール・ブラシの取付け・取外し方法 78
各部の掃除と注油のしかた **80**
掃除のしかた 80
注油のしかた 82

目　次

定期点検 85
廃棄物の処理について 86
洗車時の注意 86
使用者が行なってはいけない修理 86
定期点検一覧表 87
給･注油（水）点検一覧表 89
燃料･オイルの点検･補給･交換 90
燃料 90
エンジンオイル 91
ミッションオイル 92
燃料フィルタポットの点検・掃除 93
エアクリーナエレメントの点検･掃除 94
点火プラグの点検･掃除･調整 94
パイプ･ホース類の点検･交換 95
ミッション駆動ベルトの点検 96
ミッションオイルフィルタカートリッジの交換 97
タイヤの点検 97
タイヤ空気圧の点検・調整［オプションタイヤ］（後輪） 98
植付爪･押出し金具の点検･調整･交換 98
苗のせ台のしゅう動板と受けの点検 101
施肥ブラシの点検･掃除･交換［F 仕様］... 102
バッテリの点検・交換 103
電装部の各配線コードの点検・交換 105
ランプ（電球）の点検・交換・反射テープの点検・交換 106
植付作業後の手入れ 107
毎日の作業後 107
長期格納時 107

乗用田植機の不調と処置

欠株が出る 110
浮苗が出る・植付けが乱れる 112
浮苗が出る・植付けが悪い 114
植付けが乱れる・欠株が出る 114
施肥をしない・施肥量がばらつく 115
その他の不具合 116

付表

主要諸元 118
付属部品 120
オプション（別売品）（純正品を使いましょう） 121
苗キーパ 121
クリーナ 121
補助車輪 122
ウエイト 124
整地板 124
周り植えマーカ 124
薬剤散布機［こまきちゃん］ 124
薬剤散布機［箱まきちゃん］ 124
除草剤散布機［滴下マン］ 124
苗スライドストッパ 125
本機カバー 125
苗ストッパ 126
消耗部品（純正品を使いましょう） 126
クボタ純オイル 130

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

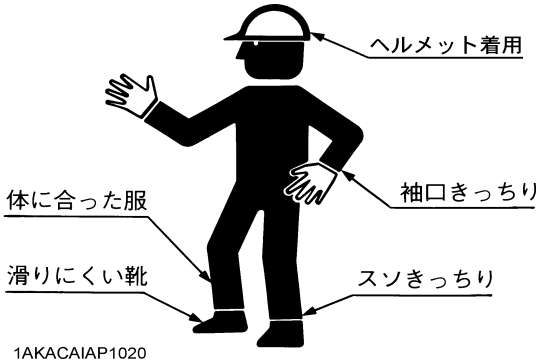
■ 安全指示順守

- 本書及び本機の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。
- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。また，破損・紛失したときは注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転，作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。
- ほかの人に機械を貸すときは，取扱方法や安全のポイントをよく説明し，この取扱説明書をよく読むように指導してください。

1AKACAIAP1010

■ 作業に合った服装及び健康状態

- 作業に合ったキチンとした作業着を着用してください。
- だぶついた服装は，回転部に巻込まれやすく危険です。また靴は，すべらないものを使用してください。
- ヘルメット，安全靴，保護メガネや手袋などを必要に応じて着用してください。



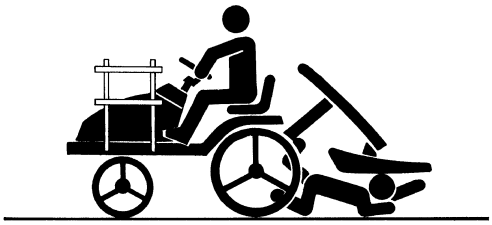
1AKACAIAP1020

- お酒を飲んでいる方，睡眠不足の方，妊娠中のご婦人，過労，病気の人は使用しないでください。
- 初めて運転する人は，操作に慣れるまで低速で運転してください。

1AKACAIAP1030

■ 子供が近づくのは危険

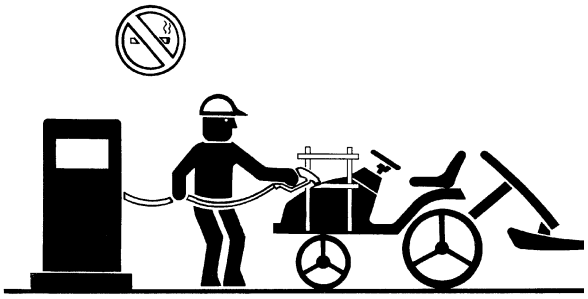
- 点検・整備中及び田植作業中機械に子供を近づけないでください。見えないところで機械に触ったりかくれたりしてたいへん危険です。



1AKACAYAP001A

■ 使用前の準備・点検

- 使用前の点検は必ず行なってください。
  特にブレーキペダルの点検は忘れないでください。
- 燃料の給油・オイル交換・注油・機械の点検は，エンジンを止めて行なってください。
- 火気厳禁。



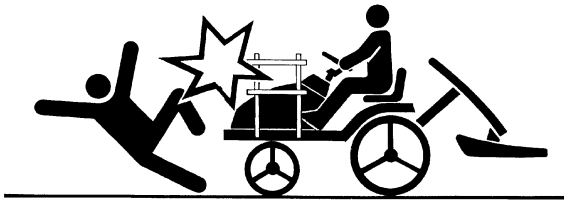
1AKACAYAP002A

- 平たんな場所で駐車ブレーキをかけて行なってください。
- 植付部を持上げて植付爪などの点検をするときは，油圧ロックレバーを**［閉］**にするとともに，台などで支えをして落下を防止してください。

1AKACAYAP003A

■ エンジンの始動

- エンジンを始動するときは，運転席に座り，主変速レバー・副変速レバー・植付クラッチレバーを**［N］（中立）**にし，ブレーキペダルを踏み込んでから始動してください。
- 機械を始動及び動かすときは，周囲の人に合図して安全に気をつけてください。



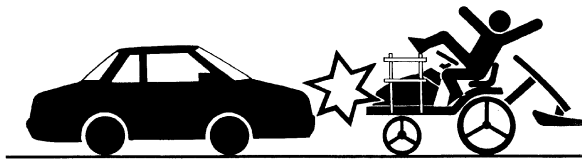
1AKACAYAP004A

- エンジンの排ガスは有毒です。屋内で始動するときは，窓・扉を開け，外気がじゅうぶん入るようにしてください。

1AKABAIAP055A

■ 走行運転

- この機械は一般道路は走れません。
- 一般道路はトラックなどで運搬してください。
- 機械の周囲の人・物に注意して，ゆっくり発進してください。
- 初めて運転される方は，操作になれるまで低速で運転してください。
- 道のりが遠くても，その他どのような場合でも，絶対に運転者以外の人を乗せないでください。

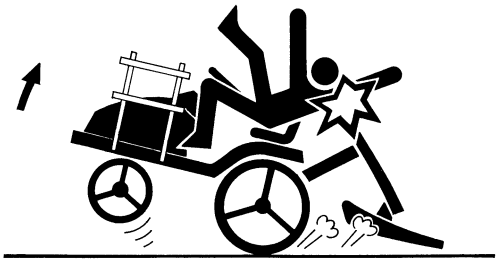


1AKACAIAP1060

- 予備苗のせ台の上などに物を乗せないで，荷物はめんどうでも，別にトラックなどで運搬するようにしてください。
- 発進する場合は，植付部が最上昇位置にあることを確認して，植付クラッチレバーの**［N］（中立）**を確認してください。
- 副変速レバーを**［圃場作業］**又は**［路上走行］**に入れて発進する場合は，植付クラッチレバーの**［N］（中立）**を確認してください。

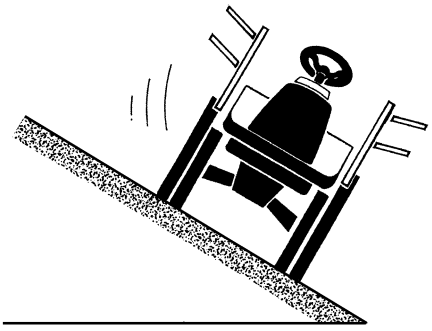
1AKACAYAP005A

- 急発進・急停止・急旋回はしないでください。
- 発進するときは，ブレーキペダルを離してから主変速レバーを**［N］（中立）**位置からゆっくりと操作してください。
- 停止するときは，必ず主変速レバーを**［N］（中立）**位置に戻してからブレーキペダルを踏込んでください。
- カーブ・曲り角では早めにスピードを落としてください。



1AKACAYAP006A

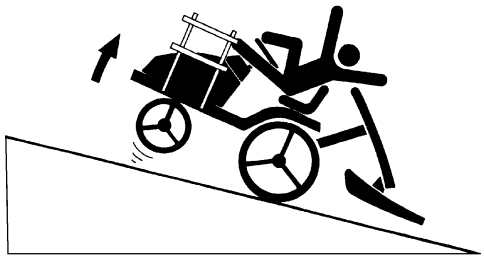
- わき見・手ばなし運転はしないでください。気のゆるみが大事故につながります。
- 油圧昇降ロックをし，植付部の落下を防止してください。
- 隣接マーカ・マスコット・ラインマーカを収納状態にしたあと，ラインマーカをロックし，苗のせ台を機体中央で止めるようにしてください。
- 周囲の障害物に接触しないよう，ゆっくりと運転してください。特に，苗のせ台の接触には注意してください。
- 機体が右又は，左に大きく傾き，転倒するおそれがあるので，傾きの大きいところでは走行しないでください。



1AKACAYAP019A

■ 坂道走行

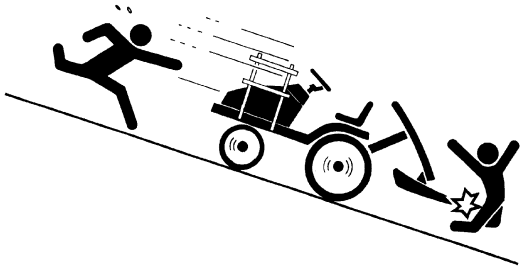
- 坂の手前で一旦停止して，副変速レバーを**［圃場作業］**に切換えてから，坂道の登り降りをしてください。
- 停止するときはブレーキペダルは踏込まないで，必ず主変速レバーを操作してください。
- 急発進はしないでください。
- 坂が急で，前進で登ると前が浮上がるおそれがある場合は，植付部を少し下げて油圧ロックレバーを**［閉］**にし，平たんな場所まで後進で登るようにしてください。
- 坂の途中で副変速レバーを**［N］（中立）**にしないでください。また，ブレーキペダルは踏込まないでください。



1AKACAYAP008A

- 坂道では，特別なときのほか駐車しないようにしてください。
- 駐車する場合は，駐車ブレーキをかけて，石や木片などで下側の両輪に車止めをしてください。
- 駐車中は，副変速レバーを**［圃場作業］**又は**［路上走行］**に入れておいてください。

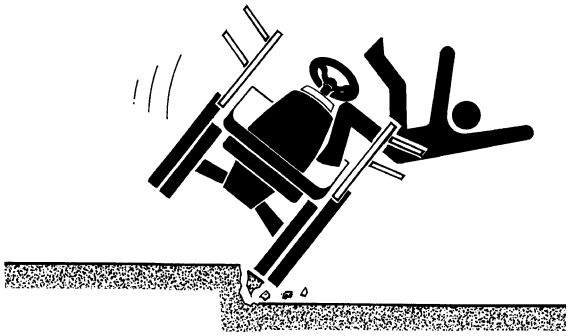
1AKACAYAP009A



1AKACAYAP010A

■ 農道，ほ場の移動

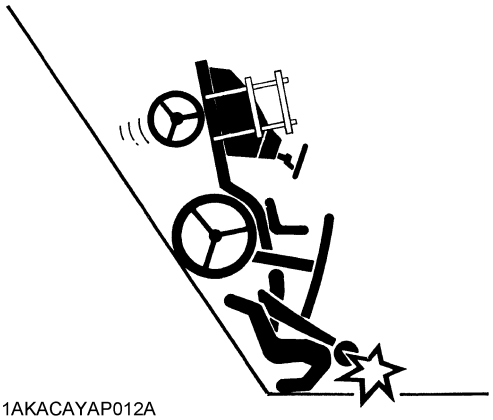
- 副変速レバー**［路上走行］**で，植付部を上昇させて，ゆっくり走行してください。
- 油圧ロックレバーを**［閉］**にし，植付部の落下を防止してください。
- マスコットを回転させ（収納状態），隣接マーカ・マスコットを収納し，ラインマーカをロックしてください。
- 路肩くずれに注意してください。
- 草などでおおわれていて路肩がわからないときや危ないと思われる所では，機械から降りて確認するようにしてください。このとき必ずエンジンを止めて行なってください。
- 雨あがりのとき，狭い農道では，速度を落として慎重に走行するようにしてください。
- 対向車をさけるときは，無理に端いっぱいに寄らず，一旦停止して対向車をやりすごしてください。
- 周囲の障害物に接触しないよう，ゆっくりと運転してください。
- 機体が右又は，左に大きく傾き，転倒するおそれがあるので，傾きの大きいところでは走行しないでください。



1AKACAYAP011A

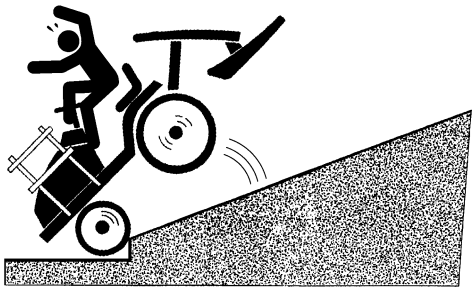
1AKACAIAP108B

■ ほ場の出入り



1AKACAYAP012A

- あぜや溝を越えるときは，機械をあぜ・溝に直角に向けて止め，副変速レバーを**［圃場作業］**にし，植付クラッチレバーで植付部を下げ，主変速レバーを**低速**で，ゆっくり発進してください。後輪があぜに上がると同時に，植付部を上げてください。
- 農道が狭い場合は，ほ場に出入口の傾斜をつくり，溝は渡り橋をつくってください。
- ほ場の出入り，土手などの急斜面の登り降り，溝越えのときには，必ずあゆみ板を使うか，ほ場に出入口傾斜や渡り橋をつくって，後進で登ってください。



1AKACAYAP1650

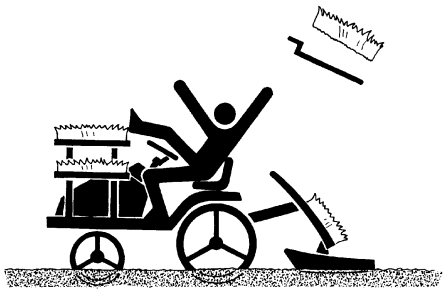
- ほ場の出入口に段差のある場所では，前輪の駆動力で後輪が浮上がり転倒するおそれがあるので，段差を避けるかあゆみ板を掛けて段差ができないようにして上がってください。
- あゆみ板は，機械の重量に耐える強度（金属製）で，段差に対して４倍以上の長さのもの，また，横サンとスベリ止めのついたものを使用してください。
- あゆみ板を登り始める前に，前輪ペダルを**踏む**ことを忘れないでください。
- あぜ・溝に対して機械を直角にとめ，左右の２枚のあゆみ板が機械の両輪に合い，平行になっているかを確認してください。
- ハンドルを真っすぐにし，真っすぐに登ってください。

1AKACAYAP009A

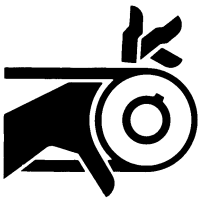
- 急傾斜面の移動で斜面を下るときは，副変速レバーを**［圃場作業］**位置で，前輪ペダルを踏んで前輪をロックしてください。
- 途中で副変速レバーを**［N］（中立）**にしないでください。
- 途中で危険回避などのために本機を停止させたいときは，ブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。

■ ほ場での作業

- 苗を補給するときは，主変速レバーと植付クラッチレバーを**[N]（中立）**にし，駐車ブレーキを掛けてください。
- 回転部分・作動部分・高温部に触れないように注意してください。
- 補助者がいる場合，互いに合図で確認するようにしてください。
- あぜぎわで旋回するときは，あぜの周囲の人や物にじゅうぶん注意を払ってください。
- 作業中は，ほ場に人を入れたり，機械に人を近づけたりしないでください。
- ウエイト代りに，人や物を乗せないでください。
- 夜間作業は絶対にしないでください。
- 植付爪などに異物がかみこんだときは，エンジンを停止し，完全に止まったのを確認してから取り除いてください。



1AKACAYAP014A

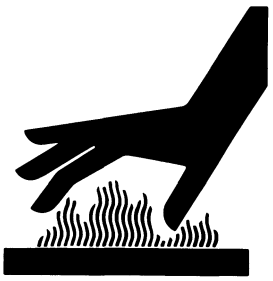


1AEABAAAP0110

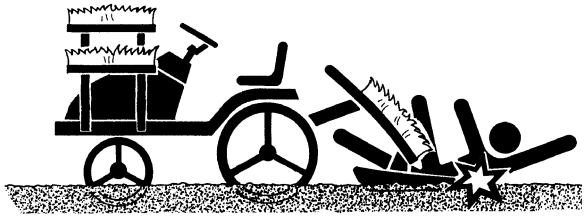
1AEABAAAP0080

■ 機械から離れるとき及び走行，作業途中の駐車・点検

- 機械から離れるときは，坂道などの傾斜地を避け，平たんな場所へ移動してください。
- 駐車及び点検などで運転席を降りるときは，副変速レバーを**［圃場作業］**位置又は**［路上走行］**位置に入れたあと，主変速レバーと植付クラッチレバーを**［N］（中立）**位置にしてエンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてキーを抜いてください。
- 高温部に触れないよう注意してください。
- スタンドを立て，植付部を降ろしてください。
- 植付部を上昇させて点検するときは，油圧ロックレバーを必ず**［閉］**にするとともに，下に木の台などを置いて落下防止の歯止めをして，植付部の落下を防止してください。



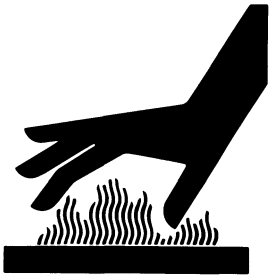
1AEABAAAP0080



1AKACAYAP015A

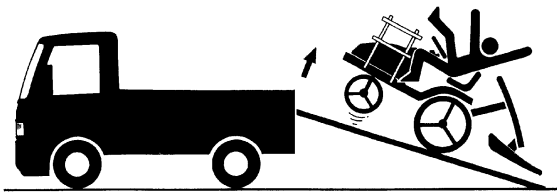
■ ヤケド防止

- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管及びその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるためじゅうぶんに温度が下がって，残圧がないことを確かめて整備してください。
- エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。



1AEABAAAP0080

■ トラックなどへの積み・降ろし


1AKACAYAP016A

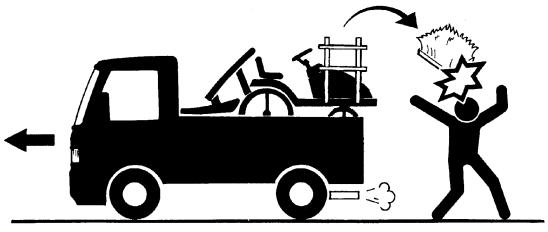
- 積み・降ろし作業は平たんな場所で行なってください。
- 積み・降ろしするときは，前進であゆみ板を登ると大変危険です。必ず，後進で積込み，前進で積降ろしてください。
- 積み・降ろしを開始する前に，トラックの駐車ブレーキがかかっているかを確認してください。
- 脱輪に注意してください。
- 前輪ペダルを使用してください。
- 副変速レバーを**［圃場作業］**にし，主変速レバーをゆっくり操作してください。
- 途中で副変速レバーを**［N］（中立）**にしないでください。
- あゆみ板は，段差の４倍以上の長さのものを使ってください。

あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	30cm 以上
数　量	２枚
強　度	１枚が 500kg 以上の重量に耐えうる

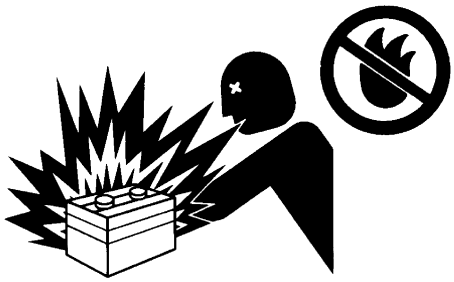
- 誘導者を付け，周囲の安全をじゅうぶん確認してください。また，機械の前には絶対に立たないでください。
- 途中でエンストしたときは，即ブレーキペダルをいっぱい踏込み，再びエンジンを始動して，アクセルレバーを**［始動］**位置まで動かしてエンジン回転数を上げてください。

■ トラックなどでの運搬


1AKACAYAP017A

- 駐車ブレーキをかけてください。
- ロープはけん引フック（機体前部）と後輪に掛け，確実に固定してください。
- 苗のせ台・予備苗のせ台などにのせてあるものは，必ず降ろしてください。
- 苗のせ台を中央に移動させたあと，苗のせ台を最上昇させ，油圧ロックレバーを**［閉］**にしてください。

■ バッテリの取扱い注意


1AKACAIAP3970

- バッテリのガスは爆発のおそれがあります。
- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。
- バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使わないでください。
- バッテリの充電時，交換時は，バッテリの注意ラベルをよく読んでください。
- バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
  LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。すぐに**UPPER LEVEL（上限）**と**LOWER LEVEL（下限）**の間に補水してください。
- 充電は，バッテリを機械から取外して行なってください。
- 密閉状態で充電を行なうとバッテリが破裂するおそれがあり危険です。
- バッテリ液（希硫酸）に触れると危険です。
- バッテリ液（希硫酸）が目，皮ふ，衣服についたときは，すぐに水でよく洗ってください。
- バッテリ液（希硫酸）が目に入ったときは，水でよく洗った後，医師に治療を受けてください。
- 指定外のバッテリは使わないでください。

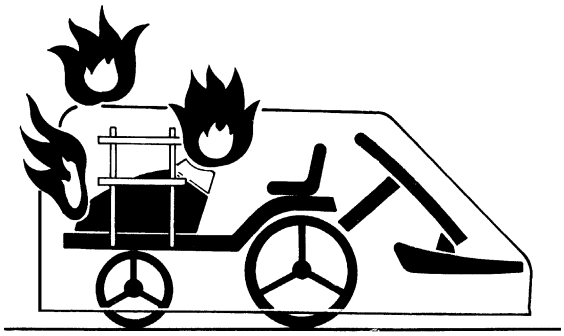
■ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。

1AKACAIAP1050

- 空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
  (特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。)

■ 使用後の手入れ

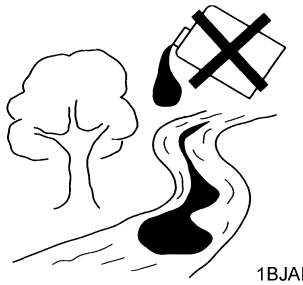
- 点検・手入れ・掃除・調整は，エンジンを止めて行なってください。
- 格納するときは，スタンドを立て平たんな場所に植付部を下げて置いてください。
- 駐車ブレーキを掛けてください。
- 本機カバーなどをかける場合は，エンジンなど加熱部分がじゅうぶん冷えてからにしてください。火災の原因になります。
- 長期格納時には，燃料タンク及び燃料コックのフィルタポット内のガソリンを抜取ってください。



1AKACAYAP018A

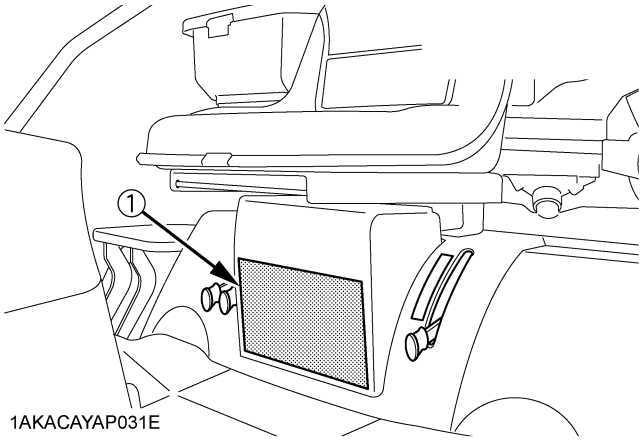
■ 廃棄物の処理について

- 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
- 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
- 廃油，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。



1BJABAAAP0180

2. 表示ラベルと貼付け位置



1AKACAYAP031E

① 品番　PN305-8598-1

⚠ 警　告

転倒・暴走事故防止のため、下記事項を守ること

エンジン始動時

運転席に座り、ブレーキペダルを踏み込み、主変速レバー及び植付レバーを「N（中立）」にして、エンジンを始動すること。

走行全般

急発進を防ぐため、主変速レバーを「N（中立）」にして、ブレーキペダルを離すこと。
高速走行時は、急停止・急旋回はしないこと。

作業時

苗補給時は、主変速レバーを「N（中立）」にして、駐車ブレーキをかけること。

トラックなどへの積み降ろし・畦越え・急な坂道での走行時

1．登るときはバックで登り、副変速レバーを「圃場作業」にすること。
2．段差の４倍以上の長さのあゆみを使用し、誘導者をつけること。
3．斜面に対して直角に走行すること。
4．坂道を下る時は急ブレーキをかけないこと。

機械から離れるとき

1．エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずキーを抜くこと。
2．スタンドを立て、植付部を降ろすこと。
3．坂道では車止めをすること。

⚠ 注　意

使用前

1．安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2．屋内では排気ガスが溜まり易く、ガス中毒の危険があるため、換気を十分すること。

移動走行時

1．この機械は公道走行はできないため、トラックにのせて運搬のこと。
2．転倒などのおそれがあるため、傾斜地・がけ際・路肩の軟弱な農道は走行しないこと。
3．転落や破損のおそれがあるため、運転者以外の人や物を乗せないこと。
4．植付部が不意に下降して、はさまれるおそれがあるため、植付部を上げて移動するときは、油圧ロックレバーを必ず「閉」にすること。

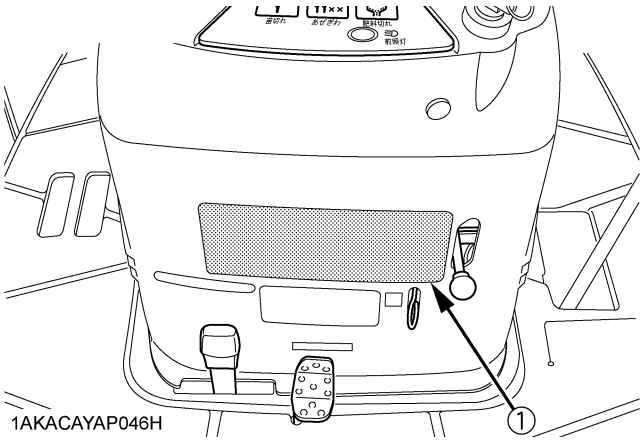
作業時

1．ヤケドをするおそれがあるため、清掃・点検・整備・給油はエンジンを必ず止め、冷えてから行うこと。
2．はさまれるおそれがあるため、植付部を上げて清掃・点検・整備・給油をするときは、油圧ロックレバーを必ず「閉」にし、落下防止の歯止めをすること。
3．衝突や転倒のおそれがあるため、夜間作業は絶対にしないこと。

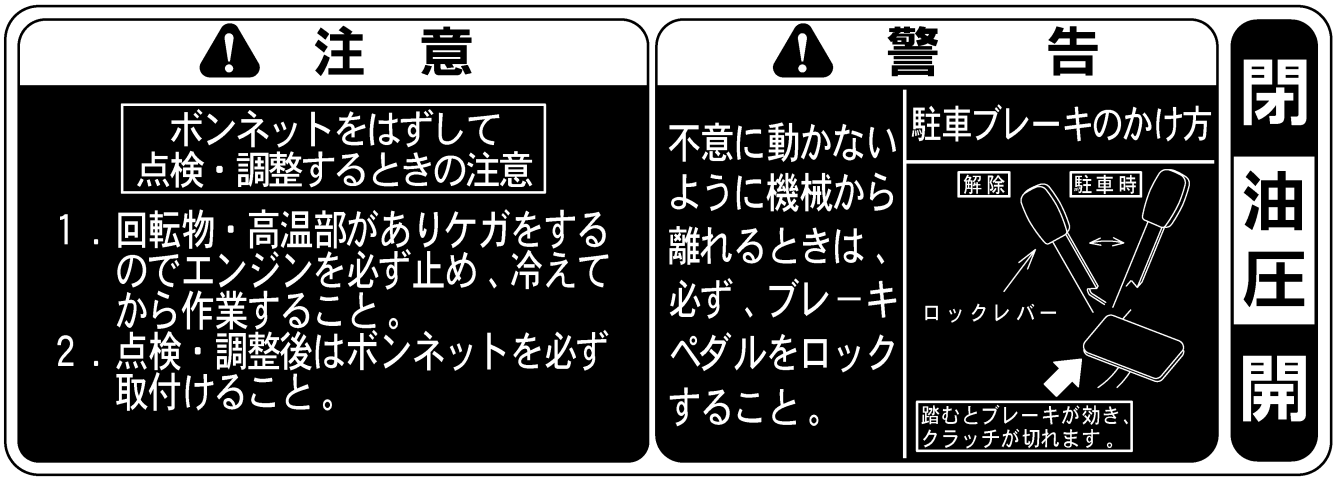
作業後

火災のおそれがあるため、シートカバーは機械が冷えてから掛けること。

1AKACAYAP106A

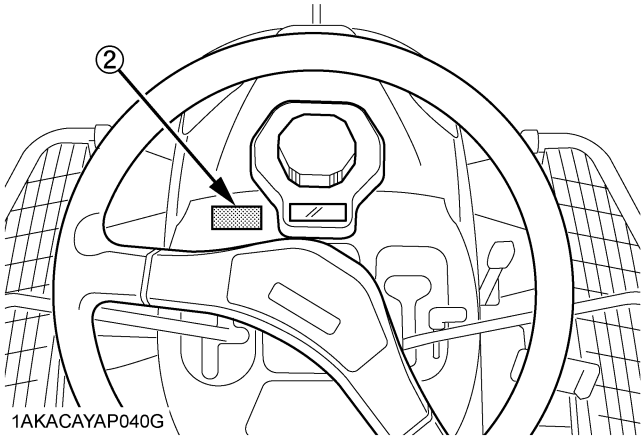


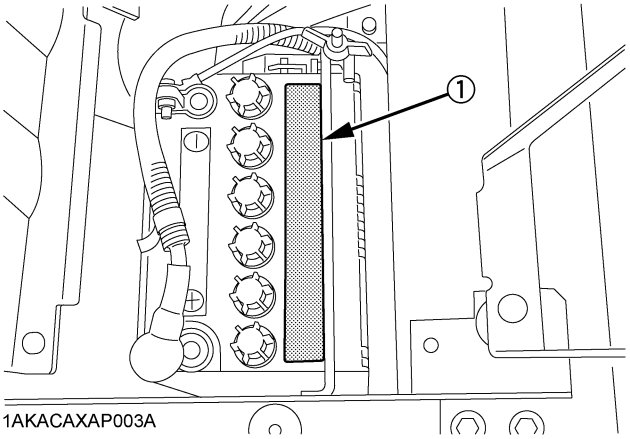
① 品番　PN305-8595-1



1AKACAYAP105A

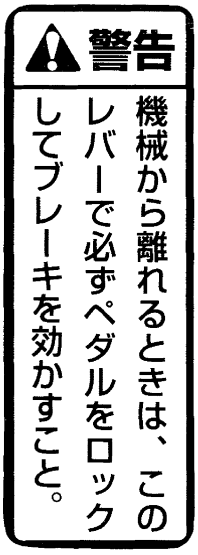
② 品番　PP551-8926-1

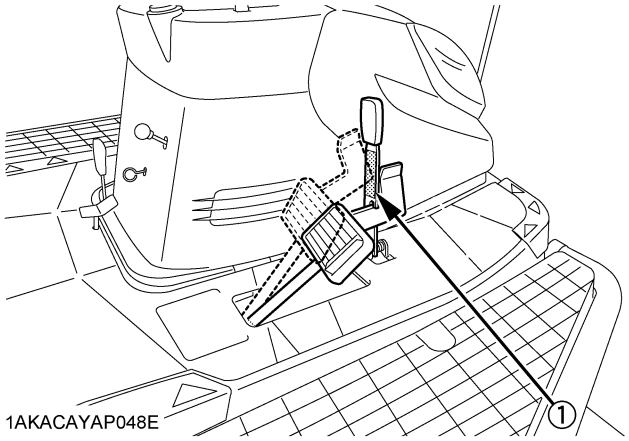




① 品番　6A320-5559-1

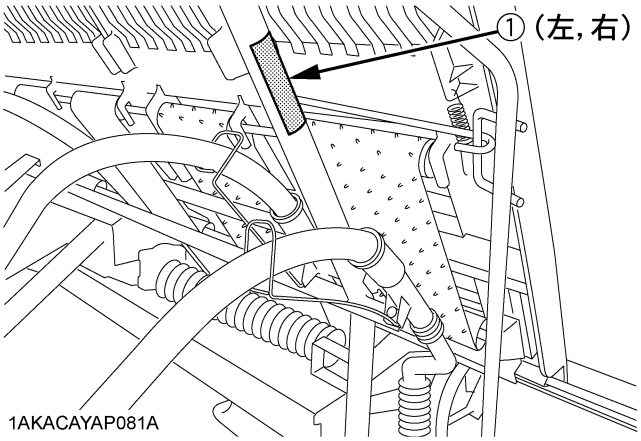
① 品番　PK401-8923-1





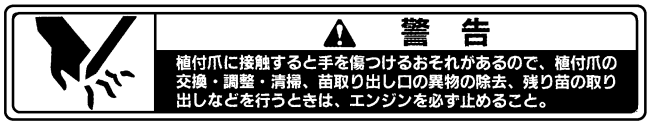
① 品番　PR001-8952-1

1AKACAYAP107A

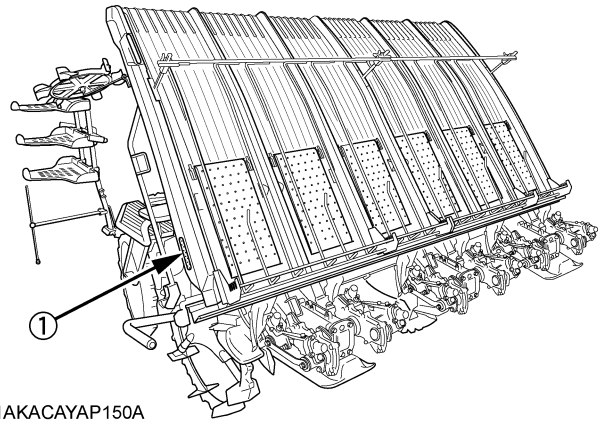


1AKACAYAP081A

① 品番　PL501-8958-1



1AKACAYAP1080



1AKACAYAP150A

3. 表示ラベルの手入れ

⚠表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルはいつもきれいにして，傷つけないようにしてください。
- ⚠ 表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
- もしラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**［ご相談窓口］**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
1. 型式名・区分と製造番号
2. 搭載機関（エンジン）の型式名と番号

をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

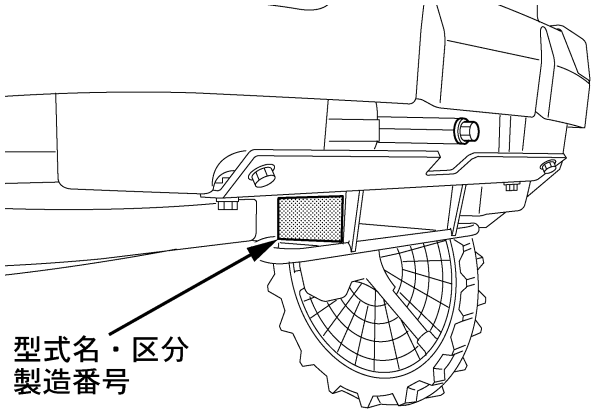
＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

◆ 認定番号

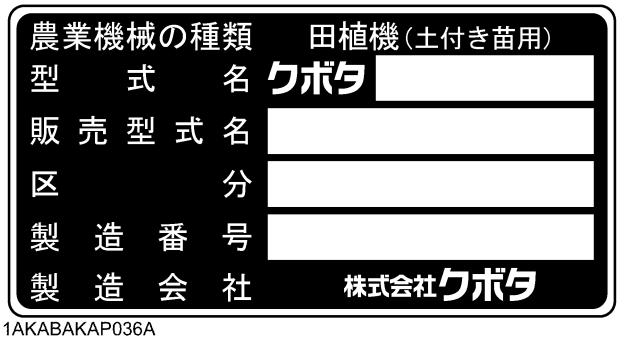
型　式　名		安全鑑定番号
クボタ NSU	50	31046
	60	31048

■ 補修用部品の供給年限について

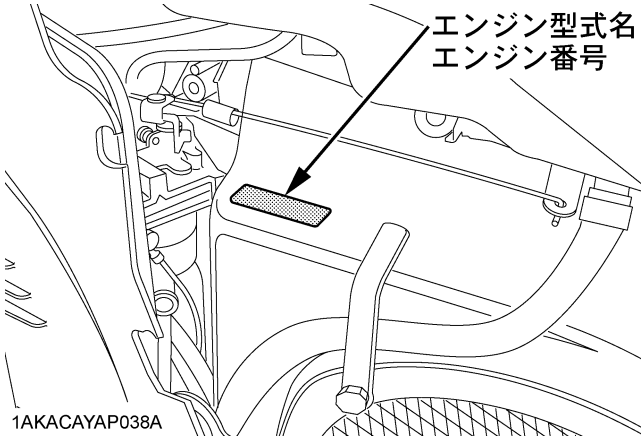
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。



1AKACAYAP037A



1AKABAKAP036A

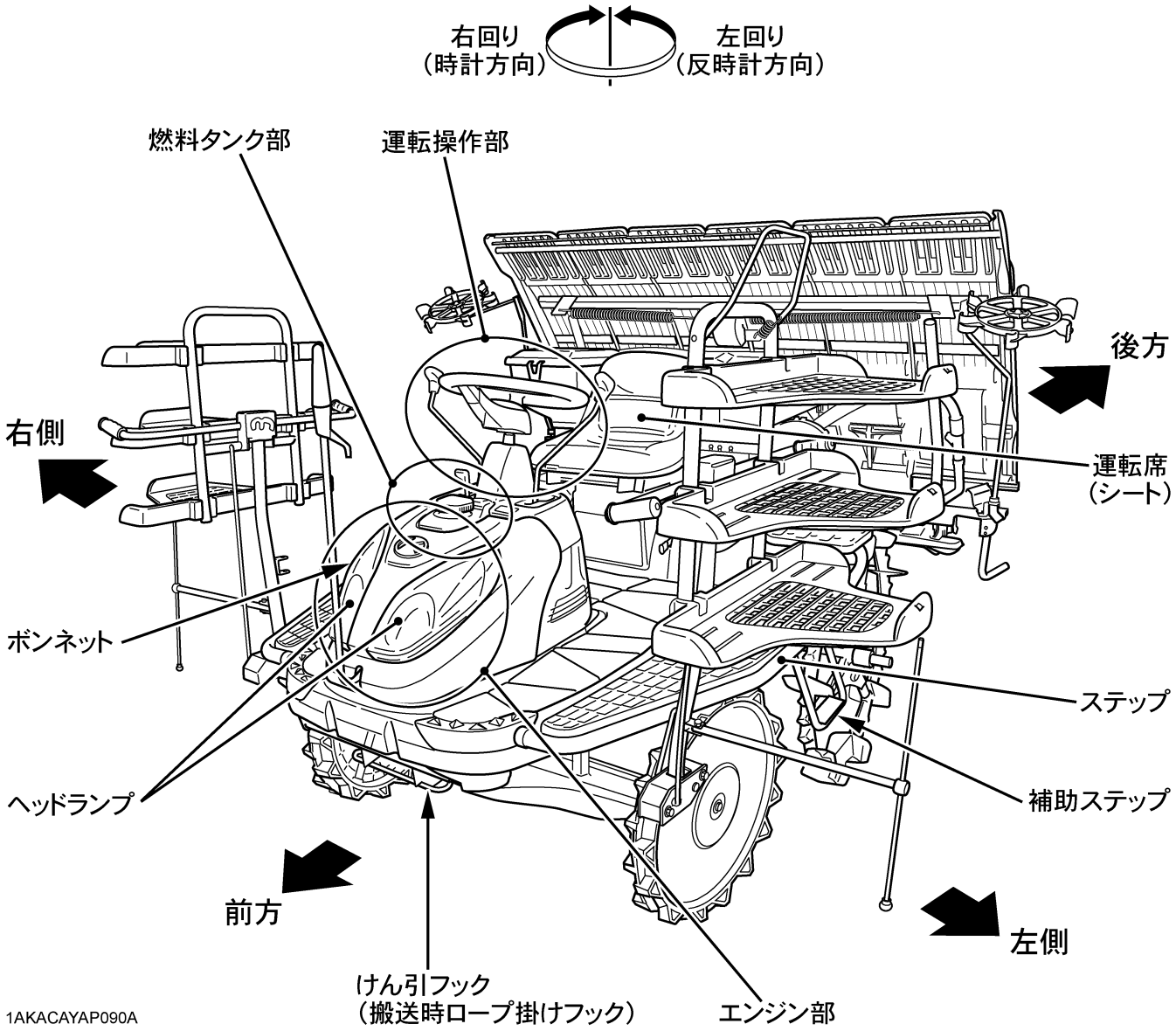


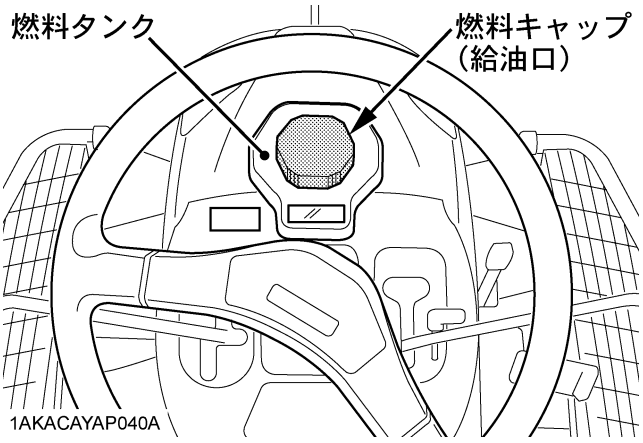
1AKACAYAP038A

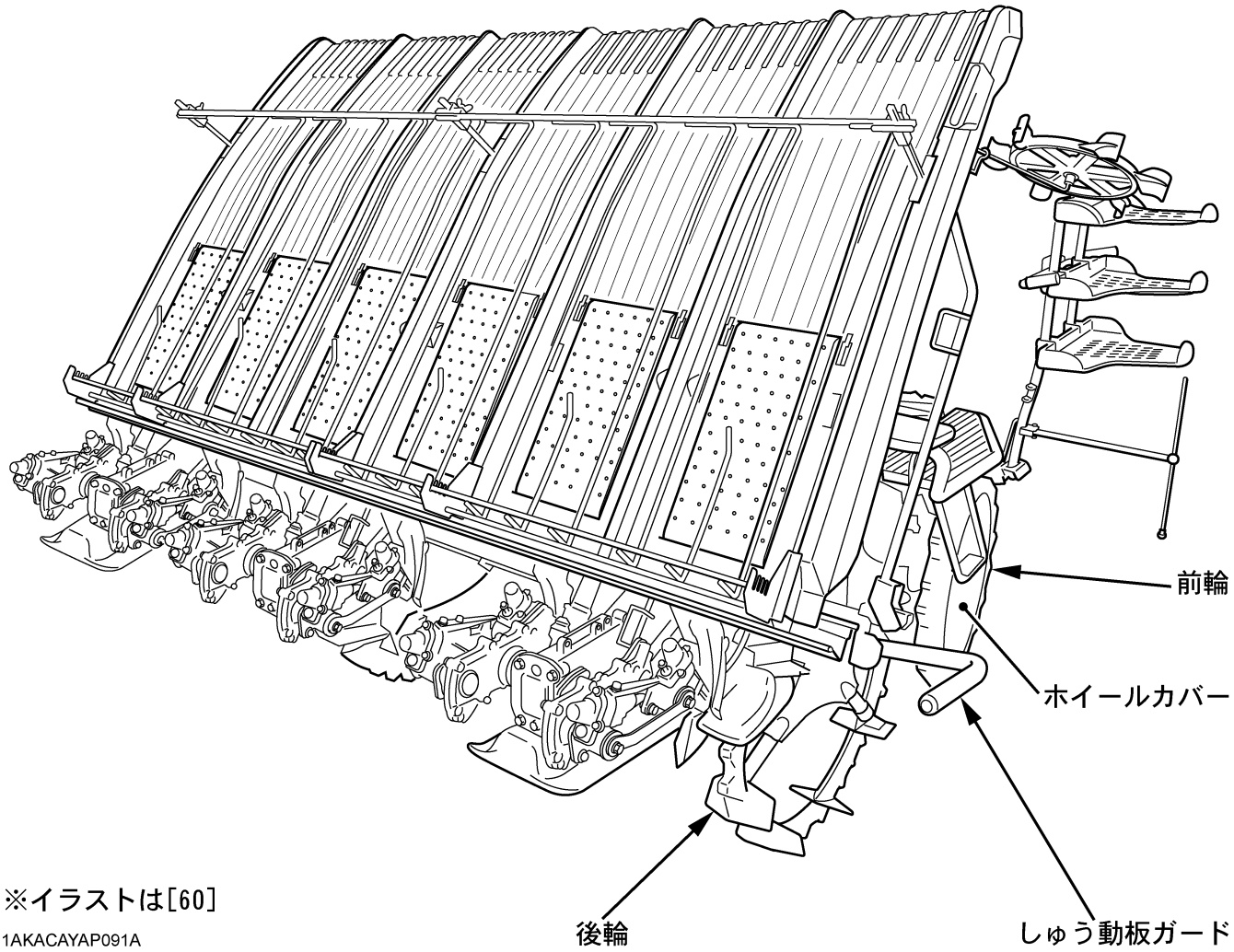
走行装置の名称と取扱い

機体方向説明と走行装置の名称

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。



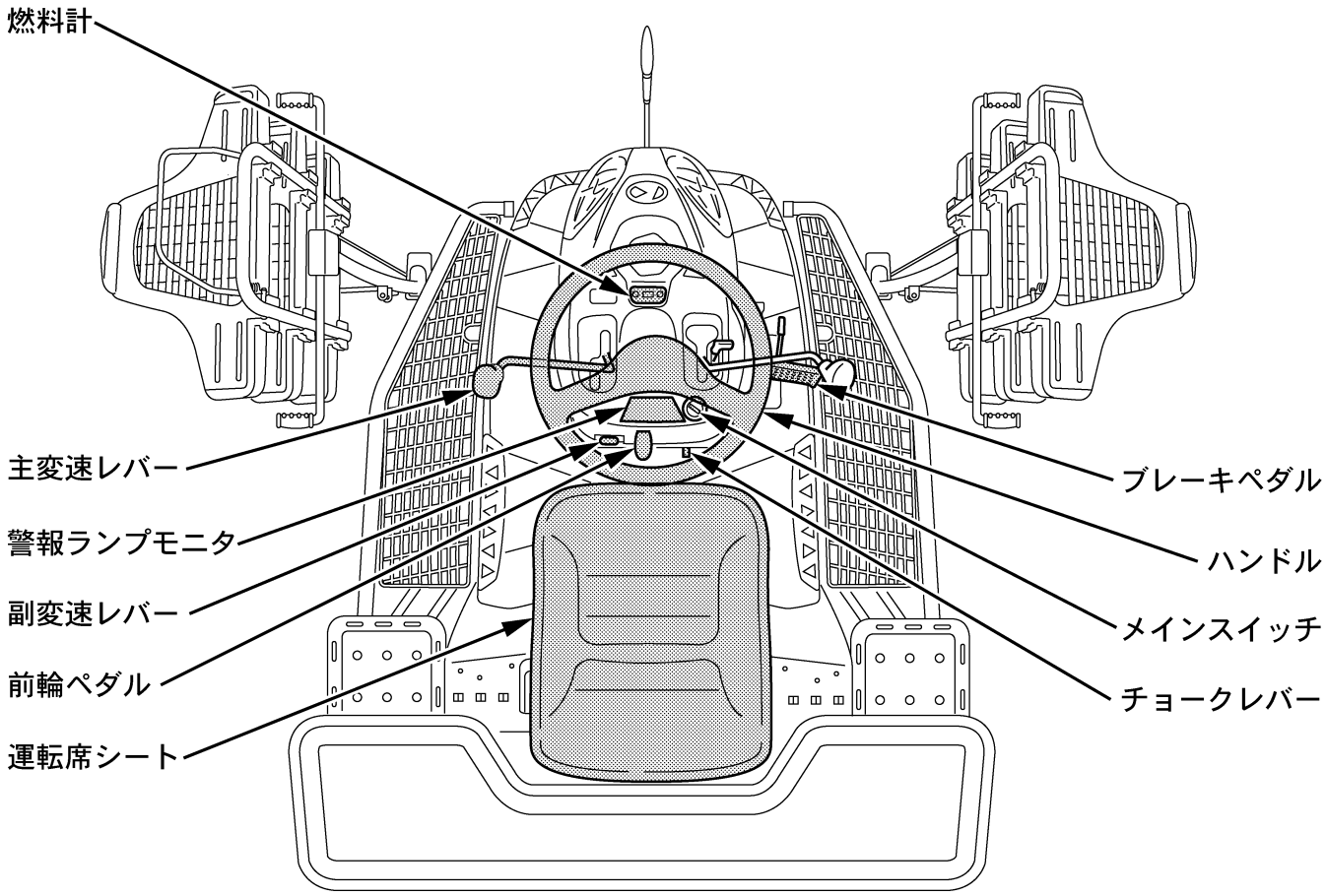




※イラストは[60]

1AKACAYAP091A

各部の名称とはたらき



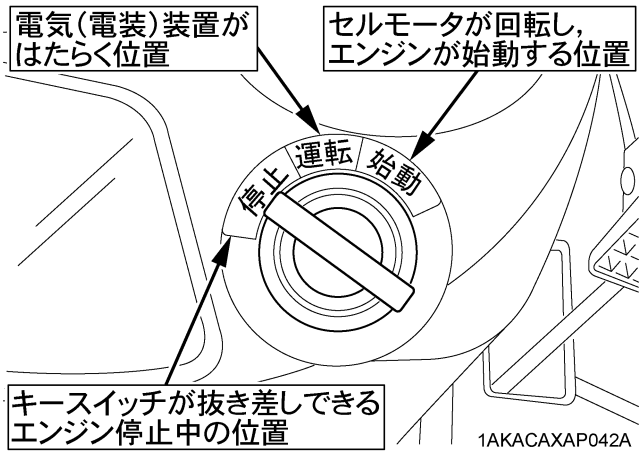
1AKACAYAP093A

※イラストは[60]

◆ エンジン操作関係

■メインスイッチ

田植機の電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。

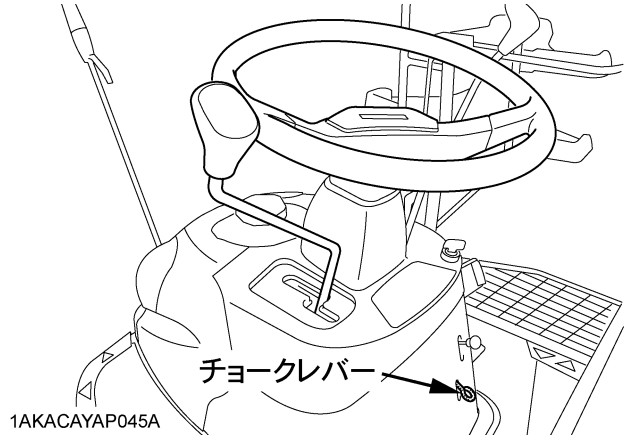


補　足

＊ エンジン始動後，キースイッチから手を離すとキースイッチは，**【運転】**位置に戻ります。

■チョークレバー

エンジンの始動を容易にするレバーです。レバーを引くと燃料の混合気が濃くなります。

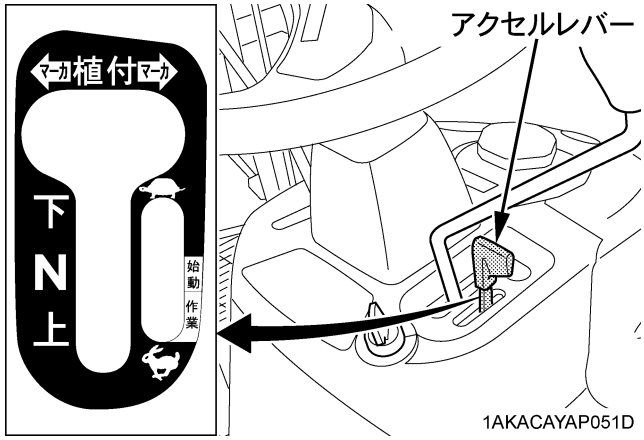


補　足

＊ エンジンの始動以外には使用しないでください。

■アクセルレバー

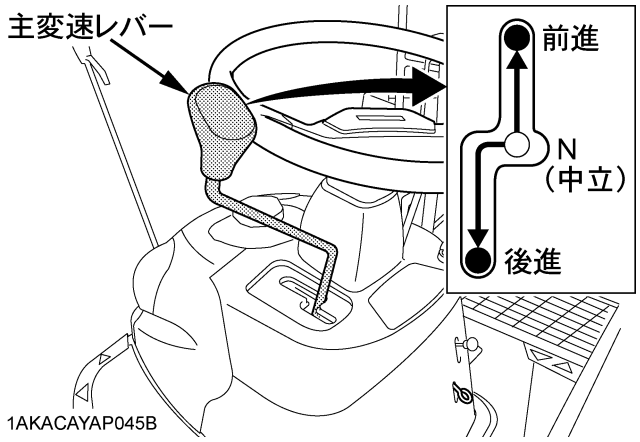
エンジンの回転数をコントロールするレバーです。レバーを後方に引く（**【🐇】**方向）と回転数が上がり，前方に押す（**【🐢】**方向）と回転数は下がります。



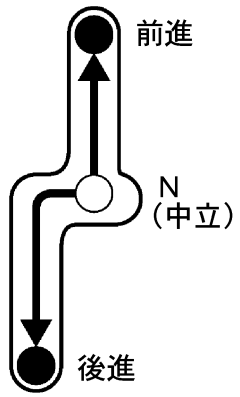
◆ 走行操作関係

■主変速レバー

前進・後進・停止（中立）の操作及び走行速度の調整を行なうレバーです。



1AKACAYAP045B



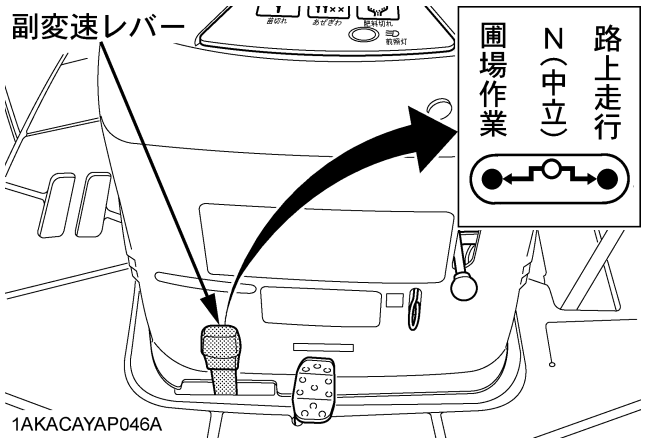
1AKACAXAP191A

補　足

＊ 通常の走行を停止するときは，主変速レバーを**［N］（中立）**位置にあわせてください。

■副変速レバー

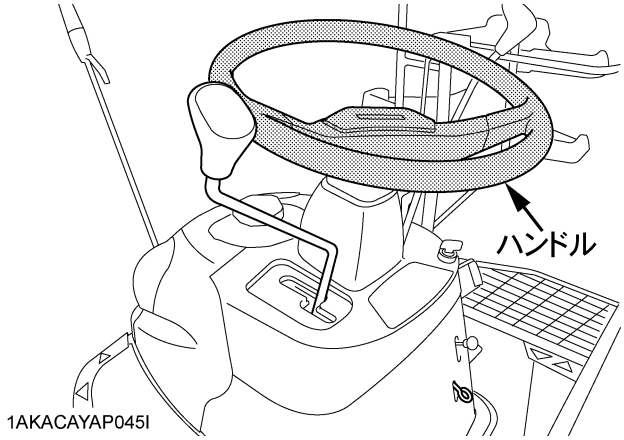
［路上走行］位置と**［圃場作業］**位置の切換えを行なうレバーです。



1AKACAYAP046A

■パワーステアリングハンドル

操向操作（旋回や進路変更）を行なう油圧式のハンドルです。



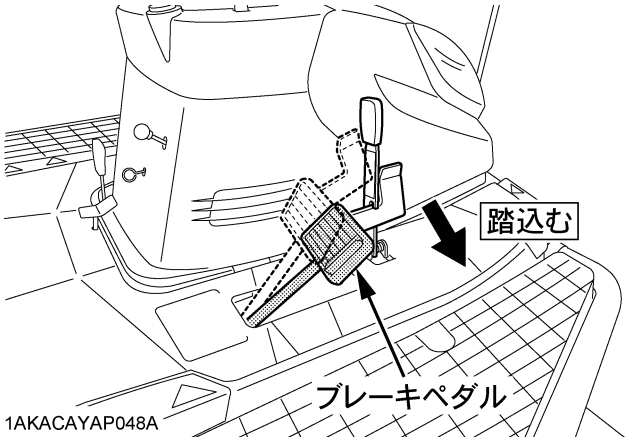
1AKACAYAP045I

重　要

＊ ハンドル操作は，ブレーキペダルを踏み込んでいるときやエンジンが停止しているときは重くなりますので無理に操作しないでください。

■ブレーキペダル

踏込むとブレーキが掛かります。エンジンの始動時や緊急停止時に使用します。



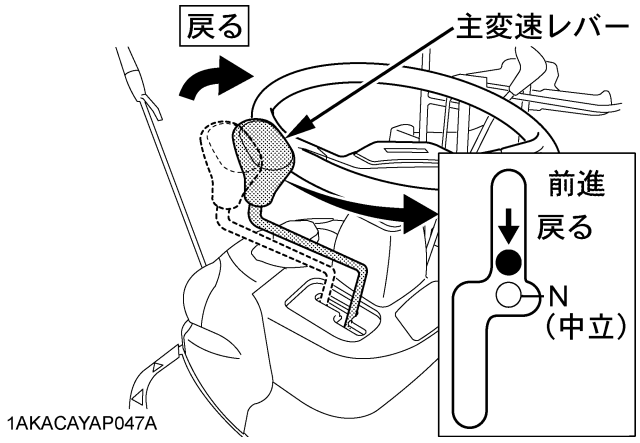
1AKACAYAP048A

重　要

＊ ブレーキペダルを踏込んだ状態では，主変速レバーの**前進 3 ～ 5 速**への操作はできません。無理に操作するとレバーの変形や破損によるトラブルの原因となります。

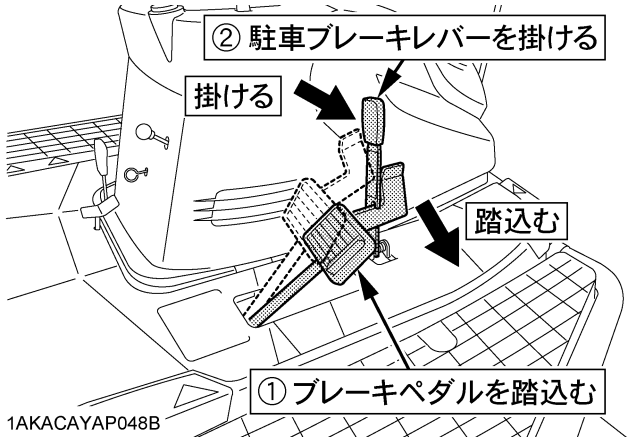
補　足

＊ 前進中にブレーキペダルを踏込むと，自動減速すると同時に主変速レバーが強制的に**前進2～3速**位置へ戻ります。



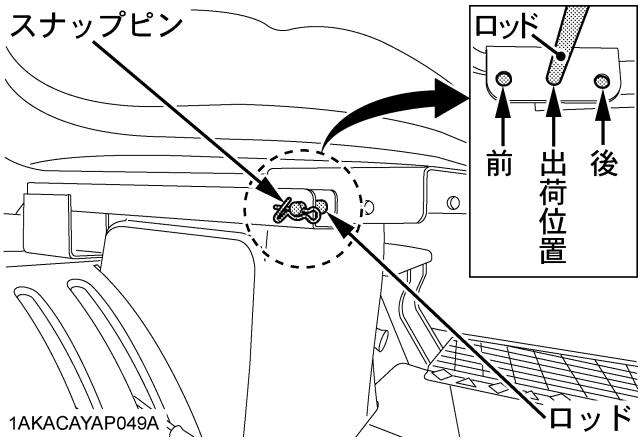
■駐車ブレーキレバー

ブレーキペダルを踏込み，駐車ブレーキレバーでペダルをロックすると駐車ブレーキが掛かります。また，ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキレバーを外すと駐車ブレーキが解除されます。



■運転席（シート）

運転席は前後に調節することができます。運転席の前方下にあるスナップピンとロッドを外し，穴を差換えて前⟷後に調節してください。



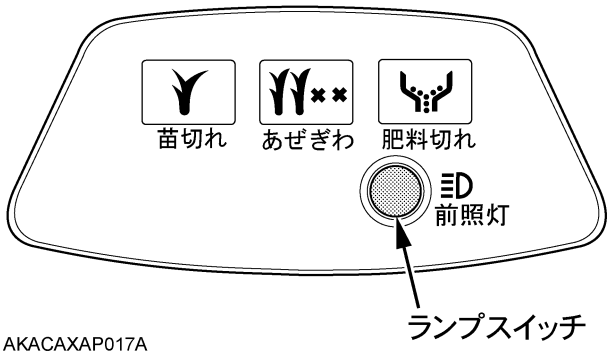
補　足

＊ 運転席を前方に倒しておくと，ほこりよけとなります。

■警報モニタ

● **ランプスイッチ**

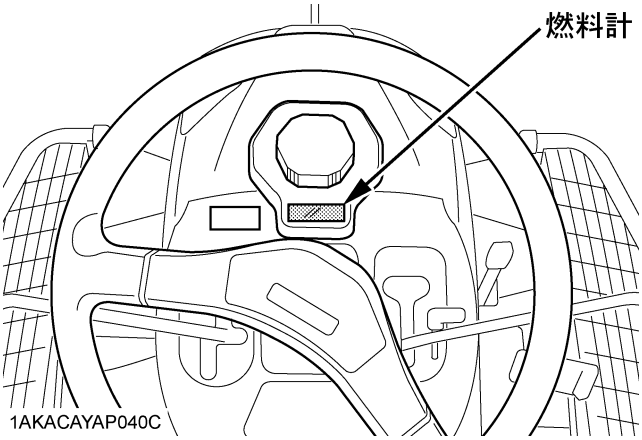
ヘッドランプの点灯・消灯を行ないます。



● 各メータ

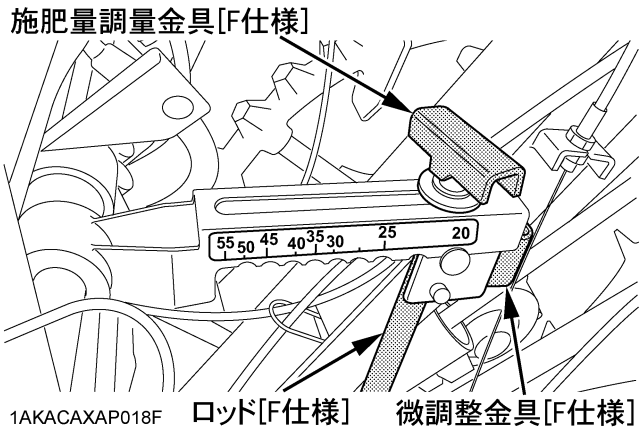
燃料計

燃料の残量をゲージで表示（**[F]**〔満タン〕⟷**[E]**〔空〕）します。

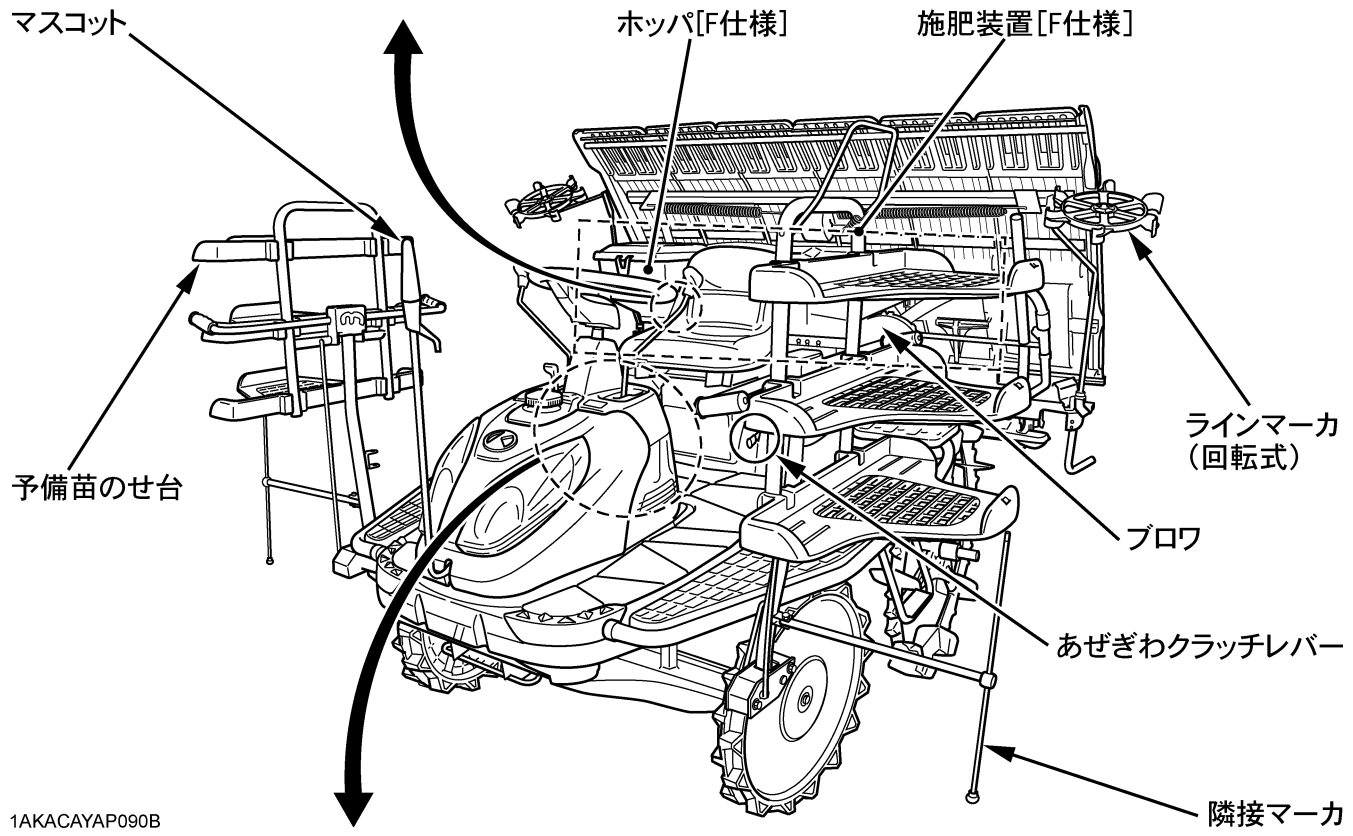


作業装置の名称と取扱い

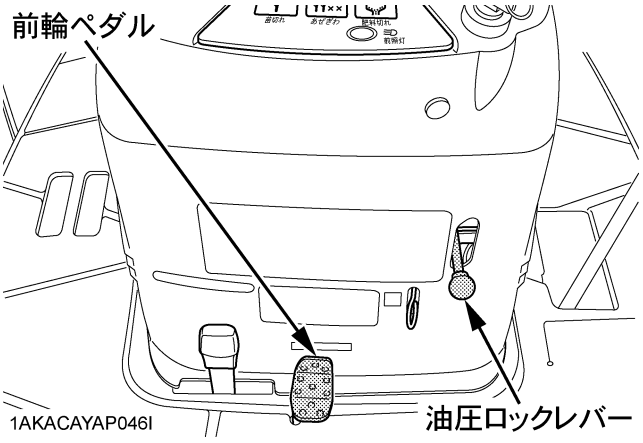
作業装置の名称とはたらき



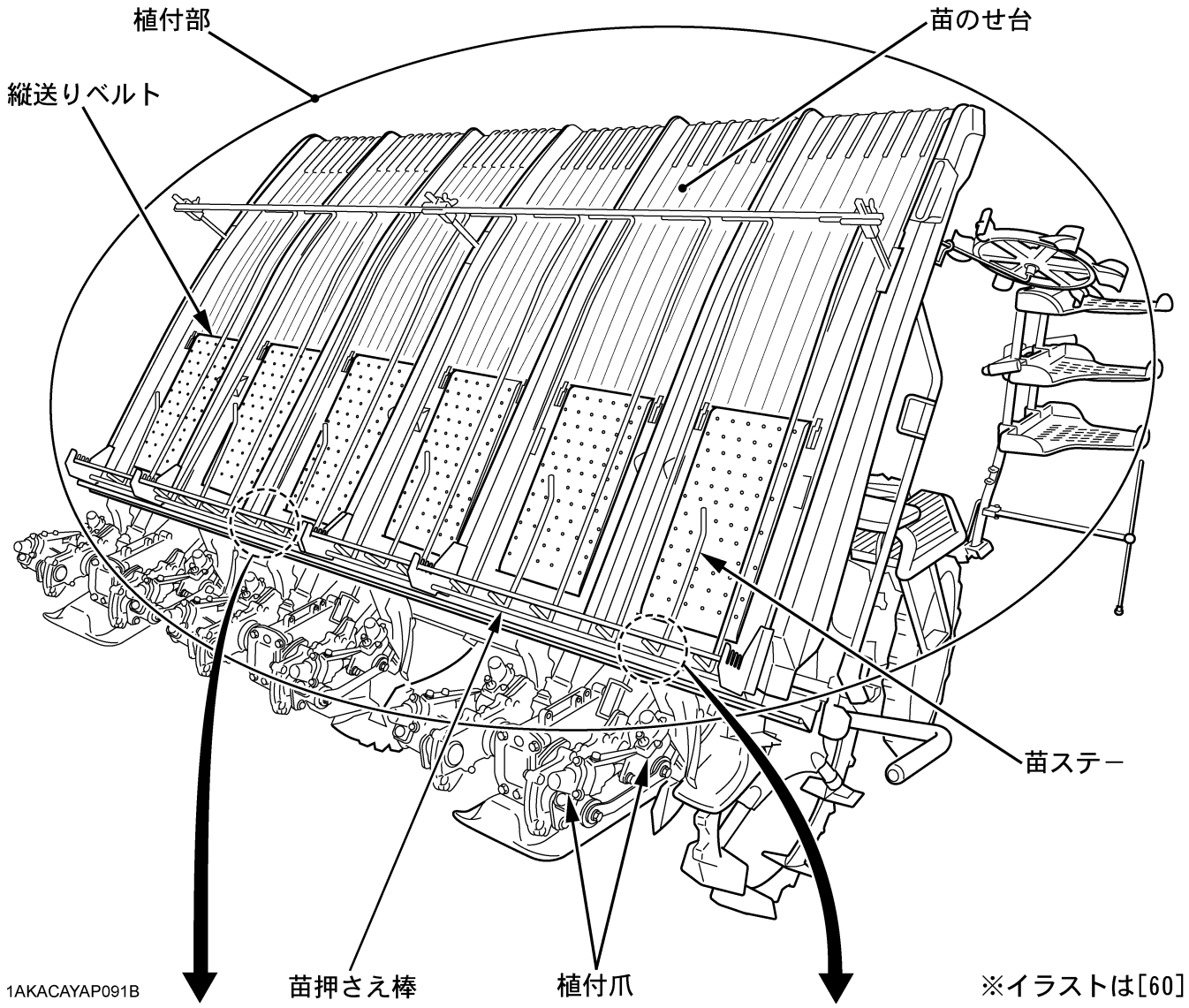
1AKACAXAP018F

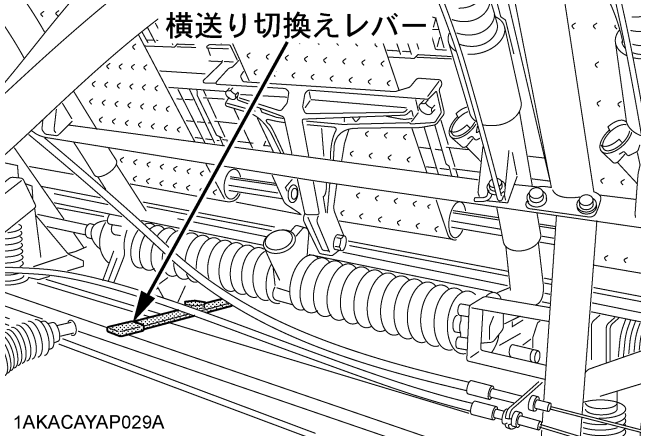


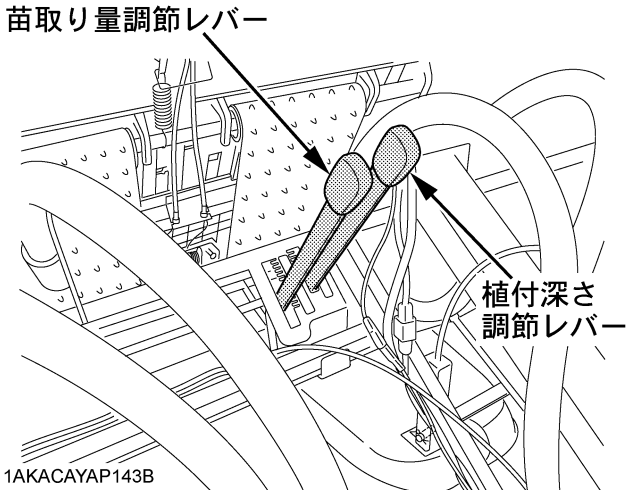
1AKACAYAP090B

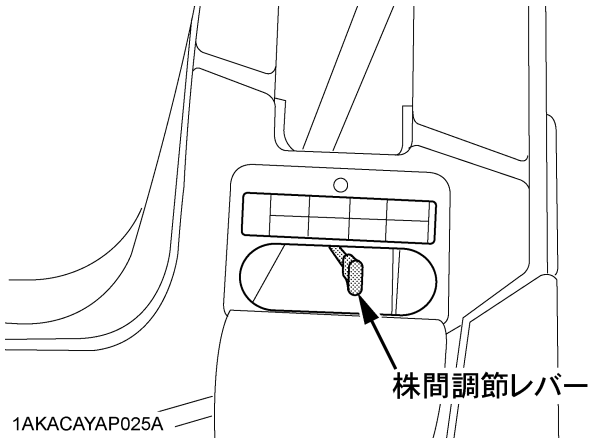


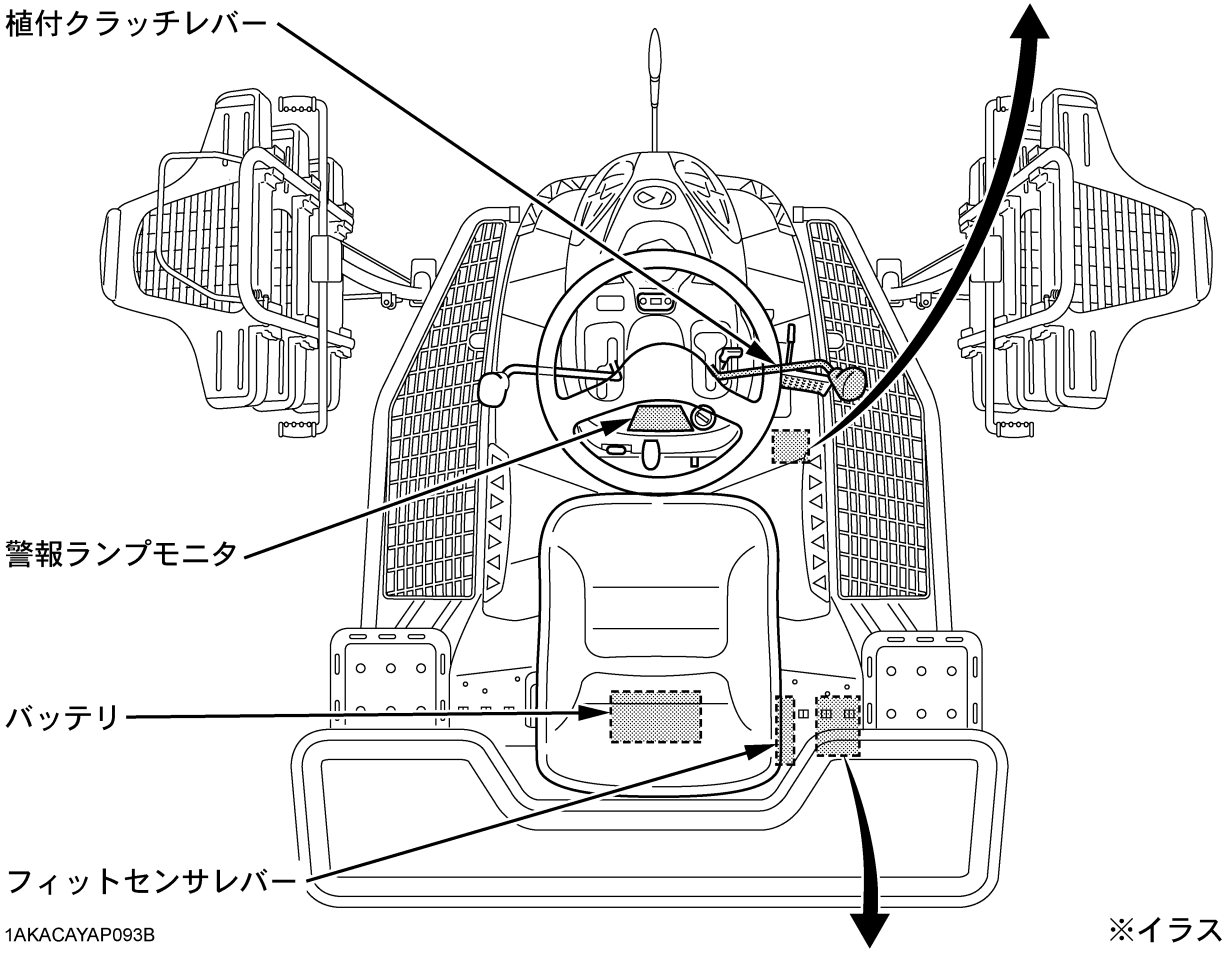
1AKACAYAP046I


植付部
苗のせ台
縦送りベルト
苗ステー
苗押さえ棒
植付爪
1AKACAYAP091B
※イラストは[60]

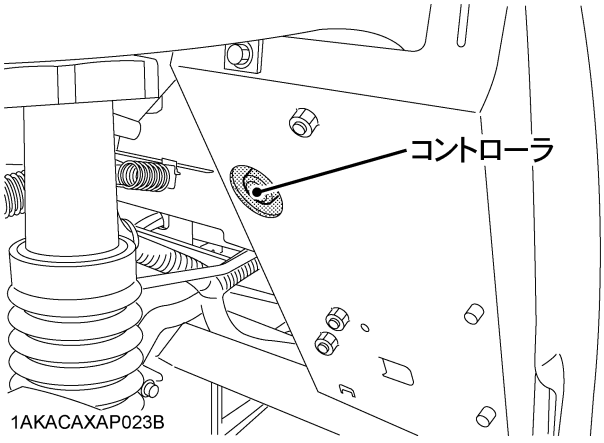

横送り切換えレバー
1AKACAYAP029A


苗取り量調節レバー
植付深さ
調節レバー
1AKACAYAP143B


株間調節レバー
1AKACAYAP025A


植付クラッチレバー
警報ランプモニタ
バッテリ
フィットセンサレバー
1AKACAYAP093B

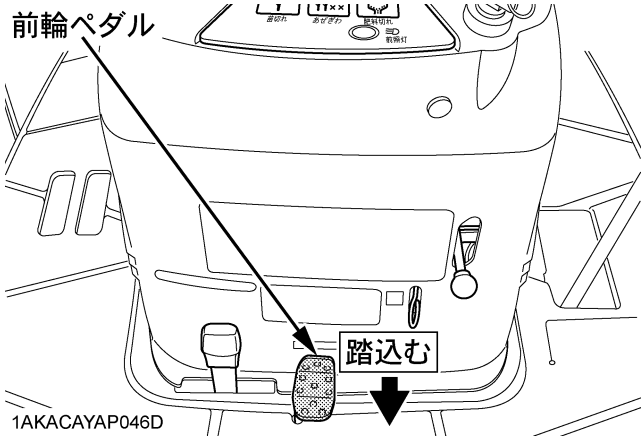
※イラストは[60]


コントローラ
1AKACAXAP023B

◆ 走行操作関係

■前輪ペダル

踏込むと，左と右の前輪が一体となって駆動します。あぜごえ，傾斜地（あゆみ板や急な坂道）や前輪がスリップするときに使用します。



◆ 植付関係

■植付クラッチレバー

● 植付部操作

植付部の**上昇・下降**，動力伝達の**入・切**，ラインマーカのセットを操作するレバーです。

［上］…… 植付部の駆動が停止し，上昇します。

［N］（中立）… 中立位置です。（植付部が停止します。）

［下］…… 植付部が下降します。

［植付］…… 植付部が駆動します。（植付爪が回転し，苗のせ台が横送りします。）

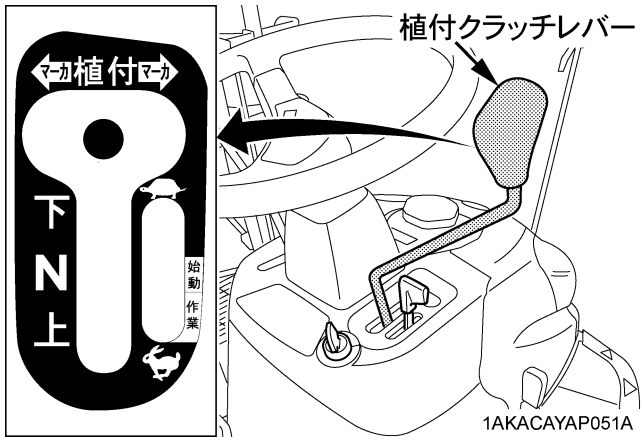
補　足

＊ 植付部が最上昇すると，レバーは自動的に**［N］（中立）**位置になります。

● ラインマーカ操作

［左］…… ラインマーカが左側に倒れます。

［右］…… ラインマーカが右側に倒れます。



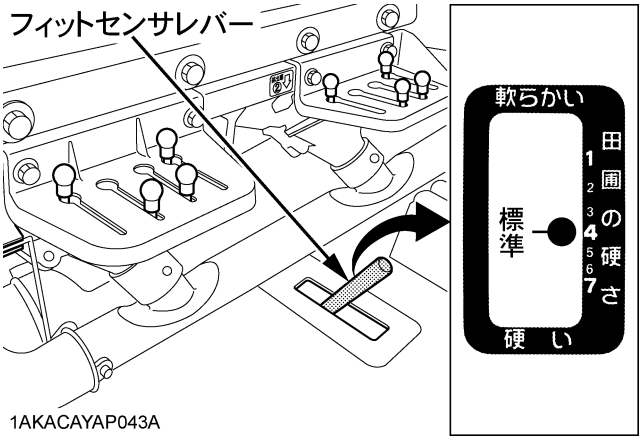
補　足

＊ 植付部を上昇させるとラインマーカは自動的に収納されます。

＊ 植付部が接地している状態で，植付クラッチレバーが**［植付］**位置のとき，主変速レバーを**［N］（中立）**位置より**［後進］**側に操作すると，植付部の駆動が停止し，植付部が上昇します（バックアップ機能）。ただし，スタンドを立てた状態など植付部が接地していない場合は，はたらきません。

■フィットセンサレバー

- フィットセンサは，フロートによるほ場表面の整地を最良にするため，ほ場表面の状態に合わせて植付部の上下の動きの感度を調節する装置です。
- フィットセンサレバーは感度を変更するレバーです。ほ場の状態に合わせて７段階（１～７）の調節が行なえます。



補　足

＊ 出荷時は，**［４］**（標準）の位置です。

■苗取り量調節レバー

苗の縦取り量を調節するレバーです。苗の状態や種類に合わせて 10 段階の調節が行なえます。

補　足

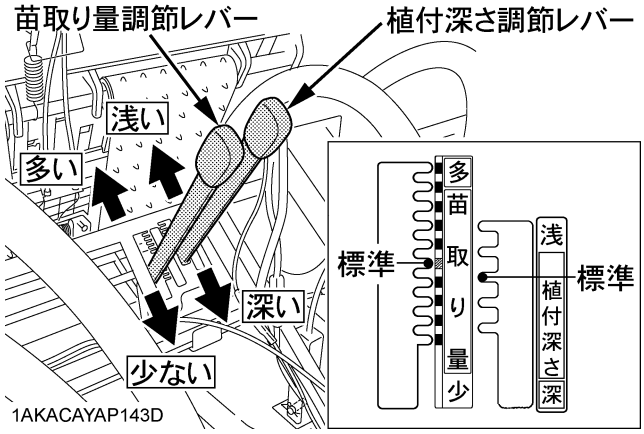
＊ 出荷時は，**上［多］から６段目**位置です。

■植付深さ調節レバー

ほ場に適した苗の植付深さを調節するレバーです。苗の植付深さに合わせて５段階の調節が行なえます。

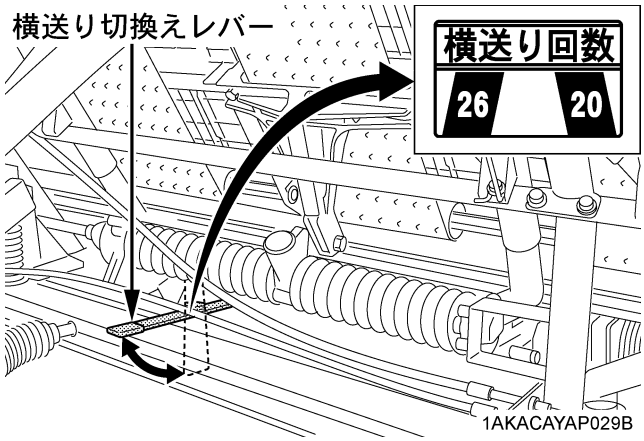
補　足

＊ 出荷時は中段**［標準］**位置です。



■横送り切換えレバー

苗の横送り回数を切換えるレバーです。苗の種類に合わせて２段階（20 回〔中苗〕・26 回〔稚苗〕）の切換えが行なえます。

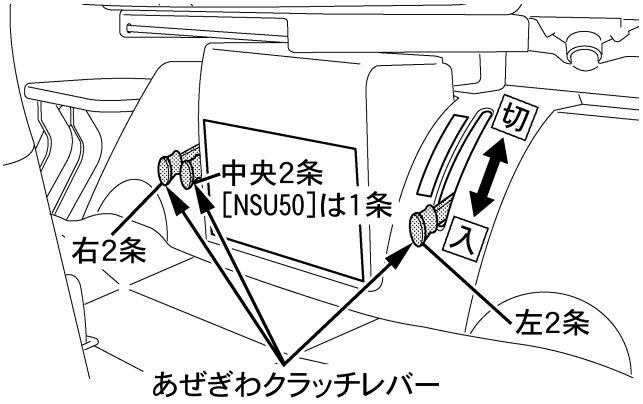


補　足

＊ 出荷時は**［26 回］**位置です。

■あぜぎわクラッチレバー

２条ごとに苗の縦送りと植付爪の駆動を停止するレバーです。ほ場の形状にあわせて，必要なときに使用してください。



1AKACAYAP031B

補　足

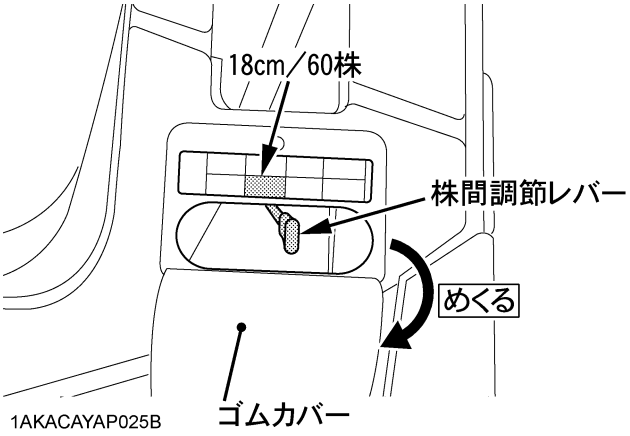
＊ あぜぎわクラッチレバーを**［切］**位置にして植付作業を行なうと，メインパネル内のあぜぎわモニタのランプが点滅します。
また，全条植えを行なうときは必ずレバーを**［入］**位置にしてください。

＊ あぜぎわクラッチレバーを**［切］**位置にすると，植付けが停止すると同時に肥料の繰出しも停止します。**［F 仕様］**

＊ 植付部を最上昇にすると，レバーが自動的に**［入］**にもどります。
ただし，植付部が中間位置ではレバーが操作できない位置があります。無理に操作すると破損の原因になります。超深田では植付作業時にレバーがもどらない場合があります。

■株間調節レバー

植付株間の調節を行なうレバーです。３段階の株間に調節できます。



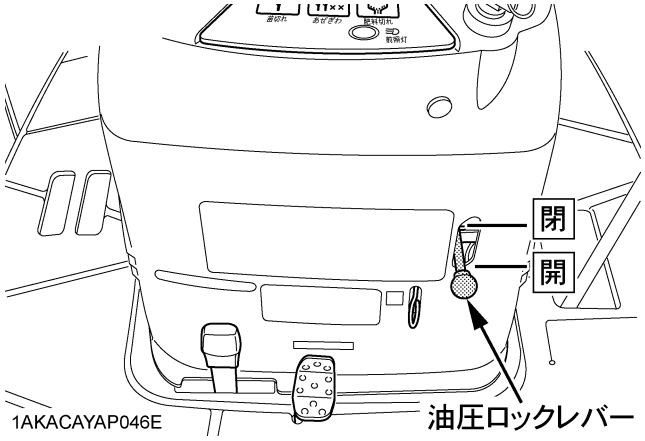
1AKACAYAP025B

補　足

＊ 出荷時は，**18cm/60 株**位置です。

■油圧ロックレバー

植付部の下降防止を行なう油圧のロックレバーです。ロックレバーを上げる（**[閉]** 位置）と，エンジンが作動中に植付クラッチレバーを操作しても植付部は下降しません。解除するときは，ロックレバーを下げて（**[開]** 位置）ください。



補　足

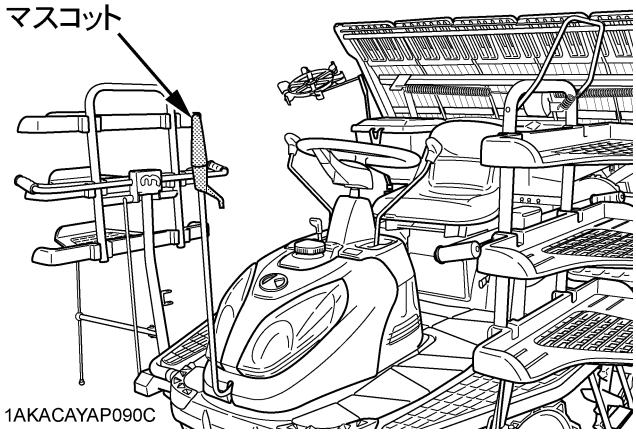
＊ レバーを操作するときは，上または，下方向いっぱいまで操作してください。

油圧をロックして走行する時は，必ず次のいずれかの操作をしてください。

1. 発進前に植付部を最上昇してからロックしてください。
2. 最上昇せずに後進する必要がある場合（納屋収納等）は，後進終了後，植付クラッチレバーを **[N]** にしてください。
   ※上記を守らないと，バックアップ後に植付クラッチレバーが **[上]** にシフトしたままとなり，油圧の抵抗でエンジンがドロップします。

■マスコット

マスコットは，ラインマーカで引かれた線上を直進していくための目印となるものです。
また，警報発生時点滅します。
（苗切れ・あぜぎわクラッチ **[全機種]**，肥料切れ・肥料詰まり **[F 仕様]**）

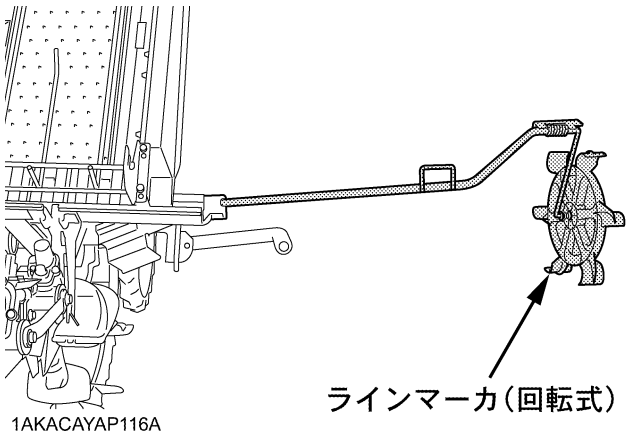


補　足

＊ 移動走行時や納屋などに格納するときは，下側に倒して収納状態にしてください。

■ラインマーカ

次行程を植付けるとき，適正な隣接条間を保つための目標となる線をほ場面に引きます。

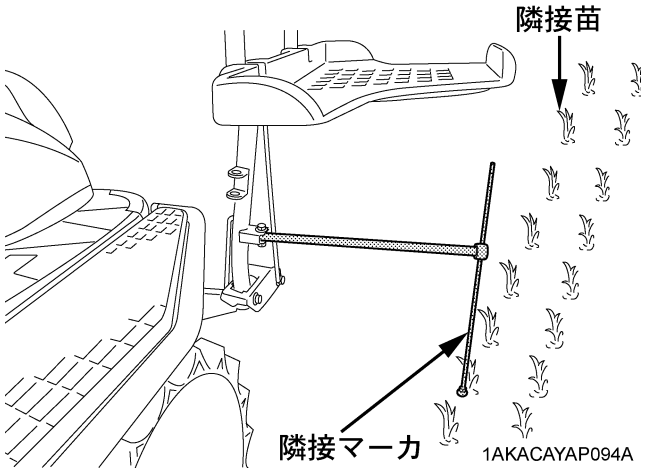


補　足

＊ 植付部を上昇させるとラインマーカは自動的に収納されます。

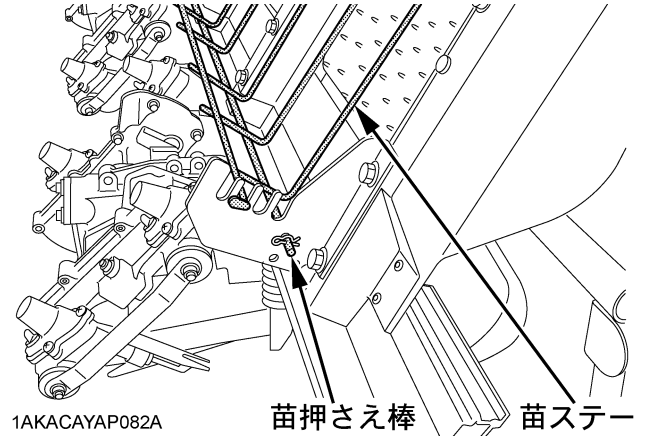
■隣接マーカ

あぜぎわの植付けを行なう場合やラインマーカで引かれた線が見えにくいときは，次行程の植始めに隣接条の苗の真上にマーカを合わせて植付けると適正な隣接条間が保てます。



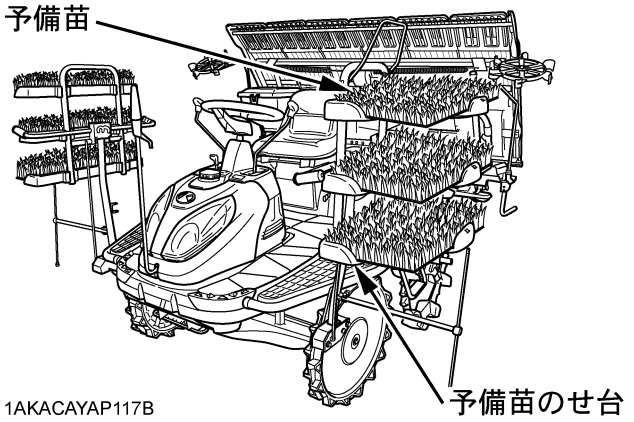
■苗ステー・苗押さえ棒

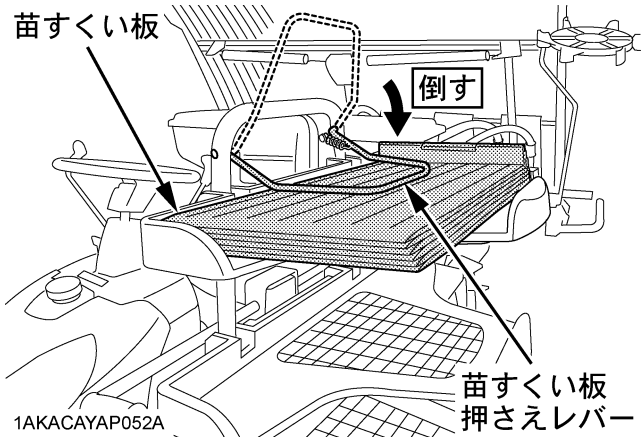
苗ステーは，薄くて軟弱な苗床や根張りの悪い苗床から，苗がくずれ落ちて発生する欠株を防ぎます。また，苗押さえ棒は，植付時の苗の倒れや欠株を防ぎます。

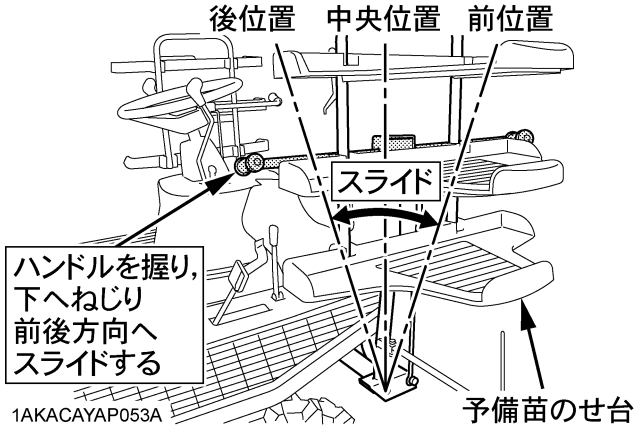


■予備苗のせ台

予備苗を６枚載せることができます。苗すくい板の収納場所は左上段です。苗すくい板の押さえレバーで収納してください。また，予備苗のせ台は前後方向に３段階にスライドします。あぜなどから苗補給を行なうとき，補給しやすい位置に合わせてください。





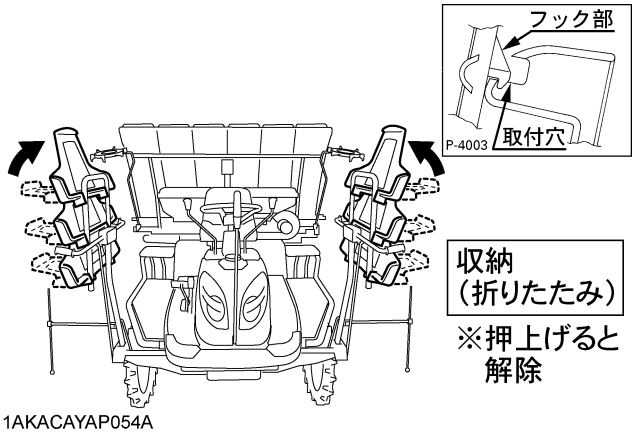


補　足

＊ 予備苗のせ台は，上側に収納（折りたたみ）することができます。納屋などに格納するときに収納してください。収納時に各段の予備苗のせ台の上段側のフック部に下段の取付穴を確実に差込んでください。また，ロックを解除するときは，いったん押上げて，取付穴からフック部を外してください。
＊ 予備苗のせ台は，中央位置・前位置・後位置の３段階にスライドします。

苗補給作業時は，作業しやすい位置にセットしてください。

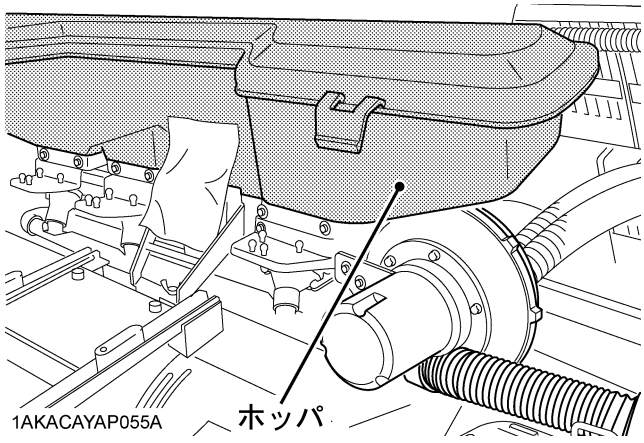
予備苗のせ台の位置	作業状態
中央位置	● 植付け作業時 ● 苗補給作業時 ● 乗車移動走行時 ● トラックへの積み・降ろし時 ● トラック輸送時
前位置	● 苗補給作業時
後位置	● 苗補給作業時 ● 長期格納時



◆ 施肥装置関係［F 仕様］

■ホッパ

粒状の肥料を入れるところです。

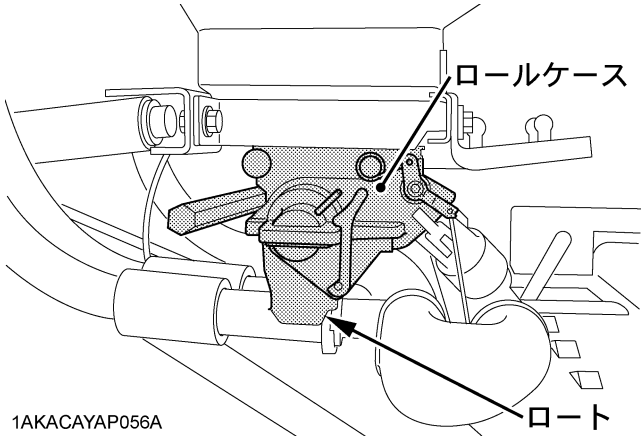


補　足

＊ ホッパ容量は１条当り以下のとおりです。
［NSU50］…… 約 9L（約 8kg）
［NSU60］…… 約 7.5L（約 6.7kg）

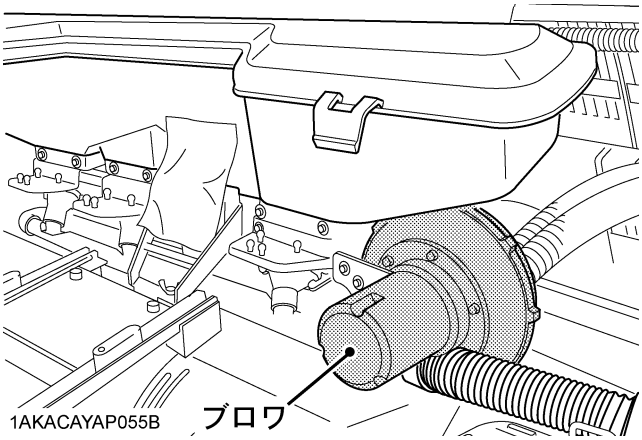
■ロールケース（繰出し部）

ホッパ内の肥料の繰出量を調節し，設定された量を常に一定にして繰出すところです。



■ブロワ

ロールケースから繰出された肥料を作溝器へ強制搬送する送風機です。

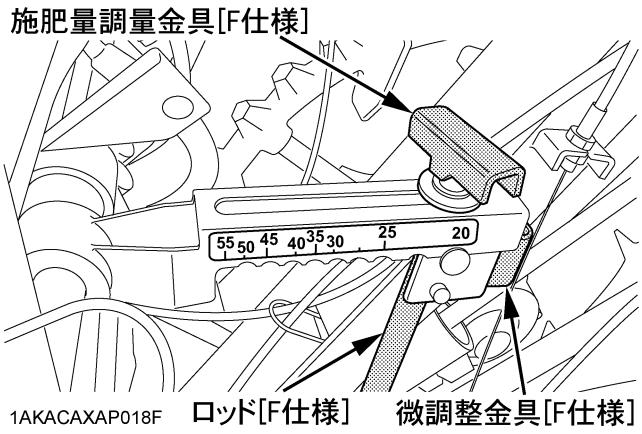


補　足

＊ ブロワはキースイッチを**【運転】**位置に回して約８秒後に回転し始めます。エンジン回転中は常時回転します。ただし，植付部最上昇位置のときはブロワは回転しません。

■施肥量調量金具

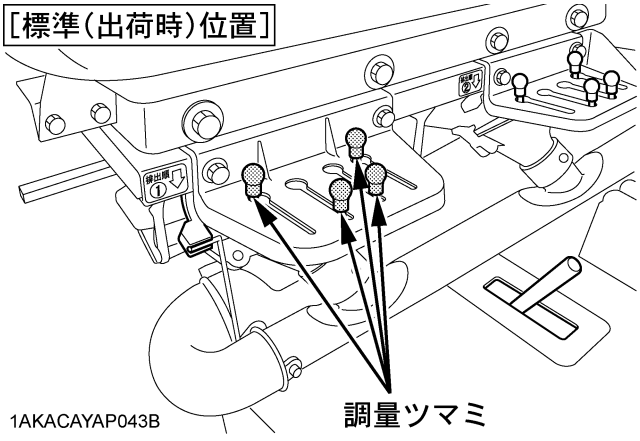
施肥量を調節する金具（ロッド）です。



補　足

＊ 施肥量はロールケースにある調量ツマミ(シャッタ)と肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の変更で 10 ～ 80kg/10a の繰出しが行なえます。また，目標とする施肥量に調節するには，**調量ツマミの調節で２段階**（範囲：20 ～ 50kg/10a〔標準〕・50 ～ 80kg/10a〔多い〕）と**調量ツマミの調節と肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の組換え**（範囲：10 ～ 20kg/10a〔少ない〕）で変更できます。

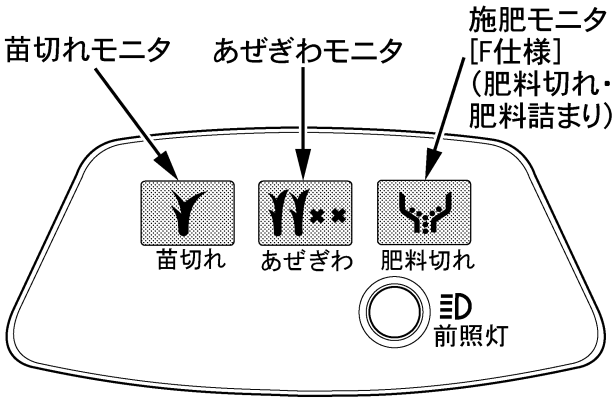
＊ 調量ツマミの出荷位置は標準(20～50kg/10a)位置です。



補　足

＊ 微調整金具で施肥量の微調整ができます。（**施肥量の調節［F 仕様］**の項を参照してください。）

■警報モニタ



1AKACAXAP017B

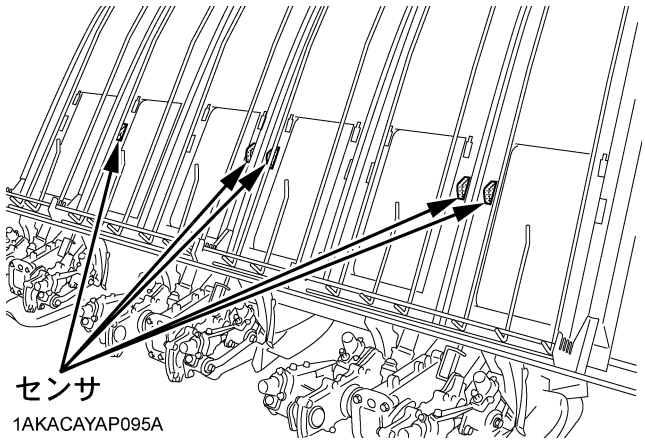
● 各モニタ（警報ランプ，警報ブザー）

苗切れモニタ（苗切れ警報）

苗の残量が少なくなったときメインパネル及びマスコットのランプが点滅しブザーが鳴ります。

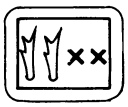
補　足

＊ 苗切れ警報は，苗がなくなってきたとき，苗のせ台の各条にあるセンサが感知してはたらきます。



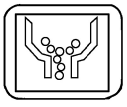
1AKACAYAP095A

あぜぎわクラッチモニタ（あぜぎわクラッチ入れ忘れ警報）



あぜぎわクラッチを切ったときに，メインパネル及びマスコットのランプが点滅します。クラッチの入れ忘れに注意してください。

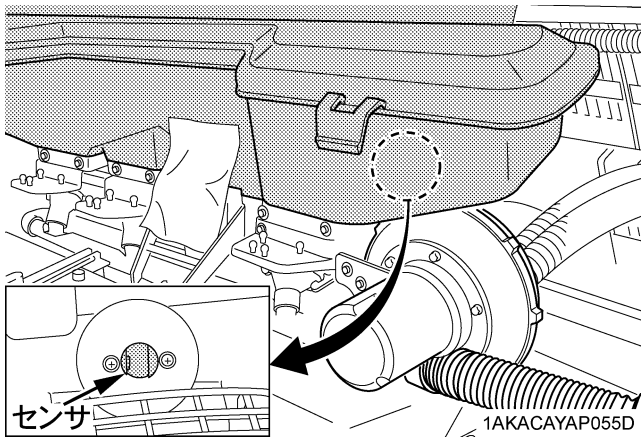
施肥モニタ（肥料切れ・肥料詰まり警報）[F 仕様]



施肥作業中に肥料が残り少なくなったときや肥料が詰まったときに，メインパネル及びマスコットのランプが点滅しブザーが鳴ります。

補　足

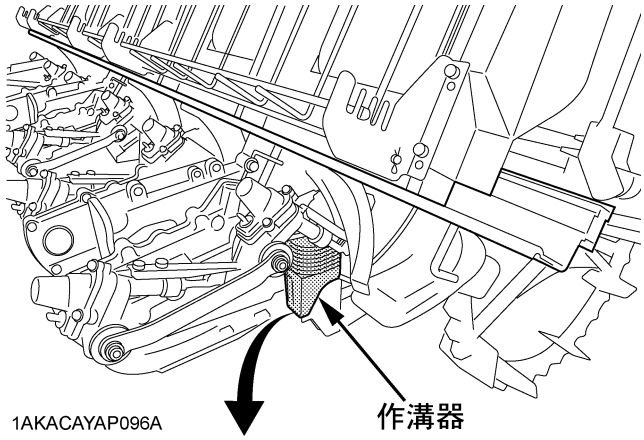
＊ 肥料切れ警報は，肥料がなくなってきたとき，各ホッパ内にあるセンサが感知して働きます。



1AKACAYAP055D

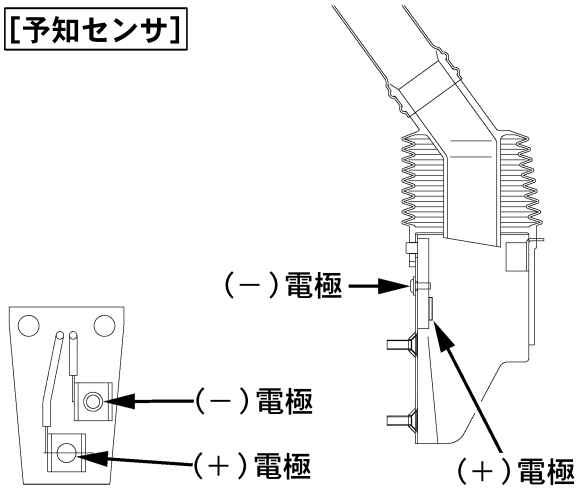
補　足

＊ 肥料詰まり警報は，各作溝器内にある肥料詰まり予知センサに小粒肥料や泥水などが付着したときに，（＋）と（－）の電極が導通すると働きます。



1AKACAYAP096A

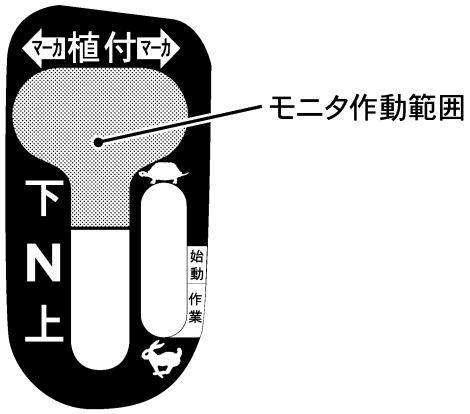
[予知センサ]



1AKACAIAP400A

補　足

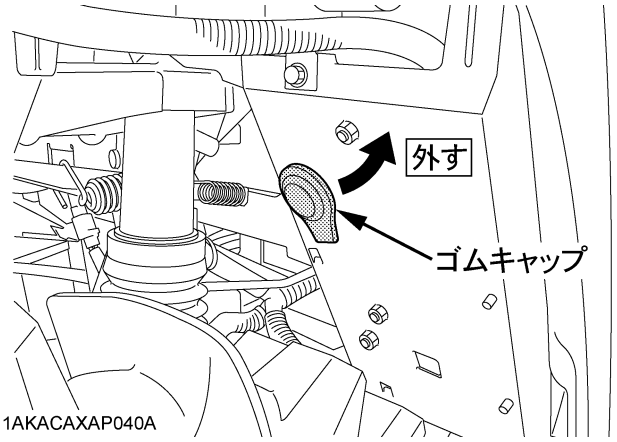
＊ 警報発生後の処置については，76 ページを参照してください。
＊ エンジンが停止状態のとき，キースイッチを**［運転］**位置にすると，各モニタのランプがランプチェックのため約２秒間点灯したあと消灯します。ただし，施肥モニタは**［F 仕様］**以外は点灯しません。
＊ 各警報モニタは，植付クラッチレバーの位置が**モニタ作動範囲（位置）**以外の位置（**［N］（中立）**や**［上］（植付部上昇）**）では，はたらきません。



1AKACAXAP122B

■コントローラ

自動装置関係の制御を行なうところです。コントローラは，運転席右下フェンダー裏にあるゴムキャップを外すと見えます。



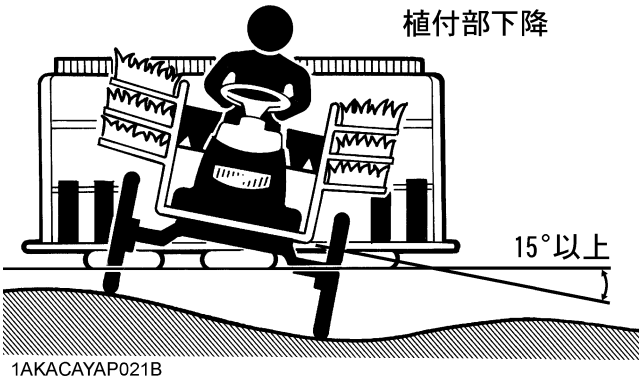
1AKACAXAP040A

植付部自動水平制御装置は，機体が左・右に傾くと，自動的に植付部（苗のせ台）を水平状態に修正・保持する装置です。モンロー調節ダイヤルは，自動水平制御がはたらいていても，左と右の植付深さが一定にならないとき（特にあぜぎわ）に使用します。

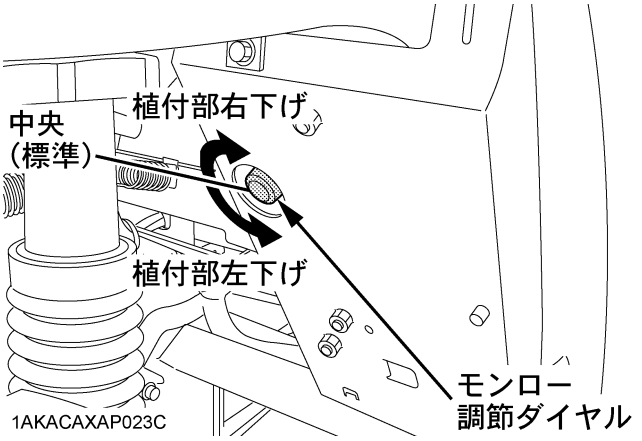
（**植付作業のしかたのあぜぎわの植付けかた**の項参照）

◆ 転倒防止警報

移動走行時に機体が左右に 15° 以上傾くと警報ブザーが鳴ります。



1AKACAYAP021B



1AKACAXAP023C

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，77 ページを参照。）

警　告

＊ 平たんな場所で駐車ブレーキを掛け，必ずエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料の補給中やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込まれるおそれがあるので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊ オイル補給中は火気厳禁です。
＊ 運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊ 燃料，オイルを補給したときは，キャップや給油栓を確実に締め，こぼれた燃料やオイルは，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。

重　要

各部への給油と交換

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，指定の**［クボタ純オイル・スペアグリース］**を必ず使用してください。
＊ 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。
＊ 燃料のガソリンは１ヶ月以上放置すると，気化や酸化をしてガソリンが変質し，エンジンの不調や故障の原因となりますので必ずタンク内及びフィルタポット内のガソリンは抜取り，新しいガソリンを給油してください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆田植機の周りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部にごみや泥がたまっていないか点検します。

日常点検項目

＜ここを＞ ➡ ＜点検し異常があれば＞ ➡ ＜こうする（処置）＞			参照ページ
機体の周りを歩いて			
機　体　各　部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. ゴミや泥などがたまってないか。 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充や増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換する。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。	— — 95 80 ⚠-16
バ　ッ　テ　リ	・バッテリ液は規定量（**UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間**）にあるか。	・精製水を補水する。	103
タ　　イ　　ヤ	・摩耗や損傷はないか。 ・空気圧の過不足はないか。 **［オプションタイヤ］**	・交換する。 ・調整する。	98
各ワイヤ，レバー支点部，しゅう動部	・たるみや損傷はないか。 ・作動状態に異常はないか。	・交換する。 ・注油する。	82
繰出しホース **［F 仕様］**	・破損や外れはないか。	・交換又は，取付けをする。	80
植付爪・押出し金具	・摩耗や破損又は，変形していないか。 ・石などの異物がはさまっていないか。	・調整又は，交換する。 ・取除く	98
ブラシ **［F 仕様］**	・摩耗していないか。	・交換する。	102
ボンネットを開けて			
エアクリーナ	・エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	・掃除する。	94
エンジンオイル	・油量は規定量（オイルゲージの**上限と下限の間**）あるか。	・規定量まで補給する。 …クボタ純オイルスーパー G 10W-30 又は，API 分類 SE 級以上	91
ホース，パイプ	・油もれや水もれはないか。	・取付部の締付け又は，交換する。	95
配線コード	・コネクタの外れはないか。 ・被覆の損傷はないか。	・接続をする。 ・交換する。	105
燃　　料　　計	・作業に必要な燃料はあるか。 ・表示は動くか。	・自動車用無鉛ガソリンを補給する。	90

運転前の点検

＜ここを＞ ➡ ＜点検し異常があれば＞ ➡ ＜こうする（処置）＞			参照ページ
運転席に座って・メインスイッチを入れて			
各モニタランプ・ブザー	・キースイッチを**【運転】**位置にしたとき，約２秒間警報ランプは点灯するか。 ・ブザーは鳴るか。	・バッテリの充電又は，交換する。 ・ランプ切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを点検して交換又は，接続をする。	103 105
ヘッドランプ	・ランプは点灯するか。	・ランプ切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを点検して交換又は，接続をする。	105
マスコットランプ	・ランプは点滅するか。		105
エンジンを始動して・機体を動かしてみて			
エンジン・マフラ	・始動するか。	・燃料タンクに燃料（ガソリン）が入っているか点検する。 ・燃料ソレノイドのヒューズ（5A）が切れていないか点検して交換する。	105
	・異音はしないか。 ・排気ガスの色に異常はないか。	・購入先に連絡してください。	
ブロワ**【F 仕様】**（植付部を下げて）	・回転しているか。 ・異音はしないか。	・スローブローヒューズ切れ，配線コードの外れがないか点検して交換又は，接続をする。	105
各操作レバー	・各操作レバーの作動と各作動部に異常はないか。	・購入先に連絡してください。	—
ブレーキペダル	・踏込むと停止するか。	・購入先に連絡してください。	6

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスが田植機の寿命に影響を及ぼします。新車の田植機は厳重な検査のもとに出荷されていますが田植機の各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中は田植機各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる田植作業は避けてください。
田植機の性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊ 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊ 寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊ エンジンは規定田植作業回転数以上に回さないでください。
＊ 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

注　意

＊ この取扱説明書前編の黄色のページ［安全に作業をするために］の内容を必ずお読みください。
＊ 田植機に貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ エンジン排気ガスによる排気ガス中毒をさけるため，換気の不じゅうぶんな納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊ 周囲の人に始動の合図をして，始動操作は運転座席に必ず座ってから行なってください。
＊ 運転席への乗り降りするときは，必ずステップ両側より行なってください。転倒してケガをするおそれがあります。

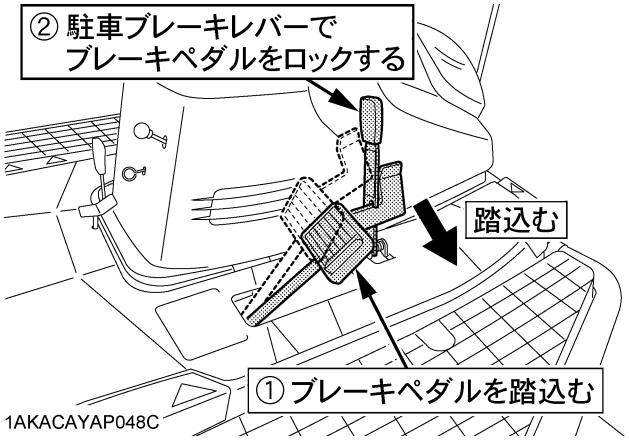
■始動のしかた

注　意

＊ エンジンの始動は必ず運転席（シート）に座って行なってください。

1.　駐車ブレーキを掛けます。

ブレーキペダルを踏込み，駐車ブレーキレバーでブレーキペダルをロックします。

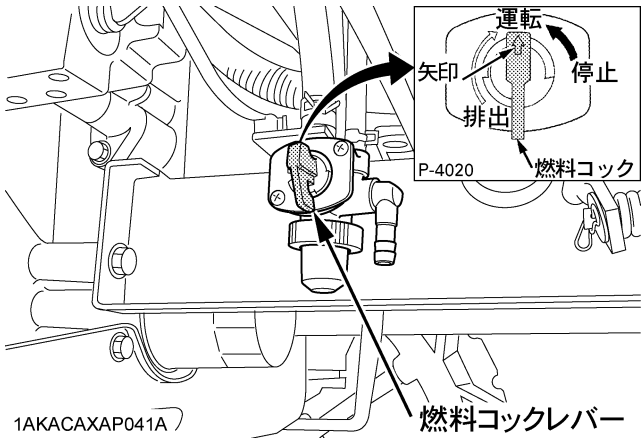


補　足

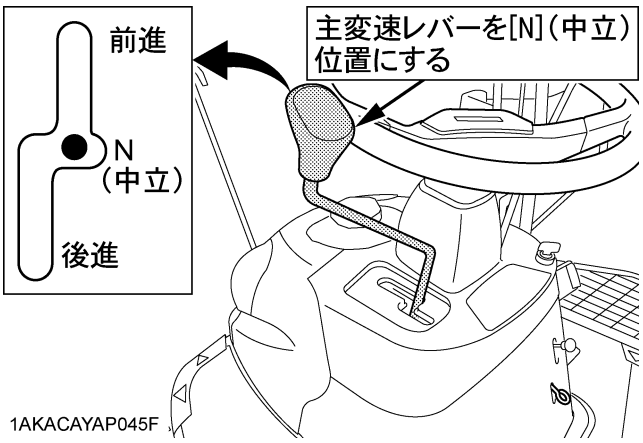
＊ 駐車ブレーキを掛けていないときは，ブレーキペダルをいっぱいに踏込まないとエンジンが始動しません。

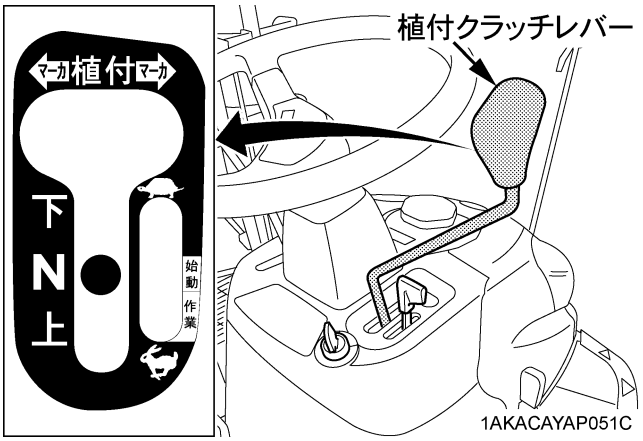
2.　燃料コックを開きます。

機体の前方右下（ステップの右下）にある燃料コックレバーの矢印を**［運転］**位置に合わせます。

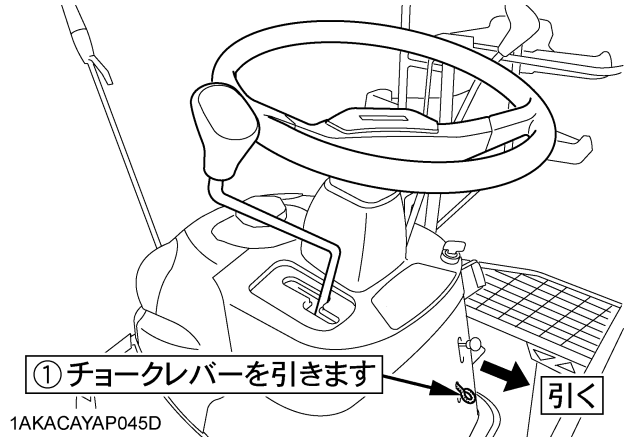


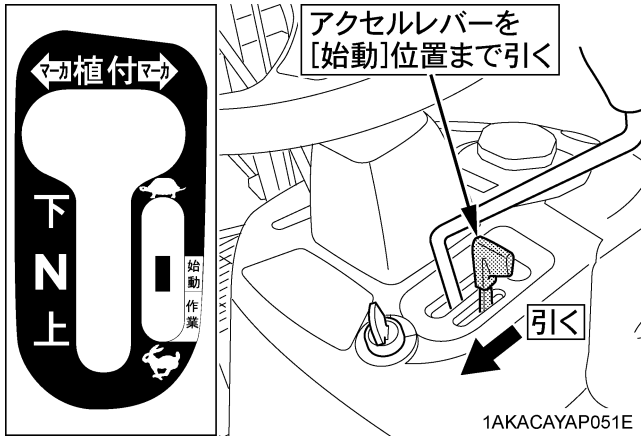
3. 各レバー位置の確認をします。

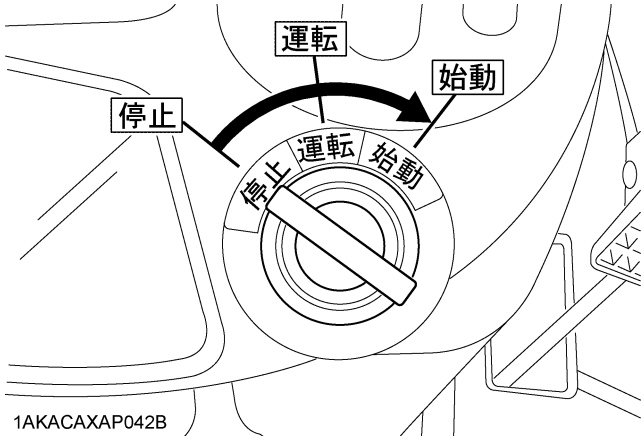




4. エンジンを始動します。







補　足

＊ メインスイッチを**［始動］**位置にしたときセルモータは回転するが，エンジンが始動しない場合は，下記項目を点検し処置を行なってください。
- 燃料タンクに燃料（ガソリン）が入っているか。
- 燃料ソレノイドのヒューズ（5A）が切れていないか。
- 上記項目に異常がないときは,購入先に連絡してください。

＊ 暖機運転をじゅうぶん行なわないで，機械を発進したときに，エンジンが停止することがあります。

＊ キースイッチを**[始動]**位置に回して５秒たっても始動しないときは，いったんキースイッチを**［停止］**位置にして，30 秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。５秒以上の使用は故障の原因になります。

＊ エンジン回転中に，キースイッチを**［始動］**位置に回すと故障の原因になります。

エンジン始動後，エンジンの調子を確認しながらゆっくりとチョークレバーを押込んだあと，約５分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重　要

＊ オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，運転部分の焼付きや破損などの故障の原因になります。

◆ バッテリが上がったときの始動のしかた

危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

バッテリ上がりによりエンジンが始動できなくなったときは，バッテリの補充電又は，交換を行なってください。
（**メンテナンスのバッテリの点検・交換**の項参照）
補充電や交換がすぐに行なえないときは，救援車のバッテリにブースタケーブルを接続して始動してください。

重　要

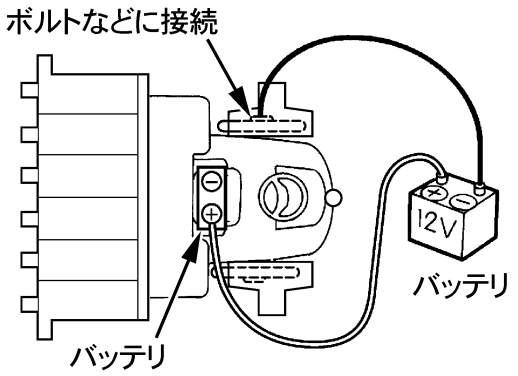
＊ 接続するバッテリは，必ず 12V のものを利用してください。故障の原因となります。

補　足

＊ ブースタケーブルの取扱いは，ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

1. ブースタケーブル（赤）を田植機側と救援車側のバッテリの**（＋）端子**にそれぞれ接続したあと，ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの**（－）端子**に接続し，田植機側は金属部で塗装がされていないところ（前・後輪の取付ボルトなど）に接続します。

- 座席を前にたおしてください。
- バッテリカバーを外してください。



1AKACAYAP083A

2. 利用するバッテリが車などの場合は，エンジン回転を上げます。

3. 田植機のエンジンを始動します。
4. ブースタケーブルを取付の逆の手順で取外します。

■停止のしかた

1. アクセルレバーを戻して**【🚗】**位置にします。
2. 主変速レバーおよび植付クラッチレバーが**【N】（中立）**位置にあることを確認します。
3. キースイッチを**【停止】**位置にしてエンジンを停止します。

重　要

＊ エンジン停止中でキースイッチが**【運転】**位置の状態のまま長時間放置すると**バッテリ上りの原因**となります。

移動走行について

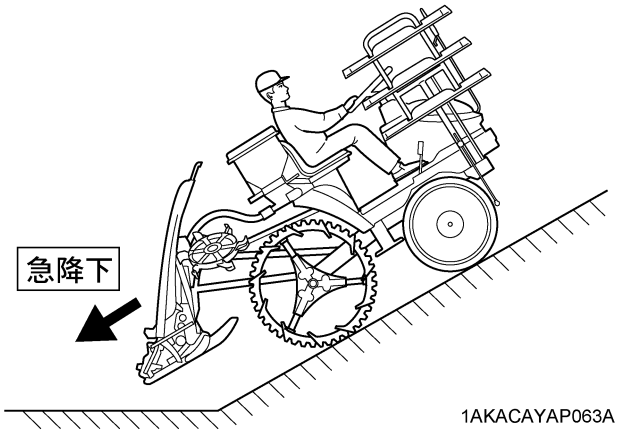
この田植機は，道路運送車両法の保安基準に適合していませんので，法令により公道は走行できません。従って，公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

注　意

＊ 安全のためヘルメットを着用してください。
＊ 周りが暗いときは，ヘッドランプを点灯してください。
＊ 苗ステーは，後方に倒れないようにラックの取付部に取付けてください。
＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊ 機械には運転者以外は乗らないでください。また，苗のせ台及び予備苗のせ台の苗やホッパ内の肥料［F 仕様］は取出し，ステップなどには障害物となるような物は置かないでください。
＊ 植付部は上昇位置で油圧をロックし下降防止を行なってください。また，ラインマーカ・隣接マーカ・マスコットは収納状態にしてください。
＊ 暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので，あぜごえや傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは，下記事項に注意し，スライド式予備苗のせ台は中央（植付作業・移動走行位置）に倒してください。
- **走行速度を落とす。（ゆっくりと走行する。）**
- **主変速レバーで走行と停止を行なう。（ブレーキペダルは操作しない。）**
- **あぜや斜面に対して直角に走行する。**
- **あぜや斜面に対して上り方向は後進，下り方向は前進で走行し，前輪ペダルを踏込む。**
- **あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏込まない。**

＊ 下記のようなところを走行するときは，暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので注意してください。
- **両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩**
- **道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）**
- **路肩の弱い道路**
- **路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ**
- **左又は，右に 15 度以上傾斜しているところ**

＊ 機械から降りて走行するときは，下記事項に注意してください。
- **傾斜地では，副変速レバーを絶対に操作しないでください。副変速レバーを［N］（中立）位置にするとブレーキが効かずに，機械が自重で動き出し，急降下します。**



重　要

＊ 植付部を下降した状態で走行すると，フロートや作溝器，溝切板**［F 仕様］**が破損することがあります。

補　足

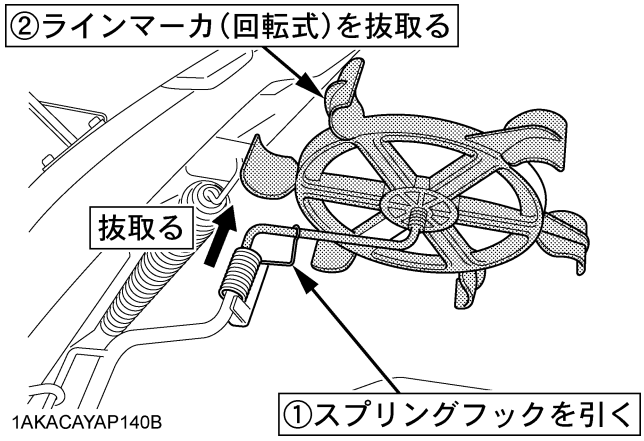
＊ 後進で斜面を上がるとき，後輪が浮上がるおそれがある場合は，植付部を少し下げ油圧をロックして上がってください。そのとき，バックアップ機能が作動し油圧のリリーフ音がしますが，故障ではありません。
上がり終わったら油圧ロックを解除し，植付部を最上昇位置まで上げてください。

■移動走行前の準備

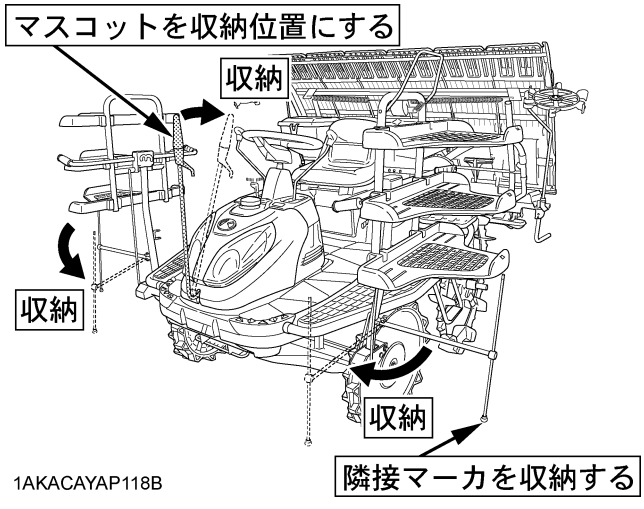
注　意

＊ 苗のせ台及び予備苗のせ台にある苗や苗すくい板は，すべて降してください。
＊ ホッパ内の肥料はすべて排出して空の状態にしてください。［F 仕様］
＊ ステップの回りに物は置かないでください。
＊ 水平で平たんな場所で行なってください。

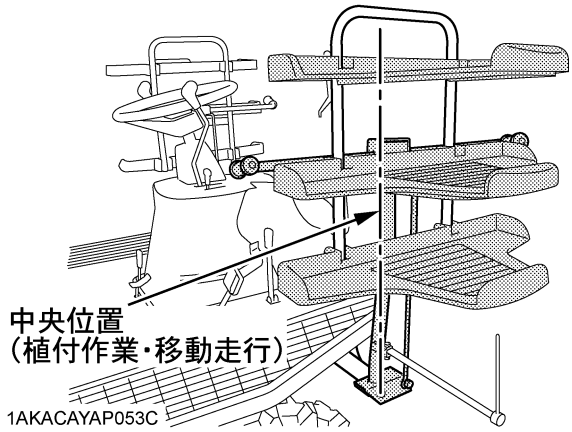
1. 平たんな場所に機体を止め，エンジンを停止します。
2. 左，右のラインマーカを収納し，フックに固定します。
3. スプリングのフックを引き，マーカをパイプロッドから抜取ります。



4. 左，右の隣接マーカを前方に収納します。
5. マスコットを**［収納］**位置にします。



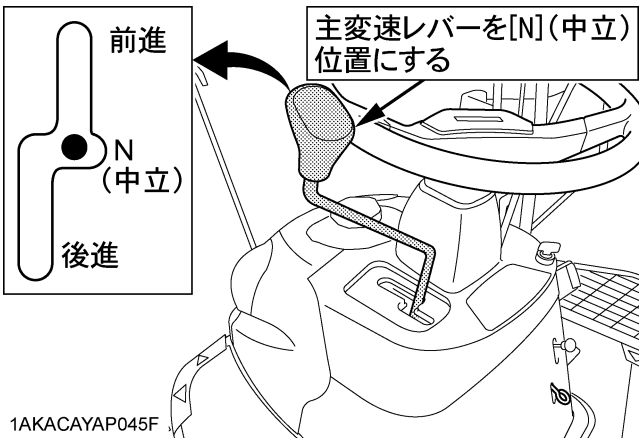
6. 左，右のスライド式予備苗のせ台をハンドルを握りロックを解除して，**中央位置（植付作業・移動走行）**にします。



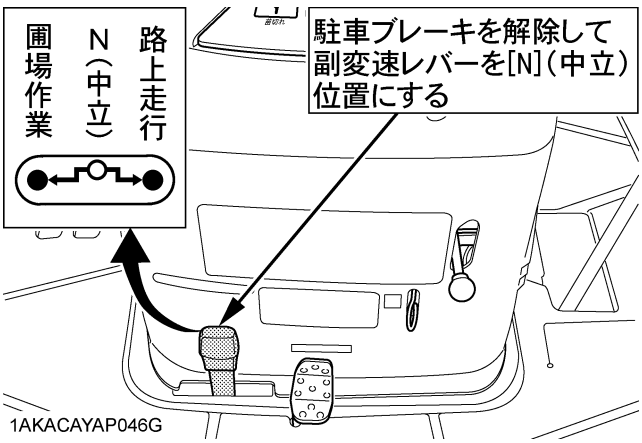
補　足

＊ 予備苗のせ台に苗がのっていない状態で後方に倒すときは，勢いよく後方に動くためにゆっくりと倒してください。

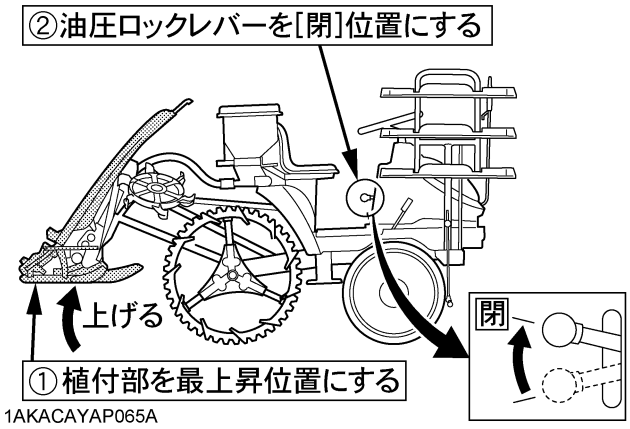
7. 主変速レバーを**［N］（中立）**位置にします。



8. 駐車ブレーキを解除して，副変速レバーを**［N］（中立）**位置にします。



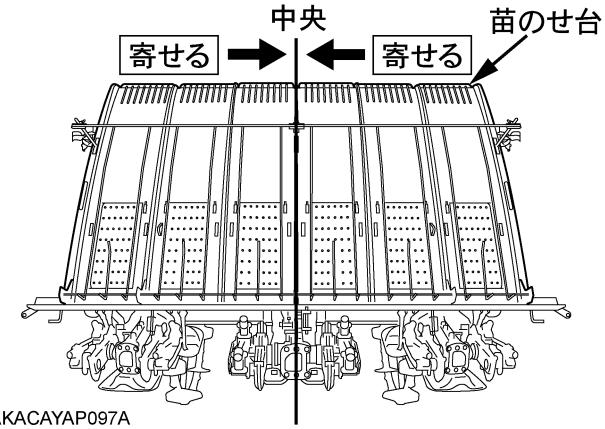
9. エンジン始動後，植付クラッチレバーを操作し，植付部を上げて**最上昇位置**にしたあと，油圧ロックレバーを**［閉］**位置にして植付部の下降防止をします。



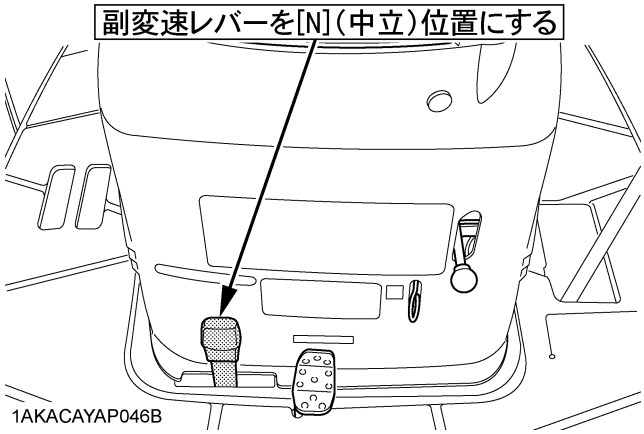
補　足

＊ 駐車ブレーキを掛けた状態又は，ブレーキペダルを踏み込んだ状態では，植付部は上昇しません。

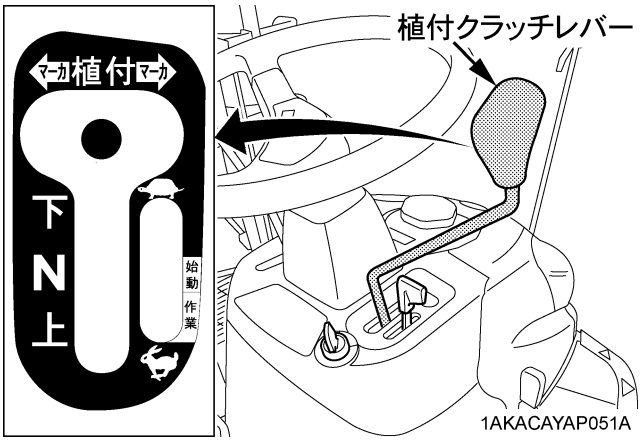
10. 苗のせ台を機体中央の位置に移動します。



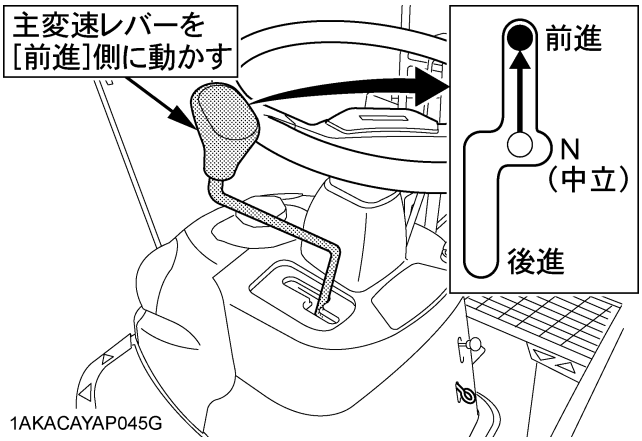
(1) 駐車ブレーキを解除して副変速レバーを**［N］（中立）**位置にします。



(2) 植付クラッチレバーを**［植付］**位置にします。



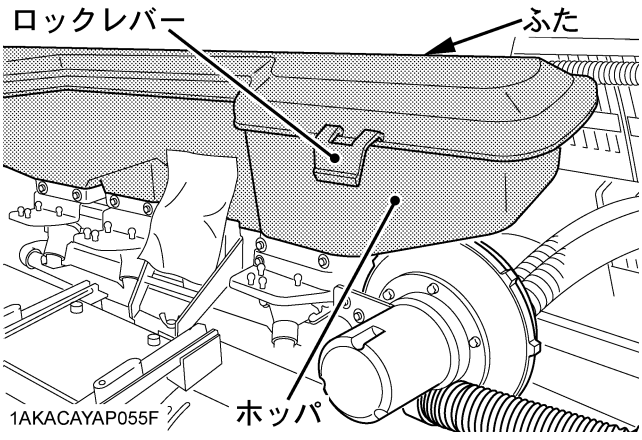
(3) 主変速レバーをゆっくり**［前進］**側に動かします。



(4) 後方の苗のせ台の動きを確認しながら**機体中央**の位置で植付クラッチレバーを**［N］（中立）**位置に戻します。

(5) 駐車ブレーキを掛けます。

11. ホッパのふたをロックレバーでロックします。**［F 仕様］**



■発進のしかた

注　意

- **＊ 始動操作は，運転席で必ず行なってください。**
- **＊ 周囲の人に合図をしてから始動してください。**
- **＊ 急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。**
- **＊ 坂道など傾斜地で発進するとき，副変速レバーを操作するときはブレーキペダルを必ず踏込んでください。機体が動き出して急降下するおそれがあります。**
- **＊ ブレーキペダルを踏込んだあと，再発進するときは主変速レバーを［N］（中立）位置にいったん戻してください。**

1. 運転席の調整をします。

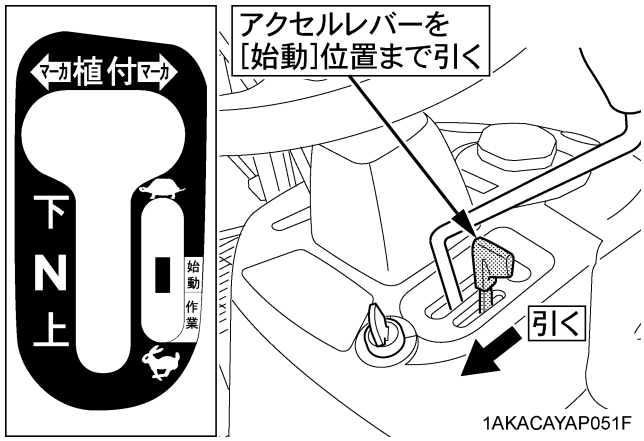
運転席下のスナップピンとロッドを抜いて調整します。(7 ページ参照)

2. エンジンを始動します。

(25 ページ参照)

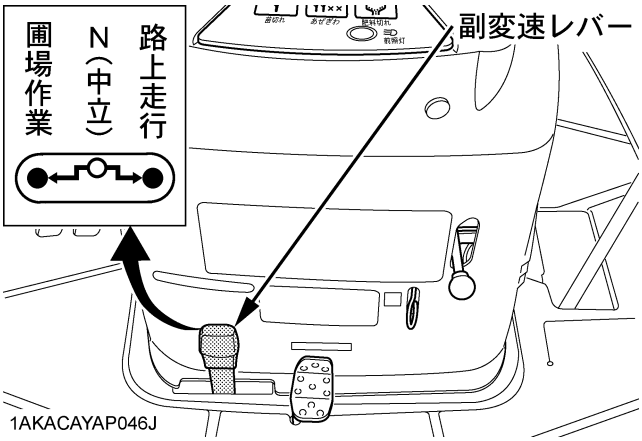
3. 植付部が最上昇位置にあることを確認してください。

4. アクセルレバーを操作します。

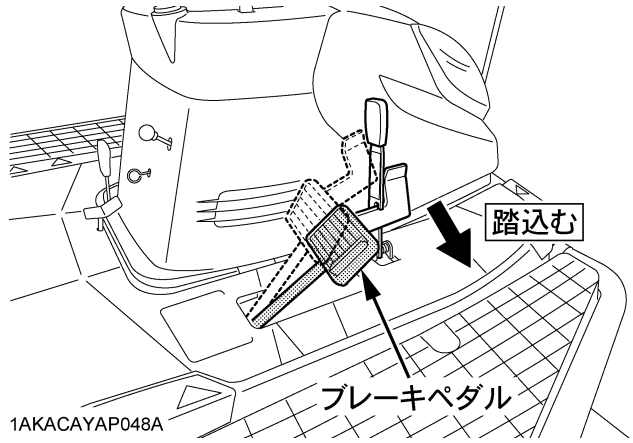


5.　走行速度を選んで発進します。

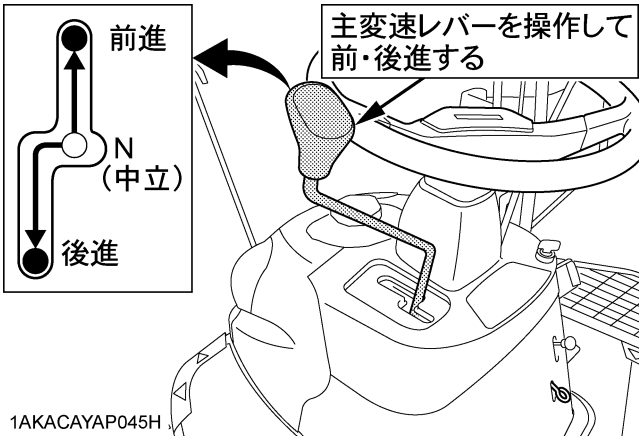
1. 副変速レバーで速度を選びます。



2. ブレーキペダルを離します。駐車ブレーキが掛かっているときは，ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除します。



3. 主変速レバーを**［N］（中立）**位置より前に押すと前進し，後に引くと後進します。



重　要

＊ 副変速レバーの切換えは，平たんな場所で主変速レバーを**［N］（中立）**位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

補　足

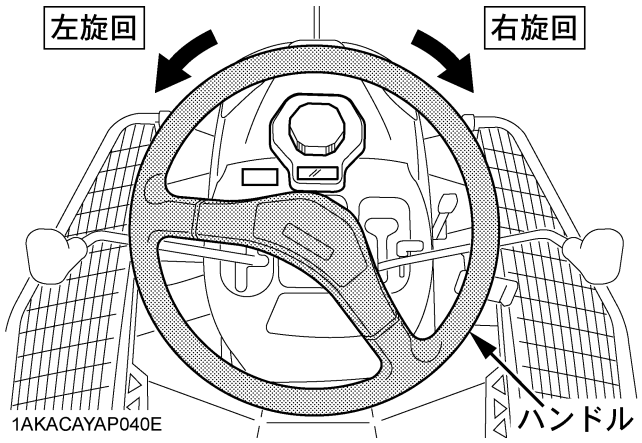
＊ 前進中にブレーキペダルを踏込むと，減速すると同時に主変速レバーが強制的に**前進２～３速**位置に戻ります。後進中にブレーキペダルを踏込むと，減速します。
また，ブレーキペダルを踏込んだ状態では主変速レバーの**前進３～５速**への操作はできません。

■旋回のしかた

注　意

＊ 高速走行時，ハンドルを急に操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にハンドルを回します。回す角度に応じて旋回力が変わり，回す角度が大きいほど旋回半径が小さくなります。



重　要

＊ 砂利道での急旋回は，タイヤが早く摩耗しますので避けてください。

■停車･駐車のしかた

注　意

＊ 田植機を離れるときは，平たんで安全な場所に置き，植付部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを止めてキーを抜いてください。
＊ 走行を停止するときは，ブレーキペダルを踏込まず主変速レバーを操作して停止してください。
＊ 坂道で駐車するときは，ブレーキペダルを踏込み，副変速レバーを［圃場作業］または［路上走行］位置にし，駐車ブレーキレバーを掛け，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

1. 主変速レバーを**［N］（中立）**位置にします。
2. 副変速レバーを**［圃場作業］**位置または，**［路上走行］**位置にします。
3. 停止するときはブレーキペダルを踏込み，駐車するときは駐車ブレーキを掛けます。
4. アクセルレバーを戻し，**［🚗］**位置にします。
5. エンジンを停止してキースイッチを抜きます。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注　意

＊ 積込み・積降しは平坦地を選び，トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。
＊ あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅（30cm 以上），長さ（高さの４倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，田植機の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

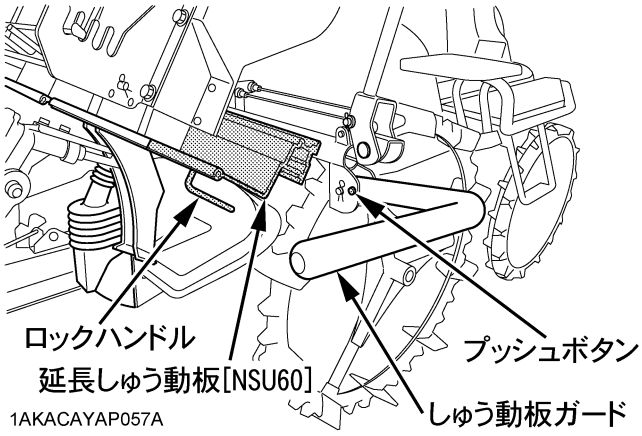
あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	30cm以上
数　量	２枚
強　度	１枚が500kg以上の重量に耐えうる

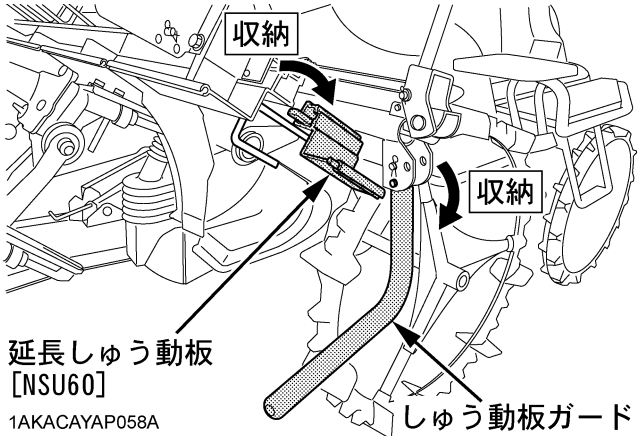
■田植機の準備

1. 苗のせ台及び予備苗のせ台の苗や苗すくい板はすべて降ろし，施肥機付きの場合は，肥料をすべて排出します。**[F 仕様]**
   そのあと，ラインマーカ・隣接マーカ・マスコット・予備苗のせ台を収納し，苗のせ台を機体の中央位置に移動したあと，油圧ロックして下降防止を行ないます。
   (29 ページの移動走行前の準備 1. ～ 11. を参照)
2. トラックのあおりに接触しないように，左，右の延長しゅう動板 **[NSU60]** 及びしゅう動板ガードを収納状態にします。
   (1) 延長しゅう動板 **[NSU60]** はロックハンドルを回してゆるめ，**[収納]** 位置に倒した状態でロックハンドルを軽く回してロックします。
   (2) しゅう動板ガードは，両側のプッシュボタンを押込み，**[収納]** 位置へ倒します。
   (3) 輸送時はしゅう動板ガードをスタンドとして使用しないでください。しゅう動板ガードが破損するおそれがあります。

● **作業状態**



● **収納状態**



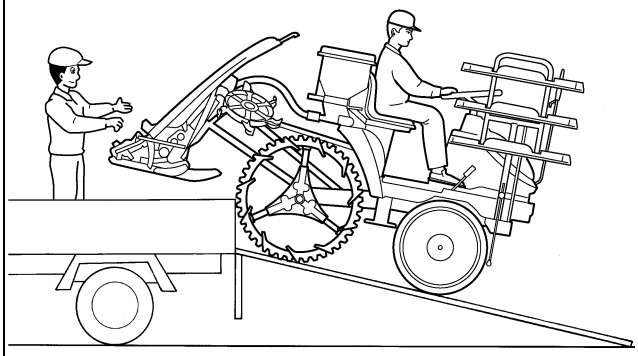
補　足

＊ トラックから降ろしたあと，田植作業を行なうときは，しゅう動板及びしゅう動板ガードを作業状態に戻してください。
＊ しゅう動板を作業状態に戻すときは泥をきれいにふき取って，しゅう動板に段差やすき間が出来ないように締付けてください。

■田植機の積込み･積降しのしかた

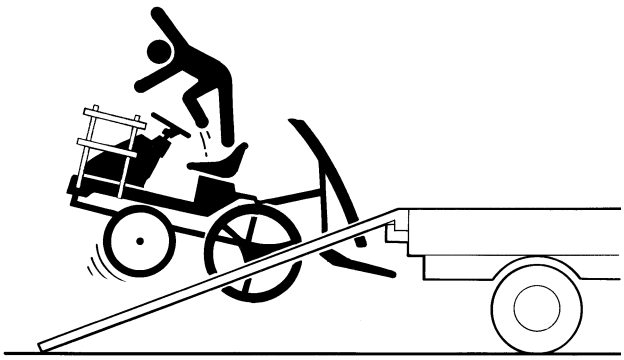
注　意

＊ 積込みは後進，積降しは前進で，エンジン回転を［始動］位置にして低速で走行してください。
＊ 共同作業者は，あゆみ板上を走行中の田植機からは離れてください。
＊ 平たん地を選び，できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なってください。また，田植機の周辺に人を近づけないでください。



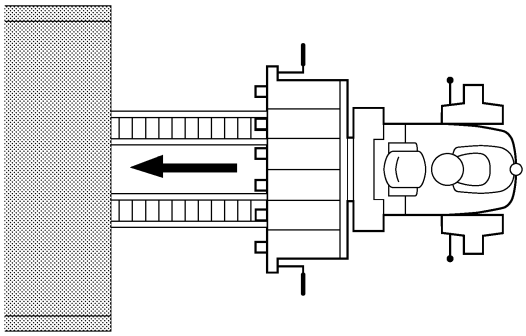
1AKACAYAP064A

＊ あゆみ板の途中で急なハンドルの操作や副変速レバーの操作をすると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。



1AKACAYAP020A

1. 副変速レバーを**［圃場作業］**位置にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速で走行します。
2. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左，右の前輪と後輪の中心を合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してから前輪ペダルを踏込み，斜面に対して直角に積込み・積降しをしてください。



1AKACAYAP087A

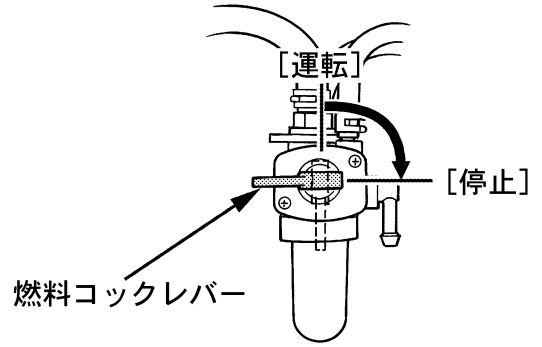
3. 荷台に乗り終わると駐車ブレーキを掛けて，走行を停止します。

■トラック上での処置

注　意

＊ 駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

1. エンジンを停止します。
2. 副変速レバーを**【圃場作業】**位置にします。
3. 燃料コックを閉じ（**【停止】**位置）ます。

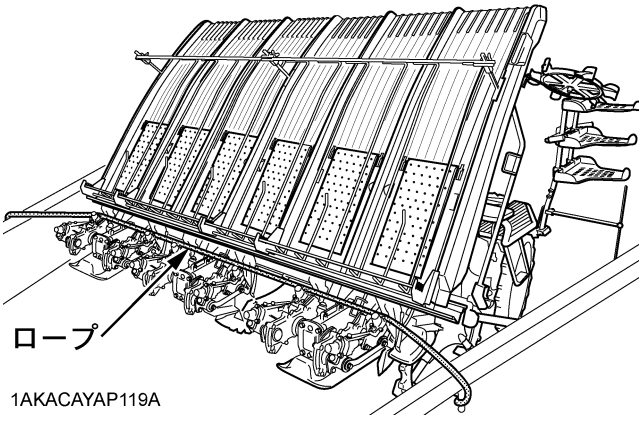


1AKACAIAP128A

補　足

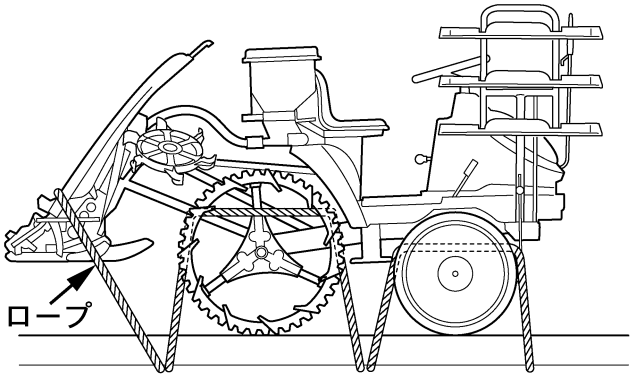
＊ トラック輸送時に燃料もれの原因になります。

4. 植付部を最上昇位置にし，油圧ロックレバーを**【閉】**位置にして，植付部の下降防止を行なって植付部がバウンドしないように，軽くロープ掛けします。



1AKACAYAP119A

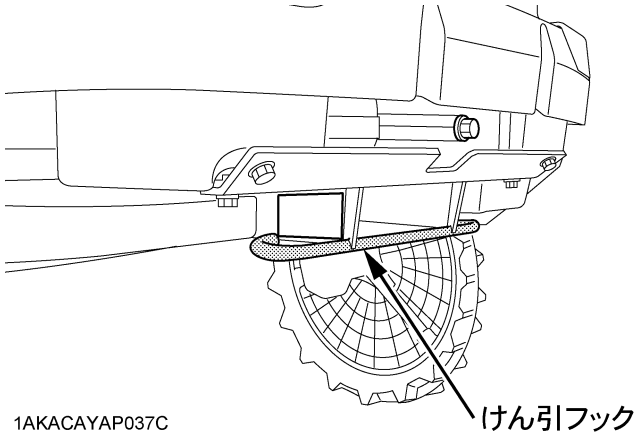
5. 車輪にロープを掛けて固定します。



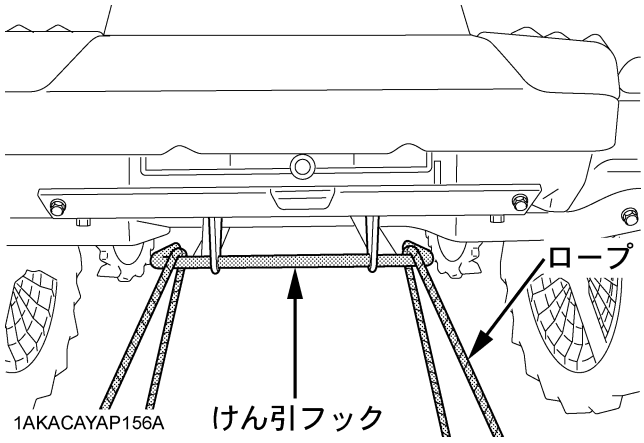
1AKACAYAP060A

重　要

＊ 機体前部にロープを掛けるときは，けん引フックに必ず掛けてください。また，予備苗ステーにはロープを絶対に掛けないでください。予備苗ステーが破損します。

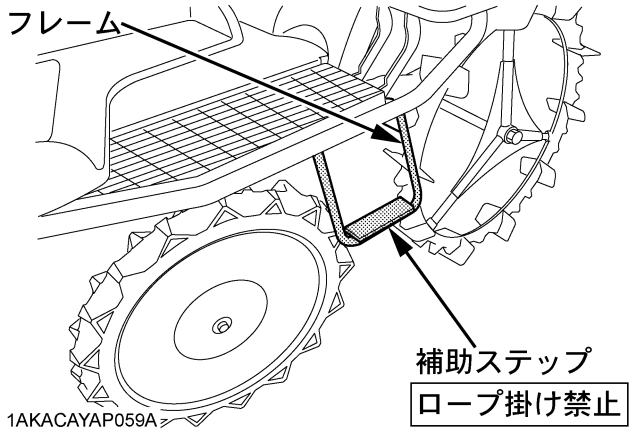


1AKACAYAP037C



1AKACAYAP156A

* しゅう動板ガードにはロープを絶対に掛けないでください。しゅう動板ガードが破損します。
* 左右補助ステップのフレームにはロープを絶対に掛けないでください。左右補助ステップのフレームが破損します。



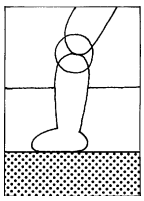
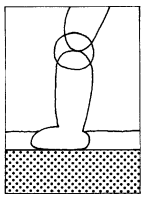
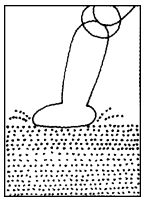
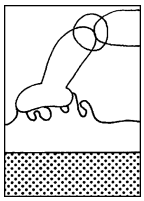
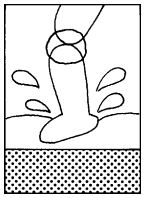
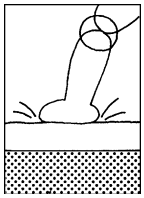
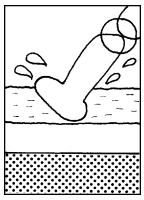
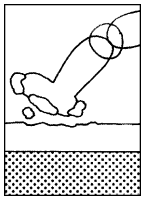
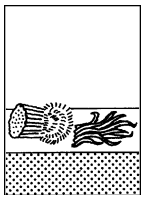
田植作業のしかた

ほ場と苗の条件

ほ場の条件，苗の条件が良くなければ植付作業が行なえないことがあります。
次のような条件が予想される場合は事前に販売店，又はJA（農協）にご相談ください。

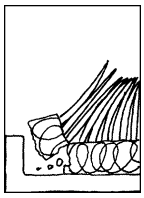
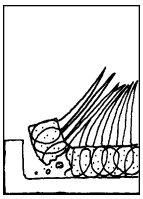
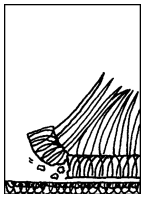
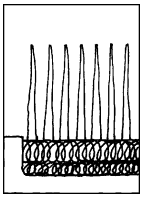
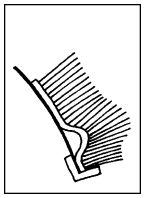
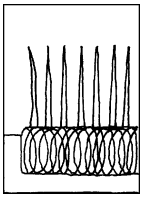
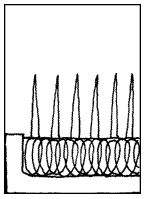
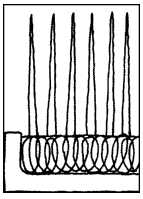
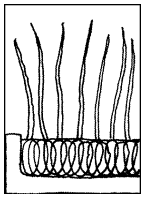
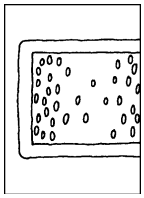
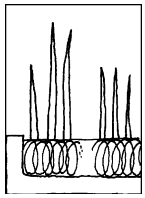
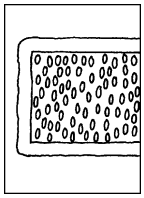
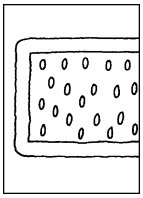
■ほ場条件

ほ場づくりは，作物の種類・植付時期・土地条件（気候や風土）などの条件によって異なりますので，最寄りの指導機関（JA［農協］や普及センタなど）や経験者に相談して，作物に適したほ場づくりをしてください。

項　目	条　件（うまく使えないこともある状況）	
深　さ	 ①耕盤までの深さが30cm以上ある深いほ場。	 ②耕盤までの深さが10cm以下の浅いほ場。
土　質	 ①砂質の多いほ場（手植えでも植えにくいほどの硬いほ場）。	 ②強粘土質のほ場（歩くのが困難な粘いほ場）。
硬　さ	 ①代かき直後のほ場，又は代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場（歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場）。	 ②代かき後，日数がたって硬くなったほ場，又は代かき後すぐに固まるほ場（手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場）。
水　深	 ①水深の平均が3 cmを越える水の多いほ場。	 ②水気がなく，車輪に泥がまつわりつくようなほ場。
夾雑物	 ①裏作跡などで，刈り株・排わら又は雑草がじゅうぶん腐らず，代かき後も表面に多量に露出しているほ場。	

■苗条件

苗づくりは，各地の指導指針や最寄りの指導機関（JA［農協］や普及センタなど）の指導を仰いだり，経験者に相談して，良い苗（健苗）づくりを行なってください。

項　目	条　件（うまく使えないこともある状況）		
苗　床	 ①砂質が多く，苗床が崩れやすい苗。	 ②根張りが悪く，苗床が崩れやすい苗。	
	 ③根張りはよいが，根を切ったために苗床が崩れやすい苗。	 ④根の張り過ぎた，植付爪のささりにくい苗。	
	 ⑤苗床厚（マット厚）が２ cm 以下の，薄い苗。	 ⑥苗床厚（マット厚）が４ cm 以上の，厚い苗。	
草　丈	 ①草丈が８ cm 以下の，短い苗。	 ②草丈が 20cm 以上の，長い苗。	
素　質	 ①軟弱徒長苗。	 ②播種ムラのひどい苗。	 ③成育ムラや成育不良のある苗。
播種量	 ①催芽もみで，１箱当り 250g 以上の，厚播きの苗。	 ②催芽もみで，１箱当り 100g 以下の，薄播きの苗。	

田植機の準備

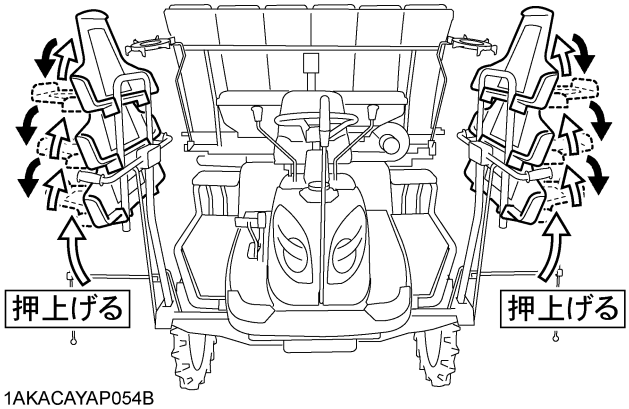
警　告

＊ 平坦な場所に置き，エンジンは必ず止めてください。
＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

■作業前の準備

1. 予備苗のせ台のセット

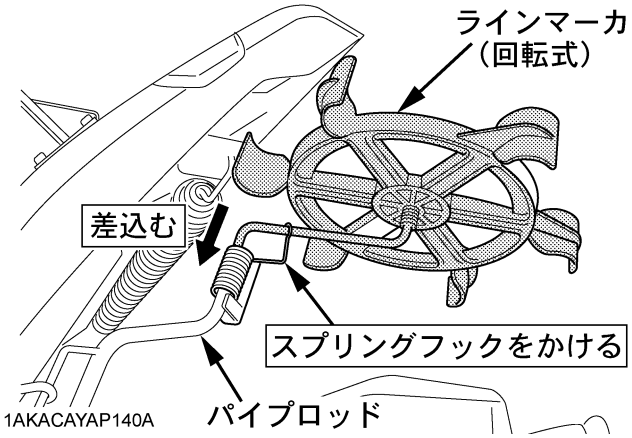
予備苗のせ台をいったん押上げて，取付穴からフック部を外して作業状態にします。



1AKACAYAP054B

2. ラインマーカのセット

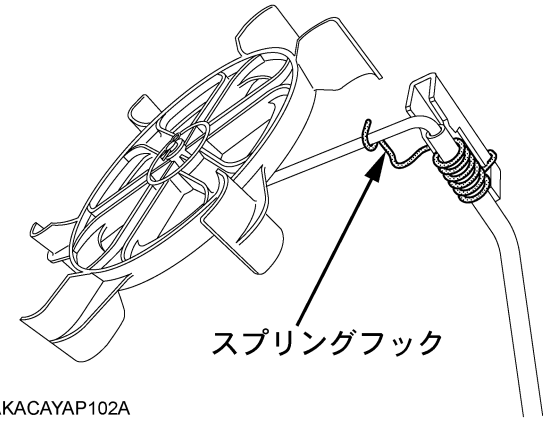
ラインマーカ（回転式）をスプリングフックを引きながらパイプロッドに差込みます。



1AKACAYAP140A

補　足

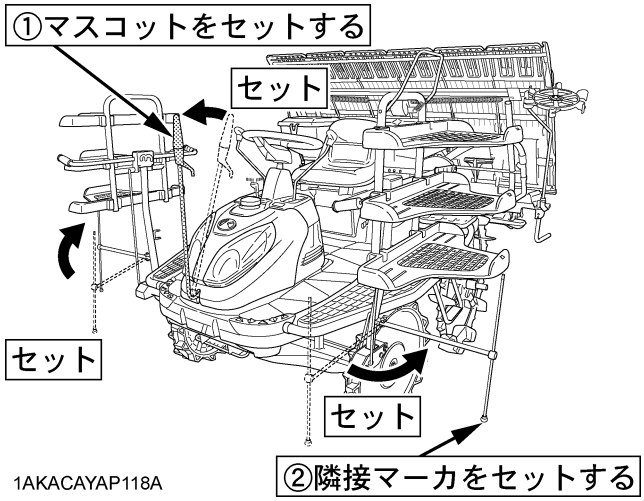
＊ マーカをパイプロッドに差込んだあと，スプリングフックを左，右ともにロッドに引っかけてください。



1AKACAYAP102A

3. 隣接マーカとマスコットのセット

隣接マーカとマスコットを作業状態にセットします。



1AKACAYAP118A

4. 延長しゅう動板［NSU60］としゅう動板ガードのセット

収納状態になっている場合は，作業状態にします。（34 ページ参照）

5. 各レバーのセット

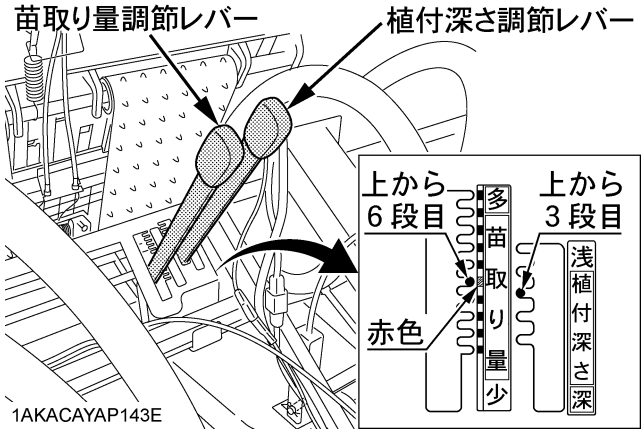
各レバーの設定を行ないます。

補　足

＊ 下記各レバーの設定位置は目安です。

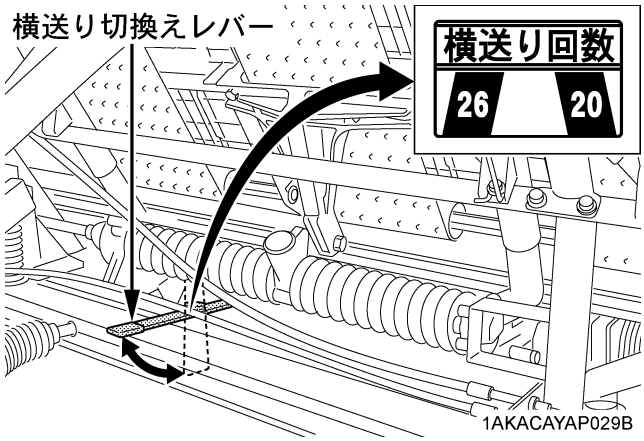
● 植付深さ調節レバー，苗取り量調節レバー

植付深さ調節レバーを上（**[浅]** い）から **3 段目**の切欠位置にし，苗取り量調節レバーを上（**[多]** い）から **6 段目**（ラベルの**赤印**）の切欠位置にします。



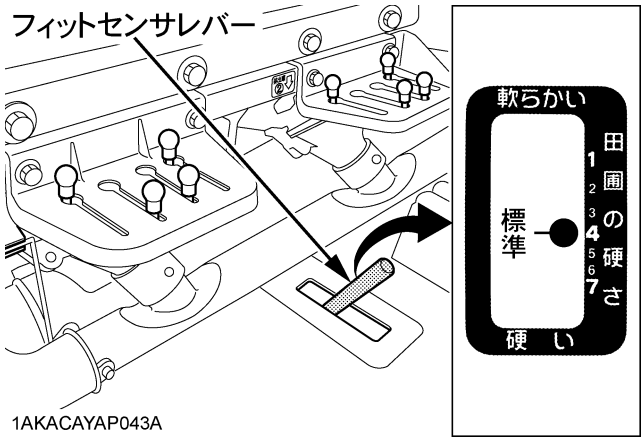
● 横送り切換えレバー

苗の状態により横送り切換えレバーを動かして横送り回数（20 回〔中苗〕・26 回〔稚苗〕）を選択し設定します。



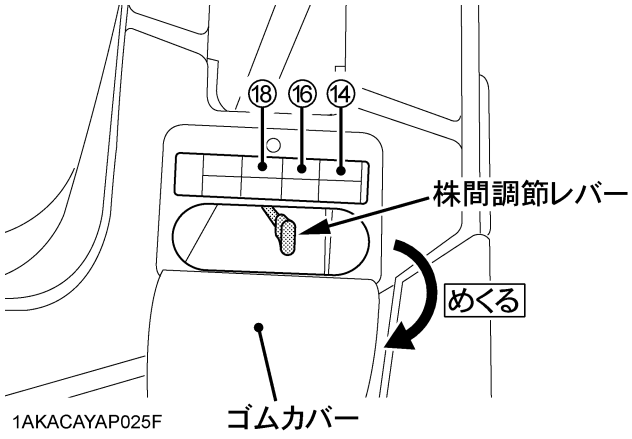
● フィットセンサレバー

フィットセンサレバーを **[4]** の位置にします。



● 株間調節レバー

ステップ右側にあるゴムカバーをめくり，株間調節レバーを動かして，**14，16，18 cm**のいずれかの位置を選択し，株間を設定します。
（カチッと音がする位置まできっちりレバーを移動させてください。）



補　足

＊ レバー位置を切換えるときは，副変速レバー **[N]（中立）** 位置にしてください。

植付作業のしかた

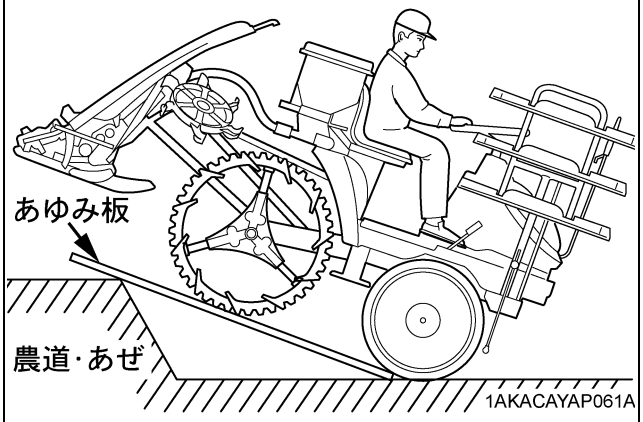
注　意

＊ 夜間作業は行なわないでください。思わぬ事故を起こすおそれがあります。
＊ 後進する場合，後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないようにじゅうぶん注意してください。
＊ 機体への乗り降りや機体の上で作業を行なうとき（苗や肥料の補給時など），主変速レバーに体の一部が接触すると，機体が発進するおそれがありますので，必ず駐車ブレーキを掛けてください。

■ほ場の出入りのしかた

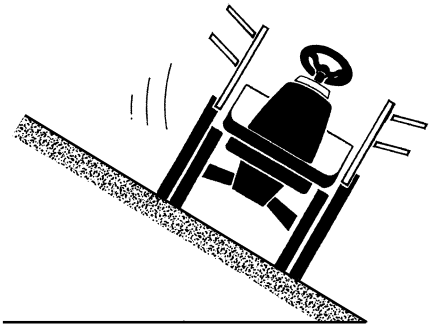
注　意

＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。

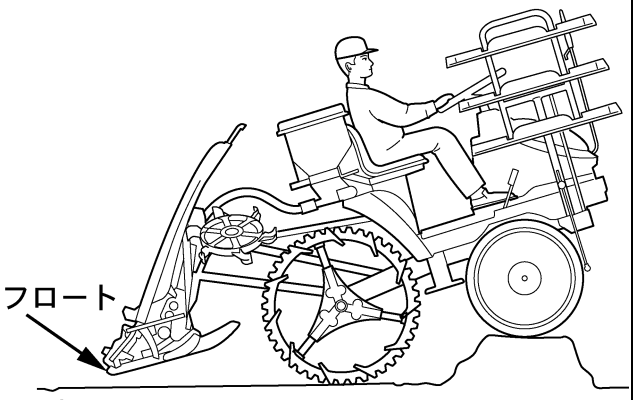


1AKACAYAP061A

＊ 暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので，あぜごえや傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは，下記事項に注意してください。
＊ 走行速度を落とす。（ゆっくりと走行する。）
＊ 主変速レバーで走行と停止を行なう。
＊ あぜや斜面に対して直角に走行する。
＊ あぜや斜面に対して上り方向は後進，下り方向は前進で走行し，前輪ペダルを踏込む。
＊ あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏込まない。
＊ 機械が右又は，左に大きく傾くような場所では転倒するおそれがあるので，傾斜が大きいところでの走行はしないでください。
＊ 下記条件の場合は必ずあゆみ板を使用してください。
- **機械が傾くと滑り落ちるところ**
- **機械が右又は，左に大きく傾くところ**


1AKACAYAP019A

- **あぜなどの段差や傾斜の角度が大きいとき，植付部が最上昇位置でもフロートが地面に当たるところ**



1AKACAYAP062A

補　足

＊ 後進であぜを上がるとき，後輪が浮上がるおそれがある場合は，植付部を少し下げ油圧をロックして上がってください。そのとき，バックアップ機能が作動し油圧のリリーフ音がしますが，故障ではありません。
上がり終わったら油圧ロックを解除し，植付部を最上昇位置まで上げてください。

■植付作業の手順

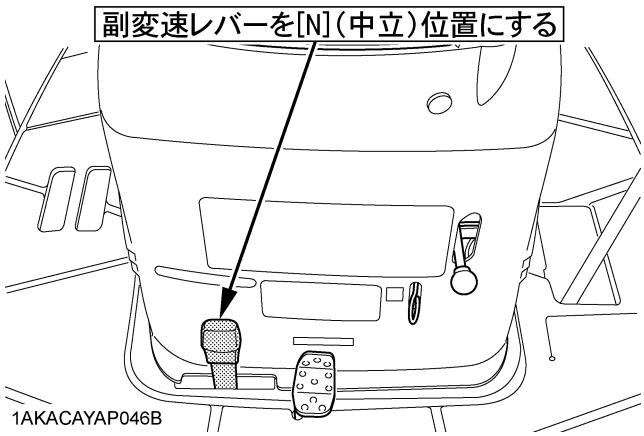
注　意

＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
＊ ほ場の外で苗のせ台を移動させているときは，機体が動かないように水平で平たんな場所で必ず行なってください。

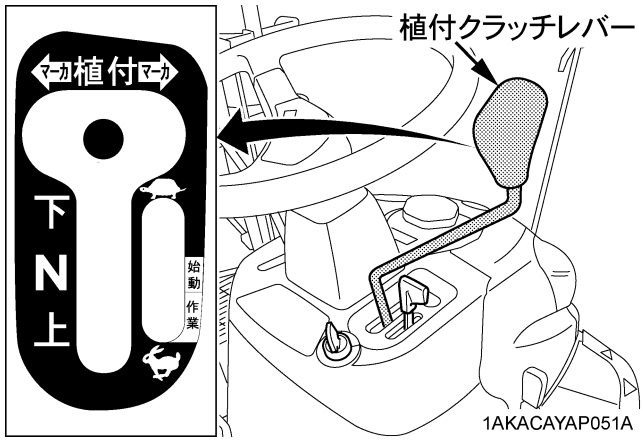
重　要

＊ 副変速レバーを**［路上走行］**位置にして植付作業はしないでください。トラブルの原因になります。
＊ ブレーキペダルを踏み込んだ状態にしておくと，油圧が作動しないため，植付部は上昇しません。

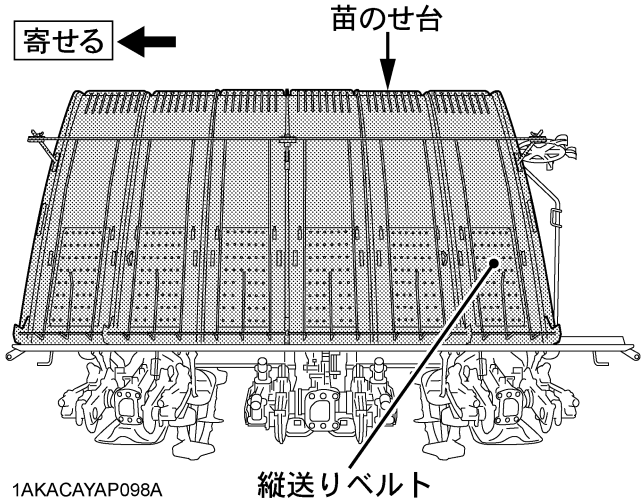
1. ほ場に入ったら平たんな場所で走行を停止します。
2. 植付クラッチレバーを**［上］（上昇）**位置にして植付部を上昇させたあと，油圧ロックレバーを**［閉］**位置にして下降防止をします。
3. 駐車ブレーキを掛けているときは解除して副変速レバーを**［N］（中立）**位置にします。



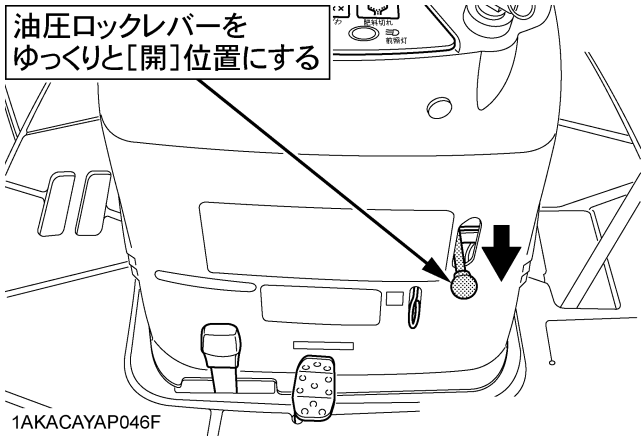
4. 植付クラッチレバーを**［植付］**位置にします。



5. 主変速レバーをゆっくりと**［前進］**側に操作して，植付部を駆動させ，苗のせ台が**右端**又は，**左端**まで移動してシンクロベルト（縦送りベルト）が作動した直後に，植付クラッチレバーを**［下］（下降）**位置にして植付部の駆動を停止します。



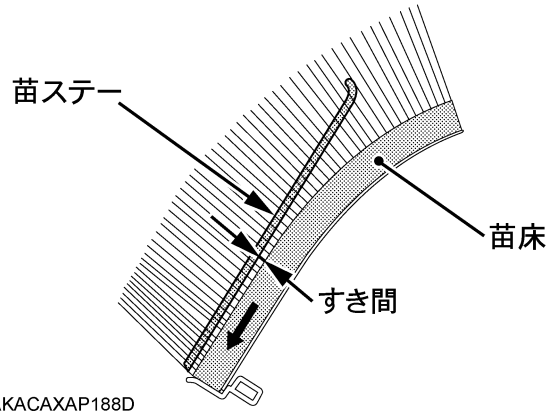
6. 油圧ロックレバーをゆっくりと**［開］**位置にして，植付部を降ろします。



7. エンジンを停止します。
8. 苗のせ台に苗をのせます。

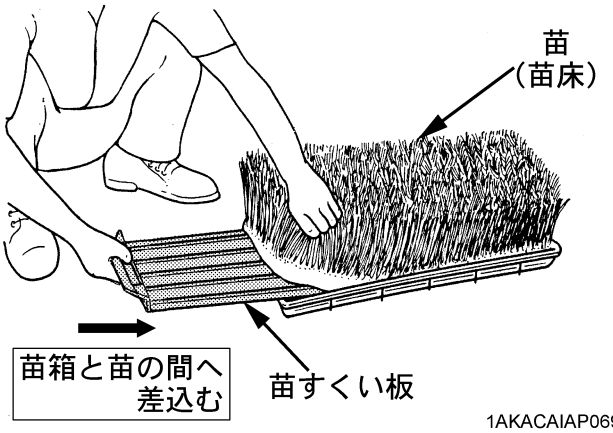
補　足

＊ 苗がくずれ落ちないように苗ステーとのすき間を確認してください。(67 ページ参照)



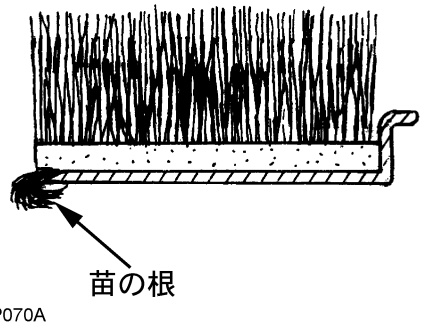
1AKACAXAP188D

＊ 苗箱から苗を取出すときは，苗床（苗マット）の端を持上げて，苗すくい板を苗床の下に差込み苗をすくい出してください。



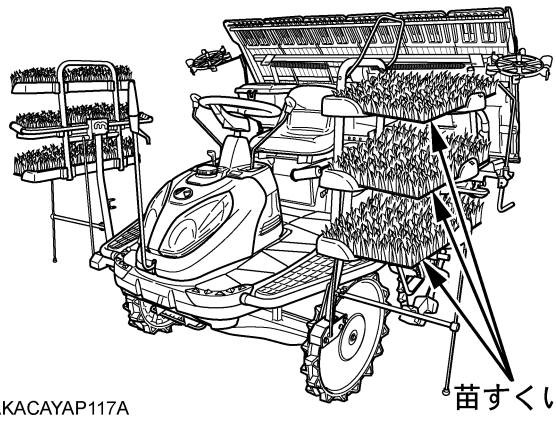
1AKACAIAP069A

＊ 苗すくい板の先端に苗の根がからみついて，固まりができることがあります。この根は必ず取除いてください。そのまま入れると，欠株の原因になります。



1AKACAIAP070A

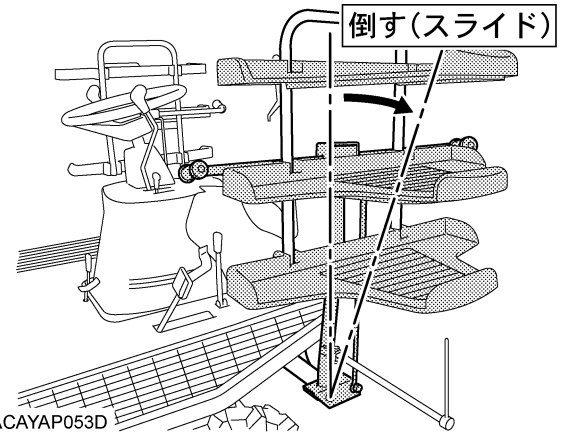
＊ 苗すくい板のニギリ部を機体の後方にし，予備苗のせ台へのせてください。



1AKACAYAP117A

＊ 予備苗のせ台には苗以外の物はのせないでください。

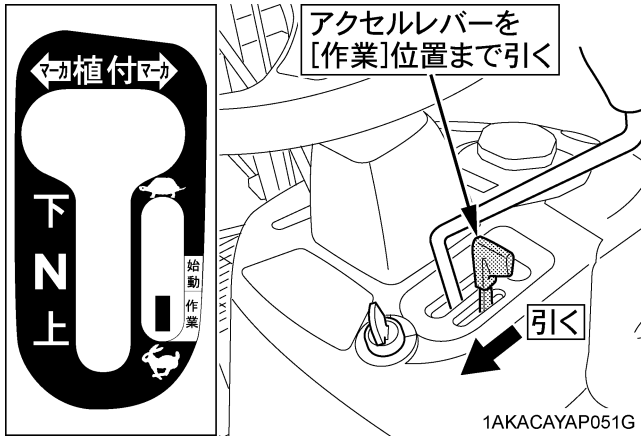
＊ 植付作業途中で，予備苗のせ台に苗補給を行なうときは，あぜなどの高さやほ場状態に合わせて，予備苗のせ台を前方に倒して（スライド）補給してください。



1AKACAYAP053D

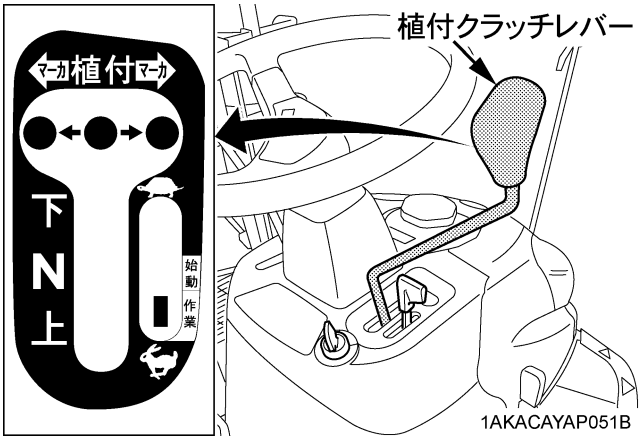
9. ホッパに肥料を入れます。**[F 仕様]** (53 ページ参照)

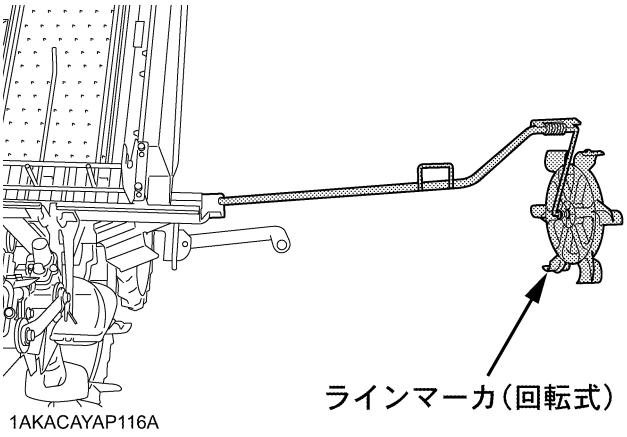
10. エンジンを始動したあと，アクセルレバーを操作して，エンジンの回転数を**[作業]**位置に調整します。



1AKACAYAP051G

11. 植付クラッチレバーを操作して植付部の駆動準備とラインマーカのセットを行ないます。セットするときは，植付クラッチレバーを**［植付］**位置にしたあと，次に植える条側へ**［右］**又は**［左］**位置にしてラインマーカを倒すと植付準備となります。





12. 副変速レバーを**［圃場作業］**位置にし，主変速レバーを**［前進］**側へ操作して試し植えを行ないます。
13. 5 m 前後植付けたあと，主変速レバーを**［N］（中立）**位置にして走行を停止し，植付後の確認をします。異常がなければ植付作業を行ないます。

補　足

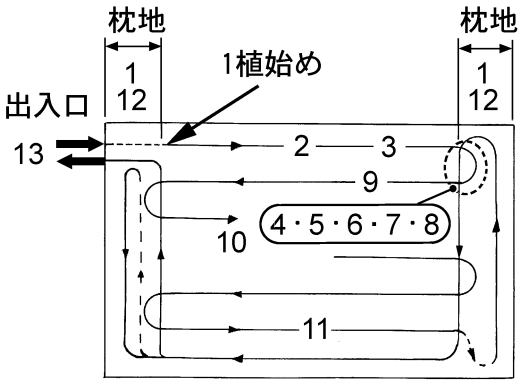
＊ 下記事項を確認し，異常があれば**作業に合わせた各部の調節・調整のしかた**の項を参照して調節や調整を行なってください。

1株本数（苗取り量）	……	苗取り量調節レバー，横送り切換えレバー
植付深さ	……	植付深さ調節レバー，フィットセンサレバー
植付株間	……	株間調節
植付姿勢	……	フィットセンサレバー，苗ステー
欠株	……	苗押さえ棒

■植付けかたと旋回のしかた

ほ場の大きさや形状によって植付方法は異なりますので作業を始める前に，植付手順を決めてから植付作業を行なってください。

◆［50］（５条植え）の場合



1AKACAIAP076A

補　足

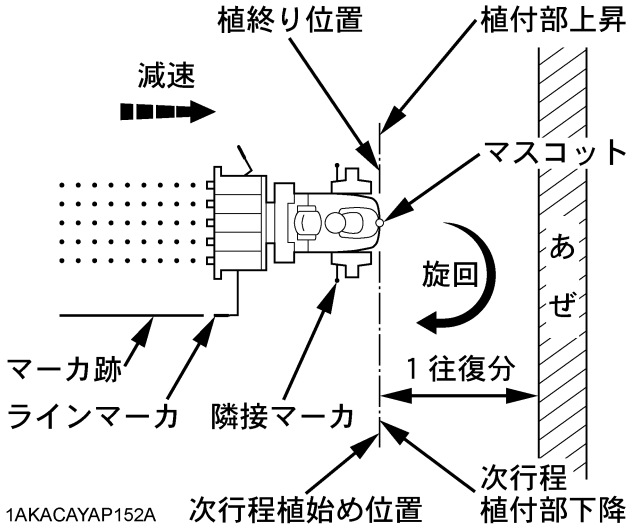
＊ 上図は，植付手順の一例です。また，上図内と下記の手順の番号1～11を合わせて説明しています。

1. 植始めは，１往復分残した位置から植付けます。また，反対方向の枕地も１往復分残します。

補　足

＊ １往復分の目安は3.0～3.3m(10～11条分)です。

2. ほ場の長辺方向に植付けます。
3. 枕地が近づくと，主変速レバーを操作して減速します。そのあと，植付クラッチレバーを操作して植付部を上昇させます。
4. 次に植える条側にハンドルを回して旋回します。



1AKACAYAP152A

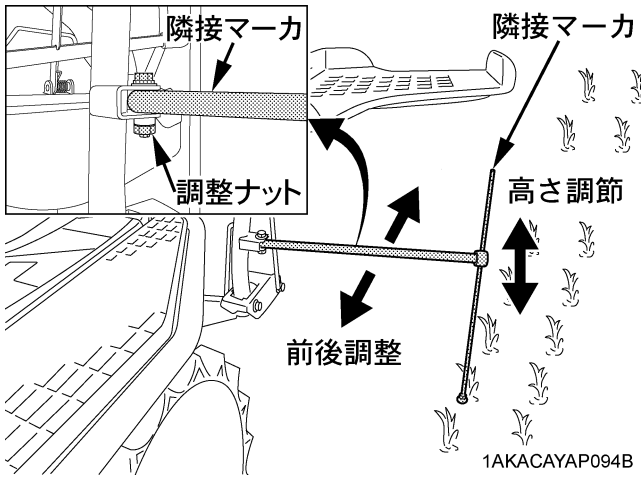
補　足

＊ 深田などで前輪がスリップするときは，前輪ペダルを踏込んでください。

5. 旋回するときにマスコットを目印にして，マーカ跡の線とマスコットの位置を合わせながら機体をまっすぐにします。

補　足

＊ マーカ跡の線が見えにくいときは，隣接マーカが，植え終わった隣の苗（隣接苗）の上になる位置に合わせてください。
＊ 隣接マーカは必要に応じて前後方向の角度及び上下方向の高さを調整してください。また，隣接マーカの作動力を調整ナットの締付け具合で調整してください。



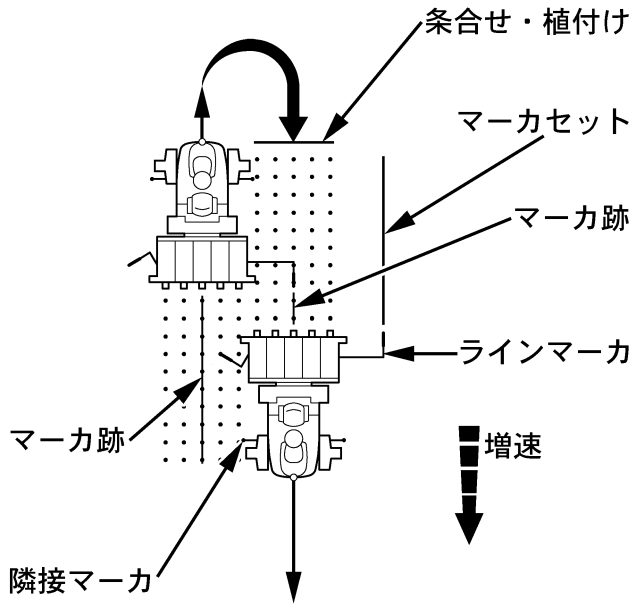
1AKACAYAP094B

6. 植付クラッチレバーを**［下］（下降）**位置にして植付部を下降させます。
7. 植付部が接地したことを確認したあと，ラインマーカを次行程植付側にセットします。

補　足

＊ 植付部が接地していないときに，植付部が駆動すると植付爪から苗が落下します。

8. 主変速レバーを操作して植付速度を上げます。



1AKACAYAP153A

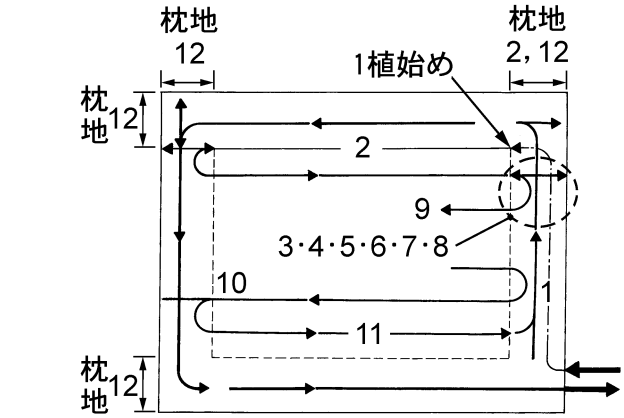
9. 次行程から同じ作業を繰返します。
10. 長辺方向の最終行程の前に条合わせが必要なときは，あぜぎわ植えを行ないます。

補　足

＊ 51 ページ参照

11. 枕地を植付けて出入口から出ます。

◆ [60]（６条植え）の場合

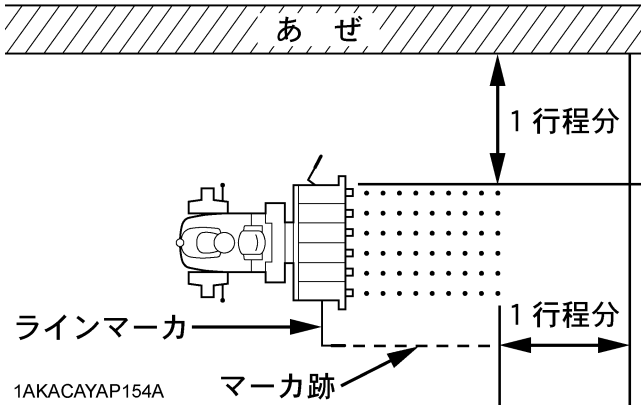


1AKACAIAP079A

補　足

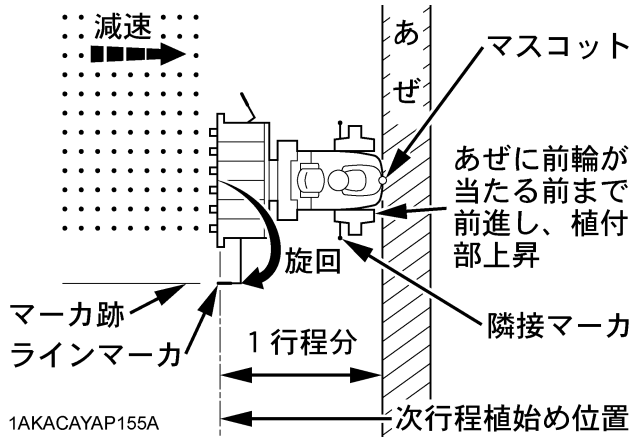
＊ 上図は，植付手順の一例です。また，上図内と下記手順の番号 1 ～ 12 を合わせて説明しています。

1. 植始めの位置まで植付けを行なわずに走行します。
2. 植付クラッチレバーを **[下]（下降）** 位置にして，植付部を下降させ，ラインマーカを左又は右にセットし，後方と右側を各 1 行程分残すように植付けます。



1AKACAYAP154A

3. あぜが前輪に当たる少し手前で減速し，主変速レバーを操作して停止します。そのあと，植付クラッチレバーを操作して植付部を上昇させます。



4. 旋回しやすい位置まで後退します。
5. 次に植える条側にハンドルを回して旋回します。

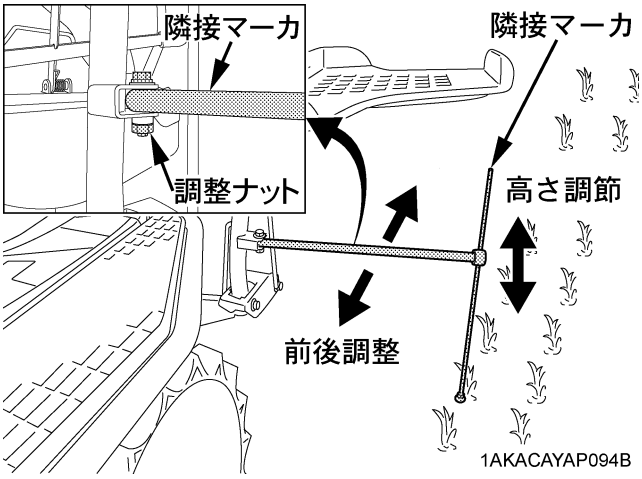
補　足

＊ あぜに前輪が当たる直前までいくと，１行程分のスペースが確保されます。
＊ あぜにボンネットが当たる場合は，あぜぎわ植えを行なってください。

6. 旋回するときにマスコットを目印にして，マーカ跡の線とマスコットの位置を合わせながら機体を真直ぐにします。

補　足

＊ マーカ跡の線が見えにくいときは，隣接マーカが，植え終わった隣の苗（隣接苗）の上になる位置に合わせてください。
＊ 隣接マーカは必要に応じて前後方向の角度及び上下方向の高さを調整してください。また，隣接マーカの作動力を調整ナットの締付け具合で調整してください。

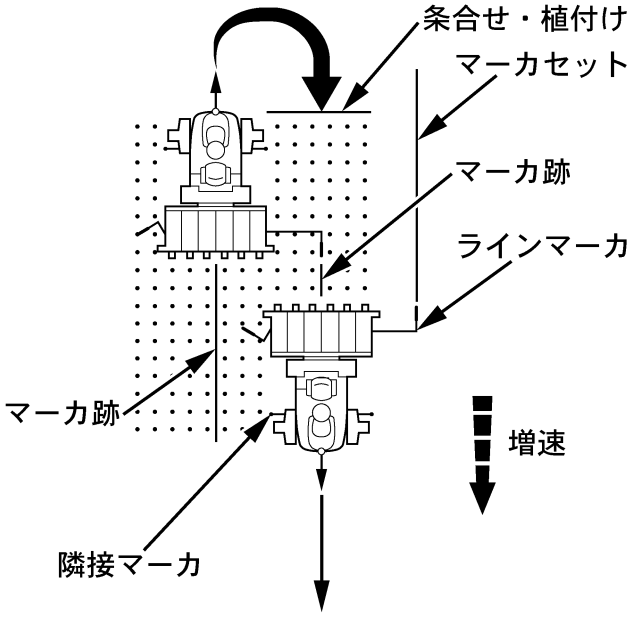


7. 植付クラッチレバーを**［下］（下降）**位置にして植付部を下降させます。
8. 植付部が接地したことを確認したあと，ラインマーカを次行程植付側にセットします。

補　足

＊ 植付部が接地していないときに，植付部が駆動すると植付爪から苗が落下します。

9. 主変速レバーを操作して植付速度を上げます。



10. 次行程から同じ作業を繰返します。
11. 長辺方向の最終行程の前に条合わせが必要なときは，あぜぎわ植えを行ないます。

補　足

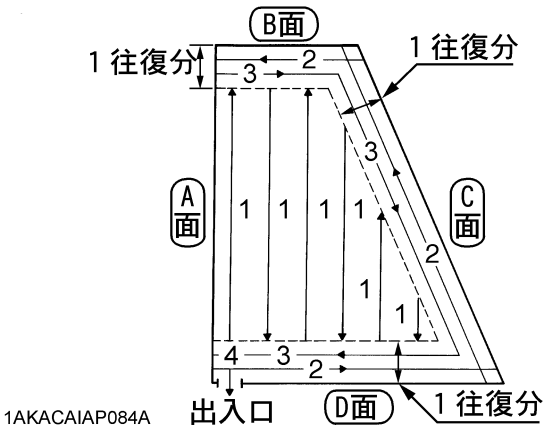
＊ 51 ページ参照

12. 枕地を１周植付けて出入口から出ます。

◆ 変形田の植付けかた［参考］

変形田を植付けるときの参考例です。

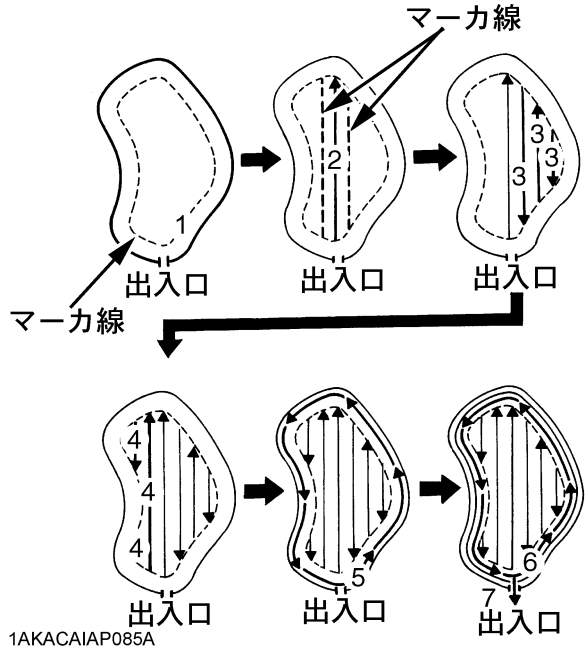
1. 台形田（A 面基準）



1AKACAIAP084A

1. B 面，C 面，D 面に各 1 往復分の枕地を残して A 面（長辺方向）に植付けます。
2. D 面，C 面，B 面の順にあぜ側から植付けます。
3. B 面，C 面，D 面の順に残ったところを植付けます。
4. 出入口から出ます。

2. 変形田



1AKACAIAP085A

1. あぜにそってマーカ線を引きます。（目安線）
2. 左，右共ラインマーカをセットして長辺部を植付けます。
3. 2. で植付けたところを基準に植付けます。
4. 反対面を植付けます。
5. あぜにそって 1 周を植付けます。
6. 5. の枕地残り分を植付けます。
7. 出入口から出ます。

◆ 安全クラッチについて

注　意

＊ 安全クラッチがはたらいたときは，植付作業を中止してエンジンを停止してください。

安全クラッチは，植付作業中の植付爪に石など硬い異物がはさまったときに，破損防止のためにはたらく機能です。植付部からガッガッと高い音がしたときは，作業をすみやかに中止し，エンジンを停止してから異物を取除いてください。

重　要

＊ 安全クラッチがはたらいている状態を続けると，植付爪や押出し金具が破損したり，安全クラッチの摩耗により安全クラッチがはたらきやすくなり，植付不良が起こりやすくなります。

補　足

＊ 安全クラッチがはたらいたとき，他の植付爪と位置ずれを起こすことがあります。位置ずれが起きたときは，植付部を上昇させたあと，油圧ロックレバーで下降防止を行ない，必ずエンジンを停止してから異物を取除き，位置ずれを起した植付爪を手で回して他の植付爪と位置をそろえてください。位置がそろうと手では回らなくなります。

＊ **異物を取除いたあとの処置**

異物を取除いたあと植付爪や押出し金具が破損や変形していないか確認し，異常があれば交換や修理を行なってください。（**メンテナンス**の項参照）また，植付爪を手で回したときにしゅう動板に当たったり，重い場合は購入先に連絡してください。

■苗の補給のしかた

注　意

＊ 主変速レバーに体の一部が接触すると，機体が発進するおそれがありますので，必ず駐車ブレーキを掛けてください。

苗が残り少なくなると苗のせ台のセンサがはたらいて，マスコットが点滅し，警報ブザーが鳴ります。

補　足

＊ 苗を補給する又は，植付クラッチレバーを**［N］（中立）**位置にすると，ブザーは停止します。

1. 主変速レバーを操作して走行を停止します。

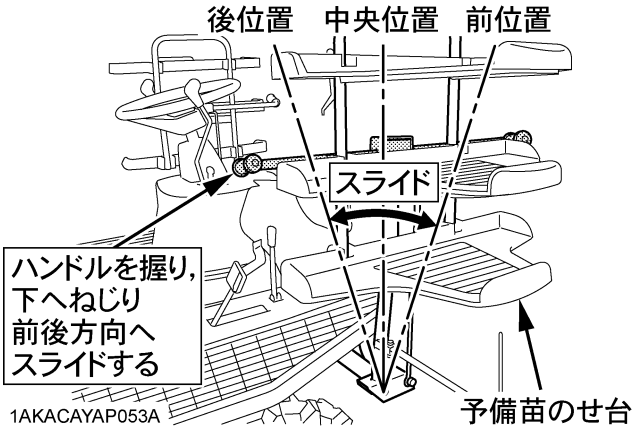
補　足

＊ マフラで苗をこがす場合がありますので，あぜぎわで苗のない場所に停止してください。

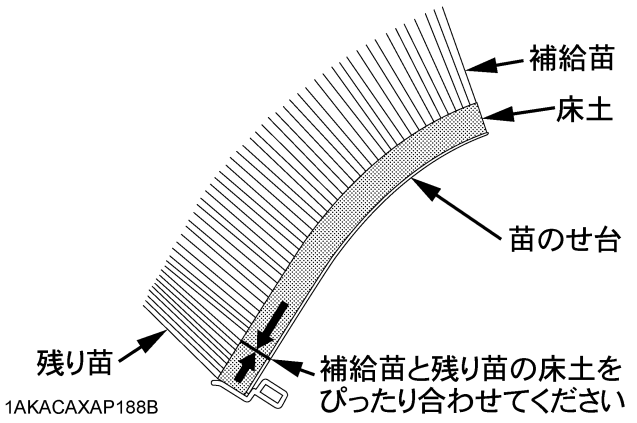
2. 植付クラッチレバーを**［上］（上昇）**位置にし，植付部を最上昇位置にします。
3. 駐車ブレーキを掛けます。
4. 必要に応じて予備苗のせ台をスライドして予備苗のせ台の苗や準備した苗を補給します。

補　足

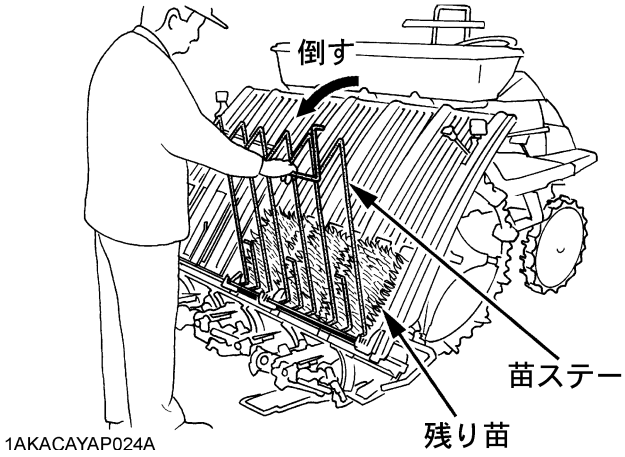
＊ 予備苗のせ台はロックするまでスライドしてください。



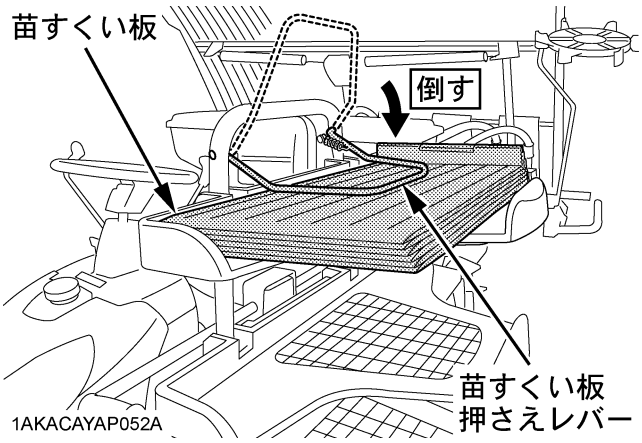
＊ 補給苗はていねいに扱い，補給苗と残り苗の床土にすき間のないようにぴったりと合わせてください。



＊ 残った苗を取出すときは，エンジンを必ず停止して，苗ステーを後方に倒してください。

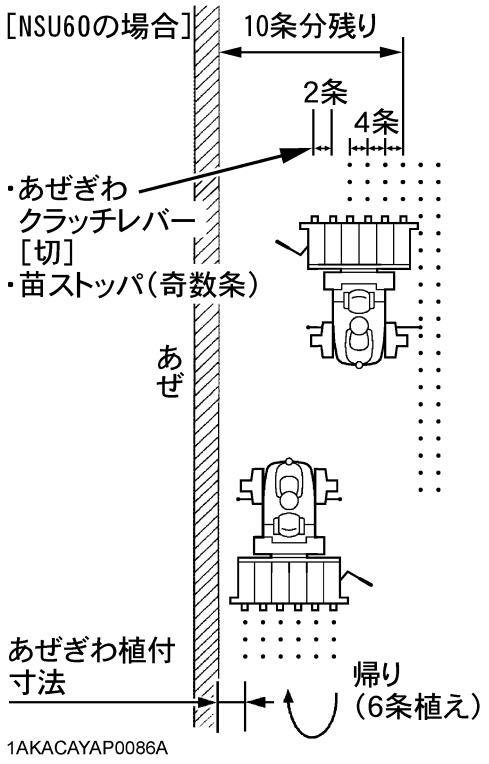


＊ 苗すくい板を収納するときは，予備苗のせ台の上段に置いたあと，苗すくい板押さえレバーを倒してください。



■あぜぎわの植付けかた

植付作業の最終段階で，最終の植付けを全条植えで終わらせるため，あぜぎわの調整の植付けを行なってください。



1. あぜぎわから 10 条分残ったとき，あぜぎわクラッチレバーで右側２条分の植付けを停止し，４条分植付けをします。

補　足

＊ 奇数条分の植付けを行なうときは，オプションの苗ストッパを使用してください。(126 ページ参照)

＊ オプションの苗ストッパを使用するときは，使用する条の肥料の繰出し**[F 仕様]**を停止してください。(68 ページ参照)

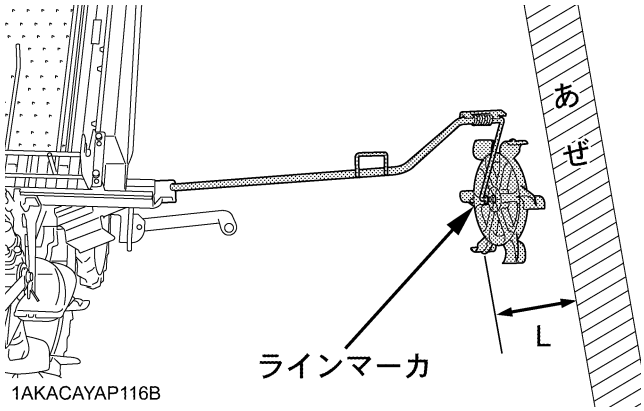
＊ あぜぎわクラッチレバーを操作するときは，植付クラッチレバーをいったん**[切]**位置にする又は，主変速レバーを操作して植付速度を**遅く**してから行なってください。

2. 最終はラインマーカを出さずに（収納状態）６条で植付けます。
3. ５条植えについても同じ要領で行なってください。
4. 植付作業が終わるとあぜぎわクラッチレバーを**[入]**位置にし，オプションの苗ストッパを使用している場合は，運転席下に収納します。

● 最終行程の前での植付条数の決めかた

マスコットと隣接マーカで条合わせを行なったあと，ラインマーカを出して植付条数を決めてください。

※あぜぎわ植付寸法が 30cm の場合の目安



(５条植えの場合)

L の距離	前行程 植付条数
約 90cm	５条植え
約 30cm	３条植え
ラインマーカを出さない	２条植え

(６条植えの場合)

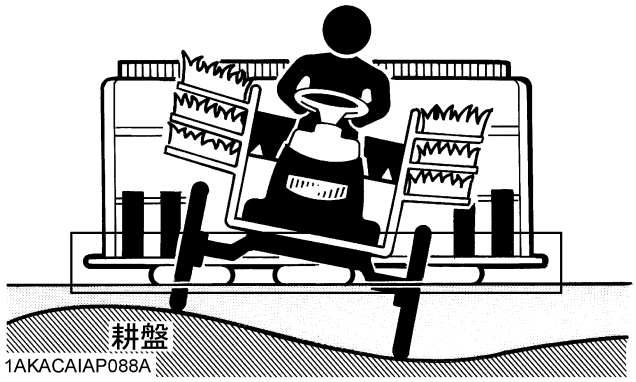
L の距離	前行程 植付条数
約 105cm	６条植え
約 45cm	４条植え
ラインマーカを出さない	２条植え

◆ モンロー調節ダイヤルについて

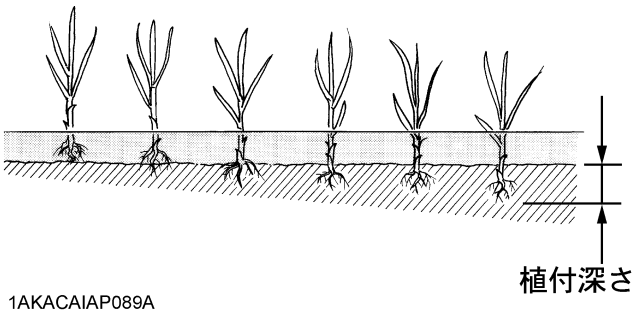
植付作業中に植付部が少し浮き気味になり，植付け状態が左右均等にならない場合は，モンロー調節ダイヤルで調節を行なってください。

補　足

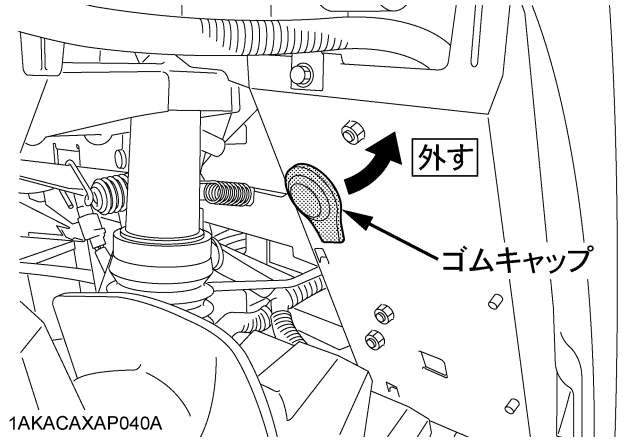
＊ 出荷時は**［中央］**（標準）の位置です。
＊ あぜぎわなどの傾斜地で，自動車体水平制御（モンロー）がはたらいて，植付け状態が左右均等にならない場合にも，調節ダイヤルで調節を行なってください。



［例］

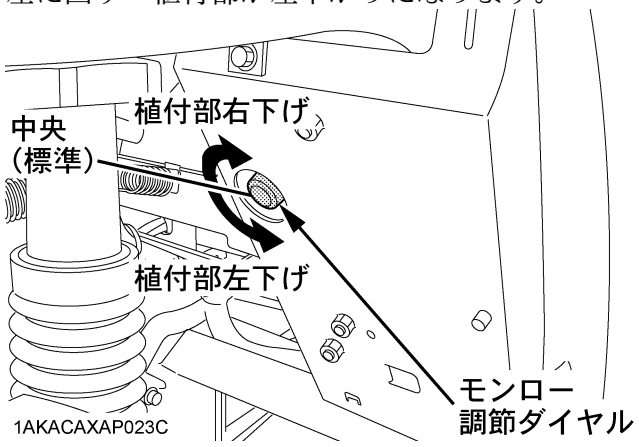


1. 運転席右下のフェンダー裏にある黒いゴムキャップを取外します。
2. モンロー調節ダイヤルを回して植付部の傾きを調節します。



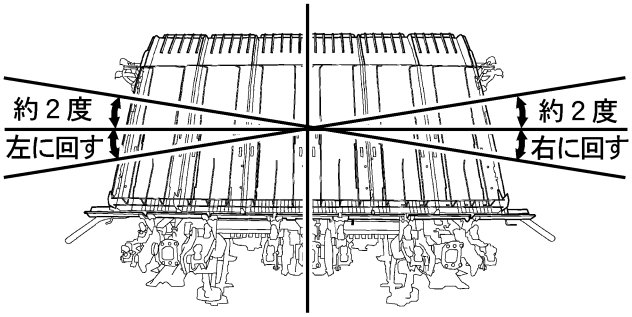
● 機体後方から見たとき

右に回す…植付部が右下がりになります。
左に回す…植付部が左下がりになります。



補　足

＊ ダイヤルは，左，右にそれぞれ最大約 150 度回ります。また，植付部は，左，右にそれぞれ最大約２度傾きます。



3. あぜぎわの植付作業が終わると，モンロー調節ダイヤルを**中央**（標準）に戻し，ゴムキャップを取付けます。

施肥作業のしかた［F 仕様］

■ほ場と肥料について

ほ場や肥料が施肥作業に適さなければ，苗の発育が正常に行なわないことがありますので，施肥機に合ったほ場条件や肥料を使用してください。

◆ ほ場条件

施肥作業を行なうとき，田植作業のほ場条件と合わせて下記事項を守ってください。

1. 夾雑物（わら，刈株，堆肥，雑草など）は施肥田植え時の障害になるので，耕うん・代かき時に下層部に埋込むようにしてください。

補　足

＊ 耕うん・代かき装置は購入先とご相談のうえ，夾雑物を下層に埋込む働きができる機種を選んで使用してください。
＊ 夾雑物が表層部（地表面～深さ 8 cm 程度の範囲）にあると，溝切板や作溝器に引っかかって，施肥ムラ（生育ムラ）をおこすおそれがあります。
＊ 収穫時コンバインのカッタで，わらを切断散布したときは，その上に石灰窒素を散布して秋のうちによくスキ込んで，腐らせておくようにしてください。

2. 耕うん・代かき時の化学肥料の基肥散布は，絶対にしないでください。

補　足

＊ 基肥を全層施肥と側条施肥に分施する農法を行なう場合には，その指定要領に従ってください。

3. ほ場の深さは，10 ～ 25cm が適しています。30cm 以上（補助車輪の場合は 35cm）の深さでは使用できません。

4. 代かき時の均平度をよくして，地表面からの水深が，なるべく一定になるようにしてください。
   代かき後，田面に凹凸がある場合は凸の部分が水面から露出していると土壌硬度が硬くなるので，じゅうぶん湛水して，地表面の凹凸にかかわらず土の硬さを一定に保つようにし，田植えの直前にじゅうぶん落水するようにしてください。

補　足

＊ 土壌の硬軟差が大きいとふく土性能に影響します。

5. 作業時の水の深さは，浅水とし 0.5 ～ 2 cm 程度が適当です。

   (1) 田面の水が皆無（水深 0 cm）の場合には作業が困難ですから必ず走り水をしてください。水が皆無の場合には下記のような現象が起こります。
   - 車輪スリップが増し，株間が狭くなります。
   - 作溝器に泥詰まりを生じ，肥料が詰まって 無施肥区ができ，生育ムラの原因となります。
   - 車輪による泥のかき上げやフロートの泥押しを生じます。

   (2) 田面の水が多すぎる（水深 2 cm 以上）場合には，作溝器内の上部やホース内に水が侵入し肥料の落下状態が悪くなり，所定の深さに埋設できなくなります。また肥料詰まりや肥料詰まり予知センサの誤作動も発生しやすくなります。

6. ほ場の土の硬さは泥を指でかいてみて跡が少しふさがれる程度が適当です。

   (1) ほ場の土壌硬度（125g のサゲフリを地表面上 1 m の高さから落下させて，地表面から土中に入った深さ）は 7 ～ 18cm の範囲内とします。

   (2) ほ場が軟かすぎるとフロートによる泥押しのため隣接条間の確保が困難になるばかりでなく，植付け姿勢も乱れます。

   (3) ほ場が硬すぎると車輪のスリップが増し，株間が狭くなるばかりでなく，作溝施肥跡のふく土が不完全となり，肥料溶出のおそれがあります。

補　足

＊ 特殊な条件のほ場（基盤整備直後の田や湿田など）では，作業に支障をきたすことがありますので，あらかじめ購入先の技術員にご相談ください。

◆ 肥料について

1. 肥料は市販の粒状肥料の中から施肥作業に適したものを選んでください。

重　要

＊ 施肥作業に適さない肥料を使用した場合は，下記のような不具合が発生することがあります。
- 肥料詰まりにより施肥機の故障が発生する。

- 繰出し精度が不良となり施肥量に誤差が生じる。
- 肥料詰まりや施肥ムラが生じる。

＊ 最近，側条施肥田植機専用肥料が市販されていますので，使用をお薦めしますが，中には適さない物も含まれていますので，注意してください。

※吸湿性について

吸湿性の少ない肥料を選んでください。

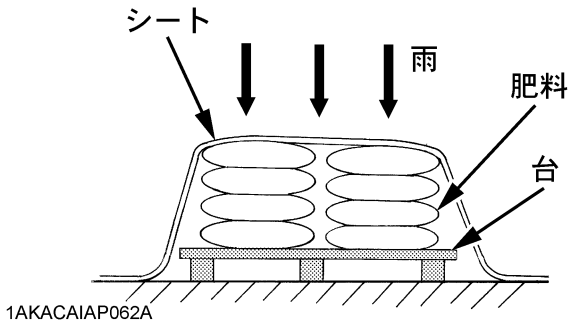
〔参考〕

吸湿性の少ない	吸湿性の多い
● 硫安系化成 ● 硫化燐安系高度化成 ● 塩化燐安系高度化成 ● IB 化成	● 尿素系高度普通化成 ● 硝安系高度普通化成 ● CDU 化成

2. 肥料は開封していない，新しい物を使用してください。
3. 湿気を帯びた肥料や長期保存していた肥料は，使用を避けてください。

補　足

＊ 雨天時，肥料や肥料袋がぬれないように台の上に肥料を置き，上からシートを掛けてください。



4. 光を通し易い透明な肥料（硫安単肥など）は，残量センサが誤作動しますので，使用を避けてください。
5. ホッパに肥料を補給するときは，ふるい網を通してください。

◆ 一発肥料使用時の注意

一発肥料をご使用の際は，以下の項目をご確認のうえ，あらかじめ農業改良普所などの農業指導機関と良くご相談し，適切な施肥設計に基づいた肥培管理を行なってください。

- **繰出し量が調量ツマミの位置の標準値と異なる場合があります。**

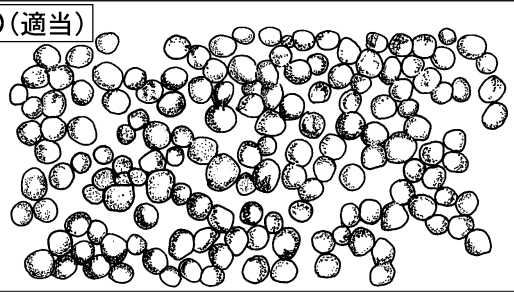
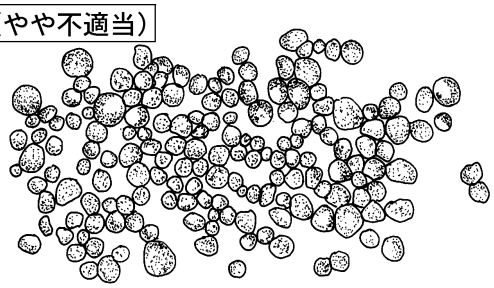
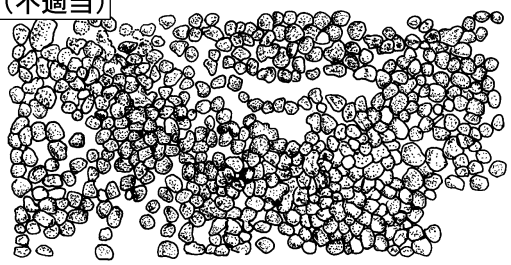
繰出しテストを行なって目標とする施肥量に調整してください。

- **粒形が不揃いなものや砕けやすいものがあります。**

このような肥料は側条施肥機では使用しないでください。

- **被覆肥料の溶出は施肥後の気温変化によって大きく左右されます。また，品種，土壌の影響も受けることがあります。**

例えば，平年より暑い日が続くと早く溶出が終了するため，過繁茂になったり，肥料切れによって予期せぬ追肥が必要になったりすることがあります。

使用条件の目安	粒の硬さ	粒の大きさ・形状・ばらつき			
		大きさ	形状	ばらつき	見本（実物大）
○（適当）	※硬い（吸湿性が少なくべとべとしない）	2～4㎜	円形	少ない	○（適当） 
					△（やや不適当） 
×（不適当）	軟い（吸湿性が多くべとべとする）	2㎜以下（粉状含む）	角ばっている	多い	×（不適当） 

■作業前の準備

注　意

＊ 平たんな場所で行なってください。

1. 各部の点検を行い，汚れや詰まりがあるときは，掃除を行ないます。(**メンテナンス各部の掃除**の項参照）また，破損や摩耗があるときは，交換を行なってください。(**メンテナンス**の項参照)

重　要

＊ 雨天時に作業を行なったあと長時間放置すると肥料が固着し，翌日以降の施肥作業に異常が発生（施肥がされないなど）するおそれがあります。

補　足

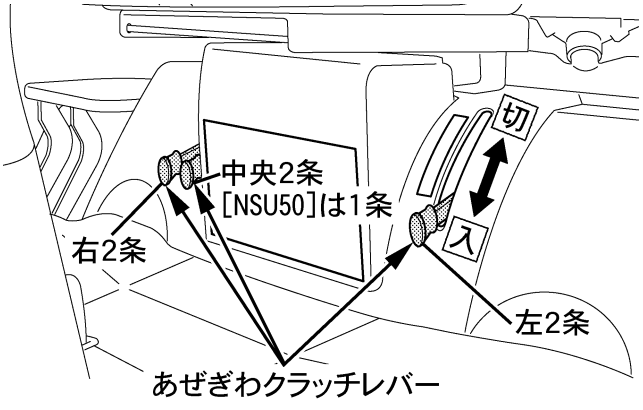
＊ ロールやブラシを取外して掃除やブラシの点検などを行なったときは，エアもれが発生しないように正しく取付けてください。(**メンテナンス**の**ロール・ブラシの取付け・取外し**の項参照)

2. 下記項目に異常がないか点検・確認し，異常があれば正しく取付けて各部を作業状態にします。

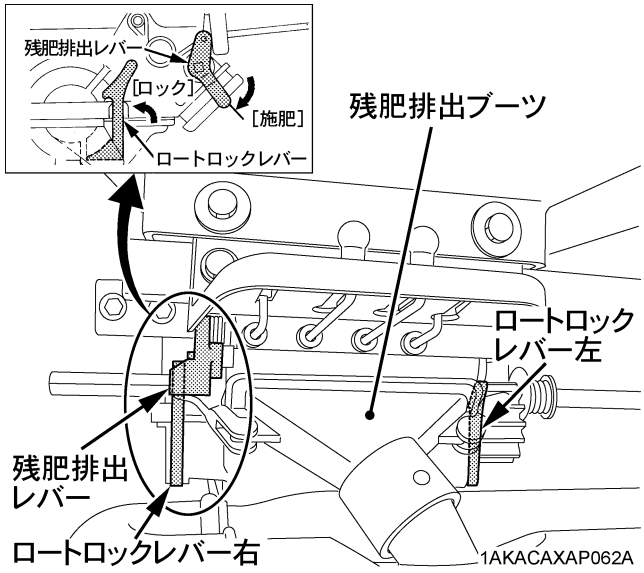
補　足

＊ エアもれが発生しないように正しく取付けてください。

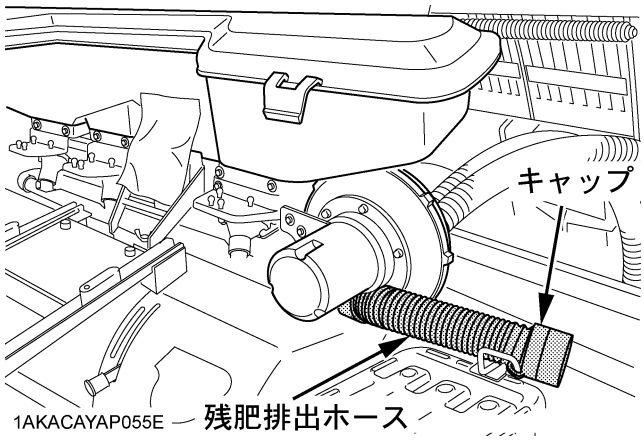
(1) 各あぜぎわクラッチレバーが**[入]**状態になっているか全条確認します。
(2) 残肥排出レバーが**[施肥]**位置，左，右のロートロックレバーが**[ロック]**位置にあることを確認します。



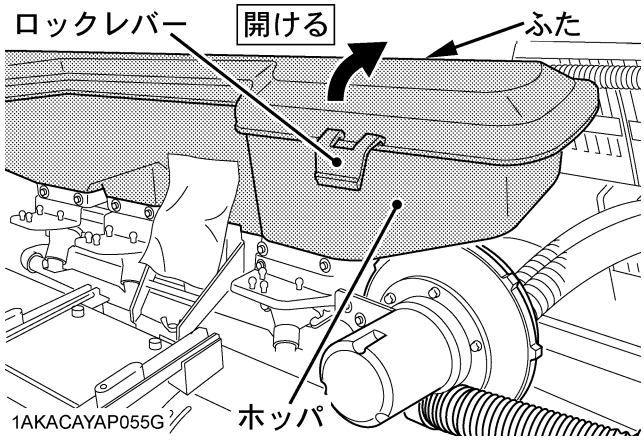
1AKACAYAP031B



(3) 各ホースや各ダクト，残肥排出ブーツが正しく接続されているか確認します。
(4) 残肥排出ホースにキャップが固定されているか確認します。

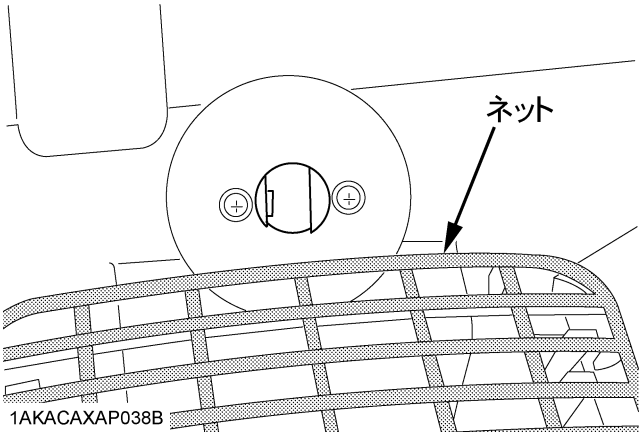


3. 施肥量を決めて，繰出し量を調節します。(**作業に合わせた各部の調節・調整**の項参照)
4. 左，右２箇所のロックレバーを外し，ホッパのふたを開いて肥料を入れます。



重　要

＊ ロックレバーを片方だけ外して無理に開けると，もう片方のロックレバー部やふたが破損することがあります。
＊ ホッパ内には肥料以外のものは入れないでください。また，ホッパ，カバー（ホッパ）の上に強い力をかけないでください。破損の原因になります。
＊ ネットを取外した状態では肥料を入れないでください。肥料のかたまりがロール溝に入り，詰まりの原因になります。



＊ 肥料が原因で目詰まりを起こし，成育ムラが生じないようにするため下記の事項に注意してください。

● ネットに残った大きな肥料は取除く。
● ホッパ内に雨水や掃除時に水が入らないようにする。
● 連日の作業を行なうときでも必ず肥料を排出する。
● １晩置いて露が発生したときは，ホッパ内，ネット，ロール部の露を拭取る。
● 開封後しばらくして湿気を吸った肥料で，固まったものは使用しない。
● 運搬時にホッパ内の肥料は空にする。
（振動により目詰まりが発生することがあるため）
● ロール溝に肥料粉が付着しているときは，必ず掃除してください。

＊ 重さ（kg）は肥料の種類によって異なる場合がありますが，ホッパ容量(L)は45L(約40kg)です。

5. エンジンを始動し，ブロワ，各ダクト，各ホースの接続部からエアもれしていないか確認する。

補　足

＊ エアもれしていると，詰まりの原因にもなります。

6. ロール溝，ロート内部に肥料が付着していないか確認してください。

■施肥作業のしかた

エンジンを始動するとほぼ同時にブロワが回転し，主変速レバーを**［前進］**側に動かすと苗の植付けと同時に施肥を行ないます。また，ブロワはエンジン回転中は，常時回転します。（植付部最上昇位置のときブロワは停止します。）
バッテリ上がり防止のため，アクセルレバーは**［🐢］**位置で作業してください。

◆ 施肥ムラ（成育ムラ）の防止

施肥ムラがあると，苗の成長異常となりますので下記事項に注意してください。

(1) 植付始めは**低速**で行なってください。最初の２～３株に施肥がされない場合があります。
(2) 必ず**減速**してから停止してください。急停止すると多肥になる場合があります。
(3) 植付速度は一定の速さで，まっすぐ行なってください。施肥ムラやふく土異常の原因となります。
(4) 枕地の植付や変形田での植付け時，交差植えや無植箇所を少なくしてください。多肥になったり，肥料がムダになる場合があります。
(5) 肥料切れのセンサが点灯したら早目に肥料を補給してください。
(6) 肥料は側条施肥専用のものを使用してください。吸湿性の多い肥料，やわらかい肥料，不揃いの肥料は使用しないでください。詰まりの原因となります。
(7) 田面に水気が無く硬くなっている場合は，ふく土がされにくいので，田植作業に適したほ場条件で作業を行なってください。

◆ 施肥作業中の確認

作業中のふく土状態やホッパ内の肥料の減り具合がいつもと比べて異常がないか確認し，処置をします。（**作業前の準備**の項参照）

重　要

＊ 植付部を降ろした状態で旋回すると作溝器の破損の原因となったり，詰まりの原因となります。

補　足

＊ 蛇行運転をすると，ふく土が正しくされないことがあります。

◆ 肥料の補給のしかた

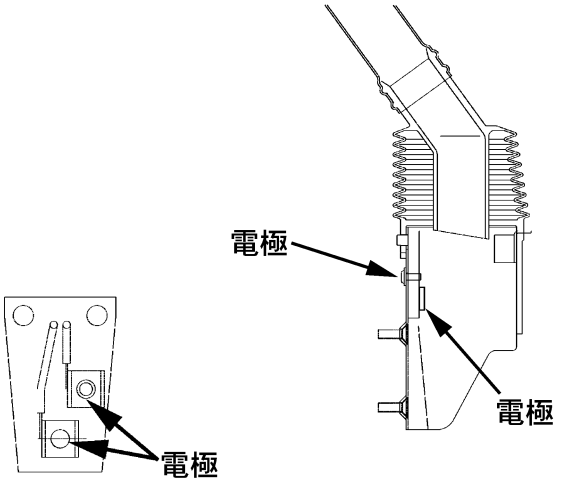
肥料が少なくなると肥料切れのセンサがはたらいて，マスコット・施肥モニタのランプが点滅すると同時に警報ブザーがなります。
その場合は，早目に肥料を補給してください。

補　足

＊ 植付クラッチレバーを **［N］（中立）**位置にすると警報ブザーは停止し，肥料を補給するとランプは消灯します。
＊ 肥料を補給するときは苗の補給と同じ要領で停止し，なるべく枕地で行なってください。

◆ 肥料詰まりの予知センサについて

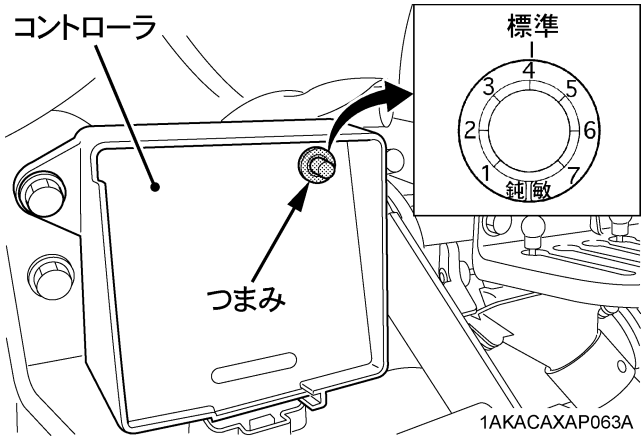
肥料詰まり予知センサは，作溝器内に泥水や小粒肥料，肥料粉などの異物が付着して発生する肥料詰まりを予知するセンサです。センサがはたらくと，マスコット・施肥モニタのランプが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。
その場合は，作溝器内の異物を取除き，全条の作溝器の点検と掃除を行なってください。



1AKACAIAP400B

補　足

＊ 深水ほ場で，苗補給や肥料補給などで一時停止したときに，詰まっていないのに警報がでる場合，点検して，詰まっていなければセンサのコントローラのつまみを**［鈍］**側**（鈍感）**の方向に調節して作業を続けてください。



1AKACAXAP063A

＊ 乾いた肥料がセンサ付近に付着しても警報が出ない場合があります。ときどき，作溝器内を点検してください。
＊ 作溝器内の後側（センサと反対側）に肥料が付着しても警報が出ない場合があります。
＊ ほ場の水位が高いほど予知センサがはたらきやすくなりますので注意してください。

■ホッパ内の肥料の排出のしかた

注　意

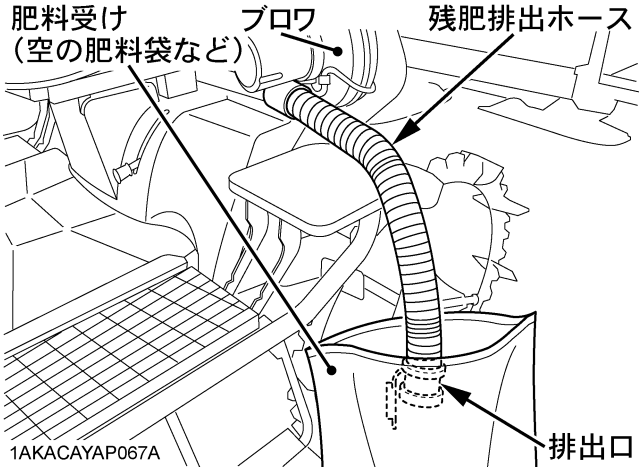
＊ 平たんな場所でエンジンを必ず停止して準備をしてください。

1. しゅう動板ガードのスタンドを立て植付部を降ろしエンジンを始動し，アクセルレバーを最高回転の**【🐇】**位置にします。

補　足

＊ ブロワが必ず回転していることを確認してください。
＊ キースイッチを**【運転】**位置に回して約８秒後に回転し始めます。

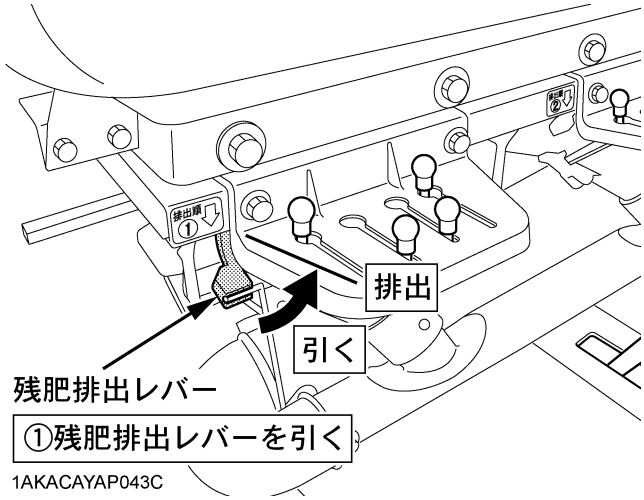
2. 残肥排出ホースを固定金具から取外します。
3. 排出ホースのキャップを外します。
4. 肥料受け（空の肥料袋など）を準備して残肥排出ホース排出口を入れます。



補　足

＊ 肥料受け（空の肥料袋など）は，残量が入る大きさのものを選んでください。
＊ 洗車後などで排出ホース内に水がたまっていることがありますので注意してください。

5. 残肥排出レバーを機体**右側から①，②，③の順番に**前方に引く（**【排出】**位置）と同時に肥料が排出されます。



重　要

＊ アクセルレバーで，エンジン回転数を最高回転にしてください。回転が低いと肥料つまりの原因となります。
＊ 残肥排出レバーは必ず機体右側から①，②，③の順番に引いてください。右側から引かないと肥料つまりの原因となります。

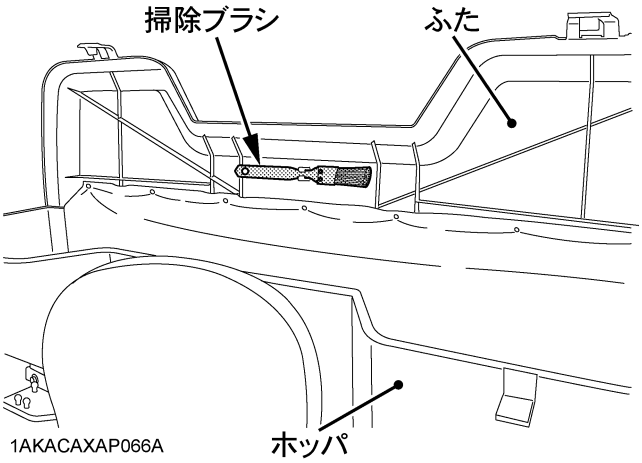
補　足

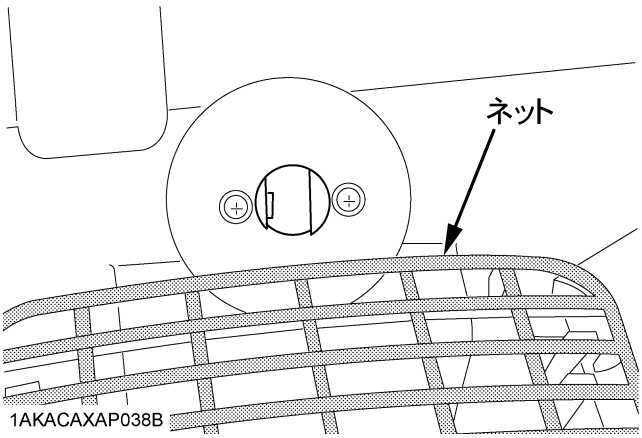
＊ 排出ホースを少し引っ張ってたるみをなくすと，肥料の流れがよくなります。このとき，ホースを強く引っ張りすぎるとホースが継ぎ手から外れるおそれがあります。
＊ 一度排出ホース内で肥料が滞留すると，肥料の流れが悪くなります。

6. 排出が終わるとホッパを開き，ネットの上に肥料や異物が残っている場合は取除きます。それから，ネットを取外して，付属の掃除ブラシで，ホッパ，ロールケース内の掃除をします。

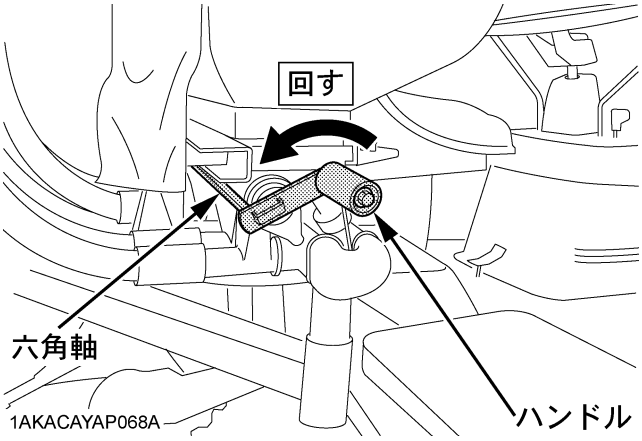
補　足

＊ 掃除ブラシは出荷時，ホッパのふたの裏側に取付けています。なくさないように保管してください。





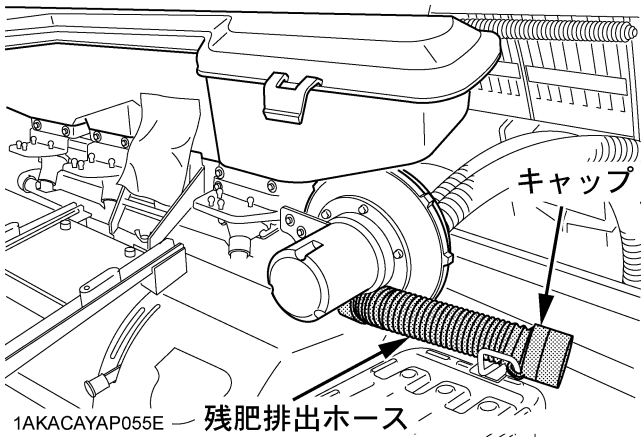
7. ネットを取付けたあと，ホッパを閉じて残肥排出レバーを**［施肥］**位置にします。
8. 肥料繰出し用の六角軸に付属品の手動繰出し用のハンドルを六角穴に合わせて左回転方向（矢印方向）に回し，ロールケースを回して（**作業に合わせた各部の調節・調整の施肥量の調節**の項参照）ロール溝に残った肥料を排出します。



補　足

＊ ロール溝内に肥料が残っていると湿気などで固まり，目詰まりの原因となります。
＊ ロール溝内やブラシの毛の中に肥料や肥料粉が残ったまま作業を続けると，施肥量が変化するなどの異常が発生するおそれがあります。

9. 全ての排出が終わってから，エンジンを停止します。
10. 排出した肥料の袋の口を閉じたあと，残肥排出ホースにキャップをしてから固定金具に取付けます。



重　要

＊ 肥料にはさびを発生させる成分が含まれているため，１日の作業が終わったあとは肥料を排出して水洗いをじゅうぶん行なってください。特にエア抜き，植付けフレーム，植付けケース各周辺（**掃除のしかた，注油のしかた**の項参照）は必ず行なってください。

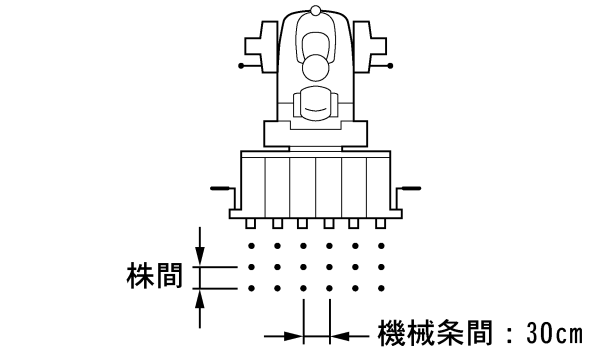
作業に合わせた各部の調節･調整

■植付株数の調整

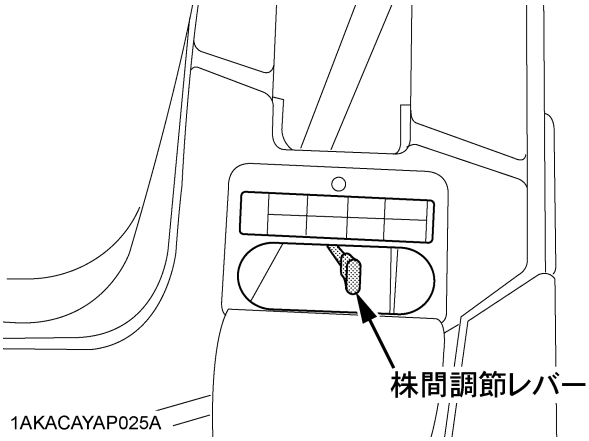
注　意

＊ 平たんな場所で行なってください。

植付株数は，株間調節レバーを切換えて行なってください。植付株数は，株間が狭くなると多くなり，株間が広くなると少なくなります。



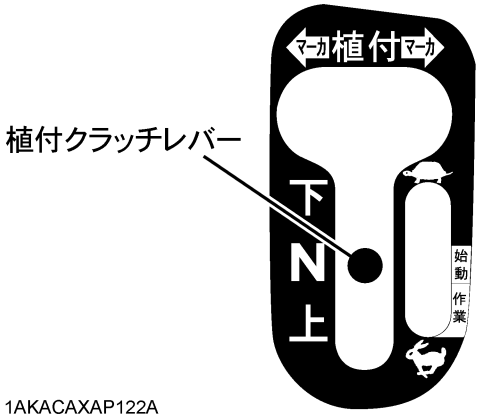
1AKACAYAP084A



1AKACAYAP025A

● 株間を 14，16，18cm に設定するとき

1. エンジンが掛かった状態で主変速レバーを**［N］（中立）**位置にします。
2. 副変速レバーを**［N］（中立）**位置にしたあと，エンジンを停止します。
3. 植付クラッチレバーを**［N］（中立）**位置にします。

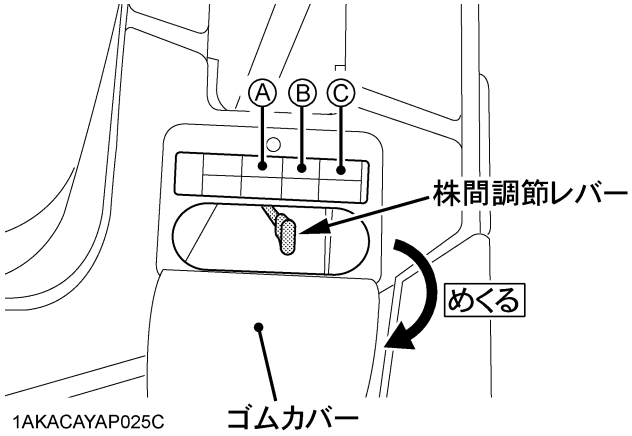


1AKACAXAP122A

補　足

＊ 植付部が駆動していると，株間を調節するときに機械が破損するおそれがあります。

4. ステップ右側にあるゴムカバーをめくり，株間調節レバーを切換えて調節します。
   調節を行なうとき，株間調節レバーを **14，16，18cm** のいずれかの位置にします。
   （カチッと音がする位置まできっちりレバーを移動させてください。）



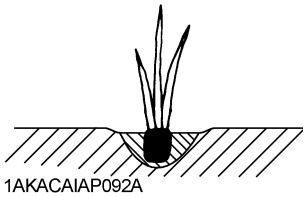
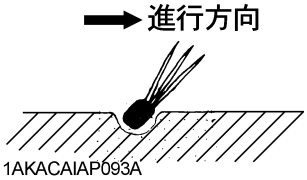
1AKACAYAP025C

レバー位置	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ
株間（cm）	18	16	14
株数（株/3.3㎡）	60	70	80

補　足

＊ レバーが切換わりにくいときは，エンジンを始動させたあと，いったん主変速レバーを**[前進]**側に操作し，再度**[N]（中立）**位置に戻してからエンジンを停止してください。
＊ 設定する株間に各レバー位置が合っていないと，植付姿勢が乱れ，苗が前または，後方向に倒れますので，各レバー位置を必ず設定する株間に合わせてください。

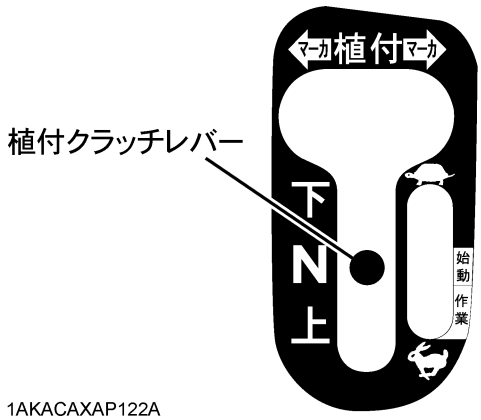
● ほ場の状態

○：良い状態	×：悪い状態
表面がやわらかく爪跡がすぐに消える。  1AKACAIAP092A	爪跡が残る。  1AKACAIAP093A
爪が移動するとき，苗に抵抗が掛かっても泥によって苗が支えられて倒れない状態	爪が移動するとき，苗に抵抗が掛かると苗が倒れる状態

5. 調節が終わるとゴムカバーを閉じます。
6. 植付作業と植付後の確認を行なって，異常がなければ作業を続けます。

● 株間を 21，24，28cm に設定するとき

1. エンジンが掛かった状態で主変速レバーを**[N]（中立）**位置にします。
2. 副変速レバーを**[N]（中立）**位置にしたあと，エンジンを停止します。
3. 植付クラッチレバーを**[N]（中立）**位置にします。

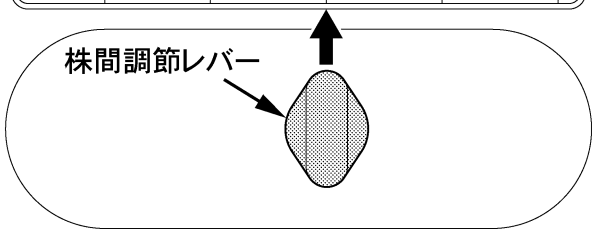


1AKACAXAP122A

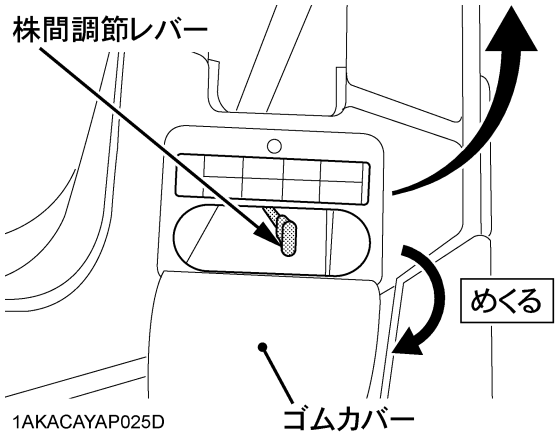
4. ステップ右側にあるゴムカバーをめくり，株間調節レバーをラベルの**[60 株]**と**[70 株]**の間の線に合わせます。

＊ カチッと音がするような「止まり」のない中間位置です。

株数				
	疎植	40株 (28cm)	45株 (24cm)	50株 (21cm)
	標準	60株 (18cm)	70株 (16cm)	80株 (14cm)



1AKACAYAP023A

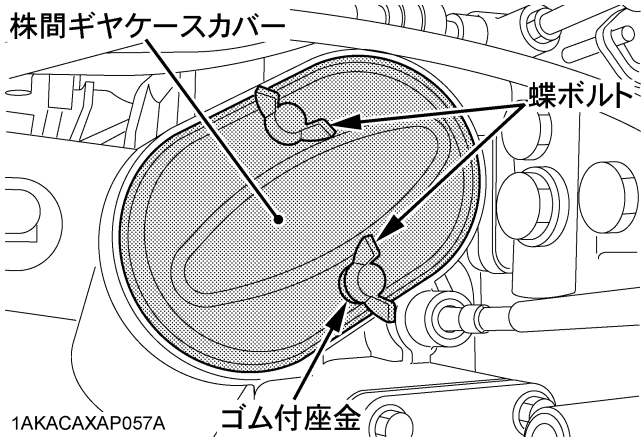


1AKACAYAP025D

補　足

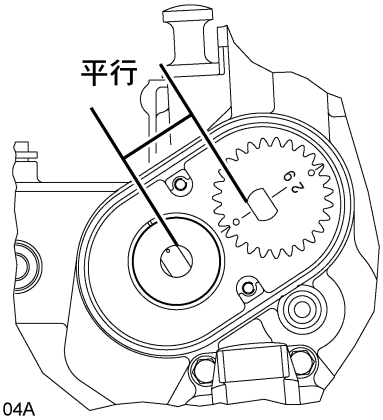
＊ 植付部が駆動していると，株間を調節するときに機械が破損するおそれがあります。

5. 前車軸右側本機取付部の上側にある株間ギヤケースカバーの蝶ボルト 2 本とゴム付き座金を取外して，カバーを取外します。



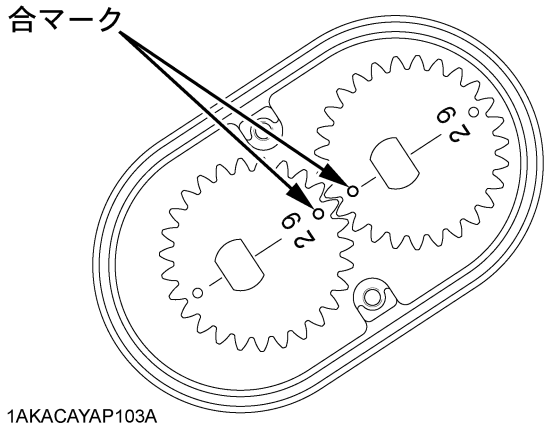
1AKACAXAP057A

6. ギヤ 29（合マーク付）を軸に組付けて回転させ，平行な面の向きを一致させます。このとき，29刻印が下図の位置になるようにします。付属のギヤ29を組付けた軸が回転しにくい場合は，株間調節レバーを 60 株と 70 株の間で動かして軸が回転する位置に合わせてください。



1AKACAYAP104A

7. もう一方の軸に，ギヤ 29（合マーク付）を組付けます。このとき，下図のような位置関係になります。



1AKACAYAP103A

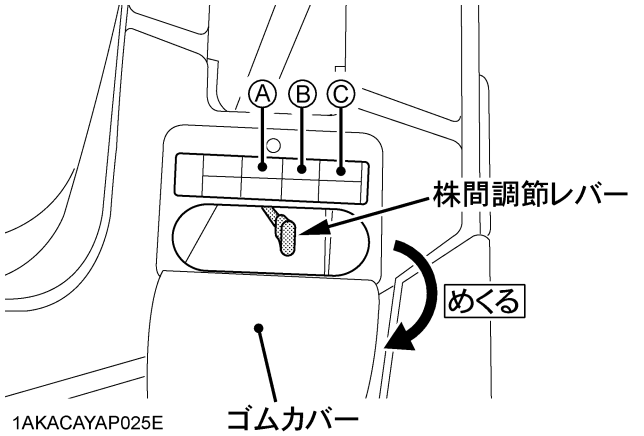
8. かみ合わせたまま片方のギヤを手で１回転させて確認してください。
回らなければもう一度やり直してください。

重　要

＊ 株間ギヤを組み間違えると機械が故障するおそれがあります。必ず１回転させて確認してください。

9. ギヤケースカバーを閉じます。

10. ステップ右側にあるゴムカバーをめくり，株間調節レバーを切換えて調節します。



1AKACAYAP025E

レバー位置	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ
株間（cm）	28	24	21
株数（株 /3.3 ㎡）	40	45	50

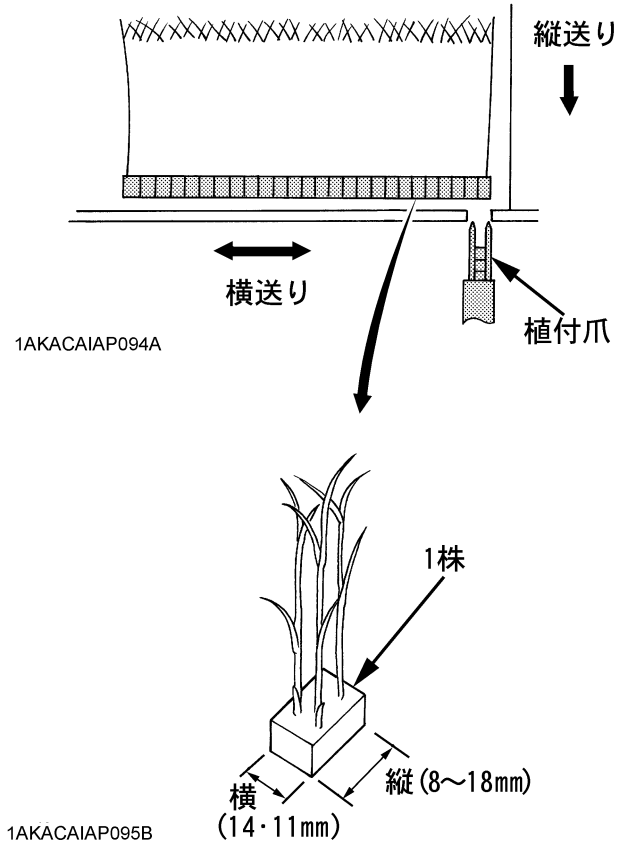
補　足

＊ レバーが切換わりにくいときは，エンジンを始動させたあと，いったん主変速レバーを**［前進］**側に操作し，再度**［N］（中立）**位置に戻してからエンジンを停止してください。

11. 調節が終わるとゴムカバーを閉じます。
12. ５，６株又は１～ 2m 植付後の確認を行なって，異常がなければ作業を続けます。

■苗取り量（1 株本数）の調節

植付爪が取出す 1 株あたりの本数を，横送り切換えレバー（苗取り量）と苗取り量調節レバー（縦取り量）で調節を行なってください。

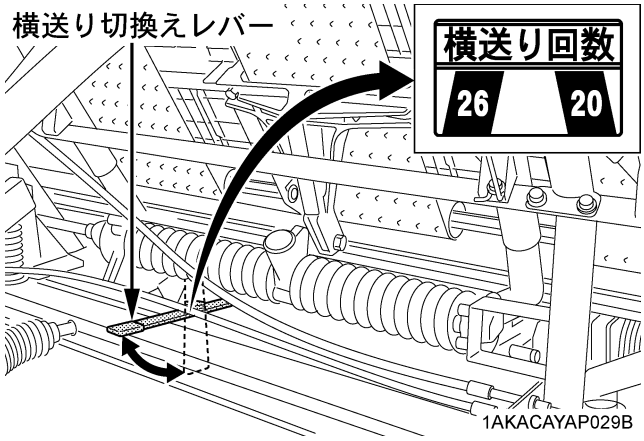


補　足

＊ 1 株あたりの本数は条件によって異なりますが，３～５本が標準です。

◆ 横送り切換えレバー

横送り回数は苗の成長条件によって切換えてください。調節は２段階行なえます。



20 回	26 回
中　苗	稚　苗

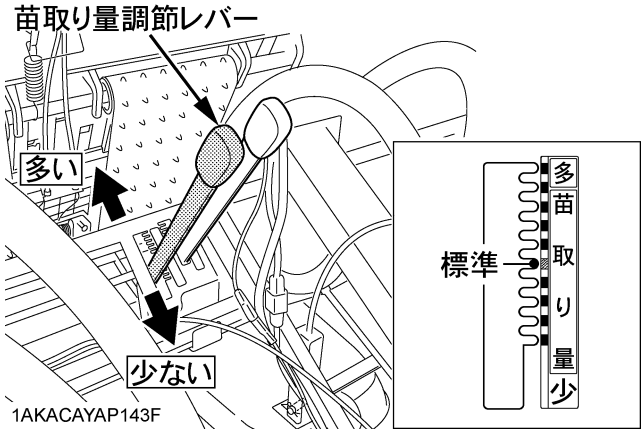
補　足

＊ 横送り量は，20 回で 14㎜，26 回で 11㎜ です。

1. 主変速レバーを **[N]（中立）** 位置にします。
2. 苗の状態に合わせて，レバーを切換えます。
3. エンジンを始動又は，主変速レバーをゆっくり操作し，植付爪が２～３回転回ったことを確認して植付作業を行なってください。

◆ 苗取り量調節レバー

苗や苗床によってレバー調節してください。調節は８～ 18㎜ まで 10 段階行なえます。



補　足

＊ 横送り量と合わせて１株本数を，レバーで調節します。レバーは切欠溝に確実にセットしたあと植付作業を行なってください。

◆ 植付株数と苗の使用量について

10 アール（a）あたりの苗の使用量は，栽植密度（植付株数）と１株あたりの苗取り量によって決まります。下記の表を参照して，苗箱（箱）の使用量の目安にしてください。

横送り回数（回）	苗の種類	苗取り量レバー位置	3.3㎡当り株数（株）				
			50	55	60	70	80
20	中苗	６段目	17	18	20	23	27
26	稚苗	６段目	13	14	15	18	20

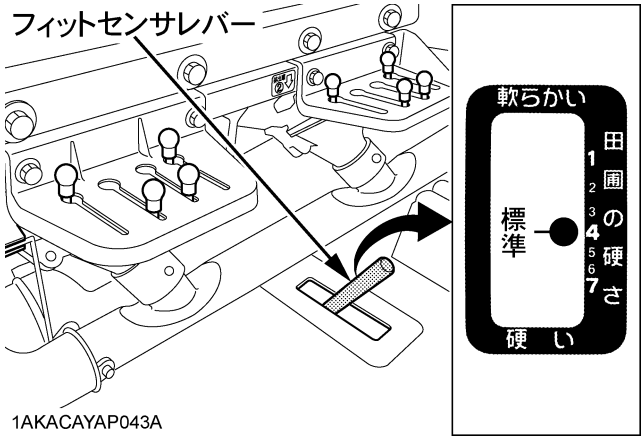
＊ 苗取り量レバー位置は，上（**[多] い**）から数えた位置
＊ 上表の株数は，目安の苗箱（箱）の使用量です。また，播種量は稚苗 200 ～ 220g，中苗 100g を基準にして算出します。
＊ 出荷時は 60 株位置です。

補　足

＊ 苗取り量（縦取り量）のレバーを１段変更すると，苗箱は６～８％増減します。
＊ 上表はあくまで目安ですから苗箱は多めに準備してください。

■フィットセンサレバー

植付部の下側にあるフロートが，植付速度に応じて植付深さを一定に保つため，高速作業時にフロートの浮上りによる浅植えのないように制御していますが，ほ場の状態により，泥を押したり，凹凸がじゅうぶん整地されないときは，レバーでフロートの感度調節を行なってください。調節は７段階行なえます。



● 設定位置

ほ場状態を確認しながら，レバーで下記の表を目安に感度調節を行なってください。

ほ　場　状　態		設定位置
軟らかい ⬆ 標準 ⬇ 硬い	● トロトロした状態で，泥押しをする。	１～３
	● 整地も良く，泥押しが少ない。	４
	● 硬くて整地が悪い。	５・６
	● 凹凸が激しく，荒れている。（車輪跡や足跡が残る。）	７

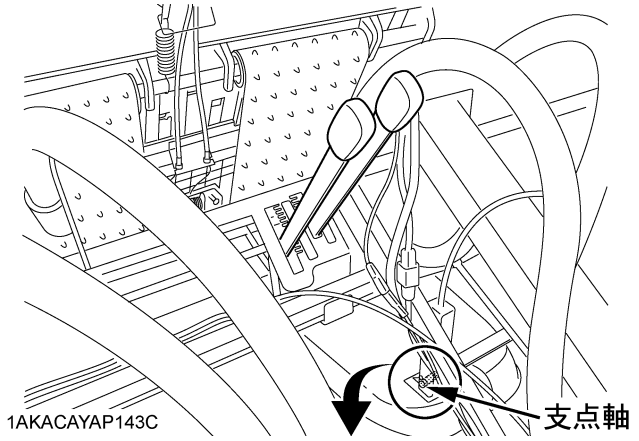
補　足

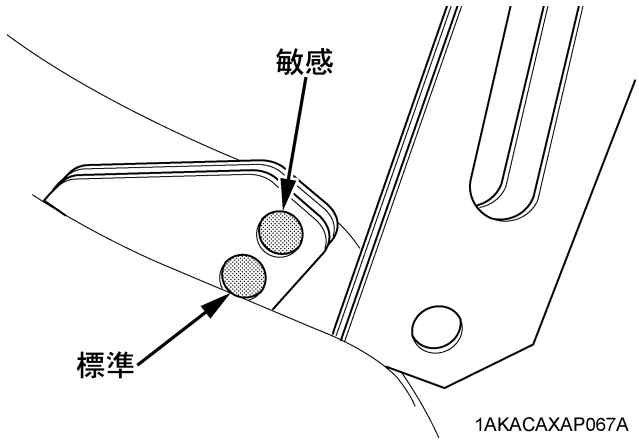
＊ 調節を行なったときは，植付け深さの調節も同時に行なってください。
- **[軟らかい] → [硬い]** に変更すると植付け深さが深くなることがあります。
- **[硬い] → [軟らかい]** に変更すると植付け深さが浅くなることがあります。

◆ センサの感度調節について

フィットセンサレバーを**【1】**に設定しても，フロートの沈下が大きく泥押しをする**軟らかいほ場**の場合は，センサ金具を**【敏感】**の位置に変更してください。

1. エンジンを始動したあと，植付部を上昇させます。
2. 油圧ロックして，下降防止をしたあと，エンジンを停止します。
3. 支点軸を**【標準】**位置から**【敏感】**位置に変更します。





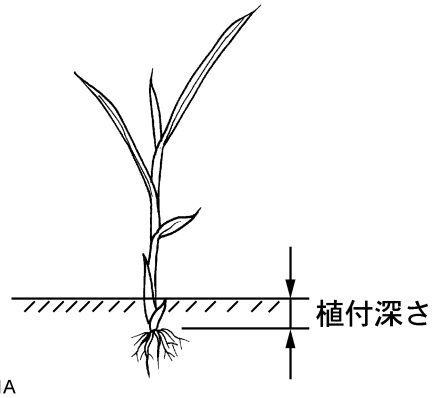
補　足

＊ **【敏感】**側の穴に移すと，感知が敏感になり，浮き苗が出たり植付け深さが浅くなったりするおそれがありますので，できるだけフィットセンサレバーをこまめに調節して対応してください。

＊ 出荷時は**【標準】**位置です。

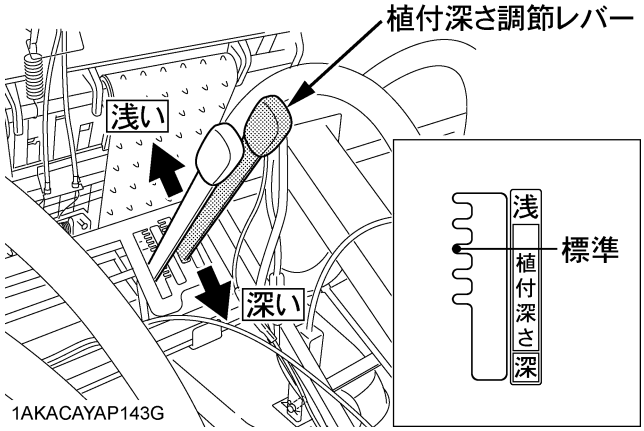
■植付深さ調節

ほ場や苗の条件に合わせて，苗の植付深さの調節をレバーで行なってください。調節は１～４ cm まで５段階行なえます。



補　足

＊ 植付深さは２～３ cm が適正です。



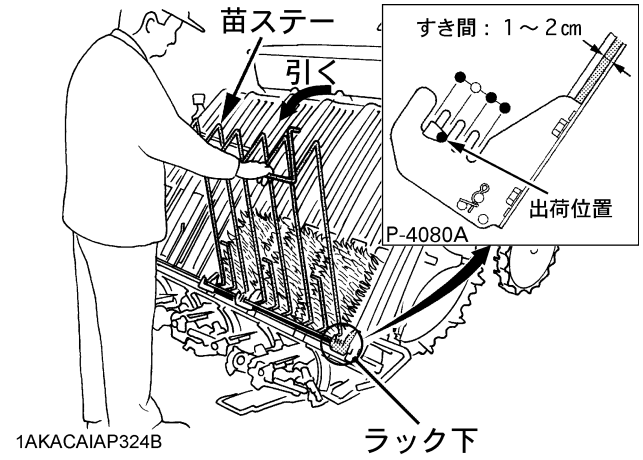
1. 植付部を上昇します。
2. レバーで調節し，切欠溝に確実にセットします。
3. 植付部を降して植付作業を行なってください。

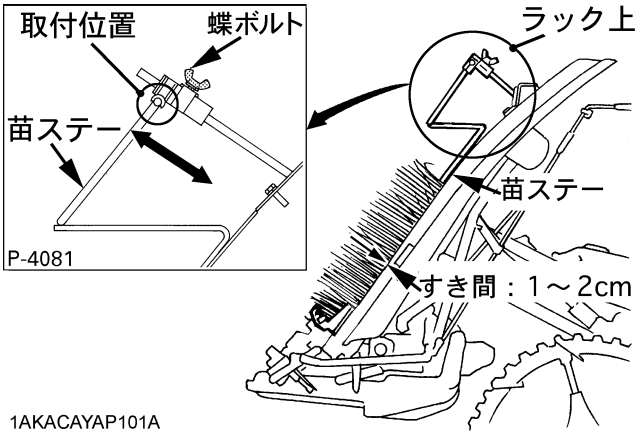
■苗ステー・苗押さえ棒の調節

苗のせ台に苗をのせたとき，苗ステーとのすき間が大きかったり，苗床の状態が悪く（薄くて軟弱な苗や根張りの悪い苗など）て，くずれ落ちによる欠株が発生したり，苗が前，後に倒れるときは調節を行なってください。

◆ 苗ステー

1. 植付部を下降したあと，エンジンを停止します。
2. 苗ステーの上側を横にずらして引張り，上側のラックの取付部から外します。
3. 苗床とのすき間が１～２cmになる位置に下側のラック位置の変更をします。
4. 苗ステーを上側のラックの取付位置に戻します。
5. 上側のラックの左，右両端にある蝶ボルトをゆるめて，苗床と苗ステーのすき間が平均になるように調整します。

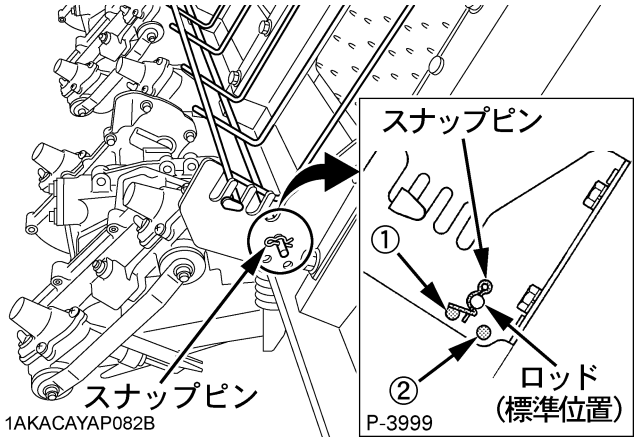




6. 蝶ボルトを締付けます。

◆ 苗押さえ棒

1. 植付部を下降したあと，エンジンを停止します。
2. スナップピンを取外したあと，ロッドを抜取ります。
3. 穴の位置を変更してロッドを差込んだあと，スナップピンを取付けます。



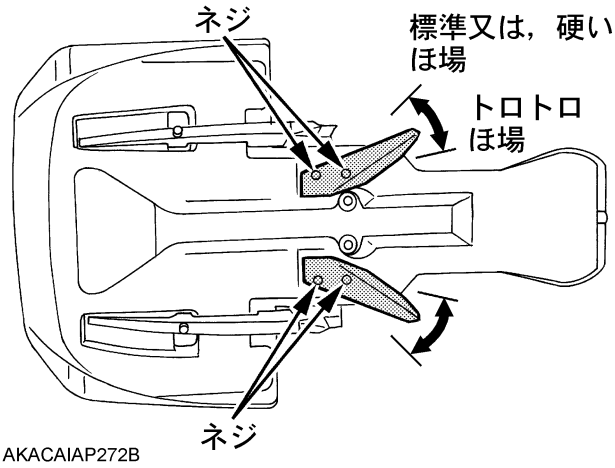
● 調節位置

現　　象	取付穴位置
● 苗が短い。 ● 植付けたとき，苗が後に倒れる。 ● 苗床が軟弱で，植付けるとバラケやすい。	標準➡② 又は， ①➡標準
● 苗が長い。 ● 植付けたとき，苗が前に倒れる。 ● 苗が押さえ棒に引掛かり，しゅう動板まで降りてこない。	標準➡① 又は， ②➡標準

■ふく土板の調節［F 仕様］

各フロート下面にあるふく土板をほ場状態に合わせて調節を行なってください。

1. エンジンを始動したあと，植付部を上昇させます。
2. 油圧ロックレバーを**［閉］**位置にし，下降防止をしたあと，エンジンを停止します。
3. トロトロとしたほ場で隣接の苗を倒すときは，ネジをゆるめて内側にせまくします。また，標準又は，硬いほ場は外側に広げます。



補　足

＊ 調節は全箇所共同じ角度になるようにしてください。

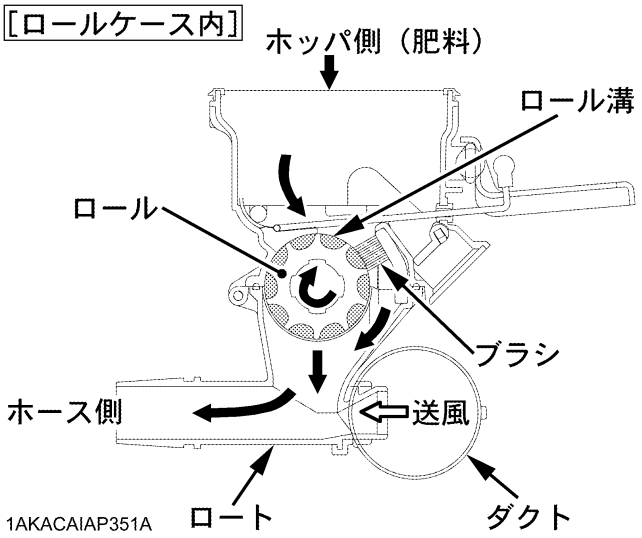
4. ネジを締付けます。

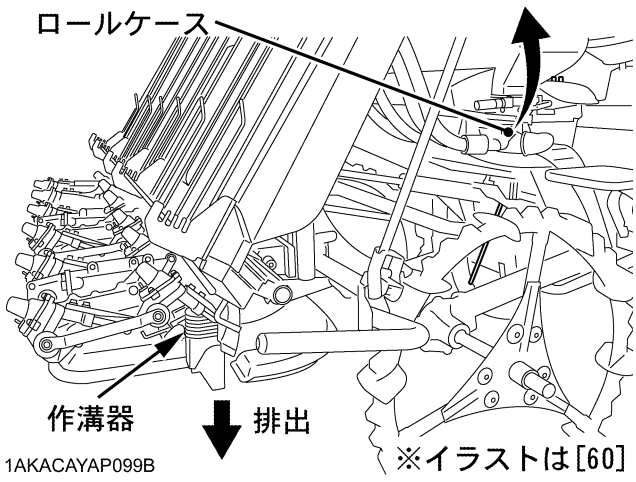
■施肥量の調節［F 仕様］

使用する肥料により施肥（繰出し）量が異なることがありますので，肥料を入れる前によく確認してから調節を行なってください。

◆ 肥料の流れ

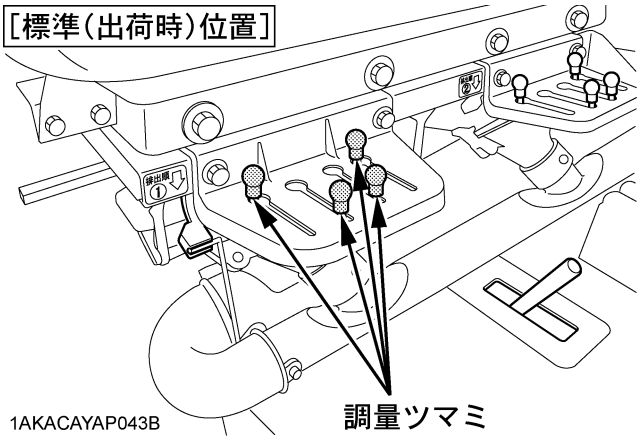
1. ホッパ内の肥料がロールケース内に入ってきます。
2. ロールケース内のロールの溝に肥料が入ります。
3. ロールが回転し，肥料が落ちます。
4. ブロワからの送風により，ロートからホースを通り作溝器から排出されます。

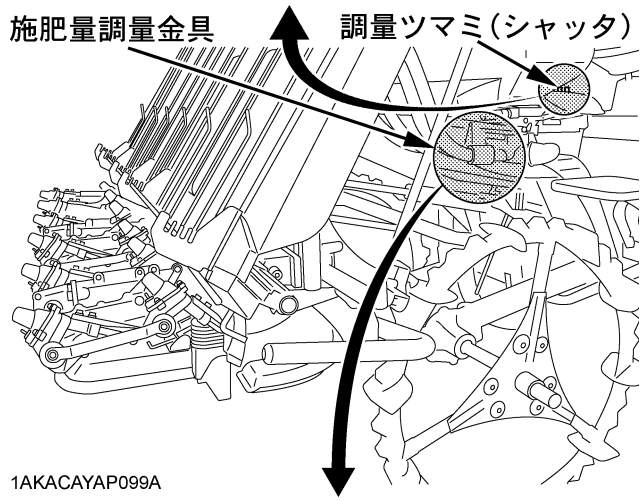


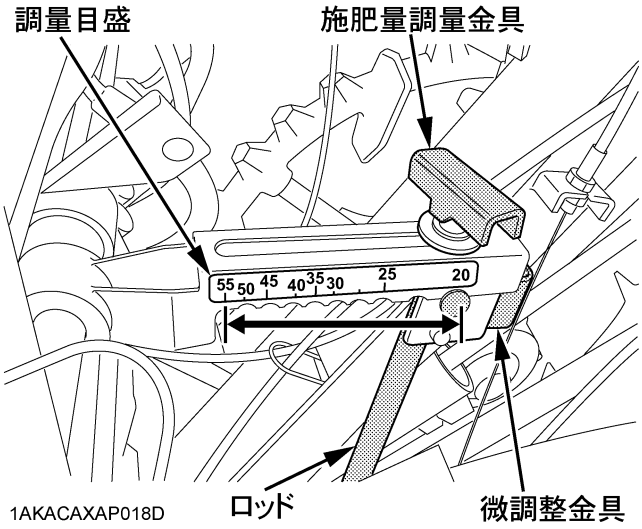


◆ 調節のしかた

本機で調節できる施肥量（肥料の繰出し量）は，10 ～ 80kg/10a です。目標とする施肥量に調節するには，**調量ツマミの調節で２段階**（範囲：20 ～ 50kg/10a〔標準〕・50 ～ 80kg/10a〔多い〕）と**調量ツマミの調節と肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の組換え**（範囲：10 ～ 20kg/10a〔少ない〕）でいずれかの範囲内に調節し，繰出しテストを行なったあと，施肥量調量金具の調節を行なってください。







1. 平坦な場所に機械を止めてエンジンを停止します。
2. 施肥量（10ａ 当りに播く量）を決めます。

補　足

＊［例］春風肥料 S273 の場合
チッソ成分 12%（成分 12-17-13）のとき，チッソ成分で 3.0kg/10a 施肥すると計算では，
3.0(kg/10a) ÷ 12(%) × 100 ＝ 25(kg/10a) となり，施肥量（製品重さ）は 10a 当り 25kg となります。

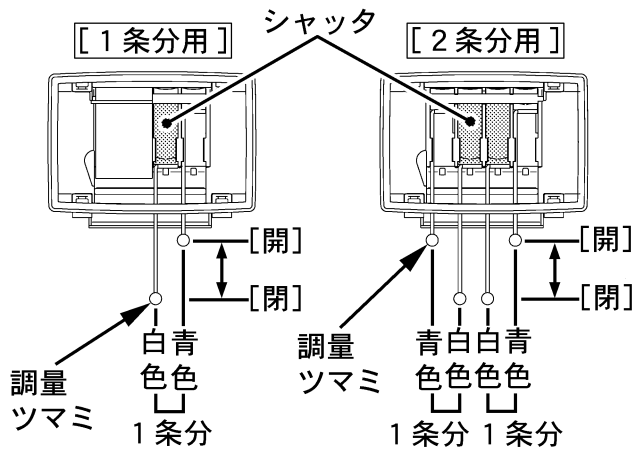
3. 調量ツマミの調節と肥料繰出し六角軸駆動ロッドの組換えで目標とする施肥量の範囲に調節します。

補　足

＊ 出荷時の調量ツマミと肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置は，一般的に多く使用される範囲の 20 ～ 50kg/10a です。また，調量ツマミの調節は，施肥量が 50 ～ 80kg/10a のとき又は，１条分の繰出しを停止するときに行なってください。

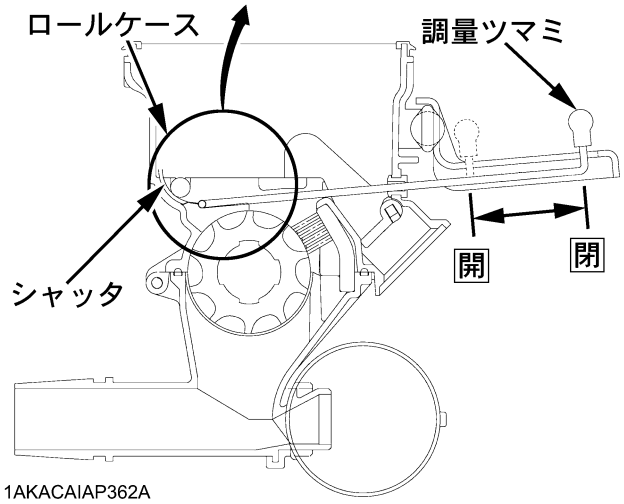
● **調量ツマミ**

調量ツマミの調節は，ツマミを押し引きすることによりロールケースのシャッタが開閉し，繰出し範囲が決まります。シャッタは調量ツマミを押している状態が**[開]**，引いている状態が**[閉]**です。



1AKACAIAP352A

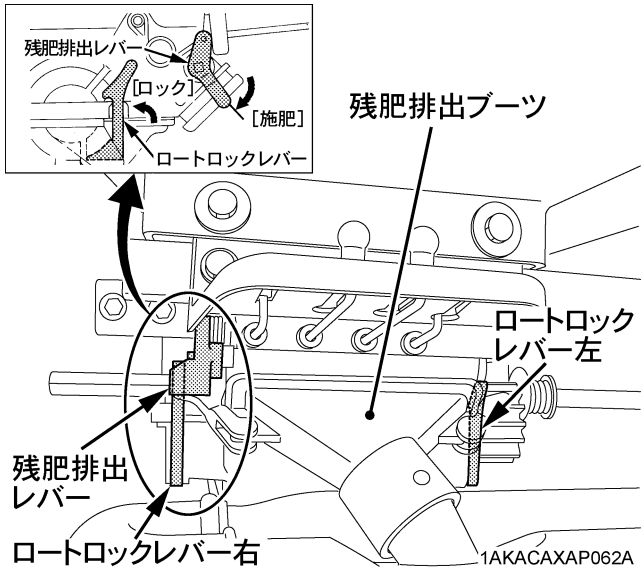
※出荷状態



1AKACAIAP362A

補　足

＊ 調量ツマミは必ずいっぱいまで押し引きしてください。設定した施肥量が出なくなる場合があります。
＊ ホッパ内に肥料があるときにツマミを押し引きするとホッパ内が空のときよりも重くなります。
＊ 調量ツマミは真っすぐ押し引きしてください。

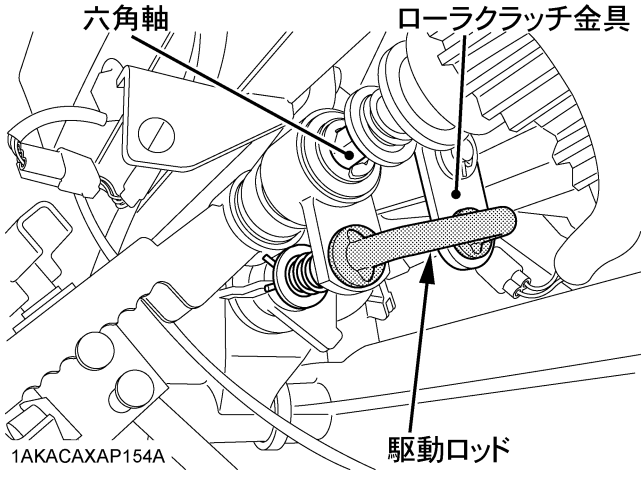


1AKACAXAP062A

● **肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の変更（10～20kg/10a範囲のみ）**

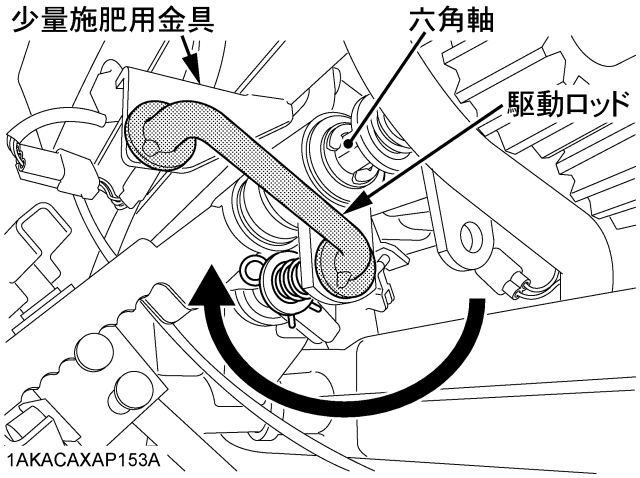
少量施肥（10 ～ 20kg/10a の範囲内）のときは，肥料を繰出すときに六角軸を回転させる駆動ロッドの取付位置の変更を行なってください。

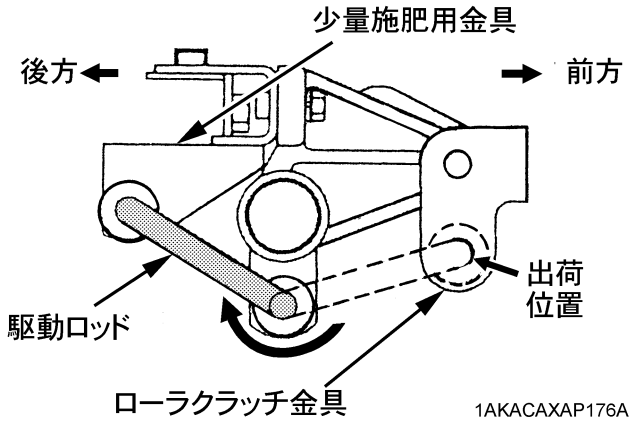
(1) ローラクラッチ金具に取付けている駆動ロッドのスナップピンを取外し，駆動ロッドをローラクラッチ金具から外します。



1AKACAXAP154A

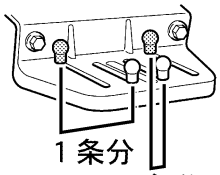
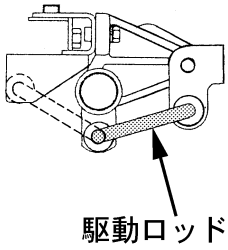
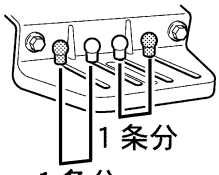
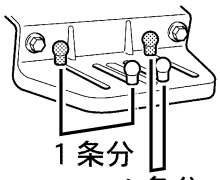
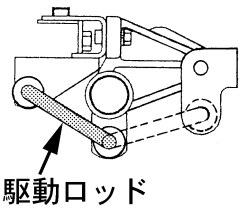
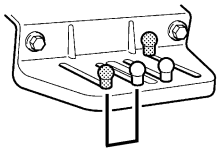
(2) 取外した駆動ロッドを後方に動かして，少量施肥用金具に取付けたあと，駆動ロッドにスナップピンを取付けます。





補　足

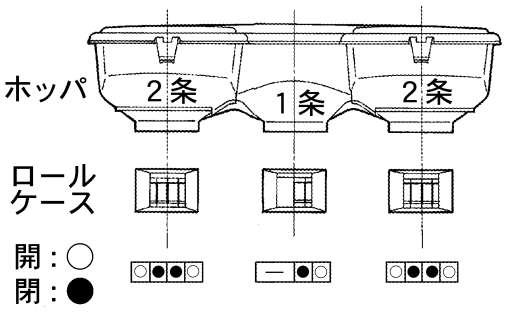
＊ 調量ツマミと駆動ロッドの位置は，下表を参照してください。例えば施肥量が 25kg/10a のときは，20 ～ 50kg/10a，60kg/10a のときは，50 ～ 80kg/10a，15kg/10a のときは，10 ～ 20kg/10a に調節してください。

範囲 (kg/10a)	調量ツマミ位置	駆動ロッド位置
20 ～ 50		 ※出荷位置
50 ～ 80		
10 ～ 20		
0 （停止）		—

＊ 全条とも同じ位置に設定してください。

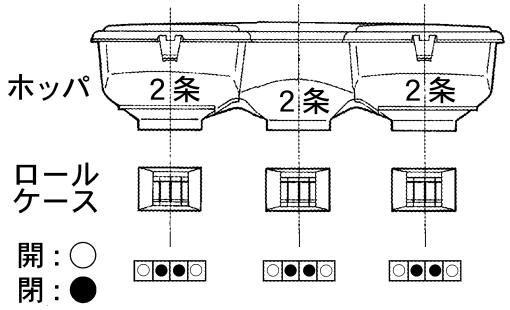
【例】 20 ～ 50kg/10a のとき（出荷状態）

[NSU50]



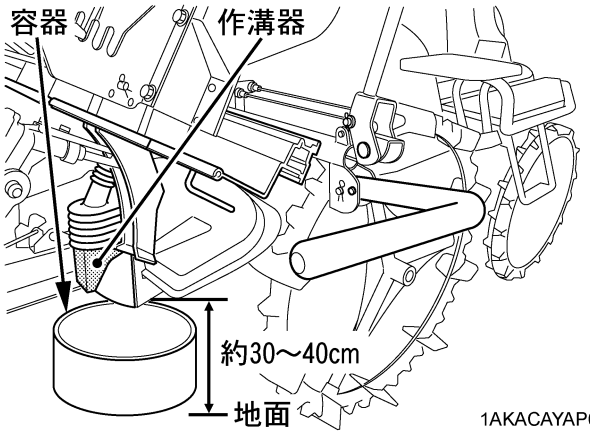
1AKACAXAP177B

[NSU60]



1AKACAYAP022A

4. 繰出しテストを行ないます。
   (1) 肥料を全条のホッパに入れます。
   (2) エンジンを始動し，植付部を上昇させます。
   (3) 油圧ロックレバーを**【閉】**位置にします。
   (4) 植付クラッチレバーを**【下】(下降)**位置にします。
   (5) 油圧ロックレバーをゆっくり**【開】**位置にして植付部を地面から約 30 ～ 40cm の位置まで降ろしたあと，**【閉】**位置にして油圧をロックします。
   (6) エンジンを停止します。
   (7) 肥料を受ける容器の重量を測ったあと，作溝器の下側に全条分置きます。



1AKACAYAP057C

補　足

＊ 容器が全条分ないときは，ホッパが２条の場合は２個，ホッパが１条の場合**【NSU50】**１個置き，測定箇所以外のあぜぎわクラッチレバーを全て切ってください。

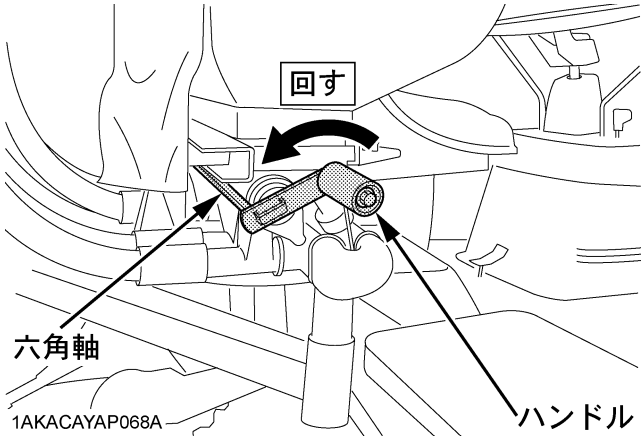
   (8) エンジンを始動します。

補　足

＊ ブロワが回転していることを確認してください。また，ホースやダクトが正しく組付けられているか確認してください。

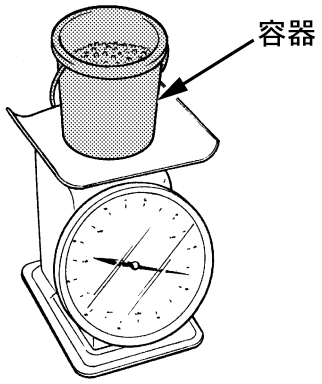
   (9) 付属品箱から手動繰出し用のハンドルを取出します。

   (10) 繰出し用の六角軸にハンドルの六角穴を合わせます。
   (11) ハンドルを左回転方向（矢印方向）に **10 回**回転させて，容器に肥料を繰出します。このとき，目安として８～ 10 秒間でハンドルを 10 回転させます。



1AKACAYAP068A

(12)重量を測定し，測定した重量から容器の重量を差引くと，繰出した肥料の重量となります。



1AKACAIAP158A

(13)実際に測った繰出し量と調量ツマミの位置の標準値と比較します。

● **10 回転繰出し量の標準値**

調量ツマミの設定位置	標　準　値
20 ～ 50kg/10a（標準）	100g/10 回転
10～20kg/10a(少ない)	100g/10 回転
50 ～ 80kg/10a（多い）	200g/10 回転

補　足

＊ 使用する肥料により標準値と実際の繰出し量に極端に差があるときは，調量金具で調節してください。

＊ 調量ツマミの設定位置により10回転後の繰出し量は異なります。

● **調量ツマミの設定位置が20～50kg/10aの場合**

標準値	実測値	施肥量調量金具で調節
100g	90g (1 割少ない)	調量目盛を 1 目盛分多くする。
	110g (1 割多い)	調量目盛を 1 目盛分少くする。

＊ 実際の施肥量は，ほ場条件などにより車輪のスリップで変化することがありますので，施肥作業を実際行ない再調整してください。

(14)繰出し用の六角軸からハンドルを外し保管してください。

重　要

＊ ハンドルが六角軸に取付けられた状態で機械を動かすと，ハンドルが回転して破損の原因になります。

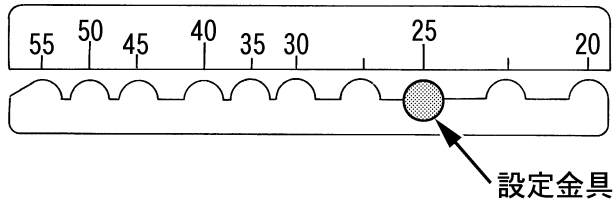
補　足

＊ ハンドルはなくさないでください。

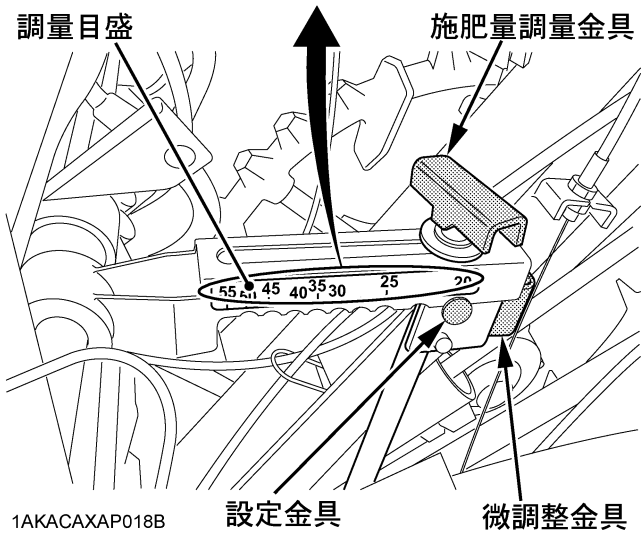
5．調量金具を調節して施肥量を設定します。

［例］施肥量 25kg/10a の場合

(1) 調量金具を緩めます。
(2) 調量目盛の **【25】** のところに設定金具を合わせます。
(3) 調量金具を締付けます。



1AKACAXAP179A

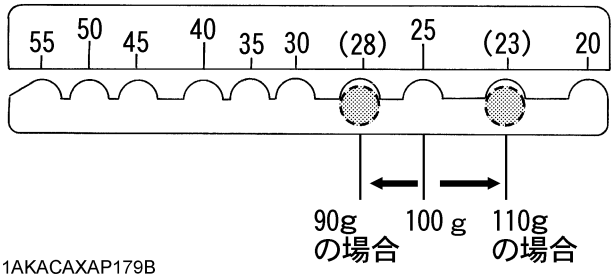


1AKACAXAP018B

補　足

＊ 出荷時は，**【20】** 位置です。

＊ 4．の（12）の工程で，肥料条件により実測値が標準値の 100g に対し，１割少ない（90g）ときは，**【25】** の位置から１目盛分多く（**【28】**）し，逆に１割多い（110g）ときは，１目盛分少なく（**【23】**）してください。

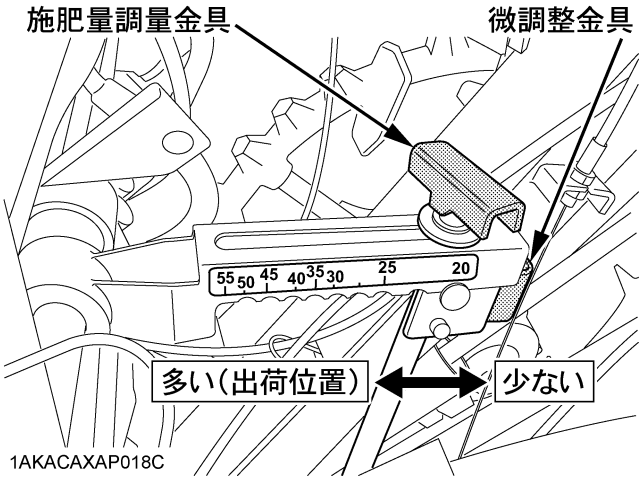


1AKACAXAP179B

＊ 施肥量が変化するおそれがあるので調量金具をしっかりと締付けてください。

● **微調整の方法**

＊ 施肥量を目盛より少なくしたいときは，微調整金具で調整してください。

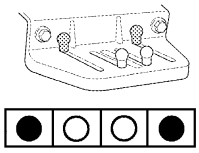
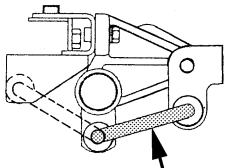
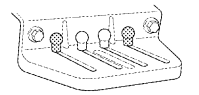
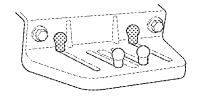
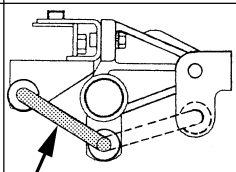


(1) 施肥量調量金具を緩めます。
(2) 微調整金具を回し，少ない方へピンの位置をずらしてください。

補　足

＊ 設定金具の位置，施肥量範囲によって減り量が異なります。

◆ 繰出し量目安一覧表

<table>
<tr><td colspan="2">施肥量 (kg/10a)
調量ツマミ 設定位置 ●：開・○：閉</td><td>駆動ロッド位置</td><td>調量目盛 (kg)</td><td colspan="2">※数値は施肥量（kg/10a）</td></tr>
<tr><td>20～50
(標準)</td><td>標準位置（出荷時）
 
</td><td rowspan="2"> 
駆動ロッド
※出荷位置</td><td>50
40
30
20</td><td>○(55) ●50 ●45
●40 ●35 ●30
(28)○ ●25
(23)○ ●20</td><td></td></tr>
<tr><td>50～80
(多い)</td><td> 
 </td><td>80
70
60
50</td><td>●80 ●70 ●60
(56)○ ●50</td><td>繰出し量：標準の２倍</td></tr>
<tr><td>10～20
(少ない)</td><td>標準位置（出荷時）
 
 </td><td> 
駆動ロッド</td><td>20
10</td><td>●20 ●18 ●15
(14)○ ●13
(11.5)○ ●10</td><td>繰出し量：標準の半分</td></tr>
</table>

補　足

＊ 肥料の種類により繰出し量が異なる場合がありますので，実際に繰出しテスト又は，施肥作業を行なって，目標とする施肥量に調節してください。

メインパネルによる異常と処置

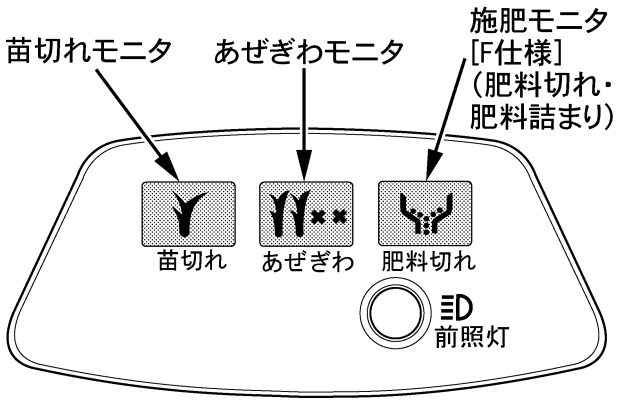
警　告

＊ エンジン回りの点検や処置を行なうときは，エンジンを必ず止めてください。

注　意

＊ エンジン停止直後は，エンジンやマフラにさわらないでください。ヤケドをするおそれがあります。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。
＊ 苗や肥料［F 仕様］を補給するときは，走行を停止して行なってください。

ブザーが鳴り，マスコットランプが点滅し，パネル内のランプが点滅したときは，下表の処置を行なってください。



1AKACAXAP017B

ランプ・計器	警報			現象	処置	参照ページ
	ランプ表示		ブザー			
	メインパネル	マスコット				
あぜぎわモニタ	点滅	点滅	－	● あぜぎわクラッチが切れています。	● あぜぎわクラッチレバーを**［入］**位置にします。	14
苗切れモニタ	点滅	点滅	断続（8 回）	● 苗が残り少なくなっています。	● 苗を補給します。	50
施肥モニタ（肥料切れ）［F 仕様］	点滅［肥料切れランプ］	点滅	断続（8 回）	● 肥料が残り少なくなっています。	● 肥料を補給します。	56
施肥モニタ（肥料詰まり）［F 仕様］	点滅［肥料切れランプ］	点滅	断続（8 回）	● 肥料が詰まっています。	● 作溝器内を確認してセンサに付着している異物を取除きます。また，異物がないときは，コントローラ（感度調整用）を調整します。	57, 80

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡してください。

補　足

＊ 警報ランプは，異常を処置すると消灯します。
＊ 警報ブザーは断続で８回鳴りますが，警報ブザーが鳴っている最中に他にも異常が発生したときは，そのときから断続で８回ブザーが鳴ります。

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

警　告

＊ 平坦で安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

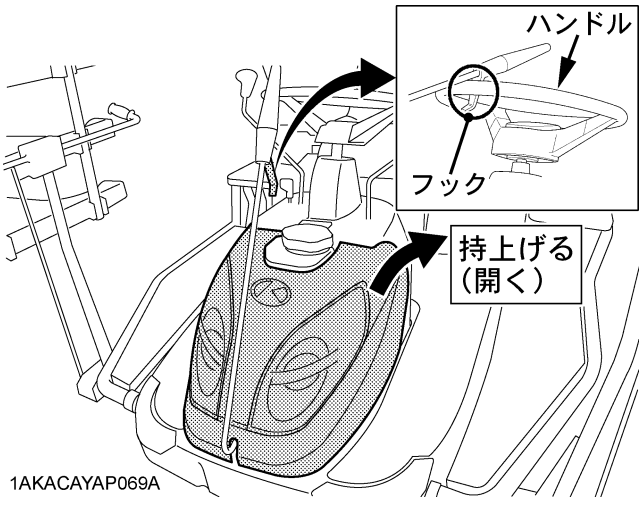
■ボンネットのオープン

注　意

＊ オーバヒートなどでボンネットを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1) 作業を中止する。
(2) エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転したあと，エンジンを停止する。
(3) エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。
(4) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊ エンジンが冷えてないときに，ボンネットを開けると高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

◆ 開きかた

マスコットを前方に倒したあと，持上げると開きます。また，ボンネットを開いた状態で固定するときは，ボンネットをマスコットのフックに引掛けてください。



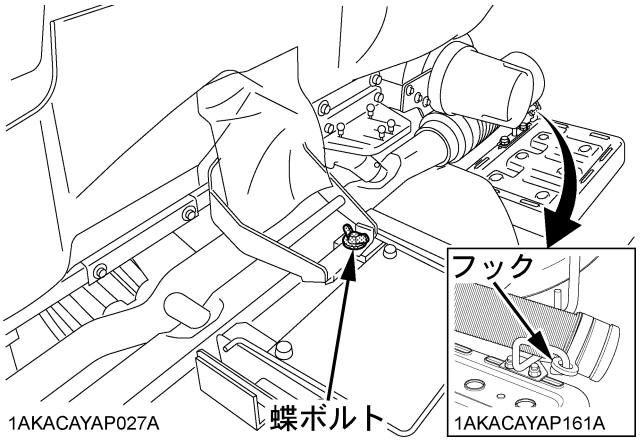
◆ 閉じかた

マスコットのフックからボンネットを取外したあと，閉じます。閉じたときは，カチッと音がします。

■ロール・ブラシの取付け・取外し方法

◆ 外しかた

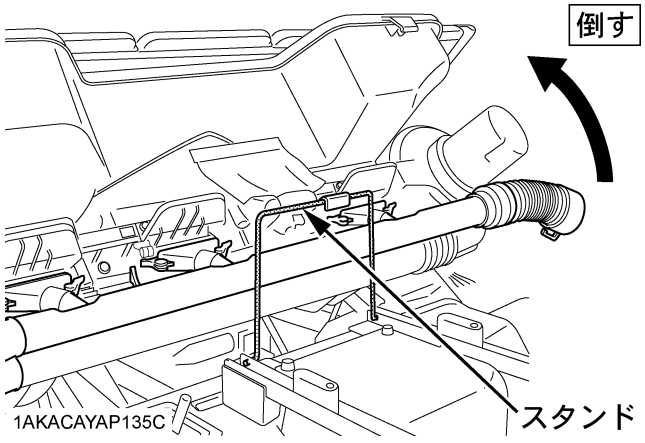
1. ホッパ内の肥料を空の状態にします。またはシャッタを全条閉めます。
2. 植付部を最上昇位置にし，エンジンを停止します。
3. 油圧ロックレバーを**【閉】**にします。
4. 残肥排出ホース先端のフックを金具から外したあと，座席を前に倒して蝶ボルトを外します。



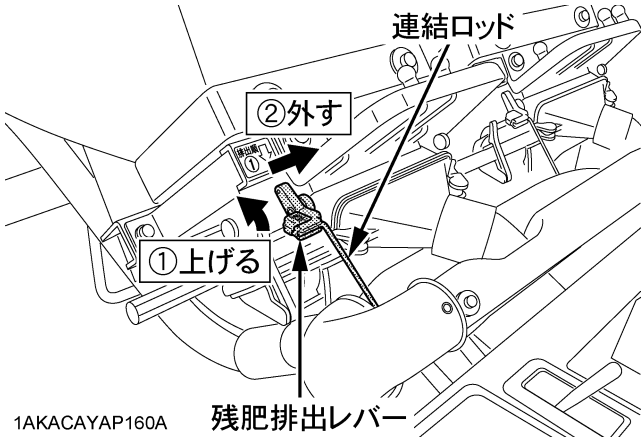
重　要

＊ 外した蝶ボルトは，メンテナンス終了後，必ずしっかりと締付けるようにしてください。緩んでいると，施肥機の破損の原因となります。

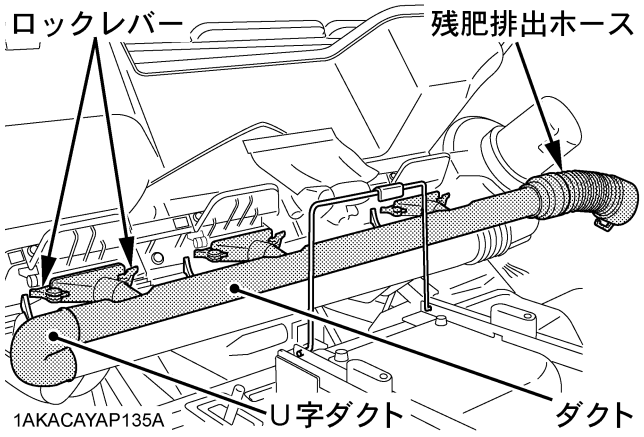
5. 施肥機を後部へ倒し，スタンドで固定します。



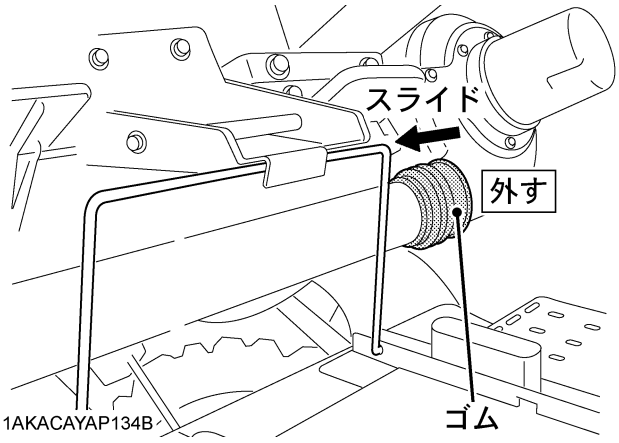
6. 残肥排出レバーとダクト開閉弁との連結ロッドをスライドさせて外します。(連結ロッドは残肥排出レバー側を少し持ち上げ，連結ロッドを機体中央方向にスライドさせて外します。)



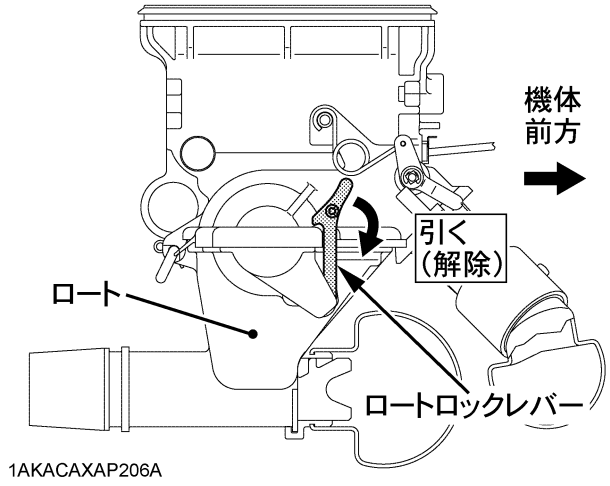
7. U 字ダクト，左，右 6 箇所のロックレバーを引き，残肥排出ホースごとダクトを取外します。



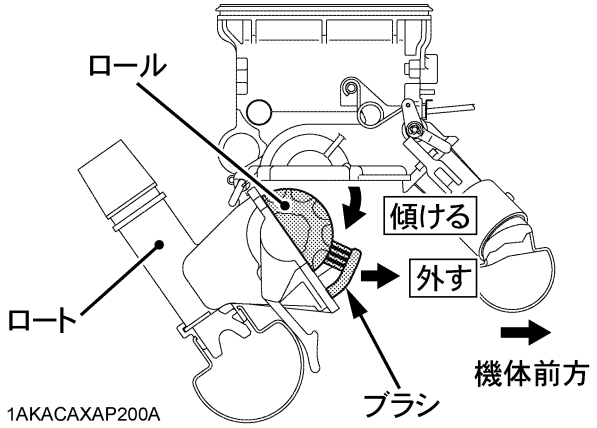
8. ブロワのゴムをスライドさせて外します。



9. 左，右 6 箇所のロートロックレバーを引き，ロックを解除します。



10. ロートを下図のように傾けて，ブラシ・ロールを取出します。



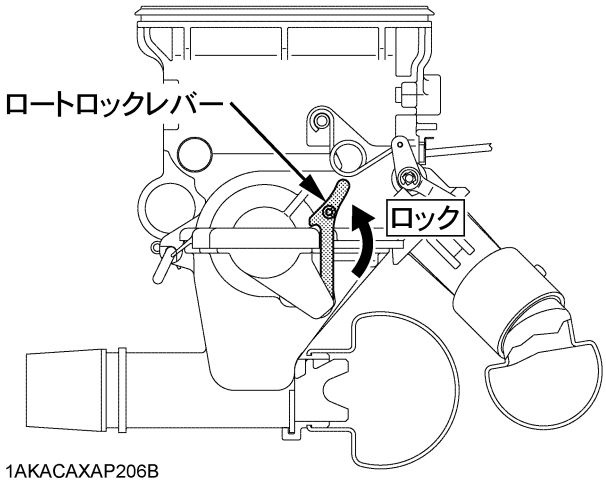
◆ 取付けかた

1. ロートにロールとブラシを取付けます。

補　足

＊ 1 条用と 2 条用のロールに注意してください。(102 ページ参照)

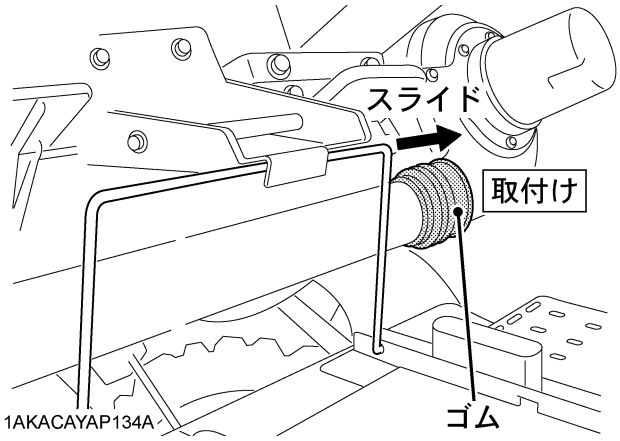
2. ロートをロールケースに取付けます。
   (1) ロートをロールケースに取付けたあと，左，右 6 箇所のロートロックレバーを上げてロックします。



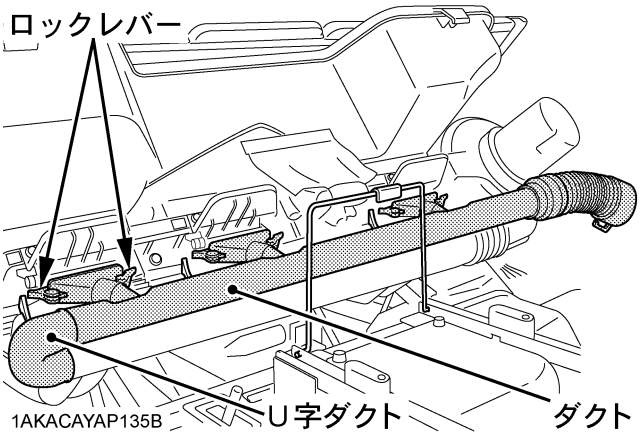
補　足

＊ ギヤがかみ合わずロールケースがロックできないときは，ロールを少し動かしてギヤをかみ合わせてください。
＊ 各ロールを取付けるときは，必ずそれぞれ取外したところへ取付けてください。

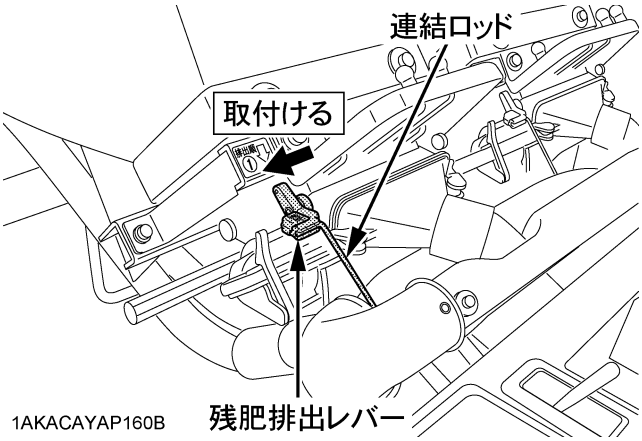
3. ブロワのゴムをスライドさせて取付けます。



4. ダクトを取付け，左，右６箇所のロックをし，U 字ダクトを取付けます。



5. 残肥排出レバーにダクト開閉弁との連結ロッドを横からスライドさせながら取付けます。



6. スタンドを外して施肥機を元の位置に戻し，蝶ボルトを締めます。
7. 残肥排出ホース先端のフックを金具に取付けます。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警　告

＊ エンジンを必ず止めてください。
＊ 取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。

注　意

＊ 植付部を上げた状態で作業するときは，油圧ロックレバーで下降防止をしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ 空運転するときには必ず植付部を上昇させてください。
＊ オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
＊ 植付爪の爪先には注意してください。

■掃除のしかた

１日の作業が終わったあとは，各部の泥やゴミ，施肥部の掃除 **[F 仕様]** を必ず行なってください。

重　要

＊ ボンネット内部や運転席下部の電装品には水を掛けないでください。故障の原因となります。
＊ 取外したボルト，ナットは，必ず締付けてください。
＊ 肥料にはサビを発生させる成分が含まれているため，１日の作業が終わったあとは肥料を排出して水洗いをじゅうぶん行なってください。特にエア抜き，植付けフレーム，リンク支点，植付けケース各周辺（80 ～ 82 ページ参照）は必ず行なってください。

◆ 施肥部［F 仕様］

重　要

＊ シャッタに肥料が付着した状態で長時間放置すると錆が発生したりして破損するおそれがありますのでロールケース内の肥料は必ず排出し，掃除を行なってください。
＊ 水洗い後すぐに作業しないでください。詰まりや施肥異常の原因になります。
＊ 施肥部を高圧水で洗浄しないでください。ゴム部のすき間から水が入り，詰まりの原因になります。

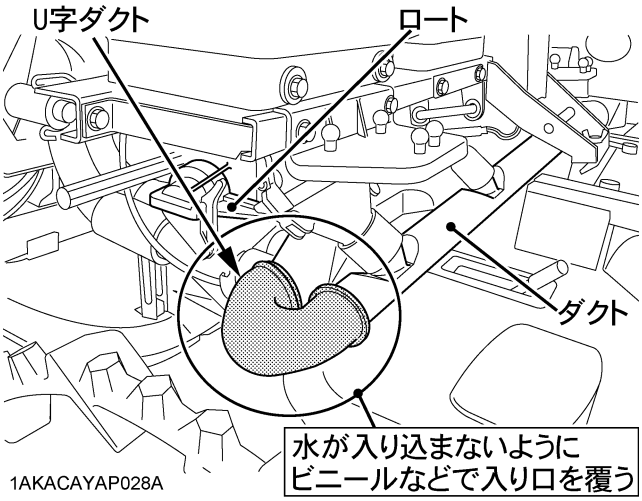
1. ホッパ内，ロールケース内のロールやブラシ，ロートの肥料を取除き，湿っているときは，乾いた布などでふき取ってください。
2. ホッパ，ロールケース，ロート内部を水洗いするときは必ずロートを開き，ロール，ブラシを取外してブロワ内に水が入らないようにしてください。

重　要

＊ ブロワ内に水が入ると，モータに錆が発生し故障するおそれがあります。

［水洗いのしかた］

(1) ロートを開き（下側に傾ける）ます。(78 ページ参照)
(2) 水が入り込まないようにビニールなどで U 字ダクトの入口を覆います。
(3) 水洗いをします。



(4) 水洗い後は施肥部（ホッパ，ロールケース内のロール，ブラシ，ダクト）をよく乾燥させてください。

重　要

＊ 乾燥させないと肥料が残り固着して，施肥ムラや詰まりの原因となります。

補　足

＊ 中央部のロートは，肥料の粉が特にたまりやすいので必ず掃除してください。また，水洗いを行なったときは，ロート，ブラシを必ず乾燥させてください。

3. ブラシは毛の間にはさまった肥料を取除き，お湯で洗ったあと，水分をふき取り乾燥させてください。

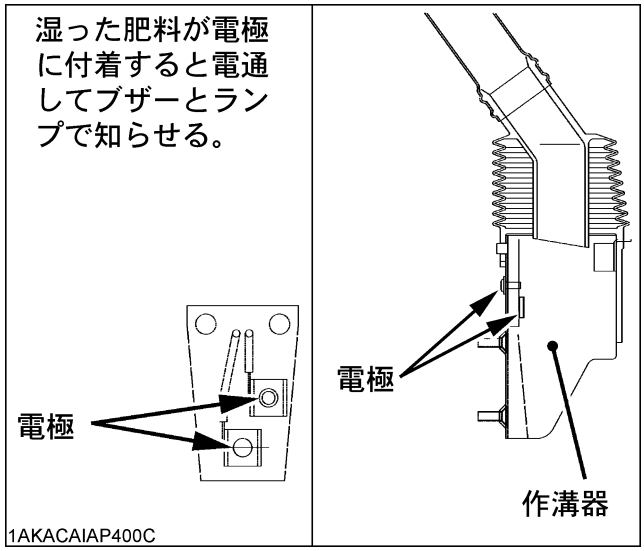
重　要

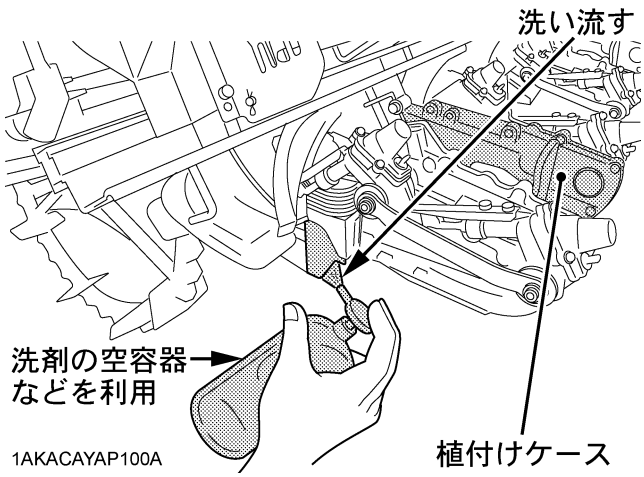
＊ ブラシを乾燥させるとき，直接太陽光があたらないようにしてください。ブラシが変形するおそれがあります。

4. 作溝器や詰まりセンサ部の泥や水はよく取除いてください。

補　足

＊ 洗剤の空容器などを利用して水を入れ，電極部分などに付着した肥料を洗い流してください。（ホース内はぬらさないこと）



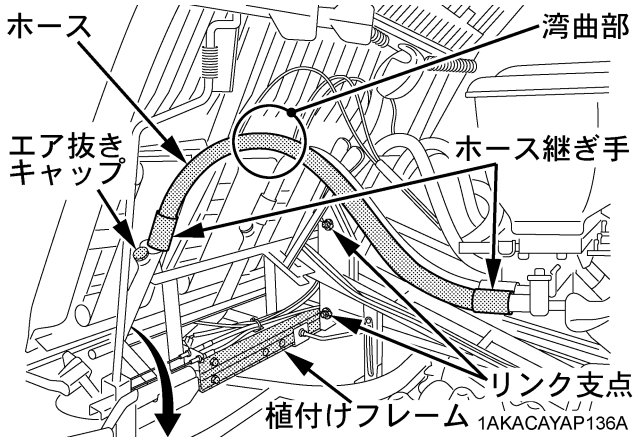


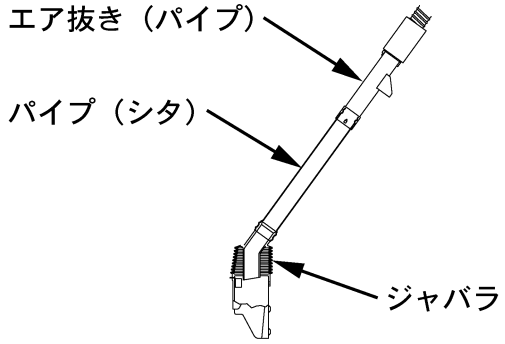
＊ ホースの中も同時に掃除してください。

5. 各パイプ（シタ）の掃除をするときは，エア抜き（パイプ），パイプ（シタ），ジャバラをセットした状態で外してください。掃除が終わったあとは，必ず取付けてください。

重　要

＊ エア抜き（パイプ），パイプ（シタ），ジャバラを分解しないでください。破損するおそれがあります。





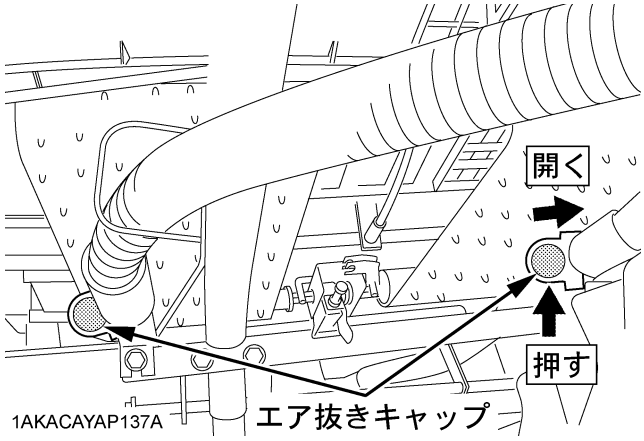
補　足

＊ 湾曲部を上側にして取付けてください。

6. エア抜きキャップ下側の出口に付着している肥料を取除いてください。（全条分）

補　足

＊ キャップを奥に押してから開いてください。



■注油のしかた

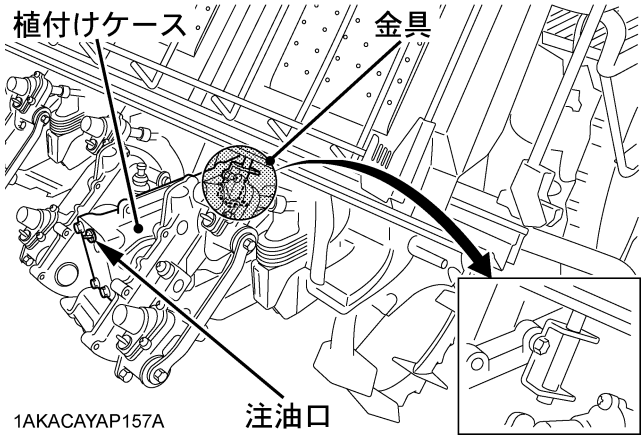
機体各部の掃除が終わったあと又は，田植作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布又は，注入を行なってください。

補　足

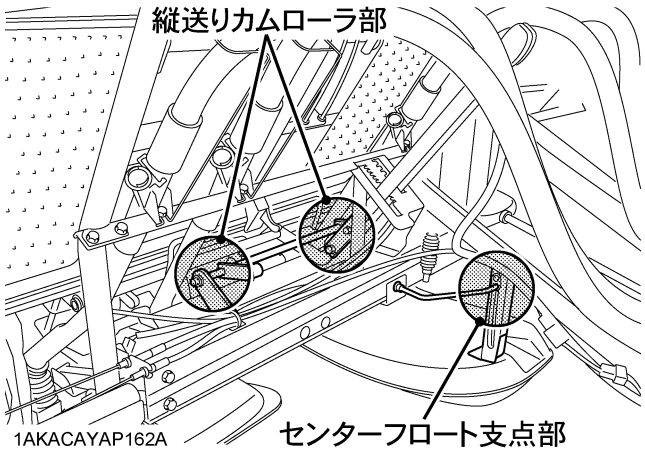
＊ 注油やグリース塗布をする前に，水が付着しているときは，ふき取って行なってください。

◆ 注油，グリース塗布・注入箇所

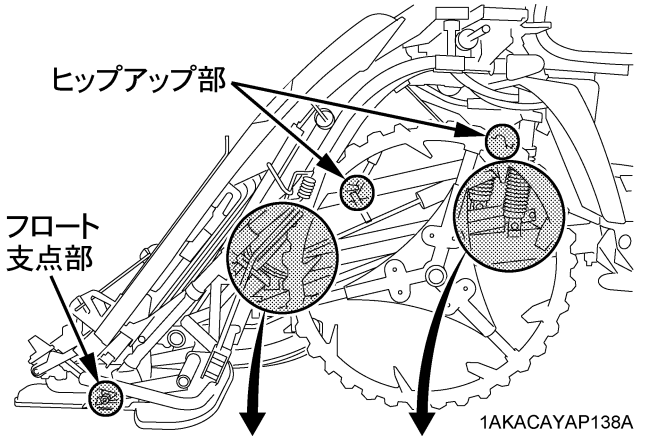
● 植付けケース（補給）と金具（グリース塗布）

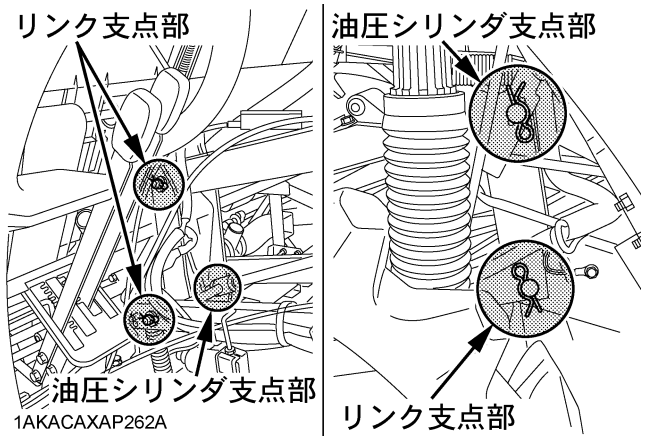


- **縦送りカムローラ部（グリース塗布）**
- **センターフロート支点部（グリース塗布）**

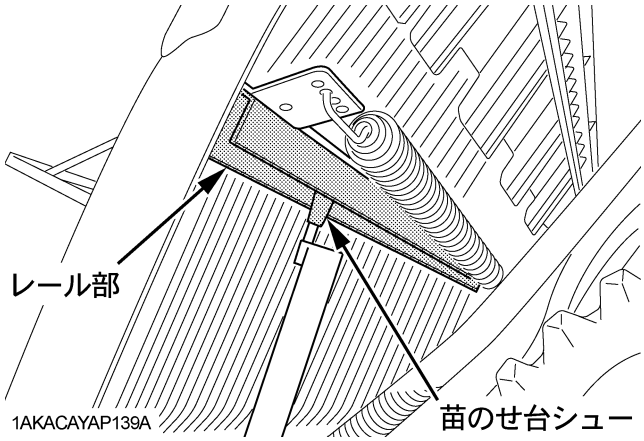


- **油圧シリンダ支点部（グリース塗布）**
- **リンク支点部（グリース塗布・注入）**
- **プロペラシャフト接続部（グリース塗布）**
- **フロート支点部（注油）**

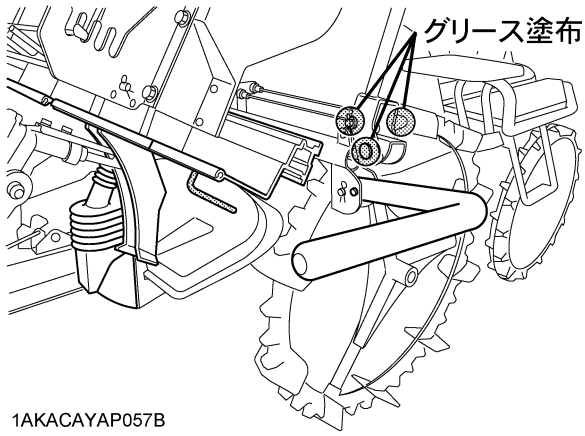




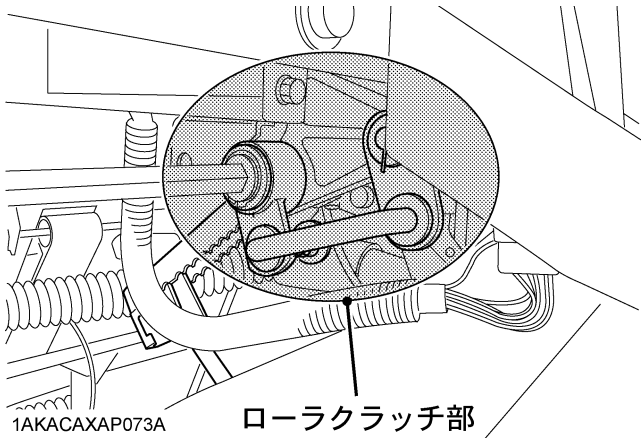
- **苗のせ台シュー・レール部（グリース塗布）**



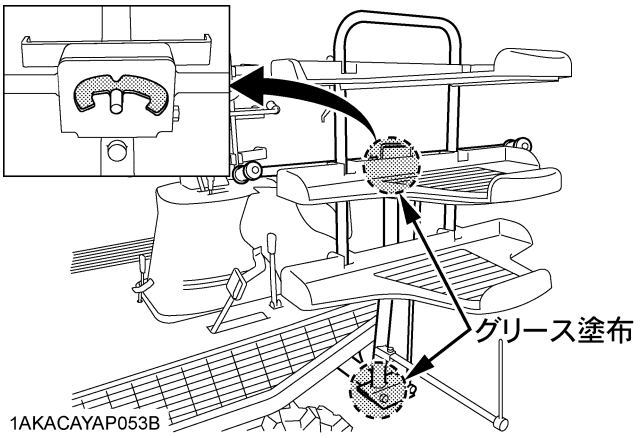
- **マーカロック部**



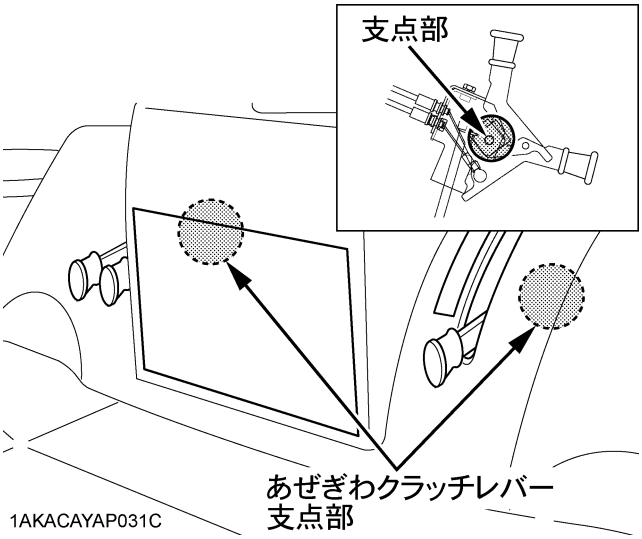
- **ローラクラッチ部（グリース塗布）[F 仕様]**



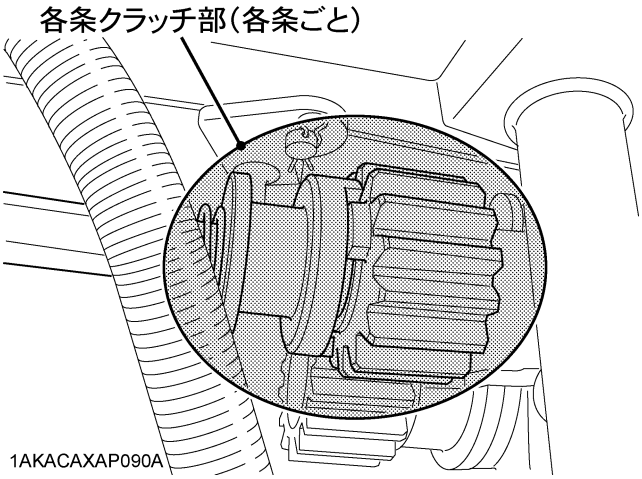
● **予備苗台支点部（グリース塗布）**



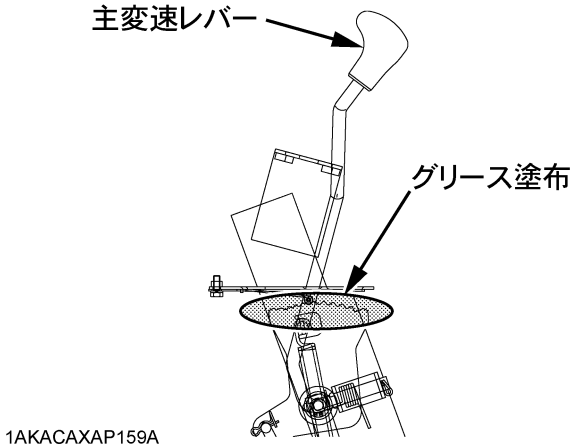
● **あぜぎわクラッチレバー支点部（注油）**



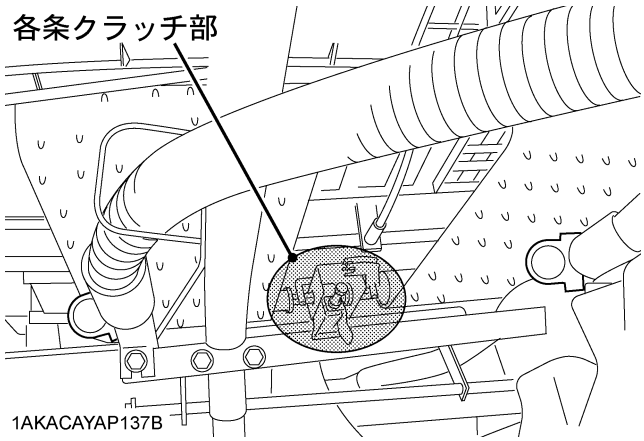
● **各条クラッチ部（グリース塗布）[F 仕様]**



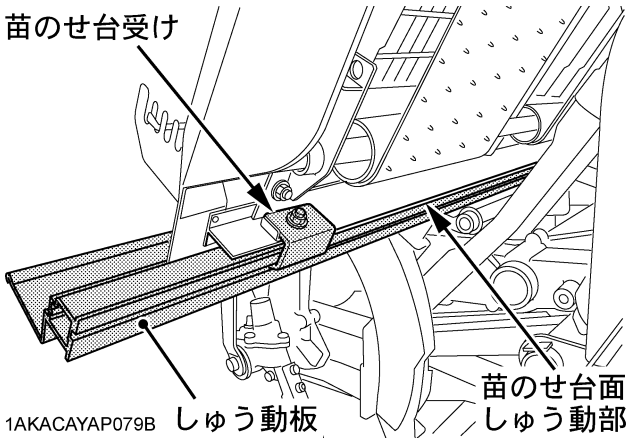
● **主変速レバー支点部**
デテント部（グリース塗布）



● **苗のせ台縦送り各条クラッチ部**
（各条ごとにグリース塗布）



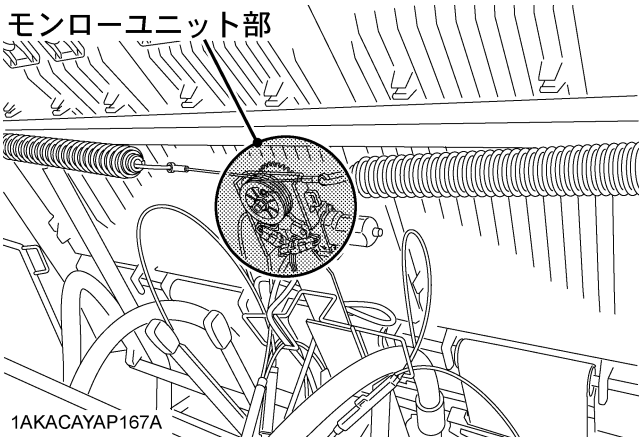
● **苗のせ台受け・しゅう動板（グリース注入）**
● **苗のせ台下面しゅう動部（オイル注入）**



補　足

＊ 苗のせ台下面しゅう動部のスポンジにオイルを浸み込ませます。

● **モンローユニット部（グリース塗布）**



定期点検

定期点検は，田植作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
田植作業は，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいては田植機の寿命を短くしてしまいます。
田植機の持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警　告

＊ 各部の点検・調整・交換作業を行なうときは，平坦な場所で駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めて，各レバー類を［切］位置にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込まれるおそれがありますので，点検後はカバー類を必ず取付けてから作業をしてください。
＊ 燃料の補給中やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁

注　意

＊ 各部の点検・調整・交換作業を行なうときは，平坦な場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。
＊ 植付部を上げた状態で作業を行なうときは，油圧ロックレバーで油圧をロックし，植付部の下降防止を行なってください。
＊ ボンネットを開けるときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイルの補給中は火気厳禁。
＊ 燃料やオイルがこぼれたときは，きれいにふき取ってください。

補　足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先にご相談ください。
＊ 点検・交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早めの点検をお願いします。

■廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

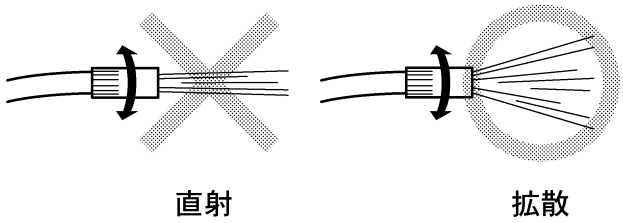
■洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注　意

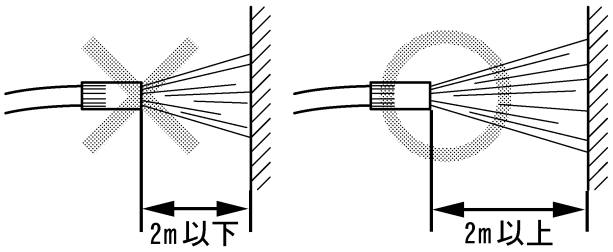
機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内等への浸入による故障
(3) タイヤ,オイルシール等のゴム類，樹脂部品，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。

- コントローラ（マイコン）や電気系統（自動制御関係）の機器や部品
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ(ベベルギヤを含む)を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 植付部の動力系統

■定期点検一覧表

○：点検と調整　△：交換　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目	点検・処置	点検・交換時期									対象型式・仕様	参照ページ
		作業前後	シーズン前後	35時間	50時間	100時間	150時間	200時間	1年ごと	2年ごと		
エ ン ジ ン 部												
燃料フィルタポット（燃料フィルタ）	掃除・洗浄		○								全型式	93 ☆
エアクリーナエレメント	掃除	○：50時間ごと（日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除） △：汚れがひどいとき									全型式	94 ☆
点火プラグ	掃除					○					全型式	94 ☆
	すき間調整	○：200時間ごと										
気化器（キャブレタ）	掃除	○：エンジン不調時など									全型式	☆
燃料タンクの燃料こしあみ	掃除		○								全型式	90 ☆
燃料パイプ	バンド締付け	○								△	全型式	95 ☆
		（作業前後点検し，燃料もれしているときは締付けバンドの締付け又は，交換）										
走 行 ・ 操 作 部												
ミッションオイルフィルタカートリッジ	－				▲		△				全型式	97 ☆
ミッション駆動ベルト	－	△：摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れが発生したとき									全型式	96 ☆
タイヤ	点検	○									全型式	97 ☆
		△：8mm以上摩耗したとき										
エアタイヤの空気圧	調整	○									**オプションタイヤ**	98 ☆
植 付 部												
植付爪	点検	○									全型式	98
		△：3mm以上摩耗したとき（植付時に苗取りができないとき）										
押出金具	点検	○									全型式	98 ☆
		△：破損や変形がひどいとき（うき苗，ころび苗，ばらけ苗が発生）										
縦送りベルト	掃除	○									全型式	☆
		△：破損や摩耗がひどいとき										
しゅう動板・苗のせ台受け	点検	○									全型式	101 ☆
		△：1mm以上摩耗したとき										
各ワイヤ	調整	○									全型式	☆
施 肥 部												
施肥ブラシ	点検	○									**F仕様**	102
		△：摩耗がひどいとき										
ホース	点検	○									**F仕様**	80 ☆
		△：破損時										
ロート・ロール	掃除	○									**F仕様**	102
駆動部（ワンウエイ）	点検	○									**F仕様**	☆
		△：施肥量が極端に少なくなったとき										

○：点検と調整　△：交換　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目	点検・処置	点検・交換時期									対象型式・仕様	参照ページ
		作業前後	シーズン前後	35時間	50時間	100時間	150時間	200時間	1年ごと	2年ごと		
電　装　部												
バッテリ	充電	○：セルモータが回りにくい，ライトが暗いときなど △：バッテリ上り（セルモータが回らない）とき									全型式	103 ☆
ワイヤハーネス・バッテリコード	点検	○									全型式	105 ☆
		△：破損時										
ヒューズ・スローブローヒューズ	－	△：破損時（ヒューズ切れ）									全型式	105 ☆
ランプ（電　球）	－	△：破損時（球切れ）									全型式	106

＊ 参照ページに☆印のある整備項目の交換については，購入先に連絡又は，整備工場で行なってください。

補　足

＊ 上表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって，消耗部品の調整や交換時期は異なります。

＊ 使用時間については，**主要諸元の作業能率**を参照して確認してください。

■給･注油（水）点検一覧表

種類	点　検　箇　所	処置	点検・交換時期		容量・規定量 (L)	種　類	参　照 ページ
			点　検	交　換			
燃料	燃料タンク	給油	作業前 又は, 作業後	―	●容量…8.6	自動車用 無鉛ガソリン	90
オイル	エンジン	補給・交換		●初回 …20 時間目 ● 2 回目以降 …100 時間ごと	＊規定量 オイルゲージの **下限と上限の間**	クボタ純オイル スーパー G 10W-30 又は, API 分類 SE 級以上	91
	ミッションケース	補給・交換	作業前 又は, 作業後	●初回 …50 時間目 ● 2 回目以降 …100時間ごと または３年 経過後	＊規定量 オイルゲージの **下限と上限の間** ●容量…7.0 **【NSU50】** …8.5 **【NSU60】**	クボタ純オイル スーパー UDT 又は, NEW UDT	92
	植付ケース	補給	作業 シーズン 前, 後	●初回 …50 時間目 ● 2 回目以降 …100 時間ごと	＊規定量 200 ～ 250cc		☆ 82
水・液	バッテリ液	補水	作業 シーズン 前, 後	―	＊規定量 バッテリ側面 **UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限） の間**	精製水	103
グリース	植付アーム	補給	作業 シーズン 前, 後 及び 50 時間ごと	―	適量	新日本石油 G574	☆
	横送りコマのホルダ		作業 シーズン 前, 後			クボタ スペア グリース	
	モンローユニット部						
	ローラクラッチ部 **【F 仕様】**						

＊ 参照ページに☆印のある整備（分解作業）については，購入先に連絡してください。

重　要

各部への補給と交換

＊ 点検するときは，機械を平たんな場所において行なってください。
傾いていると正確な量を示しません。
＊ エンジンオイル量の点検は，エンジン停止後，５分以上経過してから行なってください。
＊ ミッションケースは，使用開始から 50 時間に満たない場合でも，３年経過後オイル交換をしてください。
＊ 使用するオイル・グリースは，指定のクボタ純オイル・スペアグリースを使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

補　足

使用時間については，**主要諸元の作業能率**を参照して確認してください。

■燃料･オイルの点検･補給･交換

警　告

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ エンジン停止直後は，エンジン回りや各部オイルが熱くなっているため，引火火災やヤケドをするおそれがあります。

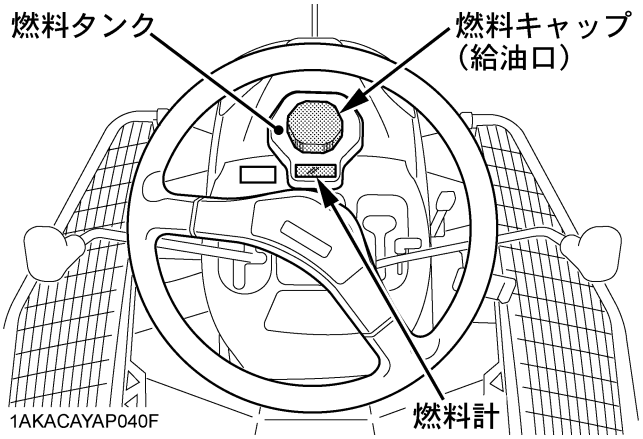
重　要

＊ 補給・交換を行なうときは，機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
- 廃油は使用しないでください。
- 給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
- 使用するオイルは**クボタ純オイル**を使用してください。

＊ 点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

■燃料

燃料計の表示が**[E]**（空）に近づいたら早めに燃料を補給してください。

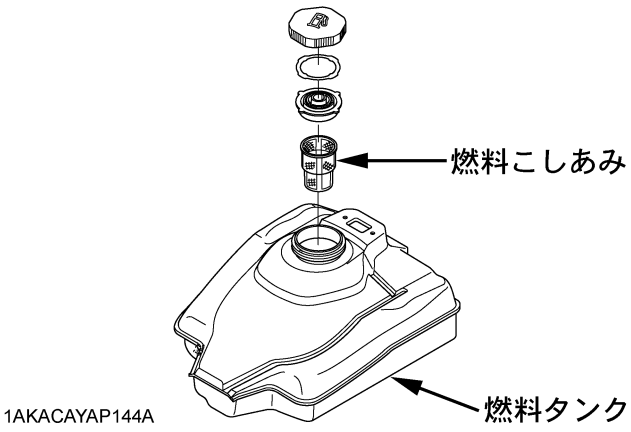


重　要

＊ 燃料は，自動車用無鉛ガソリンを必ず使用してください。また，下記のような燃料は使用しないでください。エンジンがかからなかったり，エンジンの不調や故障の原因になります。
- 燃料タンク内に１ヵ月以上放置した燃料
- 樹脂製タンクに長期間保管した燃料
- ゴミや水など異物の混ざった燃料
- 変色のひどい燃料
- くさった古い燃料
(昨年使用した燃料はなるべく新しい燃料に交換してください。)

＊ １ヵ月エンジンを始動しないと，燃料は変質し，エンジントラブルの原因となります。

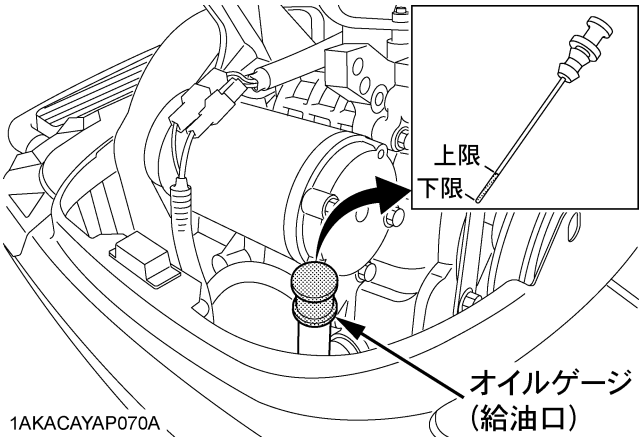
＊ 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。



■エンジンオイル

◆ 点検・補給

ボンネットをオープンしたあと，オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



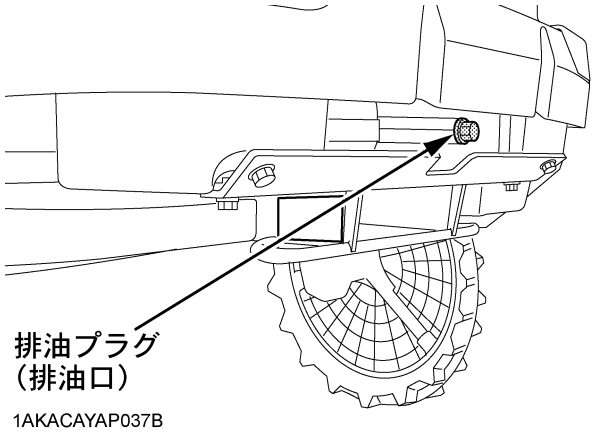
◆ 交換

● 排油のしかた

注　意

＊ マフラやエンジンオイルがじゅうぶん冷えてからオイルを排出してください。

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。



● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，オイルゲージを差込んでください。

重　要

＊ 指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。

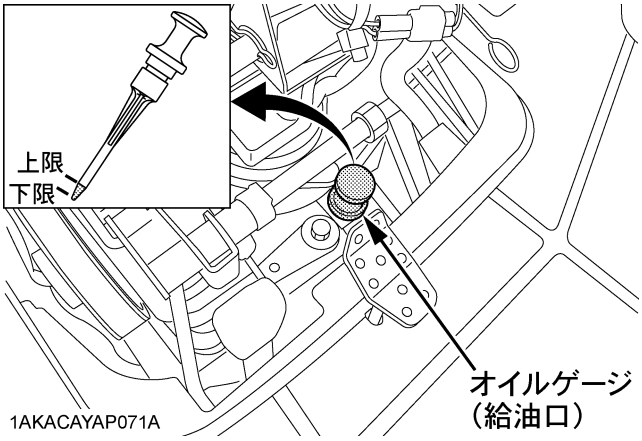
オイルの種類	オイル量
クボタ純オイル スーパー G 10W-30	1 L

＊ クボタ純オイルの入手が困難な場合は，API 分類 SE 級以上のオイルをお使いください。

■ミッションオイル

◆ 点検・補給

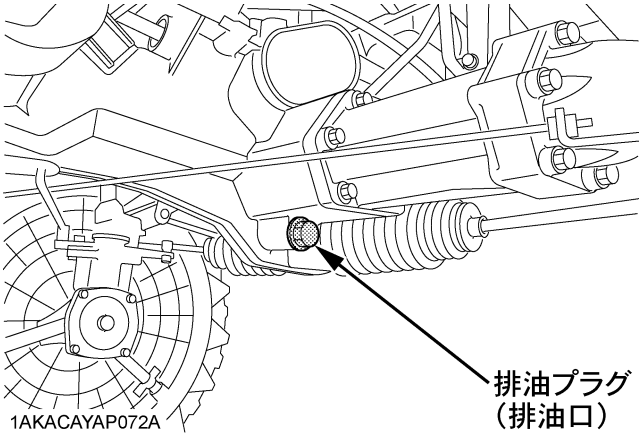
植付部を下降させたあと，副変速レバーを**［圃場作業］**位置にします。そのあと，ボンネットを開けて固定し，ボンネット（R）を取外し，その中にあるオイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込み，いっぱいまで押込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



◆ 交換

● 排油のしかた

オイルゲージを外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。



● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，オイルゲージを差込んでください。

オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT 又は，NEW UDT	7 L［NSU50］ 8.5L［NSU60］

重　要

＊ 給油したあとエンジンを約１分程度回転させて再度点検を行ない，不足しているときはオイルを追加補給してください。

■燃料フィルタポットの点検・掃除

掃除は燃料を給油する前に行なってください。

警　告

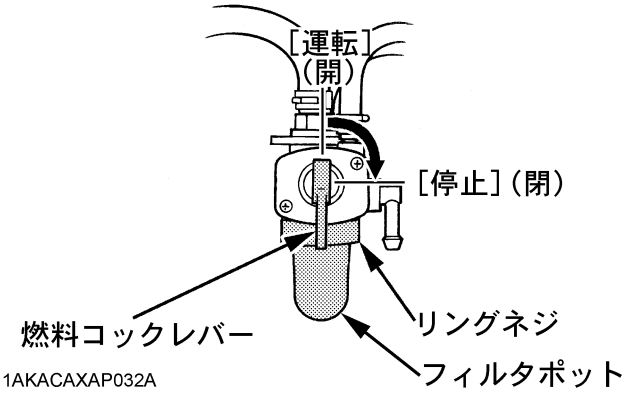
＊ 点検・掃除中は火気厳禁です。

重　要

＊ 燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタのエレメントの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなります。
＊ フィルタポット下部に水が溜まっているときは，早目に掃除又は交換してください。

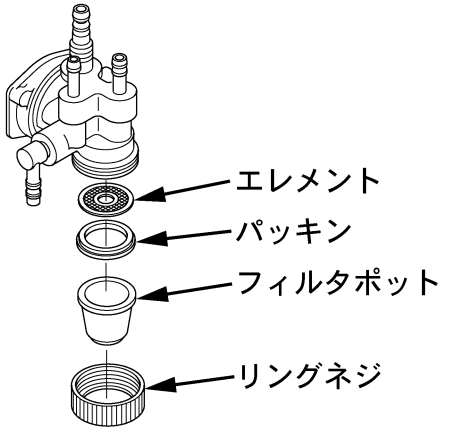
◆ 点検・掃除

1. 燃料コックレバーを**［運転］（開）**位置から**［停止］（閉）**位置にします。



1AKACAXAP032A

2. リングネジをゆるめてポットを外します。
3. エレメントを取出してガソリンで洗浄（すすぎ洗い）をします。このとき，汚れのひどい場合は交換してください。



1AKACAYAP145B

重　要

＊ エレメントやパッキンは傷つけないようにしてください。また，失くさないでください。
＊ 汚れ（目詰まり）がひどい場合は，充分洗浄を行なわれないと短時間で目詰まりします。

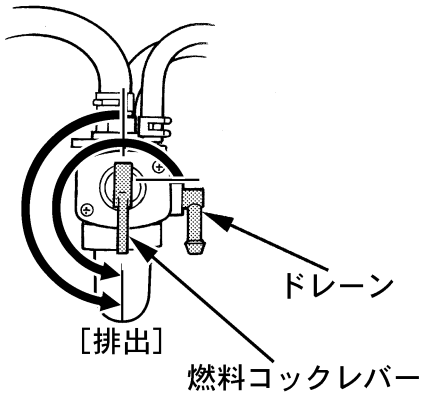
4. パッキンやエレメントにゴミが付着しないように元通りに組付けます。

重　要

＊ ゴミが燃料内に混入すると，故障の原因となります。

補　足

＊ 長期格納時，燃料コックレバーを**［排出］**位置にすると，ドレーンからキャブレタ内と燃料タンク内の燃料を排出します。



1AKACAXAP032B

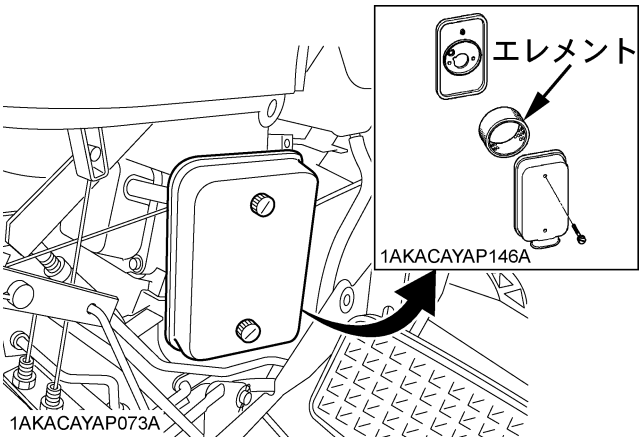
■エアクリーナエレメントの点検･掃除

重　要

＊ エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。

◆ 点検・掃除

1. ボンネットをオープンしたあと，２箇所の止め金具を外して，エアクリーナのカバーを取外します。
2. エレメント（スポンジ）を取外し，**灯油**又は，**家庭用洗剤**で洗浄（もみ洗い）をします。このとき，汚れや破損のひどい場合は交換してください。
3. エレメント（スポンジ）を乾燥させます。
4. エンジンオイルに浸して固く絞ってから取付けたあと，エアクリーナのカバーを取付けます。



■点火プラグの点検･掃除･調整

注　意

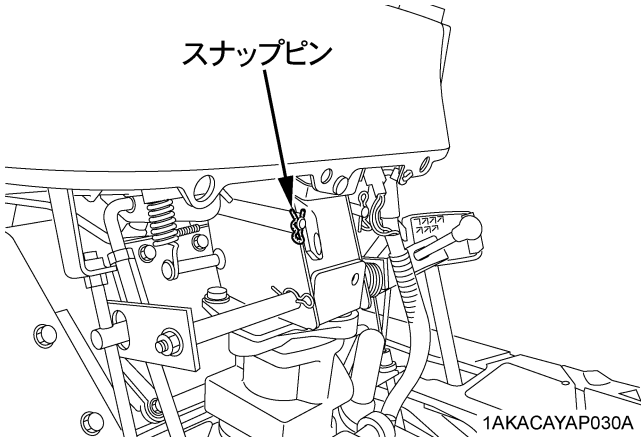
＊ 点火プラグの取外しは，エンジンが冷えた状態で行なってください。

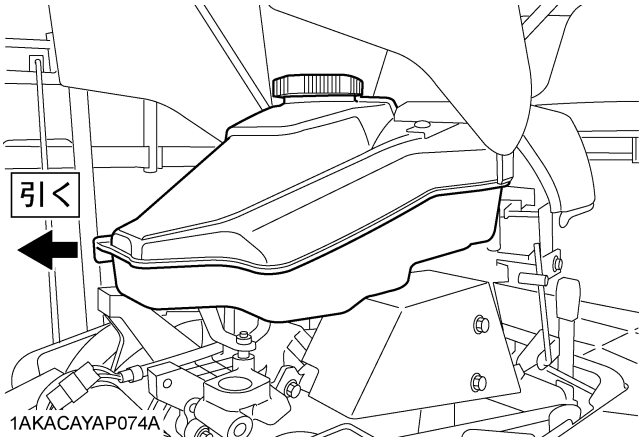
重　要

＊ 点火プラグの電極が溶けて，すき間が広がったり，カーボンが付着したり，碍子（ガイシ）部が損傷するとエンジンの不調の原因となります。

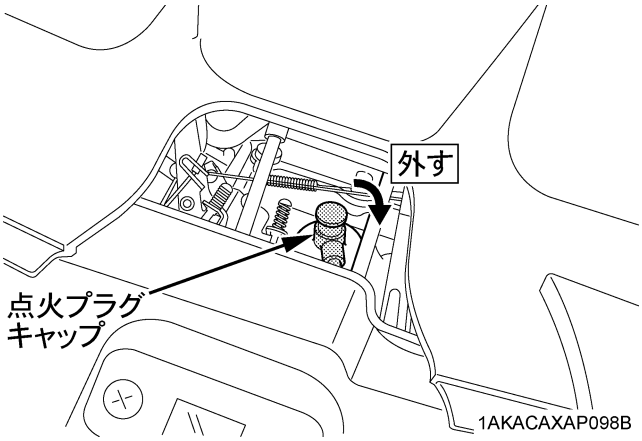
◆ 点検・掃除・調整

1. ボンネットをオープンしたあと，リヤーカバーを外します。
2. スナップピンを外して燃料タンクを手前にずらします。

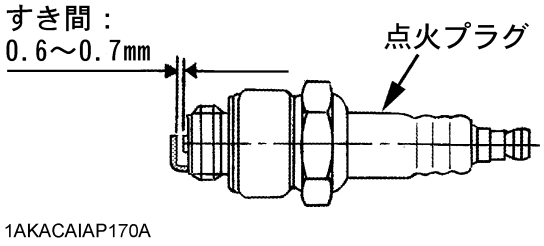




3. 点火プラグのキャップを外します。
4. ボックススパナでプラグを取外します。



5. ワイヤブラシで電極の汚れやカーボンを落として掃除したあと，電極のすき間を確認し，異常があれば，すき間調整又は，点火プラグの交換を行ないます。すき間は，0.6 ～ 0.7mm に調整します。



重　要

＊ 点火プラグを交換するときは，必ず同じ型式のものを使用してください。異なったプラグを使用すると，失火や始動不良を起こすおそれがあります。

点火プラグ型式	数　量	型　式
BPR5ES (NGK)	1	NSU50,60

■パイプ･ホース類の点検･交換

注　意

＊ 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆ 点検

エンジン，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重　要

＊ 油もれや水もれをしていなくても，**２年経過しているときや劣化の激しい場合**は交換してください。

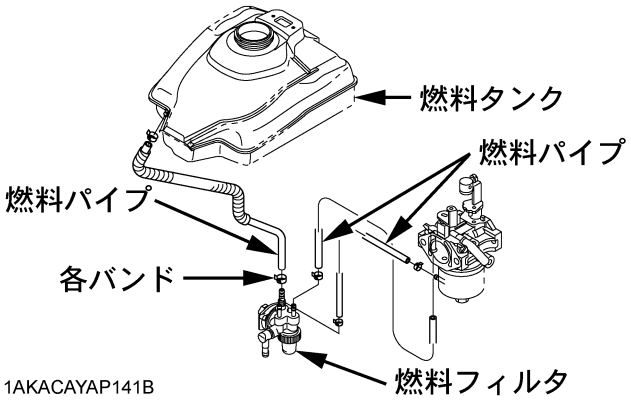
◆ 交換

交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ，締付不足がないよう取付けてください。

重　要

＊ 交換時にパイプなどにゴミが入らないように注意してください。

● 燃料パイプ

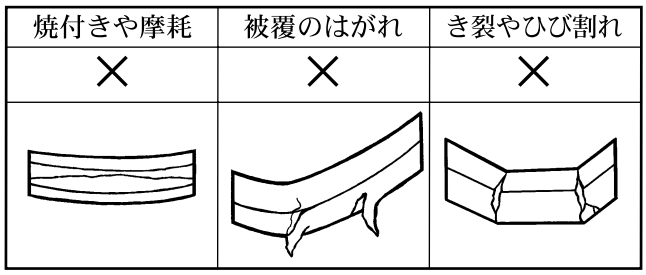


■ミッション駆動ベルトの点検

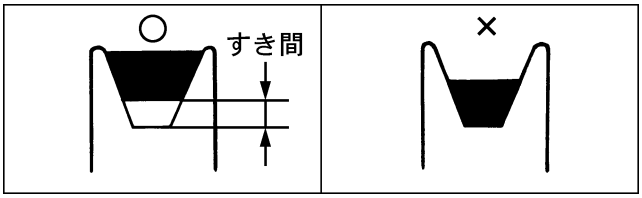
◆ 点検

ベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

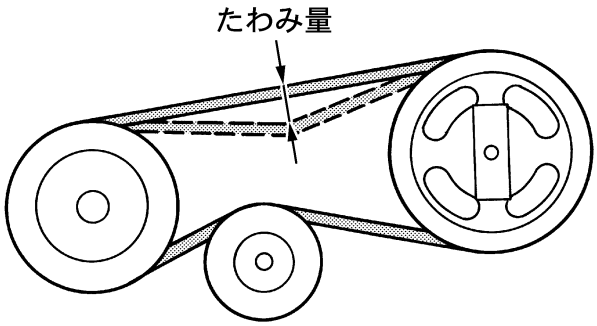
1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ



2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間

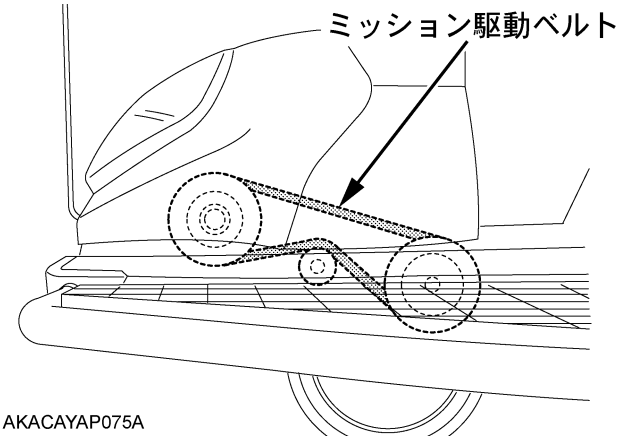


3. ベルトの伸び（たわみ量）



1AKACAIAP171A

上記の事項を確認したとき，異常があれば購入先へ連絡してベルト交換を行なってください。



1AKACAYAP075A

重　要

＊ ベルトは必ずクボタ純正のものを使用してください。

■ミッションオイルフィルタカートリッジの交換

◆ 交換

1. 植付部を降ろします。
2. ミッションオイルを排出します。
   （**ミッションオイルの交換**の項参照）
3. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

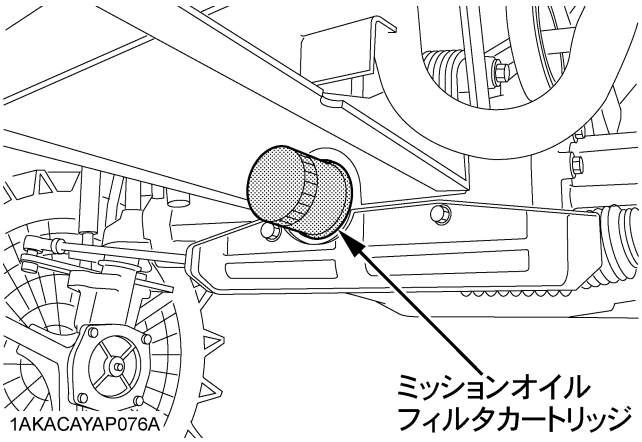
補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

4. 新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
5. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。

補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけミッションオイルの油面が下がります。



重　要

＊ ミッションオイルを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，ミッションの故障の原因となります。
＊ 給油したあとエンジンを約 1 分間以上負荷をかけずに回転させて，オイルゲージで点検を行ない，下限より少ないときは，オイルを追加補給してください。

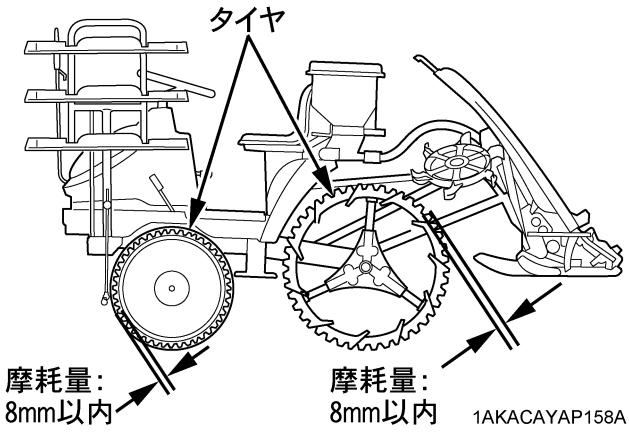
■タイヤの点検

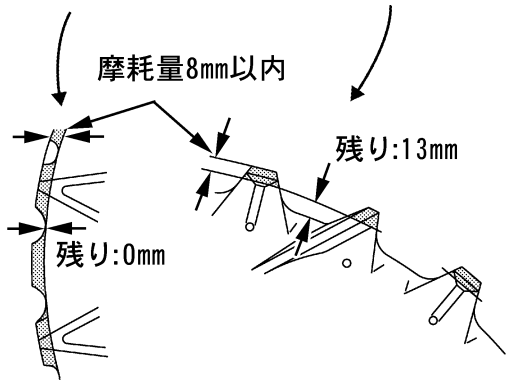
警　告

＊ タイヤが摩耗するとスリップを起こしやすくなるため，あゆみ板の上などで脱輪して転倒するおそれがあります。

◆ 点検

前輪・後輪共にタイヤの摩耗や破損（ひび割れなど）を点検し，８ ㎜ 以上摩耗している場合や，破損がひどい場合は，購入先に連絡して交換してください。



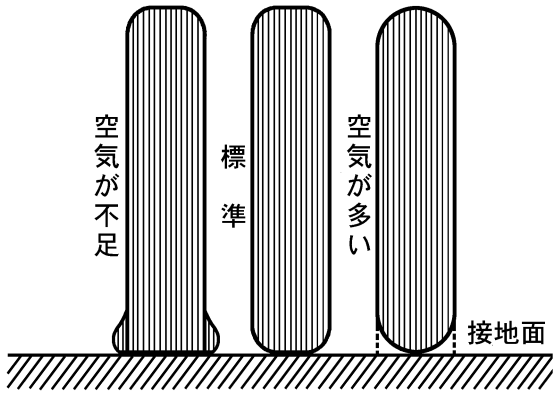


■タイヤ空気圧の点検・調整［オプションタイヤ］（後輪）

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は,使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

タイヤの空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。



1AKACAIAP175A

◆ 標準空気圧

空　気　圧	314kPa(3.2kgf/cm²)

重　要

＊ 自動車と違い，タイヤチューブの容量が小さいので，空気圧は絶えず点検してください。
＊ 空気が不足するとパンクの原因になります。

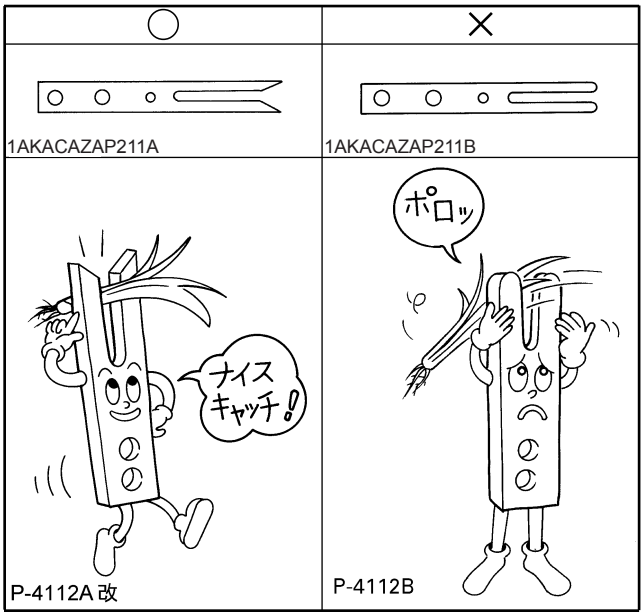
■植付爪･押出し金具の点検･調整･交換

警　告

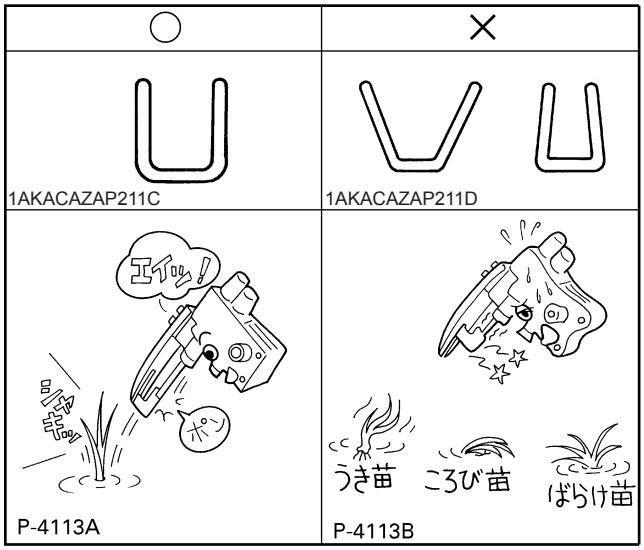
＊ 植付爪に接触すると手を傷つけるおそれがあるので，植付爪の交換・調整・清掃，苗取出し口の異物の除去，残り苗の取出しなどを行なうときは，エンジンを必ず止めてください。

植付爪が摩耗や破損すると，苗の取出しができなくなるためり，押出し金具が変形や破損をすると，うき苗・ころび苗・ばらけ苗などの植付不良となりますので，定期点検をよく行なってください。

● 植付爪

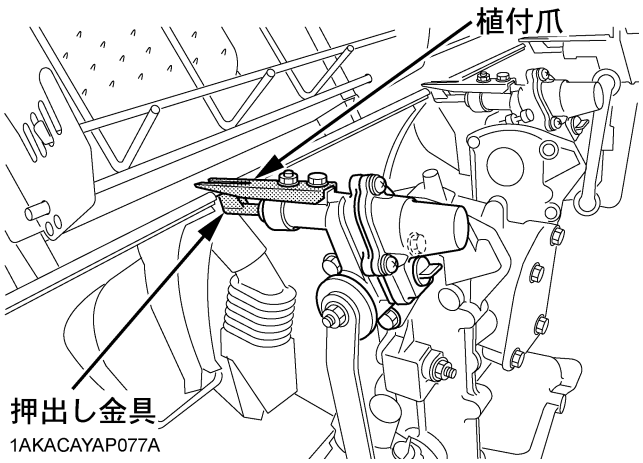


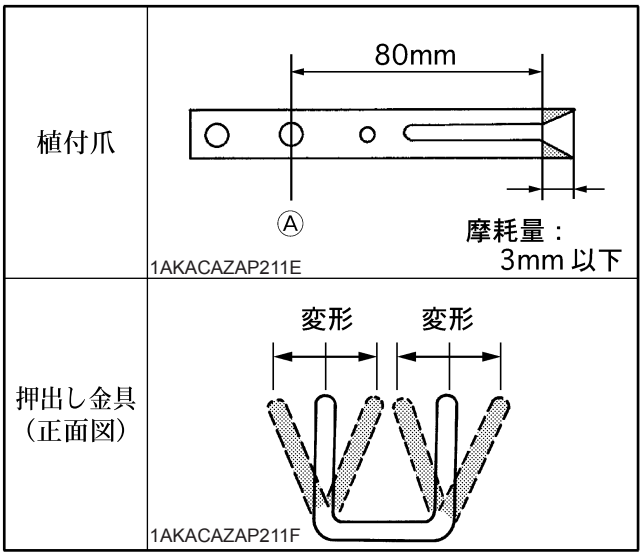
● 押出し金具



◆ 点検

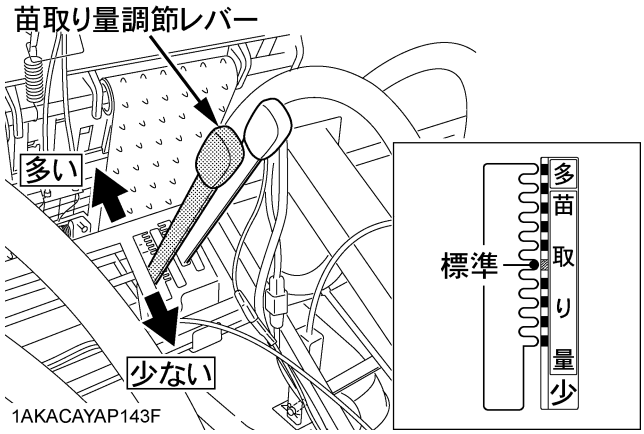
1. 機体を平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
2. 植付爪の摩耗状態や押出し金具の変形状態を確認します。
3. 植付爪の摩耗状態が３ ㎜ 以内のときは，苗取りゲージで高さ調整を行ない，３ ㎜ 以上（A 位置から残り 80㎜）摩耗しているときは交換してください。また，押出し金具の変形量により，押出し金具の押出し確認又は，購入先に連絡して交換してください。





◆ 植付爪の調整

1. エンジンを始動したあと，植付部を上昇させ，油圧ロックレバーを**［閉］**位置にし，植付部の下降防止を行ないます。
2. 植付クラッチレバーを**［植付］**位置にしたあと，苗のせ台が中央の位置で植付爪を停止させ，ブレーキをロックしエンジンを停止します。
3. 苗取り量調節レバーをいったん一番上まで動かしたあと，**［多］**い方から６段目の切欠溝にセットします。

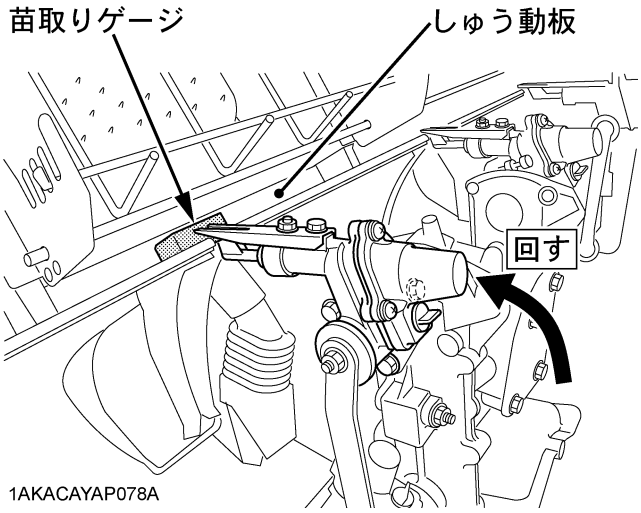


4. 主変速レバー**［後進］**で植付クラッチレバーを**［植付］**から**［上］**に動かないように保持してください。

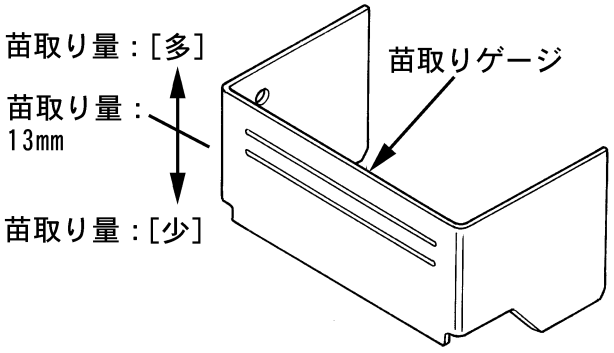
補　足

＊ 主変速を**［後進］**で植付クラッチレバーを**［植付］**から**［上］**へは動かないように保持すると，植付の駆動が切れます。爪交換等で回転ケースを空回しするときは，このセットにしてください。

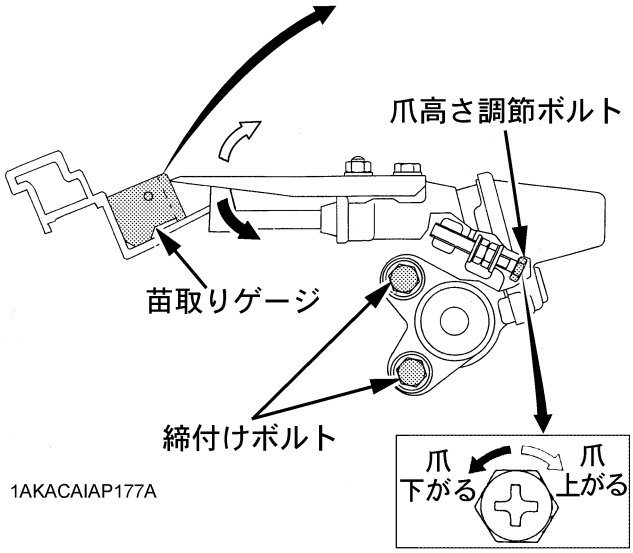
5. しゅう動板の切欠部に苗取りゲージを図のようにセットし，植付爪がゲージに当たるまで手で回します。



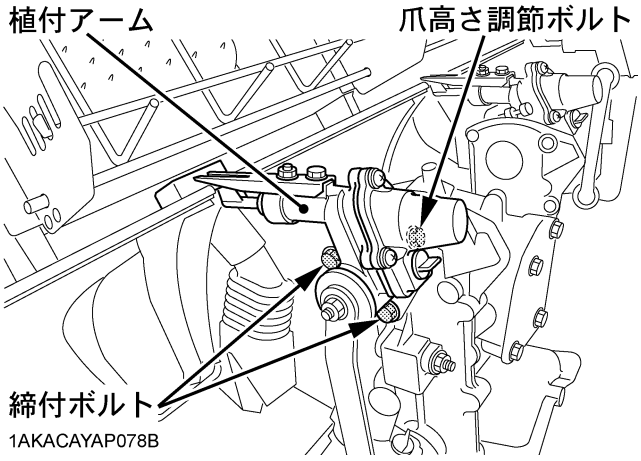
6. 植付アームの締付ボルト２本をゆるめます。
7. 爪高さ調節ボルトは，植付爪を苗取りゲージに軽く接触させ，爪を上に持上げた状態で（上下方向に爪を動かすとガタがあるため），ドライバやスパナを使い，右又は左に回して，爪の先端を苗取りゲージの**[苗取り量 13]**（13mm）の線に合わせます。



1AKACAIAP176A



1AKACAIAP177A



1AKACAYAP078B

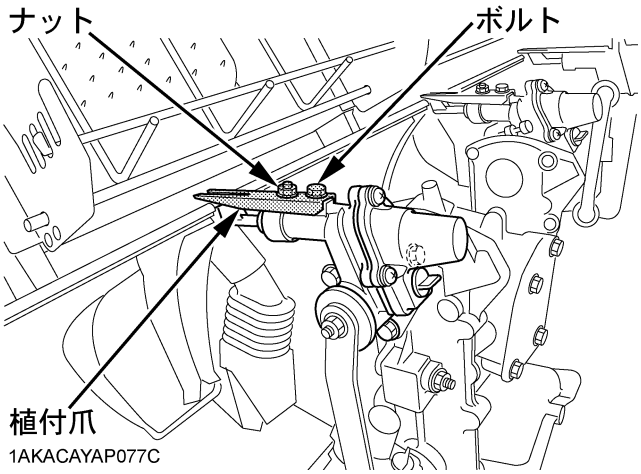
8. 植付けアームの締付ボルト２本を締付けたあと，爪高さ調節ボルトを軽く締付けます。
9. 植付爪を回転させたあと，もう１つの植付爪も同じ要領で調節します。

補　足

＊ 他の植付爪も同じ要領で行なってください。

◆ 植付爪の交換

1. **植付爪の調整**の 1. と 2. を行ないます。
2. 植付爪を取付けているボルトとナットを取外します。



1AKACAYAP077C

3. 新しい爪と交換します。

補　足

＊ 植付爪は，常に１台分の予備を準備しておいてください。

4. ボルトとナットを締付けます。
5. **植付爪の調整**の 3. ～ 8. を行なって爪の高さ調節を行ないます。

◆ 押出し金具の動作確認

1. **植付爪の調整**の 1. と 2. を行ないます。
2. 植付クラッチレバーを**［植付］**位置にします。

補　足

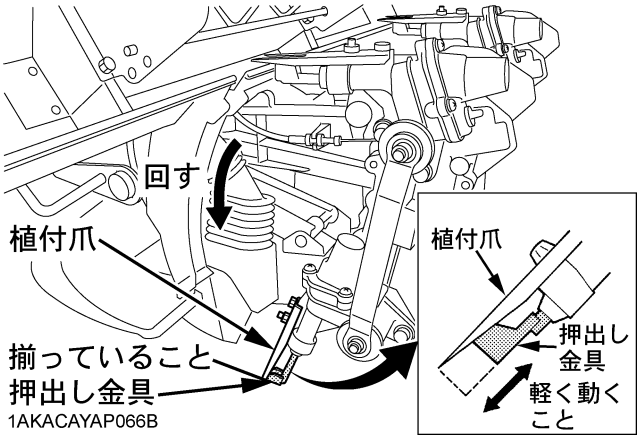
＊ 植付クラッチレバーが**［植付］**位置以外のときは，植付爪が下まで動きません。

3. 主変速レバー**［後進］**で植付クラッチレバーを**［植付］**から**［上］**に動かないように保持して，植付の駆動を**［N］（中立）**にセットしてください。

補　足

＊ 主変速を**［後進］**で植付クラッチレバーを**［植付］**から**［上］**へは動かないように保持すると，植付の駆動が**［N］（中立）**になります。爪交換等で回転ケースを空回しするときは，このセットにしてください。

4. 植付爪を手で回して，最下端のときに押出し金具と植付爪のそれぞれの先端が揃っていることを確認します。



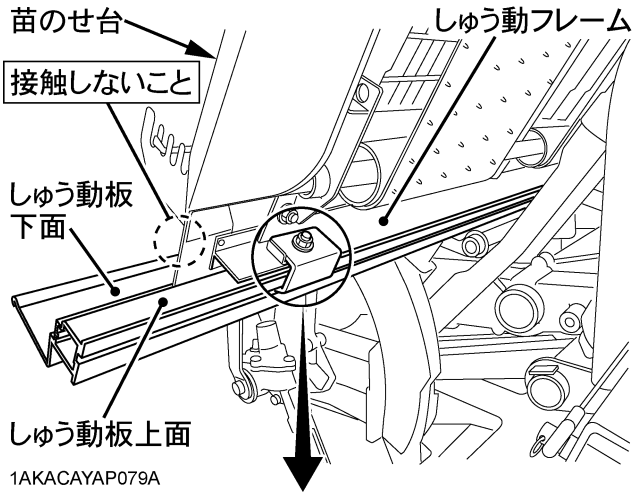
5. 押出し金具の変形や破損で動かないときは，購入先に連絡して交換してください。

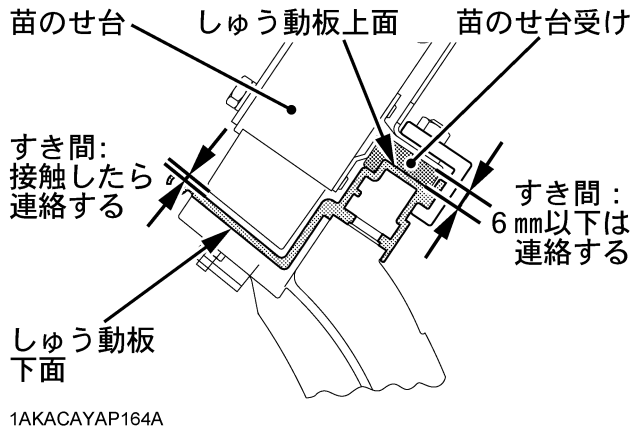
■苗のせ台のしゅう動板と受けの点検

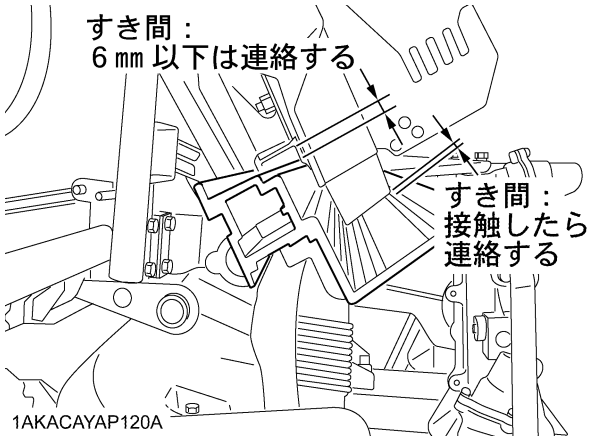
苗のせ台のしゅう動状態が悪くなると，正常な植付作業が行なえないおそれがありますので点検してください。

◆ 点検

しゅう動板上面と苗のせ台受けの入っているしゅう動フレーム終端のすき間を測り，6 mm 以下のときは苗のせ台としゅう動板下面が接触しますので購入先に連絡してください。





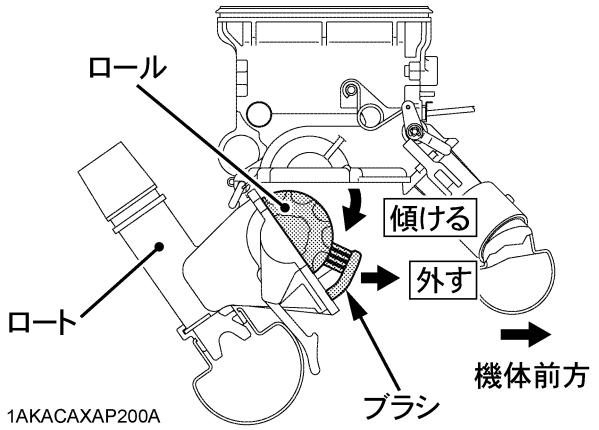


■施肥ブラシの点検･掃除･交換［F 仕様］

施肥ブラシが摩耗や変形をすると，肥料の繰出し量にバラツキが発生しますので，掃除を行なうと同時に，ブラシの点検を行なってください。

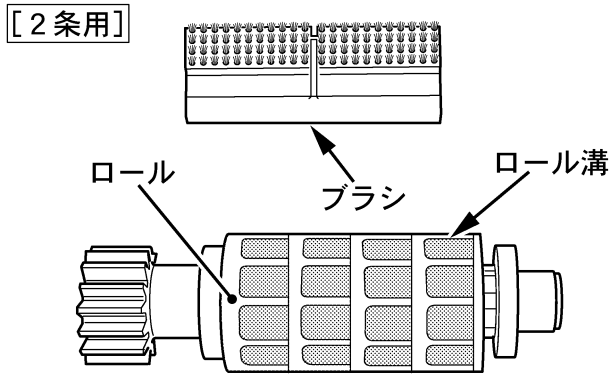
◆ 点検・掃除

施肥ブラシとロールを取外して掃除してください。また，施肥ブラシの摩耗や変形がひどい場合は，新しい施肥ブラシと交換してください。



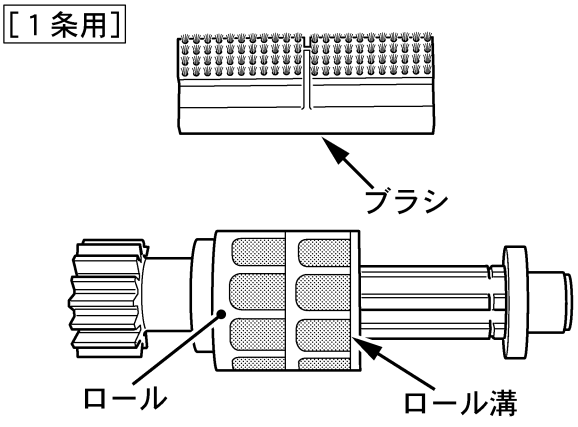
1AKACAXAP200A

［２条用］

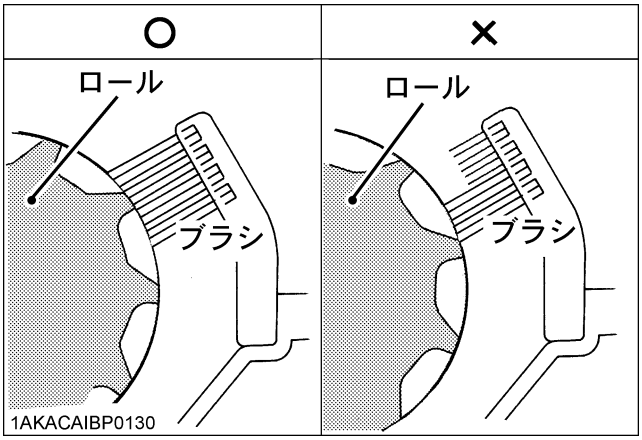


1AKACAIAP371A

［１条用］



1AKACAIAP373A

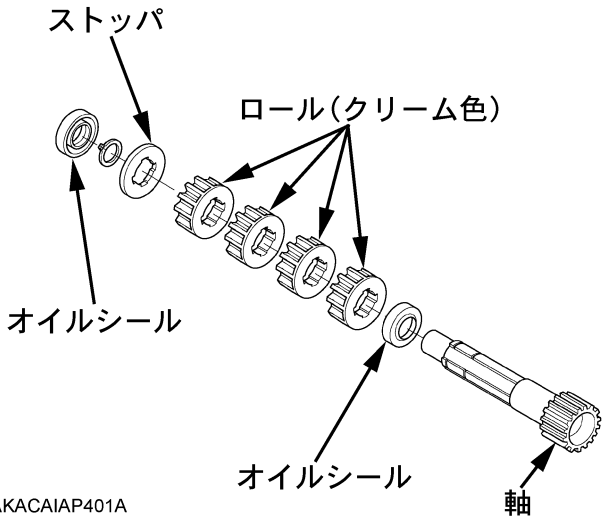


1AKACAIBP0130

補　足

＊ 施肥ブラシやロールの取付方向に注意してください。

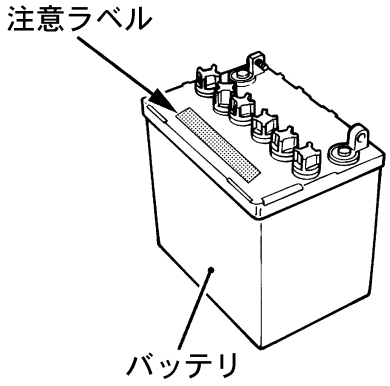
＊ ロートを分解掃除するときは，オイルシールを抜取ったあと，ストッパリングを取外してください。また，組付けるときは，逆の手順でロールの取付け方向に注意して組付けてください。



1AKACAIAP401A

■バッテリの点検・交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



1AKACAIAP182A

危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，（+）端子と（−）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。
＊ バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。
＊ 充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。
＊ この12Vバッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ 急速充電は厳禁です。

警　告

＊ バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補　足

＊ 出荷時は，補水不要のバッテリです。

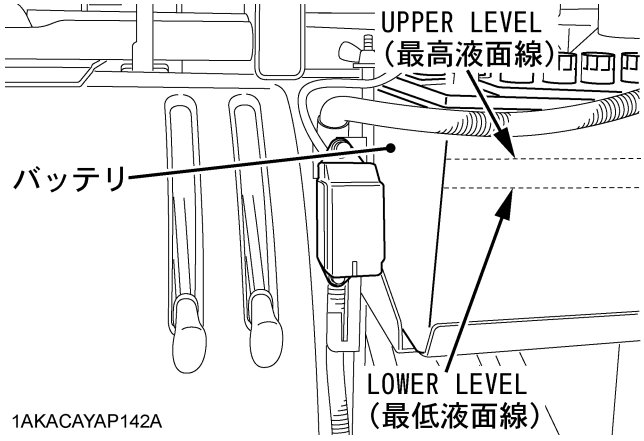
◆ 点検・補水

危　険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し，**[UPPER LEVEL]**（最高液面線）と **[LOWER LEVEL]**（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



1AKACAYAP142A

重　要

＊ バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

＊ バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊ バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

補　足

＊ バッテリの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ってきます。

2. バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

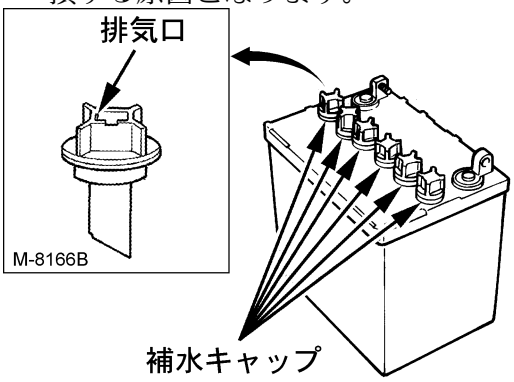
重　要

＊ 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

3. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

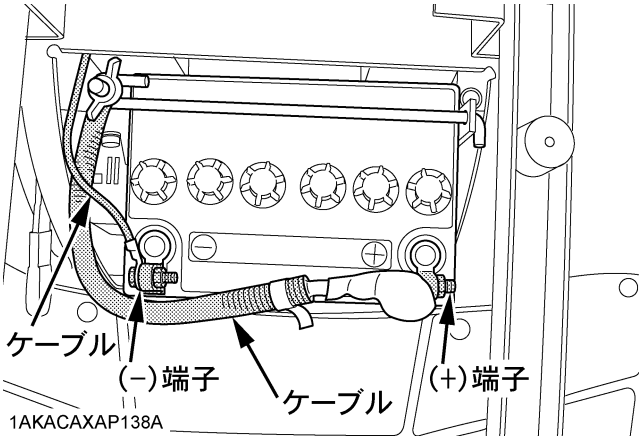
重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1AKACAIAP185A

4. バッテリケーブルの破損や（+）端子，(−）端子にゆるみがないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めを行ないます。



1AKACAXAP138A

◆ 補充電・交換

警　告

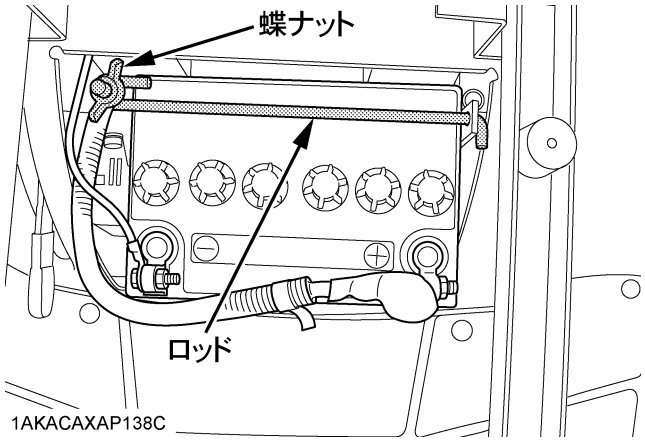
＊ バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
● 取外し… (−) 端子側（アース側）から外す。
● 取付け… (−) 端子側（アース側）を最後に接続する。
＊ バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。
＊ バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリの取付け方向を間違えないでください。（+）と（−）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。
＊ 補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。

● スタータモータの回転が，いつもより弱い。
● アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
● バッテリ電解液の減りが早い。

1. バッテリを機体から取外します。
(1) 運転席下のカバーを取外します。
(2) ケーブル端子のボルトとナットを取外し，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず**（−）端子**側から取外します。

(3) 蝶ナット１個を取外し，バッテリ固定用のロッド１本を外します。
(4) バッテリを取外します。



重　要

＊ バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）側に，バッテリの（-）を充電器の（-）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

補　足

＊ 急速充電を行なったときは，作業後必ず補充電を行なってください。

3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重　要

＊ バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ型式：**34A19L**
＊ バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。
＊ 機械にバッテリを搭載した状態で急速充電をしないでください。

■電装部の各配線コードの点検・交換

注　意

＊ 配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆ 各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。
また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，販売店へ連絡して交換してください。

◆ 各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

重　要

＊ ヒューズを交換してもすぐに切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先に連絡してください。

1. エンジンを止めた状態で植付部を降します。
2. 運転席下部のカバーを取外します。
3. ヒューズケースのカバーを取外します。
4. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズを予備ヒューズから選んで交換します。

［標準仕様］

30A	5A
メイン	前照灯 燃料ソレノイド
	5A
	警報
	3A
30A	マイコン ユニット
予備	20A
	モンロー モータ

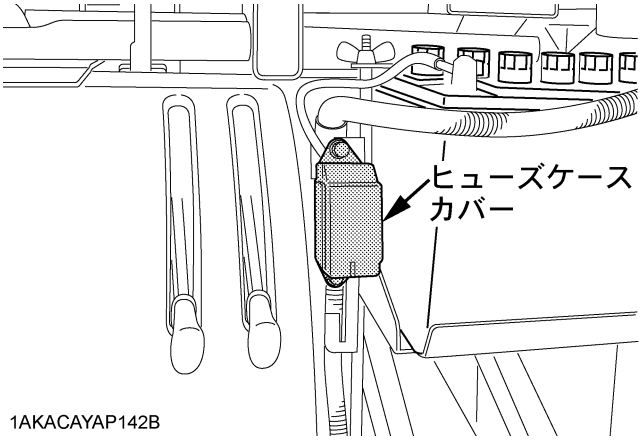
10030

［Ｆ仕様］

30A	5A
メイン	前照灯 燃料ソレノイド
	5A
	警報
30A	3A
ブロア モータ	施肥 ユニット
	3A
30A	マイコン ユニット
予備	20A
	モンロー モータ

10030

1AKACAYAP166A



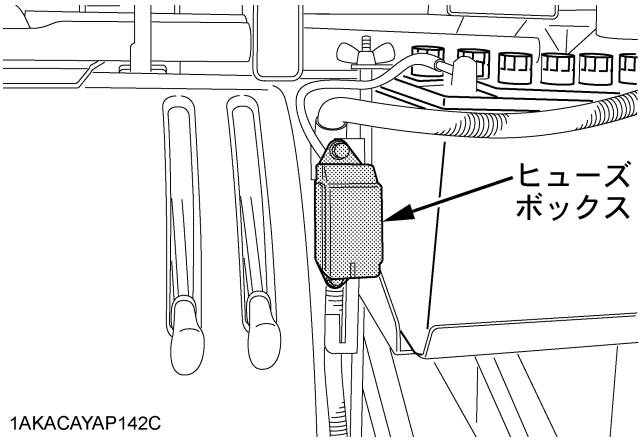
1AKACAYAP142B

補　足

＊ ヒューズケースカバー表面のラベルで容量（A）を確認してください。
＊ ヒューズを交換するときは，ヒューズケースカバー裏に設置してあるヒューズ抜きを使用してください。

● スローブローヒューズの点検・交換

スローブローヒューズ（30A）は，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときはヒューズボックスの中にある予備のヒューズと交換してください。
また，**[F 仕様]** には，ブロワモータ用のスローブローヒューズ（30A）があります。ブロワが動かなくなったときに点検し，切れているときは購入先に連絡して交換してください。

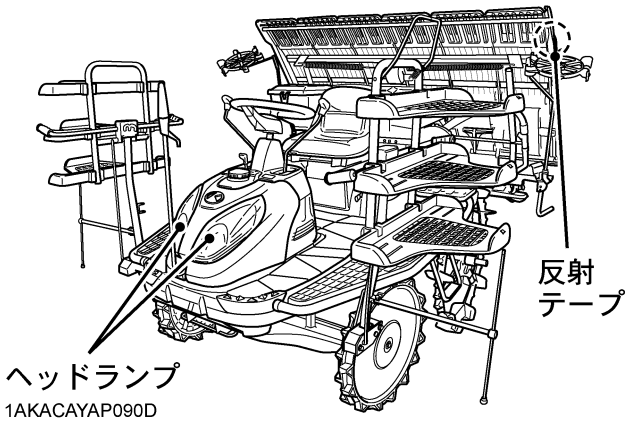


1AKACAYAP142C

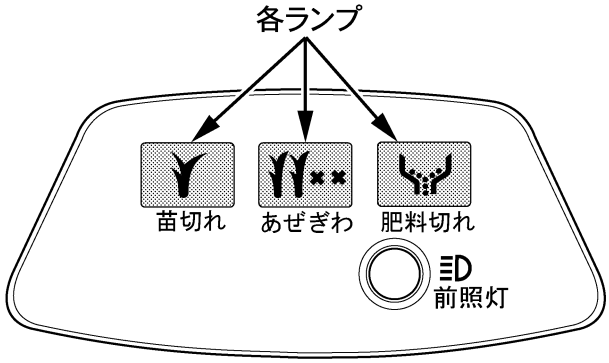
＊ スローブローヒューズ（30A）はヒューズボックス内にあります。

■ランプ（電球）の点検・交換・反射テープの点検・交換

ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，反射テープに汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。



1AKACAYAP090D



1AKACAXAP017F

植付作業後の手入れ

植付作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の田植作業に備えてください。

■毎日の作業後

注　意

＊ 掃除する場合は，必ずエンジンを停止させてから行なってください。
＊ 燃料抜取り時は火気厳禁。

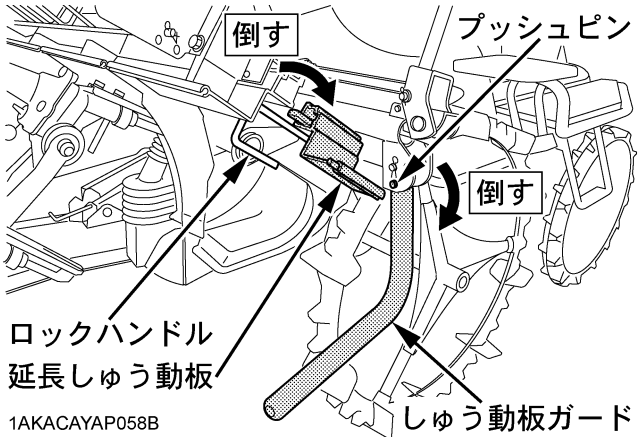
1. 平たんな場所に田植機を停めます。
2. 機体各部の泥などを取除いたあと，必要に応じて各部に注油を行ないます。
（80 ページ参照）
3. 格納場所に格納します。

重　要

＊ 狭い場所に収納するときは，予備苗のせ台を収納し（16 ページ参照），しゅう動板ガードや延長しゅう動板を収納（34 ページ参照）してください。

- **しゅう動板ガード（左，右）**
  プッシュピンを押込み**［収納］**位置へ倒します。

- **延長しゅう動板（左，右）［NSU60］**
  ロックハンドルをゆるめて**［収納］**位置に倒した状態にしたあと，ロックハンドルを軽くしめてロックします。



4. 植付部を降ろします。
5. メインスイッチのキースイッチを抜取ります。
6. 駐車ブレーキを掛けます。

■長期格納時

田植えのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 水洗い後，ゴミ・水滴をじゅうぶんふき取り，油をしみこませた布で清掃してください。
- 各グリース塗布箇所にはグリース，注油箇所には注油を行なってください。
- 塗布したグリースや油が縦送りベルトに付着したら，必ずふき取ってください。
- 植付爪の先端や，油圧シリンダのロッド部など，さびやすい所にはグリースを塗ってください。
- 各部のゆるみを調べ，増締めを行なってください。

重　要

＊ 機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。

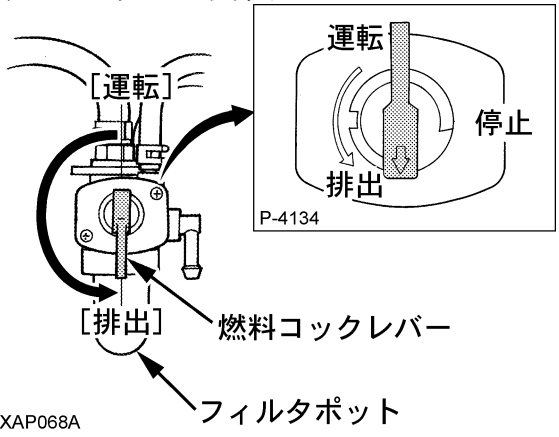
◆ 燃料

注　意

＊ 燃料を排出するときは，エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行なってください。火災が発生するおそれがあります。

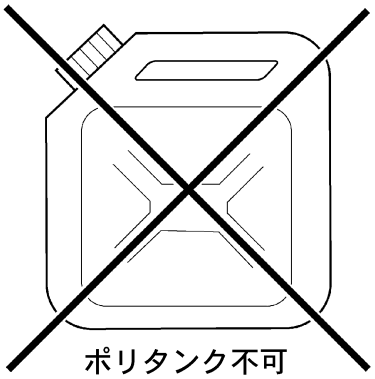
来シーズンに備えて燃料タンク内及び燃料フィルタポット内のガソリンを抜取ってください。

1. 燃料コックレバーを**［排出］**位置にして燃料を排出します。
2. フィルタポット内のガソリンを排出します。また，必要に応じて掃除を行なってください。
3. フィルタポットを取付けます。



重　要

＊ 燃料のガソリンは１ヶ月以上放置すると，気化や酸化をしてガソリンが変質し，エンジンの不調や故障の原因となりますので必ずタンク内及びフィルタポット内のガソリンは抜取ってください。
＊ 燃料のガソリンを保管するときは，必ず鋼製の容器に保管してください。ポリタンクなどの樹脂製の容器に保管すると，ガソリンが樹脂成分を溶解したり，紫外線透過によりガソリンが変質し，エンジンの不調や故障の原因となります。



1AKACAIAP189A

補　足

＊ 燃料を入れるときは，燃料コックレバーを必ず，**［停止］**位置にし，エンジンを動かす前に，**［運転］**位置にしてください。

◆ バッテリ

危　険

＊ 保管や持運びの際にバッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊ バッテリを点検するときには，エンジンを停止し，メインスイッチを［切］にしてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１ヵ月，冬は２ヵ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
  (1) 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  (2) 雨露が少なく，水没のおそれがない場所
  (3) バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，（－）側のケーブルを必ず取外してください。

◆ 各レバー・その他

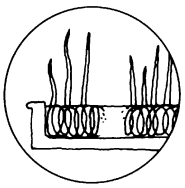
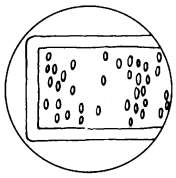
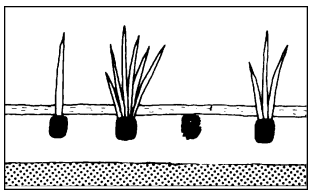
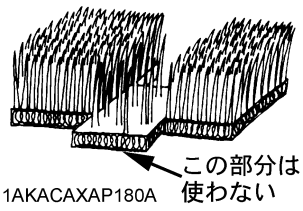
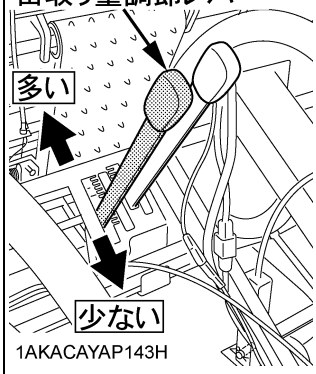
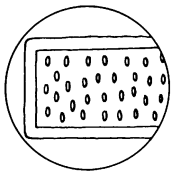
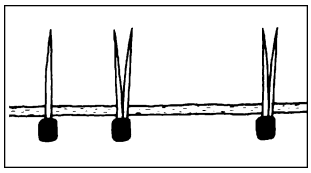
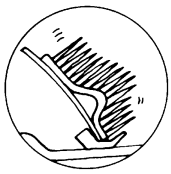
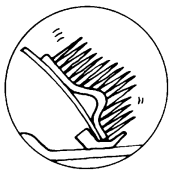
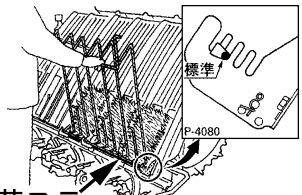
注　意

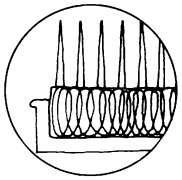
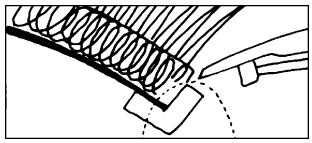
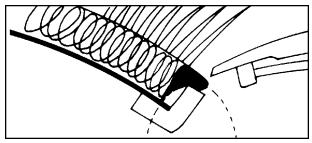
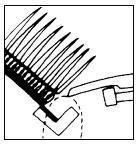
＊ スタンドを立て植付部を地面に接地させてください。
＊ メインスイッチのキースイッチは，必ず抜取って保管してください。
＊ 駐車ブレーキを掛けてください。

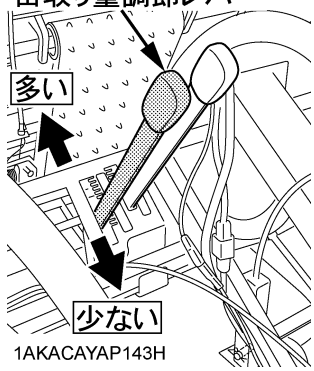
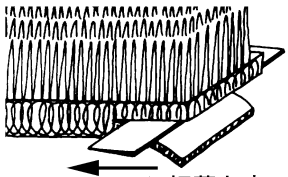
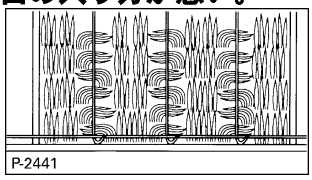
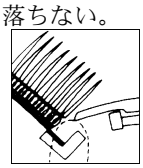
- アクセルレバー…… 前方いっぱい「🐢」位置まで押して止めてください。
- 運転席（シート）… 前方向に倒してください。

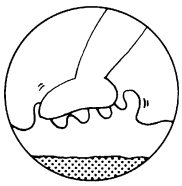
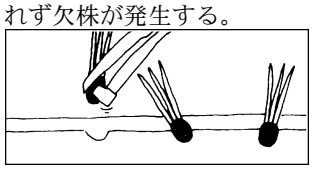
乗用田植機の不調と処置

欠株が出る

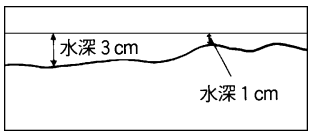
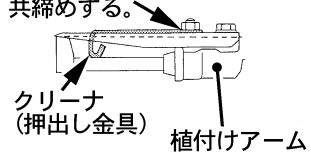
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
苗に生育ムラやハゲた部分がある苗  **苗の播種ムラがひどい苗** 	●植付けの本数がバラついたり欠株が出る。 	**苗の処置** ①生育の悪い部分やハゲたところを切取って植え付ける。 ②悪い苗は，使用しない。（補植えに使用する） **機械の処置** 苗取り量は多く，横送り回数は少なくする （横送り量を多くする）。 （64 ページ参照）	 1AKACAXAP180A 苗取り量調節レバー  1AKACAYAP143H
播種量が少ない苗 	●植付け本数が少なくなり欠株が出る。 	**苗の処置** 中苗用成苗用の育苗指針を守り播種ムラのない苗をつくる。 **機械の処置** 苗取り量は多く，横送り回数は少なくする。 （横送り量を多くする） （64 ページ参照）	
苗床がうすく又根張りが悪い苗 **苗床が軟らかすぎる苗**	苗のせ台上で苗がくずれて植付けできない。 	**機械の処置** 苗ステーと苗との間隔を狭くして苗のせ台からのずり落ち，くずれを防止する。 （67 ページ参照） **苗の処置** ①苗床厚が 2 ㎝以上の苗を使用する。 ②苗床を乾かして硬めにする。	 苗ステー 1AKACAIAP348B

<table>
<tr><th>このような状態で（原因）</th><th>このようになる</th><th colspan="2">どうする（処置方法）</th></tr>
<tr>
<td>苗床が厚い苗
  </td>
<td>①苗がうまく取れないため，苗取量が少なかったり欠株が出る。
 
②爪の軌跡より外れた部分が残ってダンゴ状になり苗の縦送りができなくなる。
 
③苗のせ台上で苗のすべりが悪く欠株がでる。  </td>
<td>機械の処置
①苗取り量を多少多くして苗を取るようにする。
(64 ページ参照)
②苗ステーを調節して苗床とのすき間をあける。
(67 ページ参照)

苗の処置
①苗床厚（マット厚）が 2.5 ～ 3 cm になるように切落とす。切落とせない場合はその苗は使用しない。
②植付け前にかん水してすべりを良くする。</td>
<td>苗取り量調節レバー
 
1AKACAYAP143H
 
2.5～ 3cmに切落とす
1AKACAXAP181A</td>
</tr>
<tr>
<td>苗の入り方が悪い。
  </td>
<td>苗が苗ステーに引っかかって落ちない。
  </td>
<td>苗の処置
引っかかった苗を取除いてきちんと入れ直す。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>床土が粘土質で粘りが強い苗。

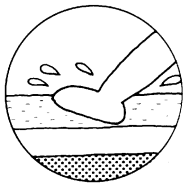
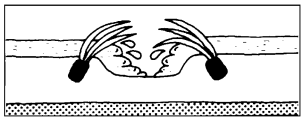
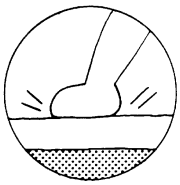
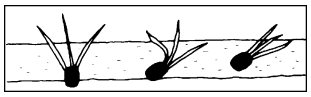
粘土質のほ場でしかも水が少ない。
  </td>
<td>植付け時，苗が植付爪より離れず欠株が発生する。
  </td>
<td>苗の処置
苗床を乾き気味にする。又は水につけ十分水分をもたせる。

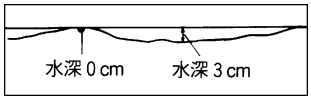
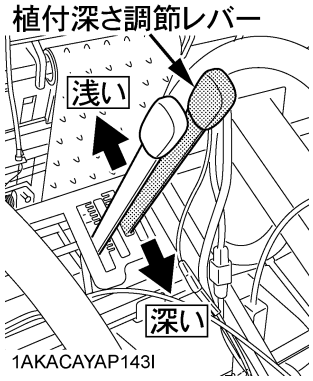
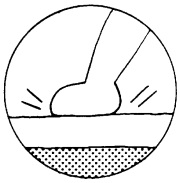
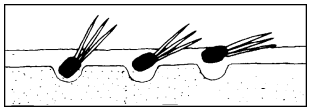
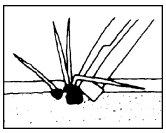
ほ場の処置
ほ場に水を１～３ cm 程度張り苗が爪より離れやすくする。

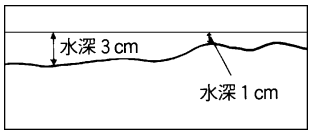
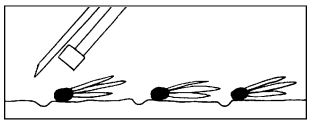
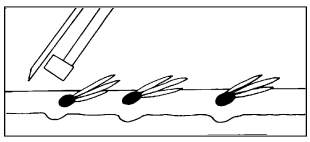
機械の処置
別売り（オプション）のクリーナ（押出し金具）を取付ける。</td>
<td> 
植付けアームのスタッドボルトに共締めする。
 
1AKACAIAP252A</td>
</tr>
</table>

乗用田植機の不調と処置

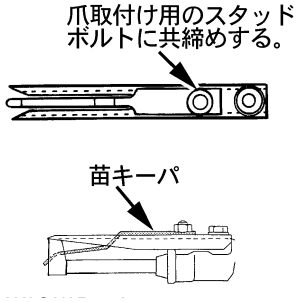
浮苗が出る・植付けが乱れる

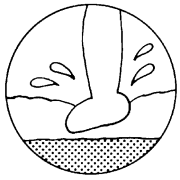
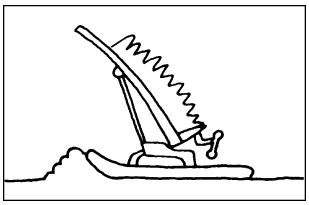
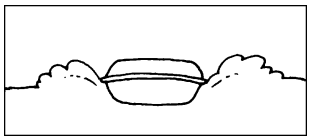
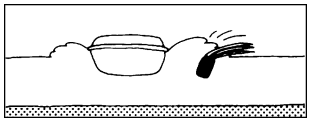
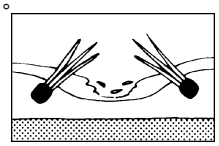
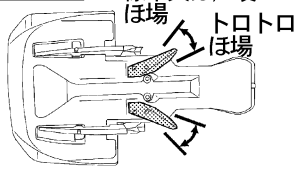
<table>
<tr><th>このような状態で（原因）</th><th>このようになる</th><th colspan="2">どうする（処置方法）</th></tr>
<tr>
<td>水深が３ ㎝ 以上あるほ場。
  </td>
<td>①フロート通過跡に水が流れ込んで植付けた苗又は，隣接苗が倒れる。
 
 
②植付け姿勢が悪い又は浮苗が発生する。
  </td>
<td>ほ場の処置
水を落す。水深０～３ ㎝ にする。

機械の処置
①植付け速度を遅くして水の移動をゆるやかにする。
②植付け深さを許せる範囲で深めにする。</td>
<td> 
  </td>
</tr>
<tr>
<td>ほ場が硬い。
  </td>
<td>①爪で開けた穴がふさがらず水を入れたときに苗が浮く。
 
②苗を押込むとき，苗が傷んだりバラける。
  </td>
<td>ほ場の処置
①再度代かきして植えやすい硬さにする。
②水を１～３ ㎝ 入れ軟らかくして植える。

機械の処置
●植付け速度を遅くして苗をゆっくり土中に押込むようにする。</td>
<td>  </td>
</tr>
<tr>
<td>根張りが悪く，床土が砂質の苗で，しかも苗が爪から離れやすく，水につかると床土が溶ける苗。</td>
<td>①苗がころぶ。
 
②水がある場合，浮苗がでる。
  </td>
<td>ほ場の処置
水が多い場合は水を落とす。

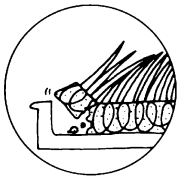
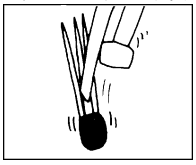
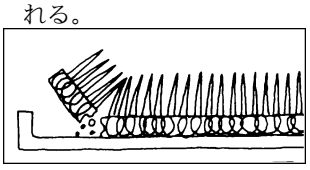
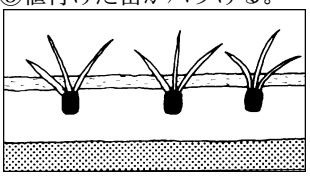
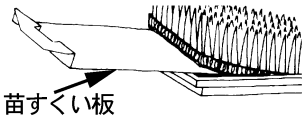
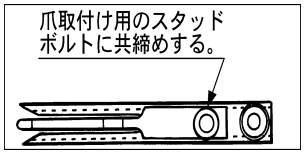
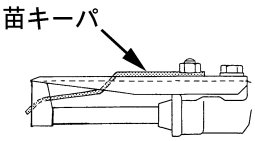
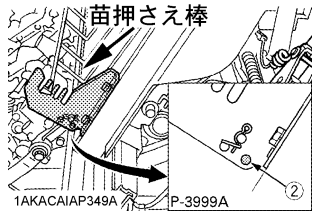
苗の処置
①根張りのよい床土がブロックになる苗にする。
②床土は水に溶けにくい土質のものにする。
③植付け前に苗床に少し水気をもたせる。

機械の処置
別売り（オプション）の苗キーパを取付ける。</td>
<td>  </td>
</tr>
</table>

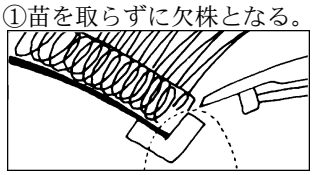
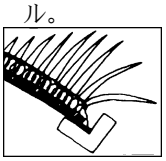
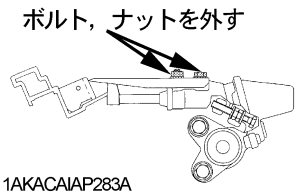
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
表面がトロトロで軟らかいほ場。 	①フロートが沈み，泥を押す。   ②泥を押して，隣接苗を倒す。  ③フロート通過跡が大きくなり，そこに土が流れ込むとき，植えた苗が内側に倒れる。  ④ふく土板で泥を押す **[F 仕様]** ⑤車輪がスリップして調整した施肥量と異なる。 **[F 仕様]**	**ほ場の処置** ●水を落として表面を硬くする又は表面を落ち着かせる。（植付けを延期する。） **機械の処置** ①フィットセンサレバーを軟らかい方へ移動させ泥を押さないようにする。 ②植付け速度を遅くする。 ④各フロート下面の各ふく土板の取付角度（位置）を狭くする。**[F 仕様]** ⑤施肥量を再調整してください。	[F仕様] 標準又は，硬いほ場 トロトロほ場  1AKACAXAP182A

乗用田植機の不調と処置

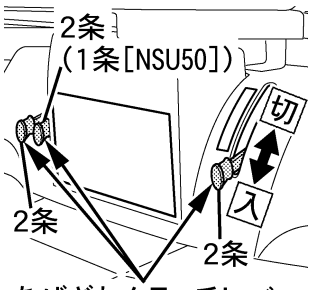
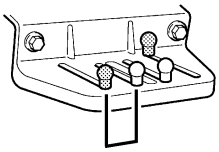
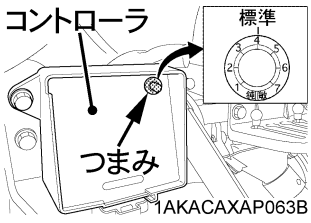
浮苗が出る・植付けが悪い

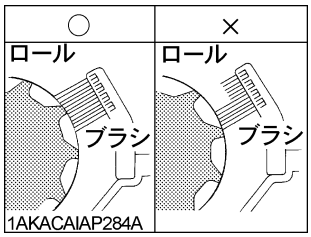
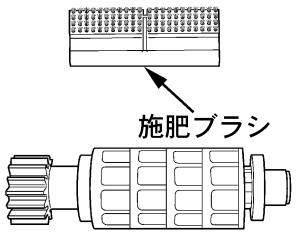
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
根張りの悪い苗 **床土に粘りがなくくずれやすい苗** 	①苗が植付けになる前に植付爪から落ち浮苗となる。  ②苗を取り出すとき苗がくずれる。  ③植付けた苗がバラける。 	**苗の処置** ①苗床に少し水気をもたせる。 ②苗すくい板を使用して苗がくずれないようにする。 **機械の処置** ●植付け速度を遅くする。 ●別売品（オプション）の苗キーパを使用する。 ●苗押さえ棒を②（内側）の穴に差換える。	   

植付けが乱れる・欠株が出る

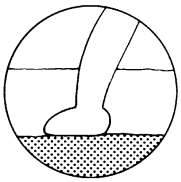
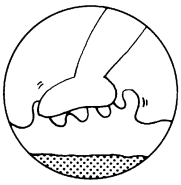
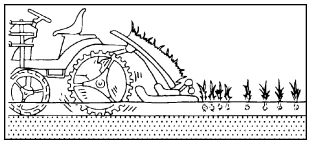
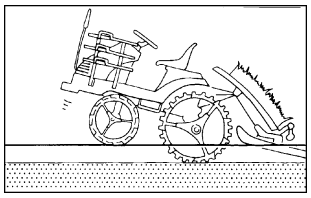
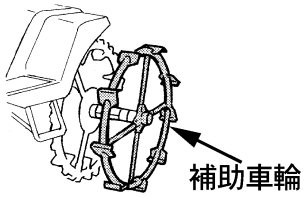
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
植付爪の異常 ●爪の摩耗 ●爪の変形 ●押出し金具の変形 ●押出し金具がじゅうぶん押出さない。	①苗を取らずに欠株となる。  ②苗取り後残りの苗がバラケル。  ③押出し金具が押しきらず植付けが乱れる。 	**機械の処置** ①植付爪と押出し金具の点検。 ●爪の曲がりを直す。 ●押出し金具の曲がりを直す。 ②爪，押出し金具などの部品を新品と交換する。	

施肥をしない・施肥量がばらつく

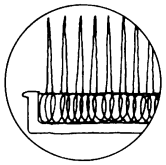
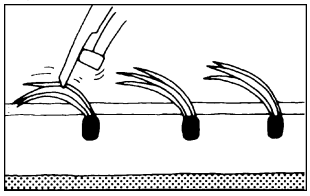
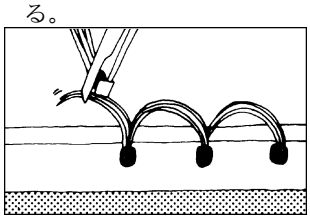
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
施肥に適さない肥料	①施肥量にバラツキがある。 ②ホッパ内の肥料の減り方にバラツキがある。 ③施肥をしない。 ④残量センサが誤作動する。	**肥料の処置** ①条件に合った肥料を選ぶ。（53 ページ参照） ②固まった（湿った）肥料は使わない	
機械の設定		**機械の処置** ①あぜぎわクラッチレバーが**【切】**位置のときは，**【入】**位置にする。	 1AKACAYAP031D
機械の設定		②1 条分の調量ツマミを 3 本共引いているとき（繰出し停止状態）は，他の施肥量と同じ位置に調節する。（68 ページ参照）	 1AKACAIAP052A
各部の詰まり		**機械の処置** ①ホッパ内に肥料のつまりがあれば取除く。 ②ホッパ内，ロールケース内，各ホース，作溝器内に付着した肥料は取除く。（80 ページ参照） **補　足** ＊深水ほ場で，苗補給や肥料補給などで一時停止したときに，詰まっていないのに警報が出る場合があります。点検して，詰まっていなければセンサのコントローラのつまみを**【鈍】**（鈍感）の方向に調整して作業を続けてください。 ＊乾いた肥料がセンサ付近に付着しても警報が出ない場合があります。ときどき，作溝器内を点検してください。	 1AKACAXAP063B

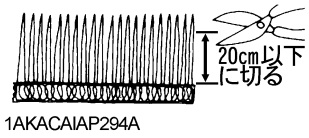
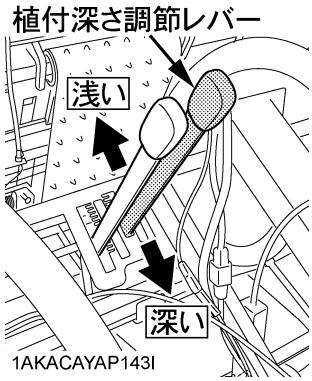
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
施肥ブラシの摩耗・損傷	●施肥量が多くなる。 ●ホッパの肥料の減りが早くなる。	**処置** ①施肥ブラシを交換する。 （102 ページ参照）	 
ブロワが回転していない。	●ロート，ホース内で肥料が詰まる。	**機械の処置** ①スローブローヒューズ切れのときは，交換する。 （105 ページ参照） ②カプラが入っているか確認する。	

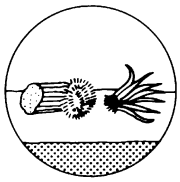
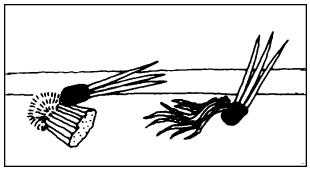
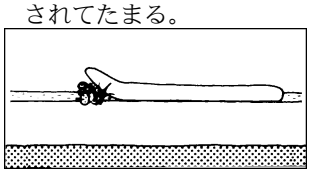
その他の不具合

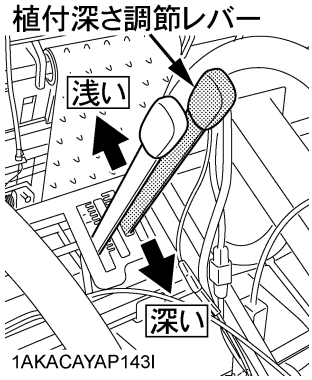
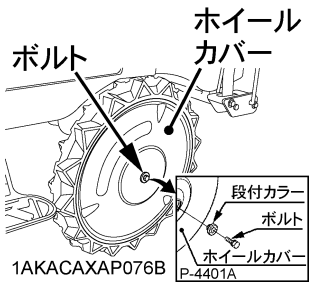
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
株間が狭くなる **深いほ場**  **強粘土質のほ場** 	①走行抵抗が大きく車輪がスリップして株間が狭くなる。   ②機体前部が浮き上りスリップする。	**機械の処置** ①補助輪をとりつけてスリップを少なくする。 ②株間を一段広くして坪当たり株数を確保する。	 **【NSU50】**は外補助車輪 **【NSU60】**は内補助車輪

<table>
<tr><th>このような状態で（原因）</th><th>このようになる</th><th colspan="2">どうする（処置方法）</th></tr>
<tr>
<td>苗の草丈が長すぎる。

草丈が20cm以上ある苗の植付け。
  </td>
<td>①植付けた苗が爪に押されて傾く。
 
②植付けた苗がアーチ状になる。
  </td>
<td>苗の処置
葉先を 20cm 以下に切りそろえる。

機械の処置
①植付け深さを深めにする。
②植付け速度を遅くする。
③苗押さえ棒の位置を一番上にあげる。</td>
<td> 
1AKACAIAP294A
 
1AKACAYAP143I</td>
</tr>
<tr>
<td>夾雑物の多いほ場

代かき後も刈株，ワラ，雑草などが多量に露出しているほ場。
  </td>
<td>①夾雑物の上では，苗が植わらなかったり，植付け姿勢が悪くなったりする。
 
②夾雑物がフロート，整地板や作溝器（[F 仕様]）で押されてたまる。
  </td>
<td>ほ場の処置
①代かき時，夾雑物をすき込む。
②耕うん前に夾雑物をできるだけ取除く。

機械の処置
①植付け深さをやや深くする。
②植付け速度を遅くする。
③整地板をあげ夾雑物の掘起しを少なくする。</td>
<td> 
1AKACAYAP143I</td>
</tr>
<tr>
<td>強粘土質のほ場</td>
<td>前輪ホイールカバーに泥が付着し，隣接苗に泥を落す。</td>
<td>機械の処置
●前輪ホイールカバーを取外す。
※組付けるときは段付カラーを反対に向けて，ボルトに接着剤を付けて，締付けてください。</td>
<td> 
1AKACAXAP076B P-4401A</td>
</tr>
</table>

付表

主要諸元

名称				ウエルスターマックス	
型式				NSU50	NSU60
区分				― 〈F〉	
駆動方式				4輪駆動	
機体寸法	全長(mm)			2655	
	全幅(mm)			1910（収納時：1780）	2210（収納時：1940）
	全高(mm)			1390	
	最低地上高(mm)			430	
機体質量(kg)				420〈440〉	460〈505〉
エンジン	型式名			GM391PE-605	
	種類			空冷4サイクル単気筒 OHV ガソリンエンジン	
	総排気量(L{cc})			0.391 {391}	
	出力/回転速度 (kW{PS}/rpm)			定格 6.2 {8.3} / 3000〔最大 8.8 {12}〕	
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン	
	タンク容量(L)			8.6	
	始動方式			セルスタータ式	
	バッテリ(V・Ah)			12・24〔34A19L〕	
走行部	かじ取り方式			ラック＆ピニオン式	
				インテグラルパワステ	
	車輪	前輪径×幅 (mm)		650 × 78（ノーパンクタイヤ）	
		後輪径×幅 (mm)		850 × 39（ゴムラグ車輪）	
		輪距(mm)	前輪	880	1180
			後輪	890	1200
	変速方式			油圧式トランスミッション〔HST〕	
	変速段数(段)			HST 主変速：前進無段・後進無段〔副変速：2段〕	
植付部	植付方式			ロータリ式強制植付け	
	植付条数(条)			5	6
	植付条間(cm)			30	
	植付株間(cm) {植付株数(株/3.3㎡)}			14, 16, 18, 21, 24, 28 {80,70,60,50,45,40}	
	植付深さ(cm)			1～4〔5段階〕	
	1株本数調節	横送り量 (mm/回数)		11/26, 14/20〔2段〕	
		縦かき取り量 (mm)		8～18	
苗の条件	苗の種類			マット苗	
	草丈(cm)			8～25	
	葉令(葉)			2.0～4.5	

名称		ウエルスターマックス	
型式		NSU50	NSU60
区分		― 〈F〉	
施肥装置	肥料の種類	粒状化成肥料	
	施肥方式	側条作溝施肥・強制埋没	
	施肥位置(cm)	苗の側方：4.5，深さ：5	
	肥料ホッパ容量 (L{kg})	44 {40}	
	繰出方式	溝付きロール式	
	繰出量調節方式	ロール切換式＋ロール回転数	
	繰出量調節範囲 (kg/10a)	10 ～ 80	
	ふく土方式	フロートとふく土板	
予備苗とう載数(箱)		6	
警報装置		点灯式マスコット・ブザー (苗切れ・肥料詰まり・肥料切れ・あぜぎわ)	
作業速度(m/s)		0 ～ 1.3〔0 ～ 1.2〕	
作業能率 〔計算値〕 (a/h{分/10a})		～ 46 {13 ～}〈～ 40 {15 ～}〉	～ 55 {11 ～}〈～ 46 {13 ～}〉

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

付表

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊ 保証書	1	
＊ メンテナンスブック	1	**[NSU60]**
＊ 取扱説明書確認カード	1	
＊ 取扱説明書	1	
＊ 苗取りゲージ	1	
＊ 苗すくい板	6	
＊ プラグレンチ	1	
＊ 株間ギヤ，アッシ（組付要領書付属） 29 疎植ギヤ		
＊ 手動繰出しハンドル	1	**[F 仕様]**

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

■苗キーパ

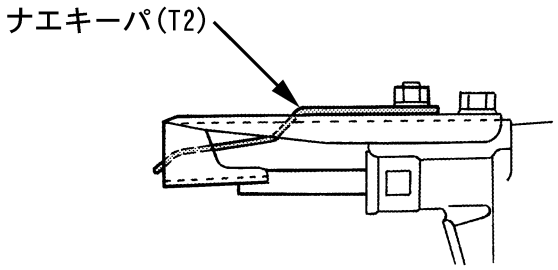
苗キーパは，苗こぼれによるバラケ，浮苗を防止します。

※アッシ（セット）の場合

品 名	品 番	数量	対象型式
キット （ナエキーパ T2,5）	PA501-9815-1	10	NSU50
キット （ナエキーパ T2,6）	PA601-9815-1	12	NSU60

※単品の場合

品 名	品 番	対象型式
ナエキーパ T2	PA401-5372-0	NSU50，NSU60



1AKACAIAP201A

■クリーナ

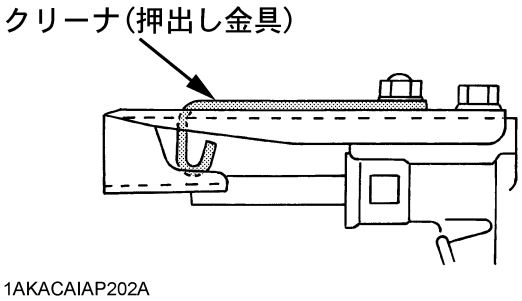
クリーナは，苗を詰まらなくする効果があります。爪の間に苗が詰まり，植付姿勢が乱れたときなどに有効です。

※アッシ（セット）の場合

品 名	品 番	数量	対象型式
クリーナ，アッシ （押出し金具 5）	PR001-9390-1	10	NSU50
クリーナ，アッシ （押出し金具 6）	PR101-9390-1	12	NSU60

※単品の場合

品 名	品 番	対象型式
クリーナ （オシダシカナグ）	PR001-9391-1	NSU50，NSU60



1AKACAIAP202A

■補助車輪

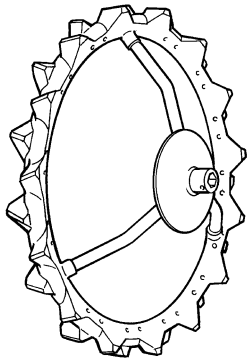
ほ場に合った補助車輪を使用してください。

● ゴムラグタイヤ

ほ場条件…耕盤が軟弱で泥炭地のようなほ場

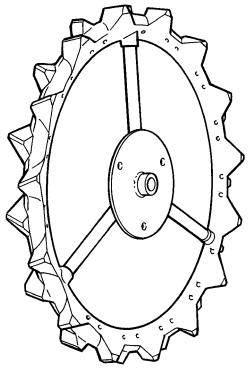
品　　名	品　番	仕　　様			対　象　型　式
		内側/外側	車輪径(mm)	整地板の有無	
車輪，キット（５ソト，ゴム）	PN305-9840-1	外側	φ800	有	NSU50
車輪，キット（６ウチ，ゴム）	PL601-9820-1	内側	φ800	有	NSU60

ゴムラグ内



1AKACAIAP203A

ゴムラグ外



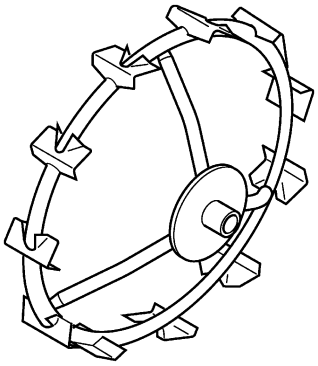
1AKACAIAP204A

● 鉄ラグタイヤ

ほ場条件…暗渠（あんきょ）のあるほ場や部分的に深いところがあるほ場

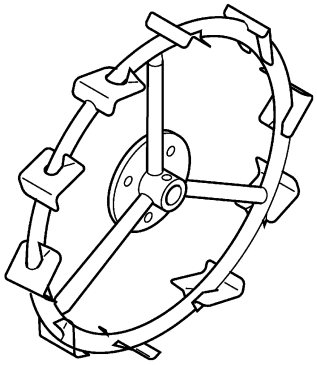
品　　名	品　番	仕　　様			対　象　型　式
		内側/外側	車輪径（mm）	整地板の有無	
車輪，キット（５ソト，100）	PN305-9810-1	外側	φ800	有	NSU50
車輪，キット（５ソト，80）	PN305-9860-1		φ800	有	NSU50
キット（補助車輪，６，ウチ）	PA601-9810-2	内側	φ800	有	NSU60

鉄ラグ内



1AKACAIAP433A

鉄ラグ外



1AKACAIAP434A

● エアタイヤ

品　　名	品　番	仕　　様			対　象　型　式
		内側/外側	車輪径（mm）	整地板の有無	
車輪，キット（5T ソト）	PN305-9820-1	外側	φ800	有	NSU50
キット（補助車輪，6T，ウチ）	PA601-9820-2	内側	φ800	有	NSU60

● 空気入りタイヤ

品　　名	品　番	仕　　様	対　象　型　式
		車輪径（mm）	
タイヤ，アッシ（R，865）	45665-2470-1	φ865	NSU50，NSU60

■ウエイト

品　名	品　番	対象型式
ウエイトキット	PN305-9880-1	NSU50，60

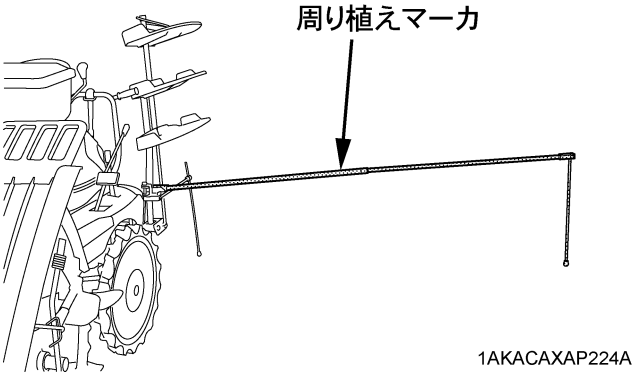
■整地板

品　名	品　番	対象型式
セイチバンアッシ（ソト）	PN305-9830-1	NSU50
セイチバンアッシ（M）	PA601-9830-3	NSU60

■周り植えマーカ

最終の枕地を１回の周り植えで作業が行なえるマーカです。

品　名	品　番	対象型式
マーカ，キット（マワリウエ）	PN405-9880-1	NSU60



■薬剤散布機［こまきちゃん］

粒状の薬剤（除草剤など）の散布を行ないます。

- 田植えと同時作業などで，時間と人手の省力化ができます。
- 機械散布なのでムダ・ムラがなく，すぐれた除草効果が得られます。また，薬剤が体につかず安心で快適な作業が行なえます。

品　名	品　番	対象型式
こまきちゃんCS-20	4M201-9002-0	NSU50，60

■薬剤散布機［箱まきちゃん］

粒状の薬剤（殺虫剤・殺菌剤など）の散布を行ないます。

- 田植えと同時作業などで，時間と人手の省力化ができます。
- 機械散布なのでムダ・ムラがなく，すぐれた殺虫・殺菌効果が得られます。また，薬剤が体につかず安心で快適な作業が行なえます。

品　名	品　番	対象型式
箱まきちゃんHSY50	4F511-9002-0	NSU50
箱まきちゃんHSY60	4F611-9002-0	NSU60

■除草剤散布機［滴下マン］

液体除草剤(フロアブル剤)の散布を行ないます。

- 田植えと同時作業なので，時間と人手の省力化ができます。
- 植付け速度にあった散布や散布量の過不足がない均等な散布を行ない，すぐれた除草効果が得られます。
- 田植え前の散布が必要ないので，落水による流失がなく環境保全に有効です。

品　名	品　番	対象型式
滴下マン LS-10	4D101-9003-0	NSU50，60
NSU キット	4P101-9003-0	NSU50，60

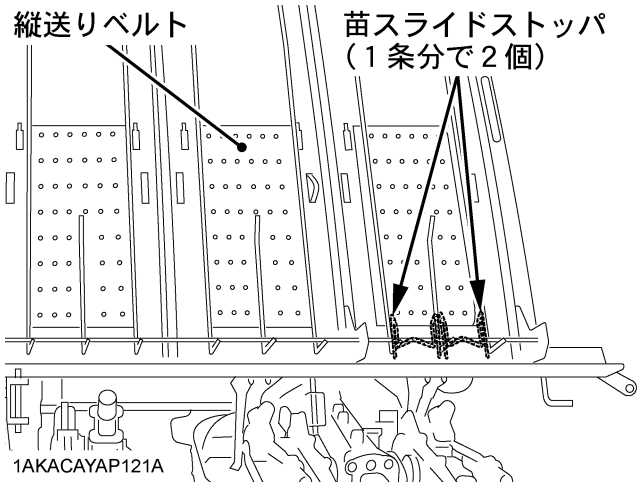
※上記セット購入が必要です。

■苗スライドストッパ

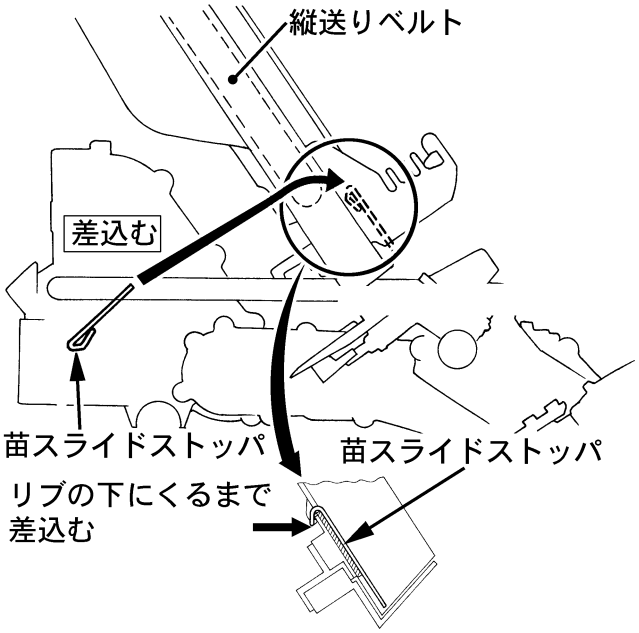
軟弱苗で苗がかたよっているときに使用します。

● 取付けかた

1. 植付部を上昇させたあと，エンジンを止めます。
2. 苗のせ台に下図のような方向から，苗スライドストッパを縦送りベルト下端のすきまから差込みます。

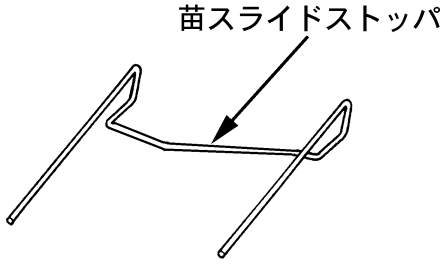


1AKACAYAP121A



＊苗スライドストッパは苗のせ台裏側から差込んでください。

1AKACAZAP181A



1AKACAIAP432A

＊ 単品の場合

品名	品番	対象型式
ストッパ （ナエスライド）	PR001-9841-1	NSU50，NSU60

※アッシ（セット）の場合

品 名	品 番	数量	対象型式
ストッパ，キット （５，苗ライド）	PR001-9842-1	10	NSU50
ストッパ，キット （６，苗ライド）	PR101-9842-1	12	NSU60

補　足

＊ 植付作業時に，植付爪と苗スライドストッパが接触しても支障はありません。
＊ 苗スライドストッパは，１条分あたり２個使用します。
＊ 苗ストッパを差し込んだあとは，きっちりとはめ込んでください。

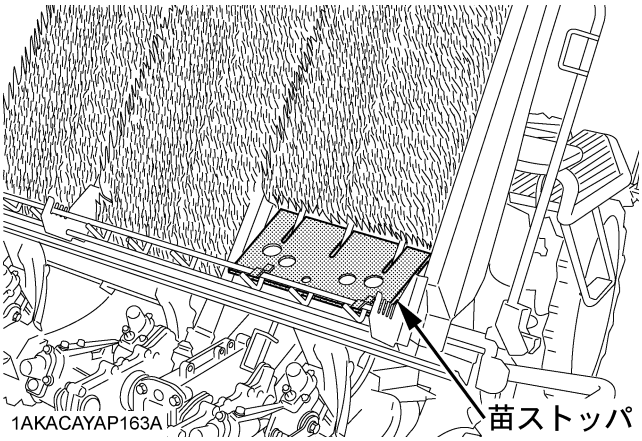
■本機カバー

品 名	品 番	対象型式
カバー （ホンキ，５）	PL501-9713-2	NSU50
カバー （ホンキ，６）	PL601-9713-2	NSU60

■苗ストッパ

植付作業の最終段階で，奇数条の調節を行なう時は，苗ストッパを使用してください。

品　　名	品　　番	対象型式
ナエストッパ	PP501-4712-0	NSU50，60

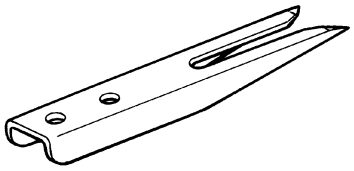


1AKACAYAP163A

消耗部品（純正品を使いましょう）

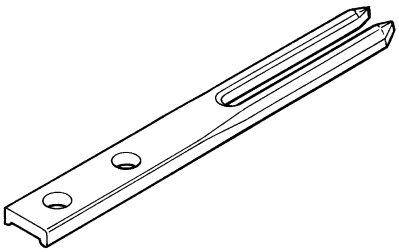
◆ 植付爪

ウエツケヅメ(RIS 13)



1AKACAIAP216A

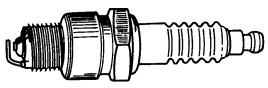
ウエツケヅメ（RHS 13）



1AKACAIAP217A

品　名	品 番	1台当り数量	
		NSU50	NSU60
ウエツケヅメ（RIS13）	PA401-5171-3	10	12
ウエツケヅメ（RHS13）	PA401-5371-2	10	12

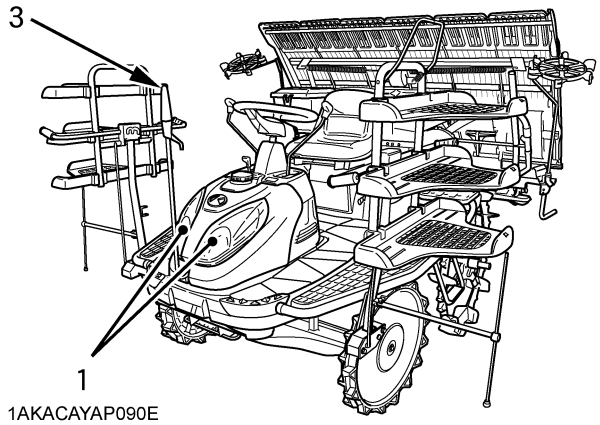
◆ 点火プラグ



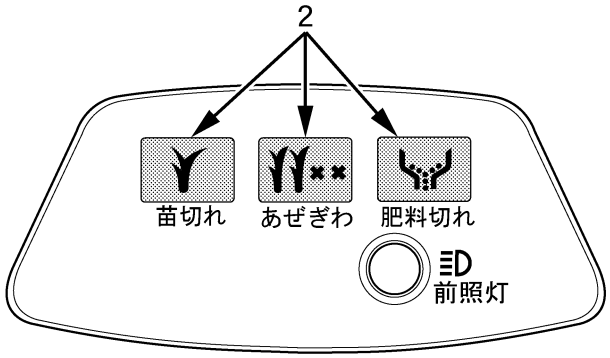
1AKACAXAP184B

品　名	品　番	対象型式
BPR5ES（NGK）	LEP01-1004-0	NSU50，NSU60

◆ 各ランプ



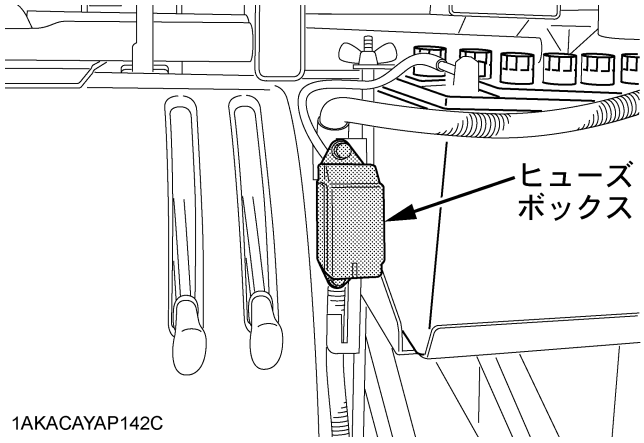
1AKACAYAP090E



1AKACAXAP017D

図番	品　名		品　番	対象型式
1	ランプアッシ（ヘッドライト）	15W	PN201-6840-0	NSU50, NSU60
2	ランプアッシ		PN203-6881-0	NSU50, NSU60
3	バルブ（12V10W）		PP501-8526-1	NSU50, NSU60

◆ ヒューズ・スローブローヒューズ

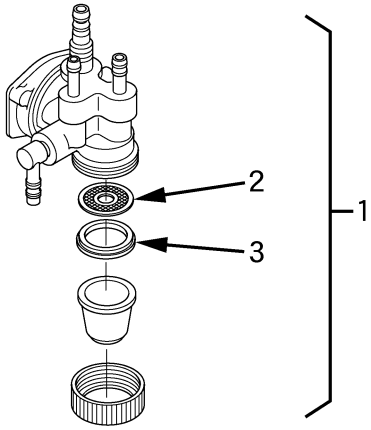


1AKACAYAP142C

品　名（容量）	品　番	対象型式
ヒューズ（3A）	PN201-6873-0	NSU50, NSU60
ヒューズ（5A）	T2050-3047-0	
ヒューズ（20A）	T2050-3050-0	

品　名（容量）	品　番	対象型式
スローブローヒューズ（30A, ミニ）	PN201-6875-0	NSU50, NSU60

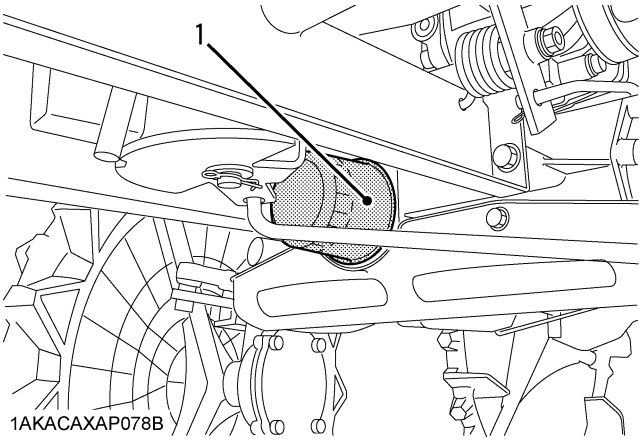
◆ 燃料フィルタポット・エレメント



1AKACAYAP145A

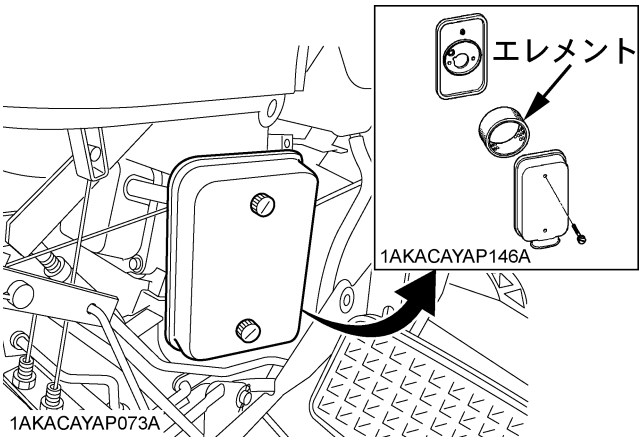
図番	品　名	品　番	対象型式
1	コック，アッシ（フューエル）	E2314-4301-0	NSU50, NSU60
2	フィルタエレメント	E6155-4316-0	
3	パッキン	13979-4314-0	

◆ ミッションオイルフィルタカートリッジ



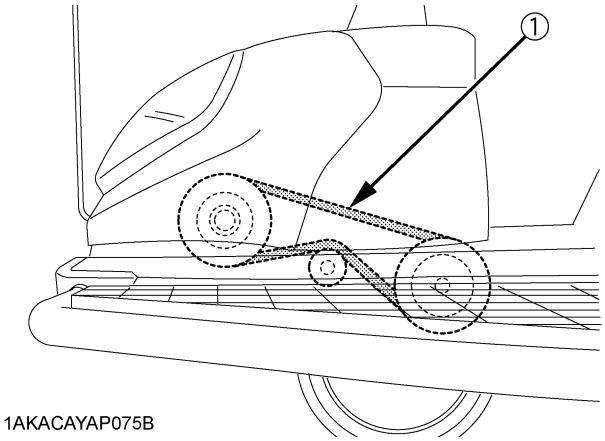
図番	品　名	品　番	対象型式
1	フィルタ（オイル，カートリッジ）	15853-3243-0	NSU50，NSU60

◆ エアクリーナエレメント



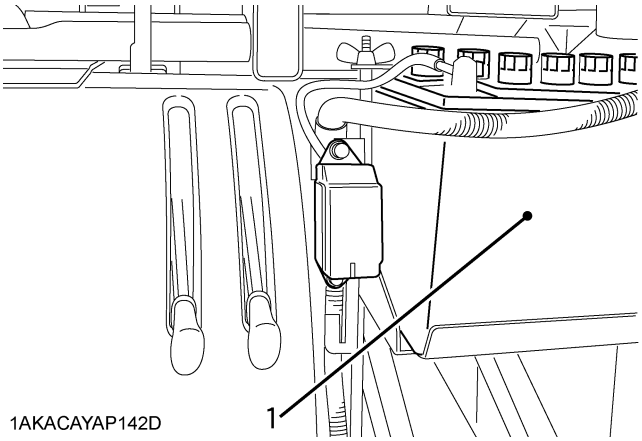
図番	品　名	品　番	対象型式
1	エレメント（エアクリーナ）	LEP01-1108-0	NSU50，NSU60

◆ ミッション駆動ベルト



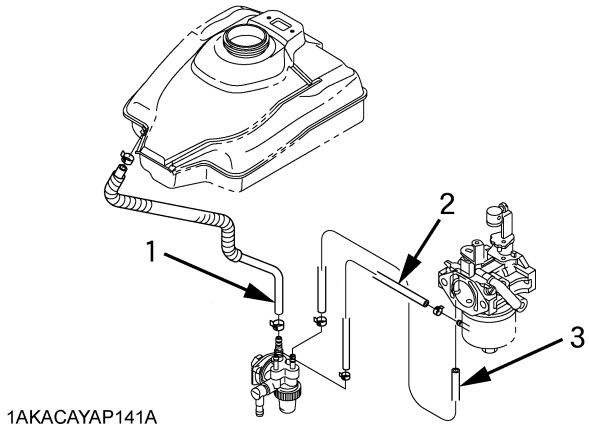
図番	品　名	品　番	対象型式
1	V ベルト（43IN）	PR111-8116-0	NSU50，NSU60

◆ バッテリ



図番	品　名	品　番	対象型式
1	バッテリ	07908-2521-0	NSU50，NSU60

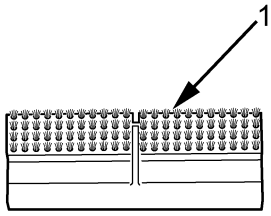
◆ 燃料パイプ



1AKACAYAP141A

図番	品　名	品　番	対象型式
1	フューエルチューブ，アッシ	PN305-8255-0	NSU50，NSU60
2	フューエルチューブ	09661-4020-0	NSU50，NSU60
3	フューエルチューブ	09661-5025-0	NSU50，NSU60

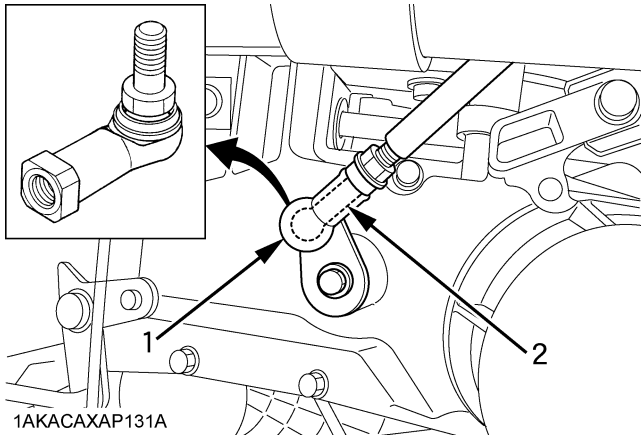
◆ 施肥ブラシ［F 仕様］



1AKACAIAP373C

図番	品　名	品　番	対象型式
1	ブラシ（ロールケース用）	PP501-9164-0	F 仕様

◆ ロッドエンド・ブーツ［F 仕様］



1AKACAXAP131A

図番	品　名	品　番	対象型式
1	ブーツ	PA224-9275-0	F 仕様
2	ロッドエンド	45404-9577-0	

クボタ純オイル

オイルは クボタ純オイル をお使いください

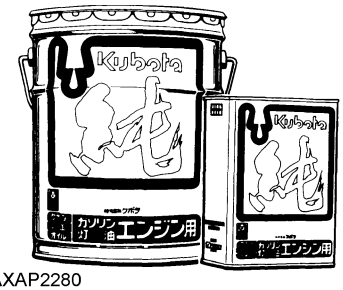
● オイルは田植機の開発研究から生まれたクボタ純オイルをお使いください。

● エンジンには

クボタ純オイル

ガソリン・灯油エンジン用

スーパーG
10W-30



1AKACAXAP2280

● 田植機本体には

クボタ純オイル

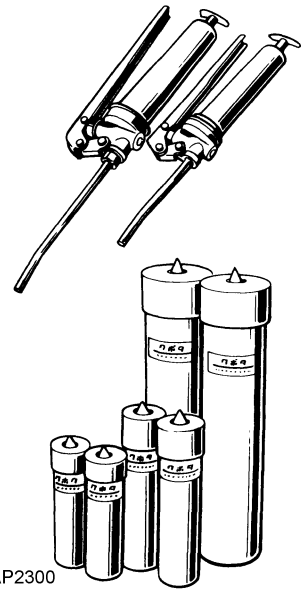
ミッション用

スーパーUDT又は,
NEW・UDT

1AKACAXAP2290

● グリースアップには

クボタスペアグリース



1AKACAXAP2300

いずれもクボタが品質保証する最も
適したオイルです。
お買い求めは購入先へご用命ください。

1AKACAIBP0140

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください。

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　－

ご購入日	型式	車台番号

エンジン型式	機番	その他装着型式	機番

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

都道府県	お問合せ先	都道府県	お問合せ先
北海道	北海道営業技術推進部	滋賀、京都、大阪、和歌山、奈良、兵庫	大阪営業技術推進部
青森、秋田、山形（庄内地区）	秋田営業技術推進部	岡山、広島	岡山営業技術推進部
岩手、宮城、福島、山形（庄内地区以外）	仙台営業技術推進部	島根、鳥取	米子営業技術推進部
栃木、群馬、茨城、千葉、埼玉、東京、神奈川、静岡	東京営業技術推進部	香川、徳島、高知、愛媛	株式会社四国クボタ 営業技術課
新潟、長野、山梨	新潟営業技術推進部	山口、福岡、佐賀、長崎、沖縄	福岡営業技術推進部
富山、石川、福井	金沢営業技術推進部	大分、宮崎、熊本、鹿児島	熊本営業技術推進部
愛知、三重、岐阜	名古屋営業技術推進部		

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)376-4434　〒061-1274　北海道北広島市大曲工業団地3丁目1番地
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162　〒981-1221　宮城県名取市田高字原182番地の1
東京営業技術推進部：電(048)862-1588　〒338-0832　さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1261　〒950-0992　新潟市中央区上所上1丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121　〒924-0038　石川県白山市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111　〒491-0031　愛知県一宮市観音町1番地の1
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860　〒661-8567　兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市東区宍甘275番地
米子営業技術推進部：電(0859)39-3181　〒689-3547　鳥取県米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500　〒769-0102　香川県高松市国分寺町国分字向647-3
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘1丁目7番3号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本市富合町廻江846-1
本社営業技術部：電(072)241-7247　〒590-0823　大阪府堺市堺区石津北町64番地

株式会社クボタ

機械東日本事務所：電(048)862-1121　〒338-0832　さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970　〒661-8567　兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号

NSU50/60
AO．D．6-6．3．AK

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

LEMA
陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

品番　PN305-9751-6